

2025 JCI JAPAN

# Raise your *Flag*

---

理 想 へ の 挑 戦

Junior Chamber International Japan  
Annual Report 2025

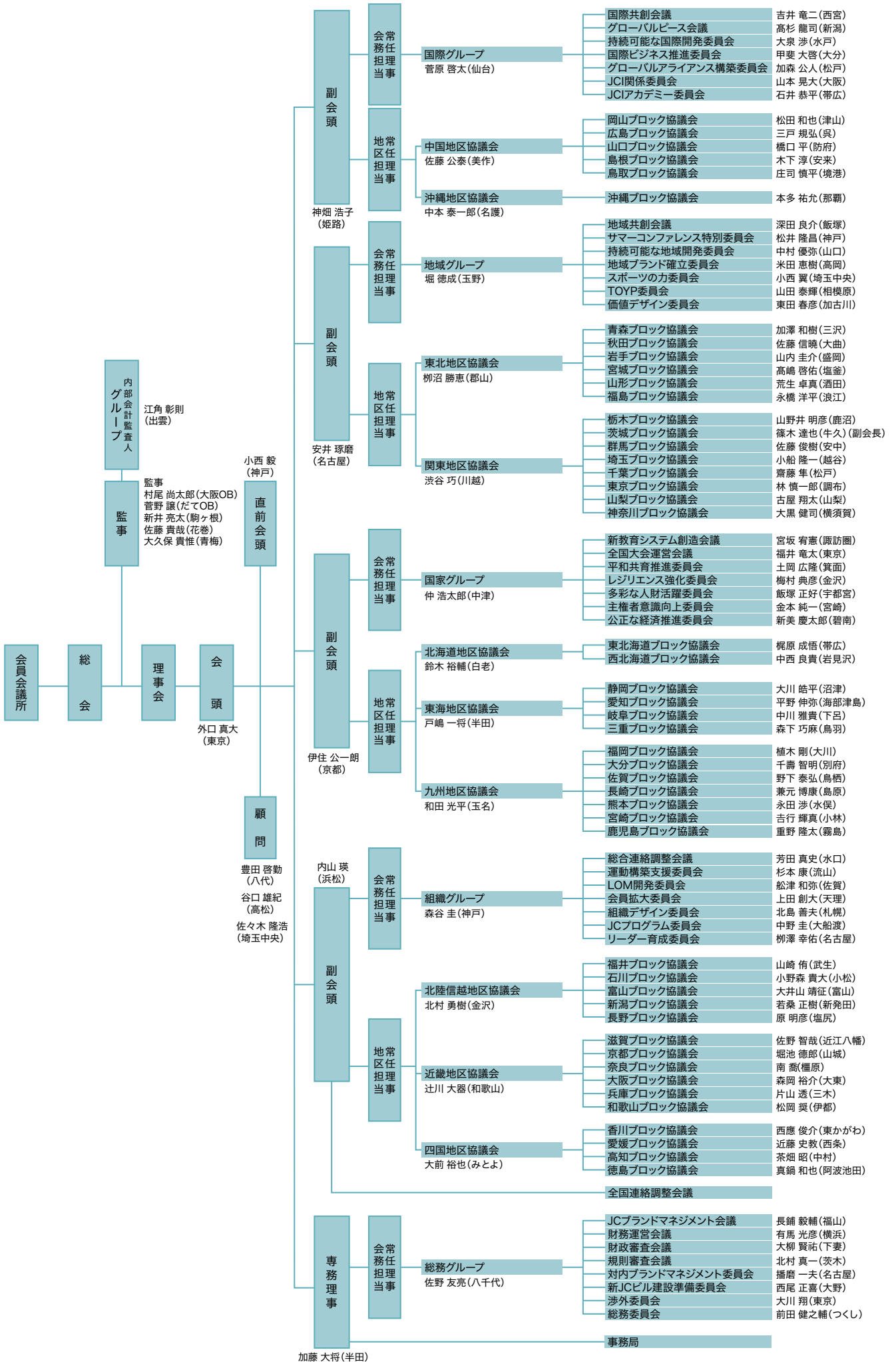
# 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 事業報告書

Junior Chamber International Japan  
Annual Report 2025



Junior Chamber International Japan  
公益社団法人 日本青年会議所

公益社団法人日本青年会議所 2025年度 組織図



# 公益社団法人日本青年会議所 2025年度 年間公式スケジュール

2025年9月20日現在

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
正副会頭会議 (月初)	7日 (火) (東京) 28日 (火) (佐賀)	20日 (木) (姫路)		3日 (木) (半田) 24日 (木) (浜松)	29日 (木) (京都)	30日 (月) (東京)			4日 (木) (名古屋) 25日 (木) (仙台)	30日 (木) (神戸)	27日 (木) (京都)	
正副会頭会議 (月中/WEB)	16日 (木) (東京)	6日 (木) (東京) 27日 (木) (東京)		10日 (木) (東京)	8日 (木) (那覇)	5日 (木) (岡山)	10日 (木) (さいたま)		11日 (木) (WEB)	2日 (木) (東京)	13日 (木) (WEB)	4日 (木) (WEB)
常任理事会	17日 (金) (東京)	14日 (金) (東京)	6日 (木) (東京)	18日 (金) (東京)	16日 (金) (東京)	20日 (金) (東京)	17日 (木) (東京)		19日 (金) (茅野)	3日 (金) (東京)	21日 (金) (東京)	12日 (金) (東京)
理事会	24日 (金) (京都)	15日 (土) (東京)	7日 (金) (東京)	19日 (土) (東京)	17日 (土) (東京)	21日 (土) (東京)	18日 (金) (横浜)		20日 (土) (茅野)	10日 (金) (佐賀)	22日 (土) (東京)	13日 (土) (東京)
総会	25日 (土) (京都)		22日 (土) (東京)							10日 (金) (佐賀)		
JCI諸会議	JCI常任理事会/ 理事会 (JCI JEM/JBM) 6日 (月) ~9日 (木)		ASPACセネター ゴルフ(ダナン) 23日 (日) ~26日 (水)		アメリカ 地域会議 7日 (水) ~10日 (日)  アフリカ・中東 地域会議 21日 (水) ~24日 (土)	ヨーロッパ 地域会議 4日 (水) ~7日 (土)  アジア・太平洋 地域会議 12日 (木) ~15日 (日)	JCI中間常任理事会 (JCI MYE) 13日 (日) ~17日 (木)				JCI世界会議 (チュニス) 4日 (火) ~8日 (土)	
NOM主要事業	京都会議 (京都) 23日 (木) ~26日 (日)						JCIアカデミー (さいたま) 6日 (日) ~11日 (金)  サマー コンファレンス 19日 (土) ~20日 (日)			全国大会 (佐賀) 9日 (木) ~12日 (日)		
財政審査会議	19日 (日)	8日 (土)	1日 (土)	12日 (土)	10日 (土)	7日 (土)	12日 (土)		13日 (土)	5日 (日)	15日 (土)	6日 (土)
公益審査会議	19日 (日)	8日 (土)	1日 (土)	12日 (土)	10日 (土)	7日 (土)	12日 (土)		13日 (土)	5日 (日)	15日 (土)	6日 (土)
コンプライアンス 審査会議	19日 (日)	8日 (土)	1日 (土)	12日 (土)	10日 (土)	7日 (土)	12日 (土)		13日 (土)	5日 (日)	15日 (土)	6日 (土)
その他	JCI諸会議・大会 開催地 【JCI常任理事会/理事会】セントルイス(アメリカ) 【中間常任理事会】 【アメリカ地域会議】ロアタン(ホンジュラス) 【アフリカ・中東地域会議】ダーバン(南アフリカ) 【ヨーロッパ地域会議】ヘアニング(デンマーク) 【アジア・太平洋地域会議】ウランバートル(モンゴル) 【世界会議】チュニス(チュニジア)											

# 目次

■基本計画・事業計画	3
■役員報告	6
会頭 外口 真大	7
副会頭 神畑 浩子・安井 琢磨	8
副会頭 伊住 公一朗・内山 瑛	9
専務理事 加藤 大将	10
顧問 豊田 啓勤・谷口 雄紀・佐々木 隆浩	11
■内部評価	12
監事 村尾 尚太郎・菅野 譲	13
監事 新井 亮太・佐藤 貴哉・大久保 貴惟	14
■グループ・会議・委員会	15
国際グループ	16
地域グループ	24
国家グループ	32
組織グループ	40
総務グループ	48
内部会計監査人グループ	57
■地区協議会・ブロック協議会	58
北海道地区協議会	59
東北地区協議会	60
関東地区協議会	61
東海地区協議会	62
北陸信越地区協議会	63
近畿地区協議会	64
中国地区協議会	65
四国地区協議会	66
九州地区協議会	67
沖縄地区協議会	68
東北海道ブロック協議会	69
西北海道ブロック協議会	70
青森ブロック協議会	71
秋田ブロック協議会	72
岩手ブロック協議会	73
宮城ブロック協議会	74
山形ブロック協議会	75
福島ブロック協議会	76
栃木ブロック協議会	77
茨城ブロック協議会	78
群馬ブロック協議会	79

埼玉ブロック協議会	80
千葉ブロック協議会	81
東京ブロック協議会	82
山梨ブロック協議会	83
神奈川ブロック協議会	84
静岡ブロック協議会	85
愛知ブロック協議会	86
岐阜ブロック協議会	87
三重ブロック協議会	88
福井ブロック協議会	89
石川ブロック協議会	90
富山ブロック協議会	91
新潟ブロック協議会	92
長野ブロック協議会	93
滋賀ブロック協議会	94
京都ブロック協議会	95
奈良ブロック協議会	96
大阪ブロック協議会	97
兵庫ブロック協議会	98
和歌山ブロック協議会	99
岡山ブロック協議会	100
広島ブロック協議会	101
山口ブロック協議会	102
島根ブロック協議会	103
鳥取ブロック協議会	104
香川ブロック協議会	105
愛媛ブロック協議会	106
高知ブロック協議会	107
徳島ブロック協議会	108
福岡ブロック協議会	109
大分ブロック協議会	110
佐賀ブロック協議会	111
長崎ブロック協議会	112
熊本ブロック協議会	113
宮崎ブロック協議会	114
鹿児島ブロック協議会	115
沖縄ブロック協議会	116
■付録	117
■2025年度諸会議報告	127

---

---

# 基本計画・事業計画

---

---

# 基本理念

---

希望あふれる理想を描き  
変えたのだと誇れる未来へ

# 基本方針

---

- 1.魅力ある運動で世界をリードする国際共創の実現
- 2.魅力ある運動からはじまる地域共創の実現
- 3.日本の基盤強化による安全・安心な未来の創造
- 4.家族・会社・地域のためにと誇れる組織への改革
- 5.ブランドマネジメントと組織運営の強化によるJC運動の最大化

# 事業計画

1

日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIと共に連携して行う運動・事業

1. 地域の魅力あるJC運動を全国・全世界に展開する事業

2

日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

1. 京都会議 【1月】
2. サマーコンファレンス 【7月】
3. 全国大会佐賀大会 【10月】
4. JCI JAPAN TOYP
5. JCI アカデミー
6. AWARDS JAPAN
7. 国際協力
8. 各種視察団・使節団の派遣

3

JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

1. JCI TOYPへの申請 【5月】
2. JCI CYEへの申請 【5月】
3. JCI ASPAC(モンゴル/ウランバートル) 【6月】
4. JCI 世界会議(チュニジア/チュニス) 【11月】
5. JCI AWARDSへの申請

4

日本青年会議所が、地区協議会と連携する事業

1. JCカップU-11少年少女サッカー地区予選大会の開催
2. スポーツを通じた個人の意識改革から共生社会実現に向けた事業
3. 戦後80年を迎える日本の平和共育推進事業の参画
4. 災害ネットワークの強化に関する事業

5

日本青年会議所が、ブロック協議会と連携する事業

1. 各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究
2. 地域に眠る活用しきれない資源の調査・発掘・研究
3. 誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援
4. ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用
5. 理念共感拡大ブランドデザインの検証

---

---

# 役員報告

---

---



## 会頭 外口 真大 (東京)

希望あふれる理想を描き、変えたのだと誇れる未来へ。  
2025年度はこの基本理念の下、運動を展開してきました。家族・会社・地域に変わったのではなく、変えたのだと誇れる未来を目指してきました。そして理想を描き、信じ、その達成のために日本青年会議所メンバー全員が行動した一年であったと感じています。

そして36議長委員長が残したすべての成果は、変えたのだと誇れるものだと私は確信しています。

地域共創を目指した地域グループにおいては、TOYPや価値デザインとともに日本青年会議所、LOMとの連携で新たな運動を生み出しました。また我々の運動が24時間テレビの1企画にもなり全国に放映されました。そしてLOMと共に発掘した地域の魅力が、今では商品化され、全国の棚に並んでいるのです。

そして戦後80年という節目の年の国家グループでは、国家を背負い、新たな教育システムを示し、そのシステムは実際に稼働し始めました。またマンガ「戦争めし」とのコラボにより、我々の運動はマンガとなり全国誌で連載されています。2026年には単行本化もされます。また政策甲子園も日本青年会議所を代表する事業に発展しました。

組織グループにおいても、LOMに一番近い存在となることを目指し、LOMのためと日本中を飛び回ってくれました。過去にない数のJCセミナーの開催、そして各JCプログラムの開催により、より多くのメンバーがJCの本質に触れる機会を得て、そして日本青年会議所は決して遠い存在ではないのだと示せたと感じています。私はそこまでLOMに近い存在となれたことを本当に嬉しく思っています。

そして筆頭グループとして日本の底力を世界に示してくれた国際グループ。グローバルユース事業がJCIの公式プログラムとなりました。運動でリードする日本青年会議所へとさらなる進化を遂げられたと自負しています。間違いなく日本青年会議所が世界の運動を作ったのです。

本年度、日本青年会議所に関わっていただきました全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

そして私はその成果を見て確信したことがあります。

それは、私たちは理想を現実にすることができるということ。そして世界を創ることができるということです。

社会課題解決運動から社会開発運動へと意識を転換することにより、今までの課題対処型の運動から、理想を描き、バックキャストから運動を作り上げるという転換は青年会議所にとって大きな転換点になったのではないかと感じています。

そして、明るい豊かな社会の実現を目指し運動を展開している私たち青年会議所ですが、時折「JC運動・活動によって会社の業績が悪化した」「家庭がうまくいかない」などの話を聞くことがありました。社会の最小単位は家族であり、家族や会社の犠牲の上に明るい豊かな社会は成り立ちません。私たちの創始は「家族・会社・地域を良くしたいという青年が集まった」と話されています。それこそが私たちの「原点」なのです。そういった「JC運動とは家族・会社・地域のためである」という想いも多く共感を得られたと考えています。

しかし、これらの成果は日本青年会議所だから出来たことではありません。青年会議所の一人ひとりが、理想を信じ、行動し続けた結果だと考えています。

だからこそ、理想を信じ、行動し続けてほしいのです。皆さんが掲げた旗は、理想は、最初にひかり輝く一番星のように人々を照らし、そして多くの人の希望となるはずで。そして私も信じ続けています。理想、誇り、責任、使命、そういった形なきものもたらす熱量は、時として予測や打算を打ち破る力を持つということ。

我々の運動はwe believeから始まります。もし奇跡が起こるのなら、それはここにいる我々全員が理想を掲げ、その実現を信じ歩み始めた時に他なりません。

Keep Raising your Flag

変わったのではない、変えたのだと誇れる未来へ

一年間、本当にありがとうございました。



副会頭  
**神畑 浩子** (姫路)

本年度、中国地区、沖縄地区、国際グループを担当させていただきました。

各地区ではブロック会長や理事長をはじめとするメンバーの皆様と意見交換を重ね、各地の課題や本会の運動内容、サポート体制の共有を通じて、総合連絡調整機関としての連携強化を図りました。また、女性理事長や女性役員の活躍を各地で拝見し、全国女性理事長会との意見交換を通して、次年度以降の女性メンバーの更なる活躍に期待を抱いております。国際グループでは、ASPACウランバートル大会、世界会議チュニス大会において多くの登録をいただき、JCI下山田会頭の活動を支援できました。さらに、グローバルユース国連大使事業をJCI公式事業へと昇華させ、「魅力ある運動で世界をリードする国際共創の実現」に寄与できたと確信しております。改めまして、本年度関わっていただいた皆様に、感謝申し上げます。ありがとうございました。



副会頭  
**安井 琢磨** (名古屋)

本年度は副会頭として地域グループ、東北地区、関東地区を担当させていただきました。地域グループでは「魅力ある運動からはじまる地域共創の実現」を基本方針に掲げ、地域に眠る価値の発掘に取り組みました。各地の質の高い運動や優れた商品、地域に根付く伝統文化や豊かな自然環境、新たな価値を創造する企業やそれを牽引する傑出した人財を掘り起こし、外からの視点を積極的に取り入れることで、地域内だけでは見出せなかった新たな可能性を引き出し、地域の活性化へと繋げました。また、東北地区、関東地区ではブロック訪問を通じて各地の課題を把握し、質の高い運動を横展開するとともに、地域の魅力を改めて発掘しました。サマーコンファレンスではこれらの活動の成果を全国の会員に広く発信し、それぞれの地域が理想を描き未来に踏み出すための契機としました。最後に、この1年間、多くの皆様からいただいたご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。



副会頭  
伊住 公一郎 (京都)

2025年度は国家グループ、北海道地区、東海地区、九州地区を担当させていただきました。国家グループでは「日本の基盤強化による安全・安心な未来の創造」を掲げ、FCP推進による家族防災の浸透、ベビーファースト運動の外部移管、公正な経済を目指した規制改革会議などを展開しました。戦後80年の節目には、全国で平和共育プログラムを実施し、人気漫画「戦争めし」との連携やパラオでの学生フィールドワークを通じ、平和の価値を次世代に伝えました。また、生成AIを活用したPositive Learning Programを全国30カ所で展開し、子どもの主体的な学びを後押ししました。さらに第三回全国高校生政策甲子園では1万5千票を超える国民投票を得て、市民参画の新たな機運を生み出しました。共に歩んでくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



副会頭  
内山 瑛 (浜松)

本年度は、北陸信越地区、近畿地区、四国地区、組織グループを担当させていただきました。各地区におきましては、ブロック訪問をさせていただき、理事長の皆様と本会また各LOM、協議会の運動について、様々な議論をさせていただきました。

組織グループにおいては、「家族・会社・地域のためにと誇れる組織への改革」を基本方針に掲げ、連絡調整機関としての機能を全うすべく、LOMの課題、協議会の課題に向き合っていました。総合連絡調整会議を情報のハブとしてあらゆるニーズに対応し、すべての会議委員会がLOMや協議会の皆様の悩みに共に向き合い、共に解決策をつくりあげました。また、未来の組織のあるべき方向性について議論を重ね、2026年から5年間の中期運動方針の策定も行いました。

2025年、私たちの運動に関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げるとともに、今後も地域や日本の未来のため、青年会議所を共に盛り立てていただけますことを心よりお願い申し上げます。



専務理事  
**加藤 大将 (半田)**

2025年度は「Raise Your Flag」をスローガンに掲げ、各地区・ブロック協議会と各地会員会議所と連携しながら全国規模での運動展開を実現しました。専務理事として、本年度の運動が基本理念と実行が伴い着実に推進されたと総括します。2025年度の運動は、理念を実装・可視化するフェーズへと一歩進めた年であったと確信します。特に外部との関係構築や次世代育成、地域課題への応答において、実効性ある運動モデルが創出できたことは大きな成果です。また、日本JCとLOMとの連動性が高まり、地域からボトムアップされた運動が目に見える形で事業化されるなど、地域主導の運動形成が前進されました。これは、本年度重視した全体最適×地域尊重のバランスを取る運営方針の成果と捉えています。この一年間、数々の試行錯誤があった中でも、組織としての進化と可能性を確かに実感しております。次の世代へとバトンを繋ぐために、今年度得た学びと成果を確実に継承してまいります。



顧問  
**豊田 啓勤 (八代)**

社会にある問題から存在すらしていない課題を顕在化させ、その解決策を見出し、実行していく。また、適切な未来を描き、その社会の実現に向けた開発行為をしていく。このような活動が真に豊かな社会をつくるであろうと、私が経験してきた見識を基に助言をさせていただきました。議長委員長の多くの挑戦が形となり、社会に何らかの変化を与えることができるのではないかと感じています。加えて、座長として2026-2030の中期運動方針の策定にも携わらせていただきました。次年度以降の方針という形で、次代に対する遺産となれば幸いです。今後とも、日本青年会議所がこの日本を正しく導く団体であることを期待しています。



顧問  
**谷口 雄紀 (高松)**

本年、顧問として歩んだ時間は、私たち一人ひとりが「変えたのだ!」と自信をもって言い切れる未来へ導く作業の連続でした。過去は誇張されやすいものです。だからこそ経験をポジショントク的にただ語るのではなく、目の前の挑戦が行き詰まりに向かわぬよう、選択肢を広げ、発想の角度を増やすための働きかけを続けてきました。また、各人が内に秘めた力を最大限に表現できるよう、対話・助言・観察を重ねました。人間という生き物はどうしても、防衛本能や生存本能が働き、自身のもつ力の100%はなかなか発揮できないものです。しかし、一人ひとりの実力を観察し、向き合い、本来持つ可能性を伸ばすことこそ、顧問の役割であると考えました。自らの限界を一つ上書きしていく姿を間近で見られたことは、私にとっても大きな喜びでした。挑戦した、全ての皆様に祝福とともに、より良い未来が訪れることを祈っております。



顧問  
**佐々木 隆浩 (埼玉中央)**

2025年度は、全国の仲間が理想の実現に向けて果敢に挑戦し、形のある成果を多く残せた一年でした。慣例にとらわれず組織運営を見直すことで、運動の成果を最大化させるべく、これまでの経験から助言をさせていただきました。自分たちが変えたのだと誇れる未来を目指し、一人ひとりがさらに一步を踏み出したその姿勢こそ、次代へ繋がる力であり、青年会議所の真価を示すものだと感じます。皆様の挑戦と協力に、心からの敬意と感謝を込めて、顧問として本年度を総括させていただきます。

---

---

# 内部評価

---

---



監事

**村尾 尚太郎** (大阪OB)

本年は大阪・関西万博の開催により、海外から多くの来訪者を迎え、日本の魅力があらためて世界へ発信された年となりました。さらに10月には日本初の女性総理となる高市内閣が発足し、日本には大きな変革への期待が高まり、国際社会における存在感を確固たるものとするのが求められています。

その中で、本年発信された運動は、従来の社会課題の抽出を起点とする運動の構築ではなく、理想を掲げ未来を変える運動を構築することに注力されました。そしてJCIの公式プログラム化の予定であるグローバルユース事業をはじめ、世界を動かす運動へと昇華されたと確信しております。

2026年度は、本年の運動を引き継ぎ、理想のその先へ導いていただければと存じます。世界会議で決議されたJCIロゴの改定、日本JC会館の建て替えが継続して進められます。社会からの注目を一層集めるこの機会に、JCブランドの価値を高め、冠たる日本の確立へと繋げていただければ幸いです。



監事

**菅野 譲** (だてOB)

監事として、2025年度における日本青年会議所の会務運営および会計処理について、関係書類の閲覧、報告聴取等を通じて監査を実施しました。定款ならびに諸規程に基づき、理事会運営、各種事業の執行、予算管理および決算処理は、いずれも適正かつ妥当であると認めます。本年度は特に、ガバナンス強化と業務効率化に向けた取り組みが進展し、内部統制の実効性向上が確認されました。今後も社会的責任を意識した健全で透明性の高い組織運営が継続されることを期待します。



監事  
**新井 亮太** (駒ヶ根)

2025年は能登半島地震における被災被支援に対し、総理大臣賞の受賞や24時間テレビでの企画など、長年に渡り積み上げてきた青年会議所の運動が目に見える形で発信された年となりました。外口会頭を先頭に全国のリーダーが変化に挑戦し、変えたのだと誇れる未来を描いて、行動した結果であると確信しています。

本年度は監事として推進事業の進捗について意見を述べさせていただき、運動が最大限の成果をあげることに對し、微力ながら協力をさせていただきました。また、定款第1章第3条の目的を達するため、事業構築や、運動の推進だけでなく、組織のガバナンスが確立されていく必要があり、組織内の規律と社会の変化への対応が青年会議所として運動を展開していく上での基盤になっていくと考えます。

今後とも、素晴らしいリーダーを輩出し続け、社会にインパクトを生み出す組織で在り続けることを心から祈念申し上げます。



監事  
**佐藤 貴哉** (花巻)

2025年度は外口会頭が掲げる基本理念のもと、理想を掲げ、その理想を実現すべく、全国各地で運動が展開されました。それぞれの運動が団体の目的に合致しているか、また費用に対して十分な効果を得ることができたかという観点で1年間役割を担わせていただきました。結果として、2025年度も皆様の活躍によって、素晴らしい成果を上げられたと感じております。

本年度はこれからの時代の羅針盤となる中期運動方針の策定や、日本青年会議所のシンボルであった青年会議所会館の解体がいよいよ始まるなど、組織運営面においても様々な動きがあった1年となりました。これからも日本青年会議所が総合連絡調整機関としての責務を果たし、全国のLOMやパートナーから必要とされる団体として活躍されることを心よりご祈念いたします。



監事  
**大久保 貴惟** (青梅)

目まぐるしく変化をしていく社会情勢の中で、青年会議所は時代に即した社会開発運動を行っていかねばなりません。その中で、2025年という時代を駆け抜ける日本青年会議所として、定款にある目的達成に至るのかという観点を中心に監事の役務を遂行して参りました。加えて、メンバーの主体性に働きかけ、新たな組織構築の在り方を模索する重要な1年でもありました。結果、多くの運動において素晴らしい成果をあげることとなりました。すべての運動が定款に則り、新たな時代への重要な一歩を踏み出すものであったことをここにご報告いたします。

また、JCセミナーの講師として、数多くのメンバーの皆様の前で講演をさせていただきました。全国を回る中で強く感じたのは、JCはやはり素敵な組織である、ということです。JCのMISSION、VISIONのもと社会開発を目指し集まった全国の仲間の輝きは、更に強くすることができると確信しました。今後の躍進を心から願います。

---

---

# グループ・会議・委員会

---

---

# 国際グループ

## 国際グループ総括



### 国際グループ担当常任理事 菅原 啓太 (仙台)

2025年度の国際グループは「魅力ある運動で世界をリードする国際共創の実現」を基本方針とし、世界各国と連携し事業を実施するだけでなく、日本JC各グループと連携し日本の運動を世界に普及し、各NOMと共に理想の未来実現に取り組みました。その1つの成果として、世界会議チュニス大会ではグローバルユース国連大使育成事業がJCI公式プログラムとして採用されました。JCI会頭として下山田敬介君を輩出する年度を起点として、JCIや各NOMとの連携が更に深化していくものと考えます。登録については、ASPACウランバートル大会では2,059名、世界会議チュニス大会では1,407名となり、それぞれの大会において開催したグローバルピースサミットでは延べ

57か国が関わりました。SMILE by ACTIONはフィリピン・セブにてゴミ分別回収モデルの構築を行い、SMILE by WATERはカンボジア・シェムリアップにて浄水器の設置や雇用創出の仕組みづくりを行いました。世界各国と共に運動を展開し、基本方針にある国際共創を実現できたのではないかと考えます。最後に、1年を通して多くの皆様からご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
国際共創会議	議長	吉井 竜二 (西宮)

### 基本方針

日本で創られた魅力ある運動の世界普及を通じて、各国の運動構築能力を開発し、運動を加速させることで、各国の未来が明るくなることを目指します。



### 総括

本年度、当会議は日本の魅力ある事業を世界に普及する事業の中でグローバルユース国連大使事業と防災事業を展開し、世界各国の社会開発に寄与しました。グローバルユースの普及については、従来のドイツと日本の事業にフィリピン、インドネシア、台湾、アメリカ(ハワイ)、アルゼンチンが参画し、多くの国を巻き込んだ事業を行うことができました。またベトナムでもエッセンス版でグローバルユース事業を展開してもらい、こちらにも韓国、タイ、インド、フィリピンが参画し、グローバルユース事業は延べ11か国が参画し、世界中で大きな広がりを見ることができました。結果的に世界会議において、JCI公式プログラムに採択されました。防災事業は3か国で展開し、各国の防災に対する知見のアップデートに寄与しました。これらの成果は、日本JCが目指すリーディングNOMとしての方向性を、より確かなものとして示す1年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	グローバルユース国連大使育成事業の普及	日本の魅力ある事業の一つであるグローバルユース国連大使事業の普及を行いました。具体的には日本での開催には7か国が参画しました。またベトナムでは自国開催でグローバルユース国連大使事業を行い、ベトナムを含む5か国が参画しました。グローバルユース事業がJCI公認プログラムになりました。
公7	日本のBOSAI事業の普及	日本の高い防災意識を普及するために本年度は3か国へ展開しました。展開したBOSAI SPORTSにより、地域の防災的課題を洗い出し、そのまま防災意識の改善、適切な災害時の知識の取得に寄与しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
グローバルピース会議	議長	高杉 龍司 (新潟)

### 基本方針

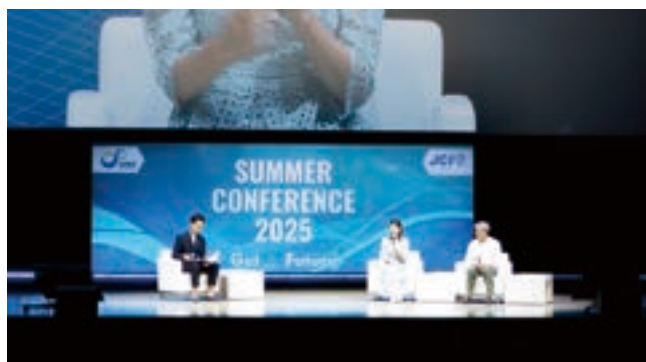
世界平和の実現に向けて自ら行動できる人材の育成を目的とし、平和に関する国際的な学びの機会を創出します。



### 総括

グローバルユース国連大使育成事業においては、7か国の青少年が日本に集まり、将来の外交人財育成を目的とした平和研修を行いました。その後、ドイツ研修を経て、大使達は全国各地で平和推進に向けた啓蒙活動を行いました。また、グローバルピースサミットでは各国会頭が集結し、恒久的世界平和の実現に向けてどのように行動すべきか議論が交わされました。特に世界会議のサミットでは、ユース大使が平和実現についてプレゼンテーションをしたところ、各国会頭からスタンディングオベーションが起こった姿は忘れられません。2026年度からグローバルユース事業がJCI公式プログラム化され、この運動が全世界で広がっていくことを楽しみにしています。

事業区分	事業名	事業内容
他	平和推進事業の推進計画	折り鶴を折って平和への祈りをSNS上で投稿する#MyDearプロジェクトを行いました。国内だけでなく、40か国のJCI各国メンバーにもご協力いただき、恒久的世界平和の実現に向けた啓蒙運動として世界へ広がりを見せました。
他	2025年度京都会議国際セミナー「Local Pathways to Global Impact～メンバーの成長に繋がる国際の機会～」	本セミナーは2部制で開催しました。第1部では、国際グループの各事業紹介をし、国際の機会を活用できることを参加者に認識いただく場としました。第2部では、JCIならではの国際の魅力と、それがもたらすLOM益について、トークセッション形式で進行了しました。
公7	JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業	パートナー国であるJCIドイツを中心に7か国で日本研修を行いました。戦後80年のタイミングで日本・ドイツ両国で恒久的世界平和の実現に向けて議論を深め、研修後は大使の地元を中心に平和啓蒙活動を行い、世界会議においても活動発表を行いました。
公7	JCI ASPACグローバルピースサミット	世界組織であるJCIの各NOMがどのように連携して平和に関する重点課題の解決に向けた具体的な行動に移せるか、議論が交わされました。当日は16か国の会頭にご参加いただき、各国の連携強化が重要であることが示されました。
公2	サマーコンファレンス2025「私たちの言葉がつくる平和のストーリー」	自らができる平和への行動について、眞鍋かをり氏と魚乃目三太氏をゲストとして鼎談形式で行いました。フォーラムだけでなく、魚乃目氏の作品である「戦争めし」のエピソードについて眞鍋氏から朗読いただく演出や、弁当販売を行うなどの演出も行いました。
公7	JCI 世界会議グローバルピースサミット	世界38か国の会頭が集結し、恒久的世界平和の実現に向けてどのように連携すべきか議論が交わされました。サミットの途中で、グローバルユース国連大使より平和実現のプレゼンテーションを行い、青少年育成の重要性が共有されました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
持続可能な国際開発委員会	委員長	大泉 渉 (水戸)

**基本方針**

日本国内において成功し確立された社会課題解決へのアプローチ方法を用いて、発展途上国に新たな国際支援事業を実施します。



**総括**

フィリピンとカンボジアにおいて 2つの国際開発事業を推進し、地域住民が主体的に社会課題へ向き合える環境づくりを進めてまいりました。SMILE by ACTION では、住民・行政・企業が協働する循環型の分別モデルを構築しました。また、インフルエンサー Fumiya 氏の強い発信力が活動の認知拡大を後押しし、住民の参加意欲や社会的関心を大きく高めることに寄与しました。その結果、地域主導の環境改善運動として高い評価を得ることができました。SMILE by WATER では、浄水設備の整備や女性の雇用促進、募金箱による資金循環の仕組みを通じ、地域が自立的に取り組みを継続できる体制を構築しました。これらの成果は、日本JCが目指す「持続可能な国際支援」の方向性が確かであることを示す一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公3	JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines ~ACTIONS FOR THE FUTURE~	セブ市が抱える深刻なゴミ問題の解決に向けて、啓発活動やリサイクル促進に取り組みました。地域・企業・行政が一体となって参加できる持続可能な運営体制を構築したことで、この仕組みは先進的なモデルとして高く評価され、他地域へも広がりを見せました。
公3	JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ~Establishing the sustainable systems~	カンボジア・メチュレイ村において、JCIシェムリアップと連携して浄水設備を設置しました。さらに、ホテアオイを活用した製品開発により地域の雇用と経済を促進するとともに、募金箱の設置を通じて地域全体の支援体制を整え、持続可能な仕組みを構築しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
国際ビジネス推進委員会	委員長	甲斐 大啓 (大分)

## 基本方針

日本の中小企業が地域の強みを海外市場での成功に繋げ、日本が国際社会で主導的役割を果たす共創の未来を目指します。



## 総括

本年度の活動を通じて、日本の中小企業が持つ技術力や独自性には、海外市場で十分に通用する可能性があることを実感しました。一方で、言語や商習慣の違い、情報発信力の不足など、海外展開には依然として多くの課題が残されています。委員会としては、各国でのビジネスマッチングや交流を通じ、企業同士が学び合い、連携することで課題解決の糸口を見出すことができました。これらの経験は、日本が国際社会でリーディングNOMとして共創の輪を広げていくための大きな礎となり、今後の継続的な挑戦へと繋がる一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業	中小企業の海外展開支援を目的に、シンガポール、ベトナム、モンゴルの3か国でビジネスマッチングを実施。現地企業や経済団体と交流し、日本企業の技術力を発信。中小企業の販路拡大と連携の基盤を築くことができました。
他	日本企業の海外進出啓発事業	地方の課題をヒアリングし、外務大臣や都道府県知事と面会し意見交換を実施しました。地方空港の国際化や地域企業の海外展開支援について協議し、行政と民間が連携して取り組むための基盤を築くとともに、日本企業の海外進出に向けた意識啓発を図りました。
他	JCI GO登録推進事業	世界中のJCIメンバーと繋がる交流アプリ「JCI GO」の登録を推進しました。各地でキャラバン活動やサマーコンファレンスでのブース出展を実施しメンバーへの登録活動を行い、多くのメンバーが交流ツールとして活用できるよう促進しました。
公7	サマーコンファレンス2025「Beyond Borders～日本の強みを世界へ～」	海外展開に成功した企業経営者を招き、サマーコンファレンスにてセミナーを開催しました。獺祭、西山製麺の事例を通じて、中小企業が海外市場で成功するための戦略や挑戦を学び、地域経済の活性化と成長のヒントを得る機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
グローバルアライアンス構築委員会	委員長	加森 公人 (松戸)

### 基本方針

各NOMとの連携を強化し、民間外交を担う人財育成と国際的ネットワークの深化を促進する。



### 総括

本年度はJCIの国際ネットワークを最大限に活用し、各NOMとの連携強化と民間外交を担う人財育成に注力してきました。アジア太平洋地域でのアテンド業務や諸会議での役員対応、APDC支援など多岐にわたる調整を円滑に進め、各国との信頼関係を深化させました。3月には日中友好交流事業40周年記念式典を開催し、両国の友好を一層強固にしました。さらに8月にはパラオにて平和共育推進委員会と合同プログラムとして夏祭りを実施し、若い世代の交流を通じて相互理解と信頼構築を促進しました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	日本JC・中国国際青年交流センター友好交流40周年記念式典・祝賀会	日本JCと中国の友好青年団体との交流が40周年の節目にあたり、平和と安定に向けた未来志向の関係を構築していくために40周年記念式典を執り行いました。本事業を通じて、これまで築いてきた友好関係をさらに強固なものとし、次の45周年に向けて力強く希望溢れる未来へ新たな一歩を踏み出すことができました。
公2	戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育むフィールドワーク事業	パラオ共和国にて、平和共育推進委員会と合同プログラムとして夏祭りを実施し、若い世代の交流を通じて相互理解と信頼構築を促進しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
JCI関係委員会	委員長	山本 晃大 (大阪)

## 基本方針

国内外のメンバーが交流できる環境を整え、世界平和の実現に繋がるJCI及び各国との友好関係を構築し、相互理解を促進します。



### 総括

本年度は国内にてインターナショナルナイトを3回開催し国内外より計206名が参加され、JCI ASPACウランバトル大会では2,064名、JCI世界会議チユニス大会では1,401名の日本メンバーの参加登録をいただき、いずれもジャパンナイトや日本JC会頭招待レセプションを開催し、年間を通じて国内外のメンバーの交流機会を創出しました。JCI及び各国デリゲイツの方々には日本の文化を体験いただき、日本JCの運動発信を行ったことで、リーディングNOMとしてのプレゼンスを示すとともに、地域の魅力を感じていただくことで日本への理解を深め、メンバー同士の相互理解を促進しました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	国際連携強化に向けた年間推進計画	京都会議、JCIアカデミー、全国大会において、インターナショナルナイトを開催し、日本の文化体験、日本JCの運動発信を行い、国際社会の未来に向けて情報交換や連携を継続的に進めていく意義について対話するきっかけとなるコンテンツを提供しました。
公7	JCI ASPACウランバトル大会における大会対応計画	JCI ASPACウランバトル大会における大会プログラム及び日本JC主催事業への日本JCメンバーの参加支援と大会中の本部団運営を行いました。アジア太平洋地域から4,966名が登録し、内2,064名が日本からの参加となりました。
公7	JCI ASPACウランバトル大会での事業ジャパンナイト開催計画	本年度は「Explore JAPAN～日本の魅力を探そう～」をテーマに開催し、全国各地から51のブースが出展し、地域の魅力を発信しました。DJタイム、アワード、カ士による相撲パフォーマンスなど、会場は高い熱気に包まれ大盛況となりました。
公7	JCI ASPACウランバトル大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画	JCI及び各国に対して日頃の感謝を伝え、連携を図る民間外交の機会として本年度は「POWER OF ASIA & JAPAN」をテーマに開催しました。日本の食や文化体験を通じて、日本を中心としてアジア太平洋地域全体の連携を高める場としました。
公7	JCI世界会議チユニス大会における大会対応計画	JCI世界会議チユニス大会における大会プログラム及び日本JC主催事業への日本JCメンバーの参加支援と大会中の本部団運営を行いました。世界各国から3,001名が名が登録し、内1,401名が日本からの参加となりました。
公7	JCI世界会議チユニス大会での事業ジャパンナイト開催計画	本年度は「RISE UP JAPAN」をテーマに開催し、全国各地から35のブースが出展しました。各国の国名と国旗を掲載した提灯や、JCIと日本JCのスローガンを掲げたフォトブースを設置し、JCI会頭輩出国としてのプレゼンスを示しました。
公7	JCI世界会議チユニス大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画	本年度は「Bridging Future」をテーマにJCI及び各国への一年の感謝とともに次世代を見据えた協力関係を築くレセプションとして開催しました。翌年以降の日本開催となるJCI ASPACやJCI世界会議に繋がる相互理解を促しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
JCIアカデミー委員会	委員長	石井 恭平 (帯広)

### 基本方針

多様な価値観が交わる学びと挑戦の場を創り、次代の国際的リーダーを育成する。



### 総括

JCIアカデミーは、世界各国から集ったデリゲイツが互いの価値観を学び合い、未来を切り拓くリーダーとしての一步を踏み出す場となりました。日本文化の体験やモジュール、各プログラムを通じて、国境を越えて協働する意識が生まれ、参加者一人ひとりの視座が大きく広がりました。運営においては多様性への配慮や予測不能な状況への対応力が問われましたが、開催地LOM、地域の皆様のご支援により成功裏に事業を終えることができました。本アカデミーで育まれた縁と学びが、今後のJCIの発展と世界の平和に寄与することを期待します。

事業区分	事業名	事業内容
公7	第38回JCIアカデミーに伴うプレJCIアカデミー	国内メンバーに事業目的の理解と国際交流の基礎準備を提供し、事前学習や研修を通じて本番への自信を涵養。委員会との連携強化や運営確認により、第38回JCIアカデミーの円滑な実施に向けた共通認識を形成しました。
公7	第38回JCIアカデミー	第38回JCIアカデミーでは、多様な価値観の理解が進み、国際的視野を持つリーダーとして成長する成果が得られました。モジュールや交流により協働力と相互理解が深まり、強固な国際ネットワークが形成されたことが大きな成果です。



# 地域グループ

## 地域グループ総括



### 地域グループ担当常任理事 堀 徳成 (玉野)

2025年度地域グループでは、「魅力ある運動からはじまる地域共創」を基本方針とし、地域にインパクトを与える運動の構築を目指してまいりました。「もっとセレクション」事業においては、「もっとセレクション」をパッケージ化し全国に展開し、全国各地のLOMが地域資源を掘り起こし、発信力を高めるための統一フレームとして展開し、48ブロックで実施しました。地域ブランド確立プロジェクトにおいては、5品目を商品として発掘し創出いたしました。どじょうビールに関しては、島根県内の売店・飲食店を中心として取り扱われることとなりました。そして、サマーコンファレンス2025においては、10,000名を超えるメンバーに横浜の地へ参集いただきました。JCカップにおいては、全国大会を堺市にて行い、さらには、国際大会を名古屋において実施し、タイ、スペイン、オーストラリアの少年にも参加してもらいました。

会議・委員会名	役職名	担当者名
地域共創会議	議長	深田 良介（飯塚）

**基本方針**

地域の魅力を発掘し、質の高い運動を全国に伝播させ、地域資源をいかした共創で次代を切り拓く社会の実現を目指す。



**総括**

本年度、地域共創会議では、全国各地の青年会議所と連携し、地域に存在する魅力や課題の調査・発掘を進めました。AWARDS JAPAN受賞事業のパッケージ化と、TOYPや価値デザインコンテストの歴代受賞者によるアドバイザー連携を通じて、各地のLOMが自立的に事業を構築し、地域との関係性を深める取り組みを推進しました。さらに、全国地域共創戦略会議を開催し、行政や企業、市民などステークホルダーの連携を強化しました。サマーコンファレンスでは全国の実践事例を共有し、理念と実践の両面から共創の輪を全国へ広げました。これらの活動を通じて、地域資源をいかし、人と人が支え合い、未来を切り拓く共創社会の実現に大きく寄与しました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地域共創魅力発信事業	AWARDS JAPAN受賞事業「もっとセレクト」をパッケージ化し、各LOMが地域資源を磨き上げ、LOMの成長と運動の再現性向上を推進しました。地域が誇る商品・サービスを発信し、地域の魅力を再発見するきっかけを創出することで地域経済の循環を促す意識を高めました。
公5	地域共創パッケージ化運動推進計画	TOYP・価値デザインコンテスト受賞者など地域外の有識者と協働し、LOMが中心となって質の高い事業を企画・実施しました。専門的知見を取り入れることで新たな視点を獲得し、地域資源の磨き上げと事業の発展を図りました。
他	2025年度京都会議 地域共創セミナー 「いざ地域の魅力発信!! 共に創る、日本の未来のために」	京都会議では、地域共創の重要性を共有し、地域資源の価値化やブランド確立の意義を発信しました。外部視点を取り入れた魅力発掘や連携の在り方を学び、産官学民が協働して地域発展を実現するための方向性と具体的な行動の一步を示しました。
他	2025年度3月総会 地域フォーラム 地域の未来をつなぐ共創の力 ～新たな挑戦への第一歩～	総会フォーラムでは、「なぜ取り組むべきなのか」という本質を共有し、地域共創会議の特徴である運動に改めて焦点を当てました。パッケージ事業やアドバイザーマッチングの紹介、そして共創状況を報告し、全国連携を促進しました。
公5	サマーコンファレンス2025 「共創が花開くとき The Future Begins」	サマーコンファレンスでは、地域共創の成果と今後の可能性を発信し、企業・行政・市民が連携する地域活性化の在り方を共有しました。基調講演とパネル討議を通じて多角的な視点から議論を深め、参加者が地域課題に主体的に取り組む機運を高めました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
サマーコンファレンス特別委員会	委員長	松井 隆昌 (神戸)

## 基本方針

参加者が理想とする未来を掴み、全国の青年会議所メンバーが成果を持ち帰ることで地域に上昇気流を生み出すサマーコンファレンスの開催。



## 総括

サマーコンファレンス2025は「Get your Future」をテーマに、日本青年会議所が全国で展開する運動の成果を最大限発信する機会として開催しました。7つのフォーラム、10のセミナー、コンテスト、大相談会の19のファンクションを実施し、全国各地より10,000人を超えるメンバー・市民に参加頂き、参加者が理想とする未来を自らの手で掴み、各地域へ持ち帰る機会となりました。同時開催のサマコンフェスでは「とびこめ、未来デパート」をテーマにファミリーを中心とする市民に未来の職業選択の機会を広げるおしごと体験や、多様な地方創生エリアなど、市民にも開かれた運動発信場として実施しました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	サマーコンファレンス2025	「Get your Future」をテーマに、19のファンクションを実施しました。日本JCの各会議委員会が全国各地で展開する運動の成果を各専門分野の講師と共に発信し、参加者が地域へ社会開発運動を展開する契機となる大会を開催しました。
公5	オープニング	オープニングは、参加者に「サマコンの学び方」を伝える場として実施しました。サマーコンファレンスの目的・実施内容をオープニングフォーラムのゲストスピーカーである、ゆうちゃみ氏と共に発信し、期待感を高める開会宣言を行いました。
公5	クロージング	クロージングは「サマコンの使い方」を伝える場として、日本JCの議長委員長が登壇し筆頭議長による各グループで発信した内容の総括を行いました。サマコン委員長からも全体の総括を行い、開催後のサマコンの活用方法を伝え大会を締め括りました。
公5	サマコンフェス	「とびこめ、未来デパート」をテーマに、33の企業団体と連携し、ファミリーを中心とした市民へ未来の職業選択の幅を広げるおしごと体験や、地方創生分野の体験などを通して、市民へ開かれた日本JCの運動発信の場として実施しました。
公5	広報	大会実施前に、13社のメディアが参加する横浜市長定例記者会見にてサマーコンファレンスの実施概要を発表しました。プレスリリースやメディアへの投げ込みを行い、サマーコンファレンス48社、サマコンフェス44社のメディアへ掲載頂くことができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
持続可能な地域開発委員会	委員長	中村 優弥 (山口)

### 基本方針

地域の眠る資源を活かし、環境と経済の好循環を生み出す運動を全国に推進します。



### 総括

地域に眠る資源を再発見し、観光や体験を通じた新たな価値創出を目指しました。48ブロックとの連携を進め、屋久島、長門、人吉、飯田など全国でデモツアーを実施し、地域経済の循環モデルを検証しました。旅行事業者や観光協会との協働により販売体制を整備するとともに、収益の一部を地域環境へ還元する仕組みづくりにも取り組みました。サマーコンファレンスでは成果を共有し、全国の仲間と意識を高めました。

事業区分	事業名	事業内容
公3	持続可能な好循環の地域づくり	地域資源の活用と環境保全の両立を図り、経済活動による利益の一部を地域環境へ還元する仕組みを構築しました。持続可能な好循環の実現を目指しました。
公5	サマーコンファレンス2025 「地域の魅力を掘り起こせ!! ～眠る資源の活用性と可能性～」	地域に眠る資源を活用し、観光や体験を通じて新たな価値を創出しました。地域経済の循環モデルを検証し、持続可能な地域の活性化と自立的発展を推進しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
地域ブランド確立委員会	委員長	米田 恵樹 (高岡)

## 基本方針

ポテンシャルの高い工芸品や特産品に付加価値をつけ、国内外を引きつける新たなトレンドを創出し、地域ブランドを確立します。



### 総括

我々は、今年一年間、百件近くの生産者さんを巡り、地域ブランドの衰退が加速していることを実感しました。その課題背景は複雑であり、事業継承者の不在や赤字経営、原材料の確保困難など、日本の美しい工芸が次世代へ紡がれなくなる時代へ突入しています。しかし、一方で日本の工芸や特産品がいかに優れているかも目の当たりにしてきました。そして、それを生み出す生産者さんが機会を待っていることも実感しました。今年度は、全国各地で11の製品を生み出し、国際舞台でブース出展し、高い評価を頂きました。国内では、商品販売もされています。十分に、国内外で戦える商品を生み出しました。次年度の製品マーケティングに期待します。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地域ブランド確立プロジェクト	地方に眠る特産品や工芸品を発掘し、製品やサービスを創出。その後、創出した製品の対外への広報や販路拡大といった発信や、地域ブランドという観点での地元への定着を通して、国内外を引きつける新たなトレンドを創出してきました。
公5	サマーコンファレンス2025 「Local Breakthrough ～日本を変える 地域ブランド戦略～」	高橋 弘樹氏 をファシリテーターに迎え、地域ブランドを高めるためのアイデアについてディスカッションを行いました。世耕氏からは広報戦略を、ゆうちゃみ氏からは、Z世代に響くブランドづくりや、SNSを活用した地域の魅力の発信方法を学びました。
公5	第74回全国大会佐賀大会 「Local Breakthrough The Final～ホンモノの地域 ブランドを未来へ～」	元・中川政七商店会長の中川 淳氏、山之内 すす氏と共に、地域の魅力をいかに未来へつないでいけるのかを共有しました。地域の魅力を世界に発信し、国際ビジネスへと繋げる挑戦を共有し、JCメンバーが未来への一歩を踏み出すための機会を創出しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
スポーツの力委員会	委員長	小西 翼 (埼玉中央)

**基本方針**

地域や海外との連携を深め、スポーツを通じて共通の価値観や目標を共有するとともに多様な人々が力を合わせ支え合う社会の形成。



**総括**

MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会が11回目の開催となり、初めてスポーツ庁から後援をいただきました。本年のJCカップでは、一般財団法人全日本ろうあ連盟とパートナーを組み、全国初の取り組みとして全国10地区で開催された地区大会全てでデフサッカーやデフVRの体験を通じて、全国大会においてはデフサッカー体験だけでなく、手話による実況体験も行いました。また、昨年までのアジアパシフィック大会は、欧州からパリ・サンジェルマンなどを招待することで国際大会に発展しました。さらに、共生社会の実現に向けて、24時間テレビの聴覚障がいや視覚障がいがある方でも楽しむことができるバリアフリー花火企画への協力も行いました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー予選大会	全国10地区協議会にて、予選大会を開催しました。グッドルーザーの精神を養うとともにデフサッカーやデフVRの体験を通じて共生社会の実現に向けた人財育成に寄与しました。
公1	第11回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会	予選大会を勝ち上がった10チームに開催地、特別推薦を加えた全12チームにて開催しました。元サッカー日本代表でありろう者サッカー協会の会長を務める北澤豪氏などをゲストに呼び、デフサッカー体験や手話実況体験を行いました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー国際大会	パリ・サンジェルマン、ラージョ・バジェカーノを含む海外8か国8チームに全国大会優勝チームを含む国内4チームの合計12チームにて開催しました。大会だけでなく、全チーム混合でのエキシビジョンマッチや名古屋市内の観光を通じて国際交流の機会としました。
公1	スポーツを通じてお互いを理解し尊重しあう共生社会を実現する事業	JC実施会場にて、デフサッカー体験やデフVR体験、手話によるスポーツ実況体験を行い、耳が聞こえない、聞こえにくい方に関する理解を深めてもらう機会としました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
TOYP委員会	委員長	山田 泰輝 (相模原)

## 基本方針

全国各地の若き傑出した人材を発掘し発信と連携を広げ、さらに力強く革新的な運動を生み出して社会開発と社会に好循環を生み出します。



## 総括

本年度は全国の各ブロックを訪問し、407名のエントリーを集め、新設したSEED部門(20歳未満)では39名のエントリーを集めました。年当初の募集活動では、TOYP事業がまだ全国のメンバーに十分浸透していない現実を感じました。事業を進めていく中で、エントリー者の活動や思いに触れることで、同世代の若者がJC以外でも日本や地域を変えようとする強い原動力を持っていることを実感しました。その活動をより多くの人に届け、さらに力強く活躍できる環境をつくり、社会に好循環を生み出していくことの可能性を感じました。また、新設したSEED部門では、JC世代にはない革新的で時代を先取る発想を発掘・発信でき、次年度以降に繋がる成果を得られたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公2	JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEED募集計画	第39回目JCI JAPAN TOYP は、未だスポットの当たっていない可能性を秘めた若者を全国各地から発掘しました。2025年からは20歳未満の若者を対象としたSEED部門を新設し、より対象年齢を拡げることによって、より高い傑出度を持つ人材をより早い段階から発掘いたしました。
公2	JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの事業選考会開催	JCI JAPAN TOYP 2025エントリー者に対し、第一次審査会～最終選考会まで3段階の選考を公平を期した審査にて行いました。最終選考会では15人の選出と3人のSEED部門の受賞者を選考しました。
公2	JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの授賞式開催	最終選考会で選出した18名を各省庁に申請をして、各大臣などの奨励賞を受賞者に表彰する授賞式を開催いたしました。会場来場者86名、メディア掲載数17社と受賞者の活動を対内、対外に広く発信することができました。
公5	サマーコンファレンス2025「Report of JCI JAPAN TOYP～挑戦する若者の力で世界を動かす」	事業の総括及び受賞者のPRを通じて、今後の躍進に繋げるセミナーを行い、TOYP事業が豊かな未来をつくる若者を支援する取り組みであることを認識してもらいました。また、交流会も同時に開催し各LOMメンバーが交流し受賞者と地域の価値を高めることができました。
公7	JCI TOYP事業の発信・申請サポート・アドバイス	2024年度JCI JAPAN TOYP受賞者の申請をサポートし、清水映輔さんがJCI TOYPにて受賞されましたので、TOYP委員会で引率をし、世界会議のJCIアワード内で行われるJCI TOYP授賞式で受賞者をサポートし、その姿を世界に発信しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
価値デザイン委員会	委員長	東田 春彦 (加古川)

### 基本方針

地域に共感される新たな価値をもったビジネスを支援し、地域から日本を変えていくことを目指します。



### 総括

日本の経済活性化は、特定の大企業や行政の旗振りに依存するのではなく、地域で共感を得た企業が、そのビジネスによって地域を変え、日本を変えていくことにカギがあると考えています。第9回価値デザインコンテストでは、地域から共感されるビジネスを募集し、全国から381件のエントリーをいただき、厳正な審査を経て5組のファイナリストが登壇し、プレゼンテーションを実施しました。ファイナリストには、内閣総理大臣賞を含む7つの賞が授与される等、事業加速の契機となり、大きな支援に繋がったと考えております。また、来場者の皆様にとってもそれぞれの地域へ学びを持ち帰り、新たな価値創造に挑むきっかけになったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公6	第9回価値デザインコンテスト募集計画	地域から共感されるビジネスを募集し、381件のビジネスプランのエントリーが集まりました。審査項目は、「地域資源の活用」等、8項目とし、一次審査の書類選考にて、23プランに選定し、二次審査の動画選考にて、5プランをファイナリストとして選出しました。
公6	サマーコンファレンス2025「第9回価値デザインコンテスト～地域から始まる新たな価値の創造～」	5組のファイナリストによるプレゼンテーションを行い、内閣総理大臣賞を含む7つの賞を授与しました。また、楽天グループ株式会社の三木谷氏から「未来への挑戦、地域から日本、そして世界へ」というテーマで基調講演をいただきました。



# 国家グループ

## 国家グループ総括



### 国家グループ担当常任理事 仲 浩太郎 (中津)

国家グループでは、「日本の基盤強化による安全・安心な未来の創造」を基本方針に、家族で発災前の行動計画を立案するFCP(Family Continuity Plan)の推進、障害者の活躍事例「ポジ例」の発信による雇用促進、公正な経済実現に向けた規制改革会議の実施など多くの運動を展開。戦後80年の節目に、全国各地で平和共有プログラムを開催し、人気漫画「戦争めし」とのコラボや22名の学生と共にパラオ共和国でのフィールドワークを実施。平和実現に向けた議論を喚起しました。また、生成AIを活用した新しい学びの仕組み「Positive Learning Program」を全国30カ所で展開し、子どもの主体的な学びと伴走者の成長を促進。国民の政治参画意識向上のために、第三回全国高校生政策甲子園の各地区予選、決勝大会を開催し、国民投票では15,166票という反響がありました。多くの皆様に、ご理解とご協力を賜り、国家グループとしての理想を追求した1年を全うできたことを、心より感謝申し上げます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
新教育システム創造会議	議長	宮坂 有憲 (諏訪圏)

**基本方針**

子どもの好奇心を原動力に、一人ひとりにあった個別最適で協働的な学びを広げる運動を実施します。



**総括**

生成AIを活用した「Positive Learning Program」を通じて、子ども一人ひとりの興味や関心に基づく学びを地域と繋げる実践を行いました。全国のフリースクールを始めとする多くの教育機関で得た成果をもとに、地域社会が子どもの学びに関わる仕組みを政策提言として取りまとめ、行政・企業・教育現場の連携による新たな学びの体制を提案しました。また、サマーコンファレンスや全国大会フォーラムを通じて、これからの学びのあり方を全国の参加者と共有し、子どもたちの好奇心が社会を動かす時代の到来を実感しました。この運動は、地域が共に学び育つ文化を育み、未来の教育のかたちを変えていく礎となると確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公1	個別最適化された新教育システムの構築・推進	日本初となる伴走者支援に生成AIを活用した「Positive Learning Program」を全国の教育機関で実践し、子どもの興味や関心に基づく学びを地域と繋ぐ仕組みを構築・推進しました。
公1	サマーコンファレンス2025フォーラム「Re: Education System ~あなたが変われば、子どもの未来も変えられる～」	子どもたちの主体的な学びを実践する神山まるごと高専校長・五十棲浩二氏、タレントで三児の母でもある藤本美貴氏を講師に迎え、これからの学びのあり方と個別最適な教育の必要性を議論し、地域と教育の連携強化の重要性を共有しました。
公1	全国大会佐賀大会国家フォーラム「子どもの“好き”で未来を創る～今、わたしたちにできること～」	一年間PLP運動を共に実践してきた東京学芸大学教授・金子嘉宏氏、キッズニア副社長・宮本美佐氏、プロ野球選手・川崎宗則氏を講師に迎え、参加者と共にこれからの教育の新たな可能性と地域参画の未来を描くフォーラムを実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
全国大会運営会議	議長	福井 竜太 (東京)

## 基本方針

LOMや地域の規模関係なく、全国大会へ挑戦する仕組みを確立し全国大会を通じてLOMの意識変革となる大会を創造します。



## 総括

第74回全国大会佐賀大会は、「Plus Ultra ～理想の先へ～」をテーマに掲げ、2025年度運動の集大成として開催いたしました。限界を超え、理想のその先へと歩みを進める決意を新たにする機会となり、全国より約11,000名のJCメンバーにご登録いただきました。本年度は主管LOM及び開催地区協議会を含む3フォーラムを展開し、多様な学びと交流の場を提供することができました。全国大会初開催に挑戦した佐賀JCの尽力により、地方においても持続可能な全国大会のモデルを構築することができ、近年減少傾向にあった主管立候補への機運を高め、全国各地のLOMに新たな可能性と希望を示す契機となったと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公5	第74回全国大会佐賀大会	開催地域の魅力と可能性を再認識し、メンバー一人ひとりが全国大会の実施を通して、本年度の運動を継承しながら、理想の先へと、運動を加速させる機会としました。主管LOMと共に「持続可能な全国大会のモデル構築」を掲げ、地方から全国大会に挑戦することが、地域とLOMの未来を変革する起点となることを創造することができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
平和共育推進委員会	委員長	土岡 広隆 (箕面)

### 基本方針

戦後80年という節目を迎える本年、戦争の歴史や教訓を次世代に語り継ぎ、平和に寄与する人財の育成運動を国内外で実施します。



### 総括

10地区協議会と連携し、全国での平和共育プログラム、高校生大学生が参加したパラオ共和国フィールドワーク、日本JCコラボ漫画「戦争めし」の発信、国内外7か国の中学生高校生が戦争の歴史と未来の平和を議論するグローバルピースサミットを実施しました。これらの運動は社会的な注目を集め、メディアにも数多く取り上げられました。テレビ放送は3回に及び、そのうち2本は13分と7分の特集として放送され、新聞掲載は7回、Yahoo!ニュース6回、LINEニュース1回と、計17件に達しました。これらの報道は、全国各地で平和について議論するきっかけを生み出し、世代や地域を越えて平和共育の意義を伝える大きな推進力となったと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公2	戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む運動の推進	戦争の歴史を知り、対話を通じて平和に寄与する人財を育成する運動を展開しました。国内外約700名が歴史を学び語り合い、日本JC版「戦争めし」では秋田書店と漫画家魚乃目三太氏と協力し、戦時中の食に関するストーリーを中心に漫画を通じて後世に残しました。
他	京都会議セミナー「過去を知り、未来を築く、平和の礎」の実施	早稲田大学国際教養学部上杉勇司先生から、戦争の起き方や、戦争が何をもたらすのか及び対話を通じて平和を実現するために必要な考え方をお伝えしてもらい、平和共育推進委員会が1年かけて発信する運動の概要について全国の参加者にお伝えしました。
公5	サマーコンファレンス2025 サマコンフェス戦争めし体験ブース	全国の戦争の歴史と教訓を漫画「戦争めし」として残す運動の一環として、サマコンでフォーラムの実施及び実際に当時の食事を体験する機会として、80年前の台湾駐留の日本軍や現地の人々が食べていた鶏肉の照焼やおむすびを提供するキッチンカーを運営しました。
公2	戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育むフィールドワーク事業の実施	全国の高校生大学生22名がパラオ共和国ペリリュー島で80年前の戦跡を訪れ、米軍が現在再開中の飛行場を視察しました。戦争の歴史と平和への課題を学びました。これらの学びを通じて帰国後には能動的に平和のために行動できる人財として成長を遂げました。



出典元:「戦争めし」×日本青年会議所戦後80年特別コラボ企画  
ヤンチャンWeb 2025年7月18日



出典元:中京テレビ 番組名:キャッチ! 2025年9月12日



出典元:秋田放送 番組名:ABS news every 2025年9月5日

会議・委員会名	役職名	担当者名
レジリエンス強化委員会	委員長	梅村 典彦 (金沢)

## 基本方針

平時からの災害ネットワーク強化や国民の災害への意識の醸成による防災・減災大国日本の創造を実現します。



## 総括

日本JCが有する災害ネットワークの強化を行い、JVOAD、全国社会福祉協議会と平時より良好な関係性を構築し、有事の際には迅速な支援に繋げることができました。また、家族を起点とし、防災・減災意識向上を図ったFCP(Family Continuity Plan) 防災教育事業を全国18カ所で開催し、360名のご家族に参加していただきました。参加者の88%の方からFCPの必要性を感じていただき、そのうち96%の方から周りにFCPを勧めたいという回答を得られました。さらに、PRTIMESにて事業で活用した「動画で雨トレ」のリソースを起点として、10を超える媒体に取り上げられ、中には初めて日本JCの情報が掲載されたメディアもあり、FCPの必要性や認知拡大を全国に拡げることができたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	高い防災意識を持って行動できるリーダーの育成に関する事業	全国社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンターの運営支援を各地区・ブロック協議会の防災担当者が行えるよう研修会を実施しました。その後、各諸団体と連携し、災害ボランティアセンター運営に関する研修等の事業を各地で実施していただきました。
公6	有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業	今後大規模災害が起こることを想定し、防災会議や防災オープンチャットを駆使し、全国のJC内の連携を強固なものとする。さらに、各地の社会福祉協議会との連携のあり方を調査することで有事の際に迅速な活動が行える関係性の構築に取り組みしました。
公6	地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進	災害大国日本として、社会の最小単位である「家族」が災害時に迅速かつ適切に行動できるよう、事前に役割や避難基準を話し合い、共有しておく「家庭内防災計画」である、FCP(Family Continuity Plan)防災教育事業を全国にて実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
多彩な人財活躍委員会	委員長	飯塚 正好 (宇都宮)

### 基本方針

誰もが活躍できる社会が共通の価値観となるように、障がい者の活躍、子育てしやすくなる社会の実現に向け運動を実施します。



### 総括

企業の人手不足の解消と、障がい者の社会的存在感の向上を目的として、障がい者の活躍事例創出に取り組みました。その中で、これまで活躍実績のなかった企業への調査や社会実験、情報発信を通じて、法定雇用義務のない企業においても、業務委託という形で障がい者が活躍する新たな事例が確認されました。やりがいのある雇用環境創りと、企業・社会全体の好循環を目指した新たな社会モデルの構築に繋がったと確信しております。ベビーファースト運動では、宣言企業へのヒアリングや5年間にわたる活動実績の発信を行いました。2025年10月に一般社団法人ベビーファースト協会へと移管され、持続可能な支援体制が生まれる事を確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公5	多彩な人財活躍の場推進事業	企業の人手不足や福祉施設の閉鎖に対し、両者を結ぶ業務委託の仕組みを推進。新規実施や既存事例を発信し、厚生労働省など行政機関にも取り上げられるなど、企業には人財確保を、施設には安定的な運営をもたらす新たな選択肢を生み出せるよう実施しました。
公5	ベビーファースト運動の自走に向けた推進事業	ベビーファースト運動の拡大、5年間の運動の検証を実施してきました。また、6月にはベビーファーストキャンペーンとしてSNSにて600件のベビーファーストに関する投稿を実施しました。また、一般社団法人ベビーファースト協会へ移管を実施しました。
公5	サマーコンファレンス2025 「多彩な人財が織りなす未来への扉～可能性が結ぶ新しい社会～」	障がい者施設への業務委託で起こる企業の効果を運動の実事例や講師の実体験を元にお伝えしました。企業の人手不足解消や、参加者が行動を起こすきっかけにさせていただき、企業で障がい者の活躍推進が広まって欲しいという想いでセミナーを実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
主権者意識向上委員会	委員長	金本 純一（宮崎）

### 基本方針

誰もが主権者として意思表示できる機会の提供を行うことで、若者の意識変革を促し主体的に政治参画できる社会を創造します。



### 総括

第三回全国高校生政策甲子園は、若者の政治参画を促す画期的な取り組みとして全国規模で展開し、全国352チーム・1,430名が参加し、予選・決勝・国民投票を通じて高校生自身の政策提案を社会に発信することができました。15,166票を集めた国民投票は、若者や国民の政策への関心の高まりだと考えます。また、主権者意識向上カリキュラムを通じ約3,500名の主権者意識の醸成を行い、地域での主権者教育のロールモデルとなるべく運動を推進しました。サマーコンファレンス2025では高島芦屋市長らを招き、若者の主体的行動の重要性を議論し、地域と主権者教育のあり方についてのヒントを見つけるきっかけを作ることができたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公2	第三回全国高校生政策甲子園	全国高校生政策甲子園は、高校生が自ら社会課題を見つけ、政策を立案・発表する大会です。議員による審査や国民投票を通じて、若者の政治的関心と参画意識を高め、主権者意識の向上を目的として実施しました。
公4	主権者意識向上カリキュラム	主権者意識向上カリキュラムは、高校生が政治や社会の仕組みを学び、自ら考え行動する力を育む教育プログラムです。大学生講師と共に授業を行い、対話やワークを通して政治参画への関心と当事者意識を高めました。
公2	サマーコンファレンス2025 「主権者教育が変える、まちと未来～若者の声が届く社会に～」	サマーコンファレンス2025では、「主権者教育が変える、まちと未来～若者の声が届く社会に～」をテーマにセミナーを開催。トークセッションを通じ、政治に関心を持つきっかけを創出し、若者が社会の一員として主体的に行動する意識を醸成しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>公正な経済推進委員会</b>	<b>委員長</b>	<b>新美 慶太郎 (碧南)</b>

**基本方針**

JCがハブとなり行政、民間企業、市民との議論から地域を活性化させる仕組みを構築し公正な経済が行われる社会を実現します。



**総括**

国が推奨するPFI事業やライドシェアの導入について、全国3都市及び上田市で意見交換会を開催し、行政・企業・市民が対話する場を創出しました。PFI事業では、行政が市民への理解促進を図り、京都市では事業前の公園整備に市民の声を反映する成果を得ました。これらを踏まえ、意見交換会の重要性を全国54自治体にPRし、導入の検討が進められています。また、上田市での地方版規制改革推進会議では、地方から国に自発的に声を上げる意義を共有し、内閣府へ提言を行いました。地域の実情に即した公正な経済の実現には、行政任せではなく、地方が主体となり、企業・市民と共に創る仕組みが不可欠であると感じました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する事業	名古屋市、広島市、高槻市、京都市の4都市において、行政・企業・子育て世代の市民の皆様と共に、身近な公園をテーマに意見交換会を実施しました。互いの思いや目的を率直に伝え合うことで認識の齟齬が解消され、自発的な行動を生み出すきっかけとなりました。
公5	規制改革・緩和・強化について議論する事業	地域の交通課題の解決に向け、国が推奨するライドシェアの導入について議論する地方版規制改革推進会議を開催しました。行政・企業・市民それぞれが規制改革への意識を高めることで、街の課題解決に向け自発的に声が上がるとともに、地方版規制改革推進会議を進めました。
公5	サマーコンファレンス2025「CHANGE THE WAY OF THINKING～日本の明るい未来のために～」	当委員会の成果を発表することにより三方間での対話の重要性、発信側と受信側には多くの齟齬があるということを理解していただき、JCがハブとなり行政、民間企業、市民を繋ぎ三方間の議論から地域を活性化させる手法を持ち帰っていただきました。



# 組織グループ

## 組織グループ総括



### 組織グループ担当常任理事 森谷 圭 (神戸)

組織グループは「家族・会社・地域のためにと誇れる組織への改革」を基本方針に、LOM支援の強化と総合連絡調整機関としての機能拡充に取り組み、日本JCの使命を体現しながら組織の活性を力強く牽引しました。協議会と連携し、全国から相談できる体制を整備するとともに、2,700件を超える伴走支援を実施しました。「ONE IMPACT SEMINAR」は全国で70件以上開催され、AWARDS JAPAN 2025やJCI AWARDSを通じて、全国から世界へと運動発信を加速させました。会員数10名以下のLOMには個別最適支援を展開し、運動構築支援や人的支援を強化するとともに、会員拡大では300件超の支援と各種セミナーを実施し、拡大基盤の整備を推進しました。人財育成では400件以上のJCプログラムに加え、ブロックアカデミーやリーダーズアカデミーを通じて、全国の次代を担うリーダー育成に寄与しました。最後に、1年を通して多くの皆様に、ご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

会議・委員会名	役職名	担当者名
総合連絡調整会議	議長	芳田 真史 (水口)

### 基本方針

日本JCが協議会と連携し、情報共有を円滑化してLOMが社会開発運動を展開できる体制を確立する。



### 総括

日本JCの総合連絡調整機関として、各種大会でLOMの課題解決を目的とした相談会を開催し、京都会議およびサマーコンファレンスでは「家族・会社・地域に誇れる組織」をテーマとしたフォーラムを展開しました。さらに、日常的な問い合わせ体制の整備や協議会との定期ミーティング、代表者が集う連絡調整会議(レンチョウ)の実施を通じて、全国から安定的に相談が寄せられる仕組みを構築。これらの取り組みにより、総合連絡調整機関としての機能を飛躍的に強化し、LOMが地域社会の課題解決に向けた運動を力強く展開できる体制づくりに貢献しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進	本会・協議会・LOMを強固に結ぶ体制を築き、現場の声に基づく迅速かつ実効的な支援を実現。課題をつなぎ、動かし、解決へ導く連携基盤を確立しました。
他	2025年度京都会議LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置	京都会議で相談窓口を設置し、各委員会がLOMの課題に直接向き合う体制を構築。全国を繋ぐ支援の第一歩を力強く踏み出しました。
他	2025年度京都会議組織フォーラム「運動哲学3つのヒント～家族・会社・地域のために誇れる組織へ～」	家族・会社・地域をより良くする誇れる組織を目指し、直前会頭と直前理事長による鼎談を開催。実践事例を通じて学びと気づきを促し、行動変容へ導く意識改革の場となりました。
公2	サマーコンファレンス2025「TEAMで成果を勝ちとれ!!～でもなんで組織ってこんななんなん??(´Д`)～」	JC運動を通じて、家族・会社・地域が誇りに思える存在となり、社会開発運動へと繋がるよう、組織の在り方を全メンバーで見つめ直すフォーラムを開催。意識を刷新し、未来への一歩を踏み出す契機としました。
他	サマーコンファレンス2025「LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置」	サマーコンファレンスで各会議・委員会の相談ブースを設置し、出張聞き取りで来場を促進。支援メニューを周知し、カフェスペースを設けて気軽に相談できる環境を整えました。
他	第74回全国大会佐賀大会 全国大会組織相談窓口+引き継ぎ式～2025年と2026年との融合～	全国大会では、相談会で「未来ビジョンシート」を活用し、次年度への展望を共有しました。引継ぎ式では「引継ぎ書」を用いて、想いと経験を確実に受け渡す場を創出しました。
他	第74回全国大会佐賀大会「次年度協議会役員予定者セミナー」	全国大会にて協議会の機能を高めるために次年度協議会役員セミナーを開催いたしました。協議会の役割及び各役員の職責と役割について現役の協議会役員の経験談をもとに説明し次年度協議会役員の意識向上に繋がりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
運動構築支援委員会	委員長	杉本 康 (流山)

## 基本方針

日本全国、そして世界中で展開されてきた質の高い運動を共有し、地域の社会開発に繋がる全体最適化された運動を実現する支援をする。



### 総括

運動構築支援委員会は、本年度、全国各地の青年会議所が展開する質の高い運動を共有・体系化し、地域の社会開発へと繋げるための基盤づくりを行ってまいりました。「ONE IMPACT SEMINAR」では実践的な運動構築手法を伝え、「まずはプラット」を通じて全国の好事例を可視化。「AWARDS JAPAN」では地域発の運動を全国へ広げる架け橋を築きました。理想を語る未来ではなく、行動によって創る現実を目指し、全国の仲間と共に全体最適の運動展開を推進しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする事業	ONE IMPACT SEMINARでは、各地の青年会議所が抱える地域課題に焦点を当て、実践的な運動構築の手法を共有。参加者が自らの地域で再現・展開できるよう支援し、全国の運動の質と持続性を高めました。
他	AWARDS JAPAN 募集・選考会	AWARDS JAPANの募集・選考会では、全国各地のLOMから優れた運動事例を募集し、審査を通じて社会的インパクトの高い事業を選定。成果を共有し、全国の運動の質向上と展開促進を図りました。
他	AWARDS JAPAN 受賞事業のロールモデルの確立・普及	2024年度の褒賞事業から、全国各地の優れた運動を地域共創会議と連携し広く発信。地域の垣根を越えた共有と学び合いを促進し、全国的な運動の波及と連携強化を図りました。
他	外部アワードの調査・研究・応募支援	外部アワードへの挑戦を促進するため、各種褒賞制度の調査・研究を行い、応募支援を実施。LOMの優れた運動が全国へ発信されるよう体制を整備し、挑戦の機会を拡充しました。
他	まずプラットを活用した支援の推進	オウンドメディア「まずはプラット」を活用し、全国の運動情報を発信・共有。各LOMが他地域の事例を学び合い、実践に活かせる支援体制を整えることで、運動構築の推進を図りました。
他	AWARDS JAPAN2025 募集審査基準並びに審査実施	AWARDS JAPAN2025において、全国各地の優れた運動を公平かつ透明性の高い基準で審査するため、募集要項および審査基準を策定し、エントリー受付から審査会実施までを統括・運営しました。
他	JCI AWARDS2025 獲得推進事業	JCI AWARDS獲得を目指し、エントリーに必要な知識や実践的ノウハウを共有するセミナーを企画・実施。各LOMの挑戦を後押しし、世界へ発信できる運動構築力の向上を図りました。
他	JCI AWARDS申請日程及びカテゴリー報告	JCI AWARDSへの効果的な申請を実現するため、各カテゴリーのエントリー日程を整理・共有し、応募対象事業の選定や準備状況をご報告いたしました。各LOMの円滑な国際申請を支援し、受賞機会の最大化を図りました。
他	JCI ASPAC 2025ウランバトル大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本青年会議所からの選出推薦	JCI ASPAC 2025ウランバトル大会における「JCI AWARDSジャッジ」として、日本青年会議所より推薦を受け、国際的な審査基準に基づき公平かつ中立な立場で審査を行うための選出を実施いたしました。
他	第74回全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」	第74回全国大会佐賀大会にて開催された「AWARDS JAPAN 2025」では、全国各地の優れた運動を表彰し、ロールモデルの確立と共有を目的に、募集・選考・表彰式を通じて運動の価値を広く発信しました。
他	JCI 世界会議 2025ジュニス大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本青年会議所からの選出推薦	JCI世界会議2025ジュニス大会における「JCI AWARDSジャッジ」として、日本青年会議所より推薦を受け、国際基準に基づいた公平かつ中立な審査を行うための選出を実施いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
LOM開発委員会	委員長	船津 和弥 (佐賀)

### 基本方針

協議会と連携したLOM開発及び支援の実施を行うことで、LOMが自走する組織体制を確立する。



### 総括

全国の10名以下のLOMを対象に、LOMが抱える様々な課題を抽出し協議会と連携しながら支援に入りました。会員拡大やメンバー育成、事業資金調達支援や例会の企画から運営支援など、その支援は多岐に渡りました。また、サマーコンファレンス2025では人数が少ないLOMでも街に根付いた運動の展開が可能となる、行政・JC・教育機関との連携による地域活性化セミナーの実施を行いました。LOM支援を行ううえで常に心掛けていた「顔が見える関係性」を重要視し、信頼関係を構築することで組織グループが有する支援スキームを活用し、組織グループとして一体感を持って支援に入ることができ、LOMが考える理想像へ近づけることに寄与しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	協議会と連携したLOM開発状況の管理推進	全国の10名以下のLOMを対象に、会員拡大、事業資金調達、メンバー育成、例会や事業の構築及び実施支援など、LOMの課題に合わせた支援を協議会と連携しながら支援を行うことでLOMが自走する未来を創ることをめざしました。
他	サマーコンファレンス2025「地域活性化の鍵とは? ~行政・JC・教育機関の連携戦略~	大小関わらず全国のLOMへJCが連携するべき団体がどこなのか、会員減少が進む昨今、人材不足による事業資金不足や事業実施が困難であるなど、連携が生み出す可能性を示すセミナーを実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
会員拡大委員会	委員長	上田 創大 (天理)

### 基本方針

運動と人財に共感を集め、自然と人が集まる拡大の推進。



### 総括

会員拡大委員会は「会員拡大が最大の運動である」を掲げ、単なる数の増加ではなく、LOMが共感を集める運動へ昇華させるための組織変革を支援してまいりました。LOMやブロック協議会の皆様と伴走し、進捗管理や目標設定などのパーソナルサポートを実施。各地で「次に何をすべきか」が自然と見える状態をつくり、拡大活動を後押ししました。サマーコンファレンスではリーダー育成委員会との連携により、拡大と育成の両面で学びを得ることができました。この一年を通じて、運動と人財に共感が集まり、人が自然と集う組織づくりの芽が各地で育まれています。私たちの挑戦は、拡大の先にある「共感の連鎖」を生み出す未来へと続いています。

事業区分	事業名	事業内容
他	会員拡大講演	理念共感拡大グランドデザインの最終年として、運動とそれを担う人財への共感を軸に拡大戦略を提案。講演では「会員拡大こそ最大の運動」と位置づけ、自身の経験や他LOMの成功事例を交え、運動を通じた拡大の意義を発信しました。
他	拡大アベンジャーズ派遣	各地区出向者を「拡大アベンジャーズ」として編成し、メンバーの得意分野に基づく拡大支援手法をリスト化・分類してブロック協議会へ配布。支援の可視化とニーズの的確なマッチングを実現する新たな支援スキームを構築しました。
他	Webセミナー	Web活用による3種のセミナーを新たに企画・実施。各協議会・LOMとの事前ヒアリングで明らかになった「入会説明不足による早期退会」「候補者への伝え方の不安」「クロージング・リストアップのノウハウ不足」「定着率低下による純増停滞」といった課題に対応しました。
公2	サマーコンファレンス2025「～Unlearn & Rebuild 組織を変える新しい常識～」	リーダー育成委員会と一緒に事業を構築し連携することより、組織グループとして拡大とリーダーの育成の両面で学びを得ることができました。委員会間の協働により、育成されたリーダーが拡大活動を牽引する好循環が生まれる講演を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
組織デザイン委員会	委員長	北島 善夫 (札幌)

### 基本方針

会員全員が組織の掲げる理念に共感し、多様な個性が受け入れられる組織運営を通じ、青年会議所が社会からより求められる存在になる。



### 総括

本年度のJCセミナーは、各地区・ブロック協議会、そして各LOMが抱える課題に応じて柔軟に調整可能な形で開催され、日本青年会議所役員経験者が講師を務め、出向経験を通じて培われた知見を共有いたしました。実施後のアンケートでは、「今後の活動に活用できる」「組織運営に生かせる」といった前向きな意見が多数寄せられ、協議会やLOMにとって有益な学びの場であることが確認されました。参加者にとっても実践的な知見を得られる貴重な機会となり、会員育成へと直結する効果を生み出すことができました。また、中期運動方針につきましては、全てのメンバーが当事者意識を持ち、多様な手法を取り入れて行動に移すための方針として、日本青年会議所の普遍的な羅針盤となるよう策定いたしました。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCセミナー	各地区、ブロック協議会や、各LOMが抱える課題に応じて柔軟に内容を調整できるセミナーとして、日本JC役員経験者が講師を務め、出向経験を通じて得られた知見を活かし、会員育成のセミナーとして開催しました。
他	理念共感プロモーター	理念共感プロモーター活動支援については、資質向上を目指し、研修会を通じて交流を促し、今後の活動に生かされる関係値の構築とともに、会員拡大や退会者を減らす運動を行っていただきました。
他	サマーコンファレンス2025 「組織戦略RPG～組織レベルアップへの道標～」	参加者が興味を持ちつつ主体的に学べるよう、導入から終盤までの構成や演出に工夫を凝らし、RPG風のセミナーを開催しました。参加者の理解を超え、行動と意志を育む仕掛けとして機能し、全国各地での運動の躍進から中期運動方針の展開へ第一歩を築きました。
他	中期運動方針	各地青年会議所の総合連絡調整機関としての役割を最大限に果たすべく、日本青年会議所としてどのような方向性をもつべきかを検討し、この国家、各地青年会議所、そしてメンバーの利益増進に資することを目的として策定しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
JCプログラム委員会	委員長	中野 圭 (大船渡)

## 基本方針

メンバーが同じ価値観をもって能力開発できるプログラムを提供し運動構築ができる人財を育成することで組織基盤強化を図ります。



## 総括

当委員会ではトレーナー育成とプログラム推進実施の2本柱で運動を展開してきました。トレーナー育成においてはトレーナートレーニング(通称トトレレ)を全国24箇所で開催し、ヘッドトレーナーは目標を上回るのべ50名ほどの輩出を行いました。プログラム実施においても目標の400件を上回る419件を実施しました。京都会議ではJCIの新プログラムであるJCI Adventureを日本最速体験版として実施し公認プログラムとして導入を果たし、サマコンではトレーナーとはなんたるかをパネルディスカッション形式で発信しました。継続実施されてきたプログラムだからこそ、その目的に真摯に向き合ってきたことでメンバーに多くの学びを届けることができたと感じています。

事業区分	事業名	事業内容
他	JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進	JCプログラムにおけるヘッドトレーナー育成を推進し、体系的な育成体制の確立を図りました。既存のヘッドトレーナーと連携し、全国各地でトトレレが実施できる環境の整備と、トレーナーを志すメンバーがステップアップできるよう支援を行いました。
他	JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施	JCの理念とJCでの活動に必要な基礎知識を体系的に学ぶことができるJCプログラムを全国で導入、推進いたしました。日本JCとして特に注力するプログラムを選定し、各地区、ブロック協議会等と連携を取ってJCプログラムの展開を年間400件以上行いました。
他	2025年度京都会議「日本上陸!新プログラム『JCI Adventure』最速体験版」	2024年度世界会議にて公開されたJCIの新3コースである「JCI Adventure」の国内導入に先駆け体験版を実施しました。実施後には参加者にて振り返りを行い、ブラッシュアップに繋がりました。本コースへの理解をいただき、また参画意識を育む機会となりました。
他	サマーコンファレンス2025「トレーナーという生き方～受け継ごう、プロフェSSIONALの矜持～」	ヘッドトレーナー2名と、トレーナーを志すブロック会長1名のディスカッションを通じ、なぜトレーナー活動を行うのか、何をもちたらずのか理解を深めました。その後、トレーナー志望者同士の繋がりを作るために、グループディスカッションを行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
リーダー育成委員会	委員長	柳澤 幸佑 (名古屋)

**基本方針**

家族・会社・地域のために誇れる組織へ導き運動を興すことのできるリーダーが全国で活躍することにより、明るい豊かな社会を実現。



**総括**

リーダー育成委員会では、主に3つの事業を行いました。まず、歴の浅いメンバーがリーダーとして必要な知識や能力を身につけることを目的とし、全国48ブロック協議会のアカデミー事業のサポートを実施しました。また、講師に副会頭経験者、次年度の役職者予定者を対象とし、高度なリーダーシップスキルや視野を持った人財の育成を目的としたLeader's Academy事業を各地区協議会で開催しました。さらに、サマーコンファレンス2025において、光田侑司先輩と外口真大会頭をゲストにお迎えし、「~Unlearn & Rebuild 組織を変える新しい常識~」というテーマでフォーラムを開催し、これからのリーダー像及び組織像について豊富な経験を交えて対談していただきました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援	ブロックアカデミー事業の要件として、選択プログラムの実施、ブロック協議会での独自事業の開催及びJCセミナーの開催の3つを設定しました。各ブロック協議会はそれに沿ってそれぞれの課題に合わせ、また独自色も出したアカデミーを構築しました。
他	Leader's Academyの企画・実施	当事業によりJCのアイデンティティや運動の本質に関する高位の概念と、組織運営に必要な能力を、経験豊富な先輩・顧問から包括的に学ぶことができました。最終的には、全10地区中7地区にて開催することができ、延べ参加者数450名を動員しました。
公2	サマーコンファレンス2025「~Unlearn & Rebuild 組織を変える新しい常識~」	参加者には円滑な組織運営をするためのリーダーの思考方法、魅力的な組織づくり及び持続的な拡大に繋がる組織づくりの手法を学んでいただきました。参加者の属性は理事長や理事長経験者等のキーパーソン層の割合が高く、当日の参加者数は500名を超えました。



# 総務グループ

## 総務グループ総括



### 総務グループ担当常任理事 佐野 友亮 (八千代)

総務グループは、基本方針である「ブランドマネジメントと組織運営の強化によるJC運動の最大化」を根幹に据え、JC運動の最大化を目指し体制づくりに努めました。対外に対するブランド価値の統一と対内メンバーへの発信力の向上を目的に、各種公式媒体やツールの整理・統一を図り、特定の人間に頼らない誰もが実行できるメディアとの連携や手法を見出すことができたと考えています。そして健全な財政基盤の確立を目的として、賛助企業を増やしながら、様々な契約の見直しを図り実行する事が出来ました。また、ガバナンスの強化と効率的な会議運営を推進し、時代に合った形の財政管理や規則整備に努めました。そして、JC会館の建て替え事業においては、4月に解

体に着手し2025年度中に解体を完了させ、2026年1月には新築工事着工、2027年4月には新しいJCビルが竣工予定となっており、その大きな1歩を踏み出すことができた濃密な1年で有ったと考えています。これらの取組により、JC運動の効果的な推進と組織基盤の安定的成長を両立させ、ブランド価値の最大化に繋がる一年となったと考えています。1年間、様々な面でご支援ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。

会議・委員会名	役職名	担当者名
JCブランドマネジメント会議	議長	長鋪 毅輔 (福山)

**基本方針**

日本JCが展開している運動、事業を調査し、世間の関心ごとに紐づけた年間広報計画を立案し、日本JCの運動の効果を最大化するブランド戦略を構築します。



**総括**

日本JCが展開する運動や事業の効果を最大化するため、SNS、プレスリリース、メディアリレーションなど多面的な広報活動を展開しました。年間広報計画の策定と実行により、社会的関心の高いテーマに即した情報発信を推進しました。PR TIMESを活用した配信拡充によりメディア掲載件数が増加し、SNS運用改善では視聴者数とPV数が大幅に向上しました。さらに、JCブランド戦略会議や広報幹事研修の実施、HP構成の改良、外部アドバイザーの助言により、広報活動全体の質と信頼性が高まりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	広報審査会議の開催	毎月、月中正副会頭会議後に広報審査会議を開催し、事業に関する情報発信内容・スケジュールを精査し、適切な広報計画の立案のサポートを行いました。
他	JC運動を最大化するためのHP・SNS等を活用した情報発信	諸大会、事業の事前告知から事後広報まで策定した広報スケジュールに則り、タイムリーで正確な情報発信に努めました。
他	社会トレンド・メディアニーズに即した広報	社会的関心の高いテーマと各種事業との親和性を踏まえて年間広報計画を策定し、事業計画段階からメディアとの連携方法を検討し、社会的関心の高いテーマを織り交ぜることで、メディアのニーズに即した効果的な広報を展開しました。
他	JCブランド戦略会議の開催	各会議体や委員会の広報活動に対して方針を示し、具体的な助言を行うことを目的として、議長・委員長を対象に「JCブランド戦略会議」を実施しました。会議では、ブランドマネジメントの共有、JCブランドのあり方、事業後の事後広報、諸大会における効果的な情報発信など、多岐にわたるテーマを議題として取り扱いました。
他	広報幹事研修の開催	広報幹事および広報担当者を対象に、ブランド戦略を学ぶための研修を実施しました。研修では、日本JCにおける広報発信の基本フローを確認するとともに、「自分が伝えたいことを中心に発信するのではなく、事業の社会的意義や構築プロセスを発信することで、視聴者に共感を得ることが重要である」という観点を共有しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
財務運営会議	議長	有馬 光彦 (横浜)

## 基本方針

社会開発運動への理解と賛同を得て賛助企業を選定し、外部資金や付帯収益を活用して持続的かつ安定した財政基盤を確立します。



## 総括

本年度は、基本計画に掲げた目標の達成に向け、賛助企業との連携及び新規賛助企業の獲得、クラウドファンディングの推進、付帯収益の管理、青年会議所会館建て替えに伴う移転先事務所の管理・運用を重点的に行いました。また、賛助企業との契約内容見直し、JCグッズ必携品製造販売における協力企業の移行、LOM版議案システムの販売に関する覚書の締結を行い、中長期戦略では機関紙の電子版にむけた各種DX化を提言しました。

また、クラウドファンディングではCAMPFIREと連携し5件のプロジェクトから500万円以上の寄付を獲得しました。

事業区分	事業名	事業内容
収2	日本JCの財政基盤の強化及び新規賛助企業の拡大	賛助企業プランの見直しや付帯収益の継続的な管理を行いました。また、新規賛助企業を4件獲得しました。
他	賛助企業との連携強化・関係向上	賛助企業15社と定期的な打ち合わせを行い、協議会への協賛金の獲得、業種別部会との連携を行いました。
他	賛助企業の諸大会・事業におけるブースの設営・対応・推進	京都會議、サマーコンファレンス、全国大会開催時に賛助企業と相互メリットを検討の上、ブース出展、チラシの配布、フォーラムや式典でCM放送を実施し、賛助企業の周知を行いました。
他	日本JCの財政基盤を強化するための中長期戦略の策定	財源の状況を報告するとともに機関紙の電子版にむけた各種DX化、公益社団法人取得後の法人格についての検証について調査研究しました。
収1	青年会議所会館及び移転先事務所の管理・運用	青年会議所建て替えに伴い、旧青年会議所会館の解体に向けた各契約の解約及び移転先事務所の管理を適切に行いました。
他	各LOMの財政基盤強化のための賛助企業の紹介、協賛金の獲得支援窓口	各LOMからの協賛企業獲得に向けた問い合わせや手法に関する質問などに対応させていただきました。
他	助成金、補助金に関する調査・研究	CAMPFIREとの連携を実施し、2025年度は5件のプロジェクトが登録され500万円以上の寄付をいただきました。
収2	必携品作成にあたる賛助企業の調査・連携・検証	株式会社和光とのJCグッズ必携品製造販売終了に伴い、新規協力企業である株式会社T'S LINKと「使用許諾等契約書」を締結しました。
他	相互メリットのある企業や団体とのマッチング・連携	日本JCとして、相互メリットのある企業や団体を検討し、連携を構築しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
財政審査会議	議長	大柳 賢祐 (下妻)

基本方針

予算・決算審査と会計指導を徹底し、財務の健全化と事業の公益性を確保することで、組織の持続的発展に貢献します。



総括

財政審査会議として、各会議、委員会、各協議会の事業がその目的を達成できるよう、予算及び決算の厳正な審査を行いました。特に、事業における費用対効果について厳正なる審査会議を行うことで、会計の透明化と効果の最大化を図りました。また、審査会前の小会議における事前協議を重要視し、副議長をはじめとするメンバーの視点を共有することで、小会議における一人ひとりの学びと成長に繋がるよう努めました。最終審査機関として、また、各会議・委員会の応援団として、日本青年会議所の運動価値が最大化され、かつ、組織の持続的発展に貢献できるよう、一年間サポートしてまいりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	諸事業の予算・決算及び公益目的の審査	各会議・委員会で予算・決算の厳正な審査を毎月実施し、費用対効果を検証して会計の透明化と効果最大化を図りました。さらに事業の公益目的比率の追及を行いました。
他	会議・委員会会計の指導・支援	各会議、委員会が出向者から集める会議、委員会会計について、適正な運営、使用、処理がされているか確認し、各会議、委員会が適切かつ効果的な運動を実現できるよう、指導、支援を行いました。
他	各協議会事業の予算・決算審査及び 月次決算の指導・支援	協議会事業について、定期的に予算および決算の支援・指導を実施し、費用対効果の向上を図りました。また、地区大会およびブロック大会においては、適切な予算編成を行うため、会計担当者および担当VCへのヒアリングを実施し、運用支援を行いました。
他	監事・内部会計監査人グループとの連携・調整	日本JCの財務面での健全化と事業の公益性、費用対効果を担保するために、監事や内部会計監査人グループとの連携を強めることで、監査結果の精度を高めました。
他	各協議会事業の公益目的に関する指導・支援	各協議会が事業を公益目的に沿って実施しているか、また公益性を有しているかを確認するため、各協議会を通じて公益事業比率の確認を行いました。年度中間、年度末には確認・指導を実施し、公益目的比率50%以上を達成することができました。
他	組織運営による組織の生産性向上に資する会計マニュアルの精査	日本JCの会計マニュアルに関して、JC運動の生産性の向上のために、変更や簡略化すべき部分がないかを精査し、運営の生産性向上のための提案を行いました。
他	各LOMからの会計に関する相談窓口	各LOMの会計健全化を図るため、財政審査会議メンバーやVCが随時相談に応じ助言指導を行いました。さらにLINE公式アカウントを開設し、各地区・ブロック協議会からの個別相談に対応しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
規則審査会議	議長	北村 真一（茨木）

## 基本方針

組織全体のコンプライアンス意識を高めつつ、規則を守りながらも委縮することなく、運動を最大化できる組織を実現する。



### 総括

本年度は、例年通り審査会議でのコンプライアンスチェックを通じて事業構築におけるコンプライアンス確保に取り組んだ上で、公益社団法人から一般社団法人への移行を検討しているLOMをサポートするために諸規定の改正や総合連絡調整会議と連携してのセミナーも年間を通じて4回行いました。さらに、長年の課題であった電子領収書の発行を可能とする諸規定の改正及び電子押印を可能とする諸規定の改正も実現することができ、大会登録や契約実務のDX化を大きく前進させることができました。また、公益法人法改正に伴う外部理事・外部監事の導入のための定款・諸規定の変更も行い、より充実したコンプライアンス体制を構築することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	規則審査会議の開催	基本的に月中正副後に規則審査会議を開催し、全ての上程議案に対してコンプライアンスチェックを行いました。またコンプライアンスチェックの基準となるコンプライアンスマニュアルのブラッシュアップを行いました。
他	公益社団法人としての定款及び規則の管理	本年度は、外部理事・外部監事の導入、電子押印、電子領収書の導入、公益法人の一般社団法人への移行時の認証番号引継ぎ、協議会の付加金変更について定款・諸規則の整備を行いました。
他	コンプライアンスに関する相談窓口	京都會議での財政審査会議との合同相談会開催を皮切りに、グループLINEでの24時間体制での相談体制を確立し、本会各グループや協議会の規則担当者からの相談に答え続けました。
他	LOMの法人格移行に関する支援業務	公益社団法人から一般社団法人への移行を検討するLOMに対して総合連絡調整会議と連携してWEBセミナーを4度開催し、延べ100名以上の参加者がありました。
他	大会登録・契約実務のDX化のための諸規定の整備	諸大会登録時に発行する特別領収書を電子領収書とすることを可能とするための諸規則変更や契約実務において電子押印を可能とするための諸規則の整備を行い、DX化を大きく前進させることに成功しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
対内ブランドマネジメント委員会	委員長	播磨 一夫 (名古屋)

基本方針

使命感と多様性を軸に、全国の会員がJCの存在意義を再認識し、共感と誇りを持って活動できる対内ブランディングを推進します。



総括

本年度は「未来×使命感×多彩」を軸に、対内ブランディングの確立を目指しました。機関誌『We Believe』を中心に、デジタル発信『WeBelieve+ Online』『WeBelieve+ Voice』を展開し、会員の使命感と多様な活動を全国へ発信しました。紙・音声・映像を連動させながら、新たな対内広報の形を模索し、会員の共感と誇りを高めることができました。また、取材・編集・配信の標準化や引継ぎ体制の整備にも注力し、次年度以降に活かせる基盤づくりを進めました。

事業区分	事業名	事業内容
収3	機関誌We Believeの作成・発行・管理	機関誌「We Believe」を通じ、会員一人ひとりが未来へのビジョンを描き、使命感を育み、多彩な可能性を発揮できるよう対内ブランディングを推進し、年6回の発行を行いました。
収3	JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画	対内広報活動を通じて、メンバーが他LOMの活動を知り、JCの原点、ひいては活動の本来の魅力を理解することで、自らの活動への誇りを持ち、運動の質の向上と組織としての強化を図るため、We Believe+ Voiceとして音声コンテンツを5本、We Believe+ Onlineを6本、また各会議体・委員会に対し撮影した活動記録を共有致しました。
他	広報幹事研修の開催	広報担当者を対象に、広報活動の意義と実践力の向上を目的とした研修を実施しました。本研修では、日本青年会議所における公式配信で推奨される写真撮影の方法や注意点を共有し、統一感のある高品質な広報発信を行うための意識醸成とスキル向上を図りました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
新JCビル建設準備委員会	委員長	西尾 正喜 (大野)

## 基本方針

新JCビル建設を円滑に推進し、資金計画と連携体制を整備して竣工を実現する。



## 総括

本年度は、新JCビル建設に向け、本体工事契約および解体工事契約を無事に締結し、5月より解体工事を着工することができました。関係各所との協議を重ねた結果、年内には解体工事が完了する見込みとなり、次年度に向けた建設準備の大きな節目を迎えることができました。本事業を通じて培われた調整力と信頼関係を次年度に確実に引き継ぎ、全国の仲間が集う新たな拠点の実現に向けて、組織としての基盤を整える一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	建設準備定例会議	建設会社との定例協議を継続し、基本設計と内装仕様の最終調整を実施。2026年1月の着工に向け準備を進めました。
他	3大大会における募金活動	1月の京都会議、7月のサマーコンファレンス2025、10月の全国大会佐賀大会にて募金活動を実施し、多くの会員から建設支援金の協力を得ました。
他	日本JC事務局の移転	新JCビルの完成に伴い、日本JC事務局の移転計画を策定するとともに、什器・通信設備等の整備および事務局の移転を実施しました。
他	解体工事・新築建築・設計契約の締結	解体工事および新築建築・設計に関する各契約を締結し、関係業者との工程調整を実施しました。
他	青年会議所会館建替記念式典	青年会議所会館建替事業の節目として記念式典を開催し、歴代会頭・副会頭・専務理事ならびに建替えに貢献した歴代議長・委員長を招き、事業の進捗と今後の予定を報告しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
渉外委員会	委員長	大川 翔 (東京)

**基本方針**

日本JCの役員の職務が円滑に遂行されるよう会議・委員会・協議会との綿密な連携と意思疎通が可能な体制を構築する。



**総括**

本年度は、会頭および役員が各種会議・委員会・協議会、さらには各地LOMや関係団体と密接に連携できるよう、全般的な調整・支援体制を強化しました。具体的には、会議・大会・訪問等における役員の日程調整や移動・宿泊手配、事前準備を徹底し、円滑な運営を実現しました。また、会頭・役員が国際大会や各種大会において職務を遂行できるよう、必要情報の迅速な提供や現地調整を行い、円滑な意思決定と効果的な運動発信を支援しました。さらに、全国青年友好団体である日本商工会議所青年部、全国商工会青年部連合会、全国中小企業団体中央会との間で、トップ会議に向けた連絡・調整を実施し、青年経済人同士の連携強化にも寄与しました。これらの取り組みを通じて、会頭・役員が全国的かつ国際的な視点で円滑に展開される体制を確立し、組織全体としての発信力と連携力を一層高めることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	各会議・委員会・協議会との連絡・連携・調整	会頭や役員が各会議、委員会、協議会、そして各LOMと密接に連携できるように役員のスケジュールや大会参加の準備を整え、各LOMや他団体との連絡や調整を行いました。
他	会頭並びに役員の国際大会・諸大会参加の支援・協働	会頭や役員が諸大会で職務を滞りなく遂行するために、大会開催のタイミングに合わせ、会頭並びに役員に必要な情報を迅速に提供し、会頭や役員が適切な判断を下せる環境を整えました。
他	会頭並びに役員の各地訪問における運動発信の支援・協働	会頭や役員の訪問スケジュールや移動手配、宿泊先の手配など、具体的な運営面の調整をし、訪問先の各LOMと連携し、会頭・役員がスムーズに進行できるよう事前準備をしました。
他	会頭並びに役員の各協議会・LOM訪問及び講師派遣の対応	会頭や役員の訪問スケジュールや移動手配、宿泊先の手配など、具体的な運営面の調整をし、訪問先の各協議会・LOMと連携し、会頭・役員がスムーズに進行できるよう事前準備をしました。
他	全国青年友好団体3団体との連絡調整	日本商工会議所青年部、全国商工会青年部連合会、全国中小企業団体中央会に対してトップ会議にむけた連絡調整を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
総務委員会	委員長	前田 健之輔 (つくし)

## 基本方針

日本JCの運動の根幹である諸会議を明確なルールのもと運営し、共通の会議の価値観を日本中に伝播し、JC運動の効果を最大化させる。



### 総括

日本JCの運動の根幹である会議によって、運動を最大限に高められるよう日々効率的運営業務に取り組んできました。ルール等を策定することで、効率的で実りのある会議を運営し、また京都会議では多くのメンバーに理想を掲げ挑戦する機会を作りました。総会においても、議決権行使書と配布資料の電子化を継続して行いました。青年会議所会館の建替に伴い、昨年と比較して会議運営に関して条件が異なる場合がありますが、確認資料の電子配布等、内容に応じて紙と電子資料の使い分けを行い、会議場所の条件によらない運営を進めました。しかしながら、青年会議所会館建替の期間中のみならず、今後も効率的な会議運営手法を編み出し続ける必要があると考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	日本JCの総会及び諸会議の設営	3回総会を開催し、昨年同様議決権行使の電子化を推進いたしました。また、諸会議において、上程スケジュールの徹底やマクロを活用した議案精査、WEBを用いた会議の併用等効率的な運営を行いました。
他	各会議・委員会の議案の上程期限と内容の精査	グループごとに担当副委員長を配置し、連絡系統や上程管理、議案精査を一貫して行いました。また、チェック機能を有したマクロを各グループに配布しさらなる精度向上を図り、生成AIの活用にも取り組みました。
他	統一基本運営マニュアルの内容精査・改訂	各会議委員会及び各協議会が適切な運営を遂行するために、会計、コンプライアンス、広報、上程等のルールについて精査、更新を行い、製本配布いたしました。
他	次年度に向けたスタートアップセッション等各種セミナーの企画・実施。	本年度中に2026年度総務委員会と連携を行い、次年度理事長予定者・専務理事予定者に向けて加藤次年度会頭予定者の挨拶から始まり、2026年度各グループの運動方針を全国に伝播しました。
公5	理想を描き2025年度をスタートさせる京都会議の開催	「Raise Your Flag」のテーマのもと2025年度京都会議は運動方針の発信に留まらず、総会、新年式典、各種フォーラムを運営し変えたのだと誇れる未来に向けて、1年間の運動の方向性を理解し、理想を掲げ挑戦しなければならないという気持ちを抱き、決起する場となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
内部会計監査人グループ	代表	江角 彰則（出雲）

### 基本方針

公益社団法人日本青年会議所の会計監査の適正化を図るため、監事を補助します。



### 総括

2025年度は、JC会館の建て替えに伴い監査体制や監査資料作成の仕組みを大きく変えることに挑戦した年でした。まずは、WEBを活用し4月から5月にかけて協議会を対象に地区別の計10回にわたる協議会監査セミナーのWEB開催、協議会中間監査のWEB開催、10地区それぞれに内部会計監査人グループが訪問した協議会決算直前監査、そして監査資料のペーパーレス化促進によるファイリングの簡略化と保管場所の省力化、財政審査会議と規則審査会議と連携し両様式の精査による経費削減やガバナンス機能の強化、外部監査前の内部監査の仕組化など、これまで以上に効率化を図り、監事のもと会計監査の適正化に貢献できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	地区別協議会監査セミナー	協議会に対し、会計監査と公益審査、WEBバランスマンの使用方法や注意事項について説明を行い、質疑応答はスプレッドシートで全協議会が確認できるように取り組みました。
他	中間監査	上半期の議案書・財務諸表・公益事業目的審査シート・規則資料・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。
他	決算直前監査	下半期の議案書・財務諸表・公益事業目的審査シート・規則資料・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。
他	決算監査	公益社団法人日本青年会議所の2025年度の議案書・財務諸表・公益事業目的審査シート・規則資料・計算書類の内容が適正であるかを監査いたしました。



---

---

# 地区協議会・ブロック協議会

---

---

会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>北海道地区協議会</b>	<b>会長</b>	<b>鈴木 裕輔 (白老)</b>

### 基本方針

世の中に蔓延した「できない」という思い込みを「できる」という希望に変える。



### 総括

北海道地区内に新たなブロック協議会が2つ誕生したことにより、地区協議会の規模を縮小しながらも質は落とさぬよう全道各地にて運動を展開してまいりました。特に、混迷する国際情勢と北海道の現状に対する理解と関心の牽引と災害に強い北海道の創造に力を入れ、地域において草の根運動に取り組みました。また、北海道地区版サマコンであるキタリスタや歴史と伝統を紡ぐ第74回北海道地区大会網走大会を実施し、北海道地区協議会の運動の情報や成果発信を道内外問わずに広めることにも成功しました。2025年度は協議会のみならず、全ての会員会議所の会員と共に運動をもって北海道を熱狂の渦に巻き込むことができたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	Leader's Academy	2日間にかけて将来のLOMを担うリーダーとなる人財育成事業を実施しました。講師に半田JCOB青木孝太先輩をお招きし、経験に基づく理想のリーダー像についてご講演いただきました。全道各地のメンバーとの交流をそれぞれの地域の未来を創造する事業となりました。
公2	JCフェスティバル2025 災害発生!大通公園に避難せよ!	ブースを設置し防災体験とセミナーを通して防災意識の向上を図りました。仮設体験ブースでは、学生に避難所の運営を体験いただき、見る・触る・考える体験により災害時のリーダー育成と防災スキルを理解することで、災害レジリエンスの向上を図りました。
公2	楽しく考える防災フォーラム ～災害時のヒーローは君だ! 防災リーダーが生まれ続ける北海道へ	地域における防災リーダーの重要性を理解し、防災意識の拡大を目的に3名の災害専門家を講師としたフォーラムを行いました。また、プロの方と協働で作成した防災ソングを、披露したことで、より印象に残りやすい状態で効果的に運動を広く波及できました。
公2	出前講座「地域を守るリーダーへ! その時どうする?! 防災出前講座」	防災リーダーを各地LOMから育成するために、地域に足を運び防災講座を行いました。1年間で12カ所の開催となり、同じ内容の講座を行うのではなく、各地域の実際の災害に寄り添った内容を発信したことで、各地域から強靱な北海道の実現に寄与できました。
公5	第74回北海道地区大会網走大会	明るい未来への挑戦の創出を目的に、網走市を舞台に北海道地区大会を開催しました。挑戦をテーマとした3つのフォーラムを中心にできないという思い込みをできるという希望にかえる意識変革を起こすことで、よりよい北海道の創造に寄与できました。
公5	JCフェスティバル2025 キタリスタ	運動発信の場として例年開催しているJCフェスティバルを、本年はキタリスタの名称で開催しました。「Re:チャレンジ北海道」のテーマのもと、楽しみながら学び、新たな発見、挑戦ができる場として、道民の皆様様々な社会課題に触れていただきました。
公4	JCフェスティバル2025 ～戦争の歴史を学び北方領土について考えよう～	お笑いコンビアップダウンに、原爆体験伝承漫才「希望の鐘」を上演し、お笑いという表現手法を通じて、子どもから大人まで幅広い世代に向けて戦争の歴史への関心を喚起し、真剣に学びきっかけを提供しました。
公4	第56次北方領土返還要求現地視察大会	北方領土返還要求運動を次代に繋ぐことを目的に、意識喚起事業としてお笑いコンビアップダウンによる新作の北方領土漫才「ふるさと」を上演しました。また、大会式典も実施し、ご来賓の皆様からのご挨拶や、高校生のスピーチを実施しました。
公7	2025JCI ASPACウランバトル大会 ブース出展	ウランバトルの地にて、北海道の魅力を伝えるために、北海道小豆を用いた餡子で手作りモナカを提供し、モナカに北海道のマークを入れて提供することで、効果的な魅力の発信を行いました。
公1	第11回JICカップU-11少女サッカー 全国大会北海道地区予選大会	次代を担う子供たちが、互いを尊重し、勝負に負けたときにこそ相手を称え、敬うことができる心豊かな人財に育成すること、互いを思いやり、尊重するといった精神性を育むことができました。
公4	第74回北海道地区大会網走大会 北方領土へ繋ぐ未来への懸け橋	Vtuberとして活動している「北方領土系Vtuber四方プロジェクト実行委員会」と連携しアバターをパーソナリティー役として取り入れ、エンターテインメント×若い世代への関心向上の手法の一つとして表現し既存の価値観にとらわれない学びを提供しました。
公4	出前講座「北方領土セミナー」 ～北海道から運動を盛り上げよう～	各ブロック協議会において出前講座を行い、歴史背景や両国の認識を理解していただいたうえで、とくにアカデミーメンバーに対して北方領土返還要求運動に対する知識や意識向上を図るとともに、第56次北方領土返還要求現地視察大会への参加を促進しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東北地区協議会	会長	柳沼 勝恵 (郡山)

基本方針

希望あふれる理想を描き、変えたのだと誇れる東北の未来へ。



総括

地域課題に向き合うLOMに対して、必要とされる支援をタイムリーに行える体制の構築を目指し活動しました。また東北地区独自の運動はスリム化していく一方で、地区協議会の広域性を活かした本会との連携事業や、人財育成事業として歴史と実績のある東北ゼミナール委員会など、LOMから求められる運動を発信することで、LOMの発展と個人の発展に繋がりました。さらに地区協議会に求められる大きな役割の一つである災害発生時の支援や防災減災意識の向上においては、本年2月に発災した大船渡市での大規模な森林火災という経験したことのない災害に対し、本会とブロック、LOMの懸け橋となり東北地区内メンバーの支援や想いをまとめることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年度東北青年フォーラム 主催主管締結式	会員会議所会議実施後に主催主管締結式を執り行い、主催主管契約書の調印、調印者挨拶、シュプレヒコールを行い、主催である東北地区協議会並びに主管LOMの連携関係を確認するとともに、東北地区協議会70LOM全体の意識統一を図りました。
他	東北ゼミナール委員会 開講式並びに公開委員会	東北ゼミナール委員会のロードマップや褒賞について説明し、積み木ゲームで交流を深めました。事前課題としてAchieveおよびImpactを受講。講演は「ゼロから未来を作り出す社会開発」をテーマに、社会開発の在り方とJAYCEEとしての実践を学ぶ2部構成で実施しました。
公7	JCIアジア太平洋会議(ASPAC)での東北の魅力を伝えるブース出展事業	東北のまつりをPRするブースを出展し、東北絆まつりの幕で地域色を演出しました。オリジナル缶バッジや東北の特産品をガチャ景品として提供し、各県のパンフレットで魅力を紹介。なまはげ姿の呼び込みや神輿体験で一体感を生み、ステージ終盤には観客と共に大いに盛り上がりました。
他	東北ゼミナール委員会 第1講座	本講座では「渦の中心たるリーダーへ」をテーマに、リーダーの役割理解とチームビルディング、他団体とのパートナーシップの重要性を学びました。組織・社会開発の双方で必要な「伝える力」に焦点を当て、自らの言葉でJCを語るリーダー像を探求しました。
他	東北ゼミナール委員会第2講座	本事業では、NoMAラボ高橋氏による「ワクワク戦国時代」をテーマに社会開発事例の学習や主体性・計画作りのワークショップを実施。焚火での語り会でゼミ生と想いを共有し、理事長所信講座やウクライナ現状報告を通じて、青年会議所活動や国際ネットワークの理解を深めました。
公1	第11回MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー予選大会	今年で11回目となるMJS presents JCカップU-11東北地区予選大会を開催。フェアプレーや他者への思いやりを促すグリーンカード制度を導入し、聴覚障害体験企画も実施。参加者や来場者に開催地の魅力を伝え、地域益創出にも繋がりました。
公2	戦後80年を迎える日本の平和教育推進事業	戦後80年という大きな節目を迎える本年、次世代を担う中高生を対象に開催いたしました。戦争の記憶を持つ世代が減少し、平和教育の機会に限られる中、若者たちが戦争の歴史を学び、対話を通して平和を「自分ごと」として考え、発信する力を育むことを目的とした本事業は、東北6県からの中学生、高校生25名が参加しました。
他	理念共感セミナー	東北地区内LOMを対象に理念共感セミナーを開催。講義とグループワークを通じて「JCの理念×自分の理念」を作成・共有する時間を設け、青年会議所活動の意義を自らの目的と結びつける機会とした。参加者37名全員が理念を理解し、活動目的とのリンクを実感。今後理念を広めたいとの意欲も確認され、理念浸透の大きな成果が得られました。
他	東北ゼミナール委員会第3講座	中島土先輩の講演で想いを伝える技術を学び、ゼミ生は所信発表や課題整理を行い、助言を受けてブラッシュアップしました。さらに「2040年の明るい東北の未来」をテーマに社会開発計画を策定・プレゼンし、出向役員や顧問から高く評価されました。
他	公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会～AWARDS TOHOKU 2025～ 褒賞事業エントリー広報	東北地区内70LOMより「AWARDS TOHOKU 2025」褒賞事業にエントリーいただくために、LOM発送後にエントリー説明会を2度実施し、また各ブロック協議会に協力をいただき周知いたしました。また拡大褒賞とアクティブメンバーLOM褒賞に関しても、各ブロック協議会より協力をいただき集計いたしました。
他	AWARDS TOHOKU 2025	東北地区70LOMの対内外事業を一次審査後、通過6LOMが最終プレゼンを実施。審査員と各地理事長によりグランプリを決定し、会長特別賞も選定。また、拡大褒賞やアクティブメンバーLOM褒賞1位の取り組みも発表されました。
公5	2025年度東北青年フォーラムin秋田メインフォーラム「どうする!?東北。～一人ひとりの行動が地域の未来を創る～」	講師の方々から様々な視点での東北の魅力お話しいただき、参加者が「地域の誇り」を育み、その魅力がいかにされることで地域の活性化に繋がると感じていただく事業となりました。
他	2025年度東北青年フォーラム in秋田東北ゼミナール委員会開講式	第1部では、記念講演として株式会社オガール代表取締役の岡崎正信様より「社会開発とリーダーシップ」と題して講演をいただいた後、ゼミ生による「2040年の東北の理想の未来」をテーマとした社会開発計画の発表を行いました。第2部では、閉講式として、各賞の表彰とゼミ生の決意表明を行い、東北ゼミナール委員会の本年度の活動を締めくくりました。
他	2025年度東北青年フォーラム in秋田オープニングセレモニー	2025年度東北青年フォーラムの開催当日に先立ちオープニングセレモニーを執り行いました。オープニングアクト、主管理事長による開会の辞、セレモニー、会長挨拶、来賓挨拶を行うことで、参加者に東北青年フォーラムin秋田の始まりを意識していただき、参加意欲の向上を図りました。
他	2025年度東北青年フォーラム in秋田クロージングセレモニー	2日間にわたって開催された東北青年フォーラムin秋田の締めくくりとして行われたクロージングセレモニーでは、クロージング動画から始まり会長挨拶、主管青年会議所理事長挨拶、委員長議長による各ファンクション報告、会長による大会・ファンクション総括、2026年度会長候補者発表、次年度会長挨拶、2026年度開催地PR、大会の鍵伝達を行いました。
公5	2025年度東北青年フォーラム in秋田 対内対外広報	東北青年フォーラムin秋田へ多くの方に来場いただくためにポスター、チラシの作成と配布、東北地区各ブロックへのPR活動、SNSによる情報発信を実施しました。
他	2025年度東北青年フォーラム in秋田 企業向け広報	プレゼンテーション資料を作成し、今年度の東北地区協議会の運動や理念、過去の東北青年フォーラムの内容を紹介し、協賛していただけるように開催地を中心に企業、団体に説明および依頼をしました。説明した結果、30社の企業から協賛をいただくことができました。また協賛を頂いた内2社は会場でのセミナーも実施しました。
公5	2025年度 東北青年フォーラム in秋田大会運営	「継往開来 ～結び 未来さつなげ～」のスローガンのもと、東北地区協議会として最大の運動発信の場である東北青年フォーラムを開催しました。
公7	世界会議での東北の魅力を伝えるブース出展事業	世界会議ジャパンナイトで東北の食と文化を発信しました。牛タンを七輪で焼いて提供し、香りと味で東北の食文化をPR。各県の銘酒やフルーツ酒もふるまい、パンフレット配布や衣装での呼び込みで東北の魅力を国内外へ伝えました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
関東地区協議会	会長	渋谷 巧 (川越)

基本方針

超高齢化社会による人材不足という課題に対応し、地域間連携と意識変革を通じて共助社会の実現を目指します。



総括

2025年度は、今こそ新時代の旗手となれ～地域間連携が生み出す共助社会～を基本理念に掲げ、人口減少・人財不足などの社会課題に対し、地域間連携と意識変革による解決モデルを構築しました。LOM・ブロック・地域企業が一体となり、持続可能な経済発展や防災体制の強化を進めたことは大きな成果です。特に第73回関東地区大会桐生大会では、地域課題解決の実践事例を通じて新たな共助の形を発信し、次代に継承すべきモデルを示しました。これからも155LOM、6,000名のメンバーと共に連携と挑戦の輪をさらに広げてまいります。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第11回JCカップU-11 少年少女サッカー関東大会	地域社会の次世代を担う少年少女たちに、サッカーを通じ他者との協調性や連帯感、相互理解を深め、勝敗に関わらず相手を称えることができる心豊かな人財の育成を目的として開催しました。
公6	ぼうさいSTEAMキャンプ 未来の防災ヒーローは君だ!	自然災害の頻発に対応し、自助・共助の力を高めることを目的とした防災キャンプを実施しました。親子を対象にドローン操縦や津波速度体験、避難所体験、炊き出し体験など多彩な防災体験を通じ、防災知識と課題解決力を育む2日間の事業を開催しました。
公7	JCI ASPACウランバトル大会 ジャパンナイトブース出展	ASPACウランバトル大会で実施されたジャパンナイトにブース出展し、関東地方の観光名所や文化、日本の伝統、そしてJCメンバー企業の製品・サービスを世界に発信することを目的に開催しました。
公5	【第73回関東地区大会上州きりゅう大会】メインフォーラム ～地域の未来、まじっすか!? 共助で拓く経済のチカラ～	講師に中山秀征氏、坂本大典氏、箕輪厚氏をお招きし、群馬県と日本経済や人財不足問題や共助社会を実現するために必要な意識改革などについて講演いただき、優秀な人財を複業によって採用し、世界と戦える企業になれる可能性があることを提供しました。
公5	【第73回関東地区大会上州きりゅう大会】ブラックな企業に学ぶ?! 多様な働き方桐生	トモローゲート株式会社 西崎康平氏、ファシリテーターとして有限会社ケイズ・パラダイス 小森谷徹氏をお招きした事業を開催しました。人財採用と育成、社内DX化の課題解決のノウハウや地方企業でも再現性ある形で実践するための機会としました。
公5	【第73回関東地区大会上州きりゅう大会】次年度の君たちへ ～トニーと創る稼ぐマチ～	インバウンドの高付加価値化をモデルケースの発信として再現性のある形で提示し、各LOMの運動を促すことを目的に、外国人に刺さる具体的な切り口と発信手法を解説し、参加者の自地域へ落とし込みと行動化を後押しする事業を行いました。
公6	人材不足対策セミナーDX	人財不足の課題解決に対し、事業承継・M&A、D&I経営の促進、デジタル技術やAIの活用について複数の手法を組み合わせることで、より課題解決への効果を上げることが期待できます。本事業では、これらの手法を一度の機会ですべて実践的に学ぶ機会としました。
公2	対話で繋ごう 平和のピースプログラム	戦争経験のない世代が増加する中、現在の平穏が過去の歴史の上に成り立つことへの意識低下という課題に対し、平和への主体性を持ち、対話を通じて平和に具体的に行動できる人財育成を目的とした事業を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東海地区協議会	会長	戸嶋 一将 (半田)

基本方針

運動の繋がりと東海エリアの強靱な繋がりが生み出す運動効果の最大化を実現し、地域を変えたのだと誇れる未来を創造します。



総括

本年度、東海地区80LOMをはじめ、行政・企業・社会福祉協議会と連携し、広域災害に対応した防災プラットフォームの構築に取り組みました。災害発生時に即座に支援を展開するため、人的支援の配置、物資輸送ルートの確保、情報共有ネットワークの整備など、実効性の高い仕組みを確立しました。加えて各LOMが災害時に明確に行動できるよう、LOM版防災マニュアルを作成しました。また、東海コンファレンス2025では、成果物を各LOMへ還元し、フォーラムを通じて学びと経験を共有。式典では、次年度への運動の継承を行いました。加えて、各ブロックへアカデミー事業を実施し、地区全体の連携強化と組織力の向上に大きく寄与する一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー地区予選大会	東海地区4ブロック内の小学生を対象に、JCカップ地区大会を開催しました。試合終了後はアフターマッチミーティングを実施し、思いやりの精神を育んでもらったほか、デフサッカーの体験を通じて、共生社会の実現に向けた青少年の意識醸成に繋がりました。
他	対話で繋ごう平和のピース～戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む～	戦後80年を迎え、戦争の記憶が風化しつつあるなか、愛知県立津島北翔高等学校商業科1年生120名を対象に、平和の尊さを自分ごととして捉える意識を育むため、対話を通じて他者と価値観を共有することで、主体的に行動できる人材の育成を目指しました。
公5	東海コンファレンス2025	愛知県半田市のアイブラザ半田にて、東海地区大会を開催しました。本大会では、防災に関するフォーラムや屋外事業を通じて、東海エリアの魅力を広く発信しました。また、式典を執り行い、関係者への感謝を伝えるとともに、本年度の活動成果を発表しました。
他	広域連携防災プラットフォームの構築	東海地区内での大規模な広域災害の発生時に、青年会議所が迅速な物資並びに人的支援を行うために、マニュアルの整備と各関係団体との協力体制の構築を図りました。企業、各行政、社会福祉協議会、他地区協議会との協定の締結と、連携体制の確立を行いました。
他	東海地区JCプログラム	東海地区内の会員向けにJCプログラムを実施しました。近年会員減少により会員のキャリアの短期化がある中で、教育の機会を提供し、JCの根幹である考え方や事業構築といったプログラムを東海地区内12回実施し、東海地区内の人財育成に寄与しました。
他	多彩な人材が活躍する組織の調査・研究・実践	東海地区内の障害者雇用を進める企業に対してヒアリングを実施し、WEBサイトにて情報発信を行いました。情報発信を行うことで障害者雇用に対する理解を深め、積極的な雇用を促進し、多彩な人材が活躍する企業が拡大し、地域社会の活性化に寄与しました。
公7	ASPACジャパンナイトブース出展	ASPACジャパンナイトにおいて東海の魅力を認知していただくためにブース出展を行いました。東海道の茶店をイメージし、銘菓とお茶を提供し、メンバーも浴衣を着て雰囲気づくりを行いました。多くの来場者に東海の魅力を認知していただくことができました。
他	総合連絡調整機能の強化	各ブロック協議会のLOM支援担当者と月に1度ミーティングを実施し、連絡調整を行いました。また東海地区内のLOMからの相談内容に対して、講師派遣やセミナー実施、本会への取次を行い、LOMの運動が最大化となるよう連携を行いました。
公6	東海コンファレンスメインフォーラム「Resilient Tokai～備えるチカラ、つなぐミライ～」	大規模災害が起こった際に自らの身の安全、家族の安全を守るために必要な行動や意識を、市民の皆様を持っていただくことを目的に行いました。防災とは無縁な著名な方をお呼びし、有識者とのトークセッションとクイズ形式で市民の皆様と一緒に学んでいただき、防災意識を高めていただきました。
他	東海コンファレンス2025防災訓練「AFTERSHOCK ACTION ～南海トラフ、その瞬間に動けるJCであるために～」	広域連携防災プラットフォームが有効に機能させるために、JCメンバーが広域災害初動対応マニュアルの内容に基づいて行動できるよう、災害時を想定した訓練を行いました。また災害VC運営訓練を行い、災害時に運営人材として活躍できるよう実践訓練を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
北陸信越地区協議会	会長	北村 勇樹 (金沢)

### 基本方針

自らが描く「希望あふれる理想」に向かってメンバーそれぞれが挑戦できるようにするとともに、メンバー間の連帯感も醸成します。



### 総括

地区協議会として、JCの意義や目的が全LOM、全メンバーに浸透するよう、連絡調整機関としての役割を全うするとともに、令和6年能登半島地震からの復旧・復興にむけた事業や地区フォーラム、その他日本JC本会との連携事業等を通じて、地区内の連帯感を醸成し、魅力あふれる地域の創造に向けて活動してきました。また、各種大会や新年式典・周年式典等の機会を捉え、各ブロックやLOMと直接現地での交流を図ることで、各地の課題を的確に把握し、必要な支援を行ってきました。その他、地区出向者数の絞り込み等も含め、運営面でもいくつかの試みを実施しましたが、その功罪が今後の地区協議会のより良い未来に繋がれば幸いです。

事業区分	事業名	事業内容
公1	MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会 北陸信越地区予選大会の開催	子どもたちが他者との協力や共生の大切さを学び、主体的なコミュニケーション能力を養うことを目的として、サッカー大会の地区予選大会を開催しました。
公3	心をつなぐデフスポーツ 体験会の開催	他者との協力や共生の大切さを実感し、多様性理解の一助となることを目的に、MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会北陸信越地区予選大会と並行して、デフサッカーの体験会を開催しました。
公2	戦後80年を迎える日本の 平和共育推進事業の実施	参加者が現在の平和の価値を再認識するとともに、平和に繋がる行動への意識を持つことを目的として、平和共育事業を行いました。
公6	災害ネットワークの強化に 関する事業の実施	災害発生時に青年会議所が被災地域の混乱を軽減し適切な支援を行えるよう、災害ネットワーク強化を目的として、防災会議を実施したほか、東海地区協議会と防災協定を締結しました。
公6	被災地訪問プログラムの実施	令和6年能登半島地震の被災地域の住民及び関係団体との信頼関係を構築し、地域全体の持続的な復興支援に寄与することを目的として、被災地を実際に訪問し、復旧・復興に向けた活動を行いました。
他	北陸信越地区フォーラムの 開催(式典)	メンバーそれぞれの活動意欲の向上や地区内の連帯感の醸成を目的として、本年度の活動の成果や開催地の魅力等を共有するとともに、次代にバトンを繋ぐ式典を開催しました。
公5	北陸信越地区フォーラムの 開催(メインフォーラム)	未来を担うリーダーに必要なチームビルディングを学び、各地域における自らの活動に活かしてもらうことを目的として、日本ハムファイターズの元ヘッドコーチである白井一幸氏に講演いただきました。
公6	北陸信越地区フォーラムの 開催(地域コンテンツ)	開催地及び北陸信越地区内の各地域の活性化を目的として、各地域の魅力あるコンテンツを持ち寄り、来場者に発信しました。
他	Leaders Academyの実施	リーダーシップのスタイルが様々の中で、「ビジョン型」のリーダーの育成を目的として、その中でも重要なスキルである「話す力」に特化した研修を実施しました。



出典元:上越タイムス 2025年7月17日



会議・委員会名	役職名	担当者名
近畿地区協議会	会長	辻川 大器 (和歌山)

基本方針

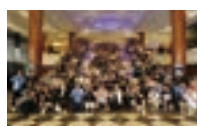
壮大な理想を描き未来を創る運動から日本をリードする近畿の確立。



総括

2025年は大阪・関西万博が開催され、全世界から近畿地区に注目が集まりました。その中で、Let's all create together～未来への架け橋～をスローガンに掲げ、近畿地区内89LOMのメンバーが、素晴らしい文化や歴史、自然を有する近畿地区を基点に、国内外で未来に挑み、活躍することができました。また、近畿地区内6つのブロック協議会と共に日本JCとLOMを結ぶ連絡調整機関としてLOM並びに在籍するメンバーの利益増進を図りました。さらに、ブロック協議会やLOM単体ではカバーしきれない防災連携や、広域経済圏を活用した運動を展開しました。

事業区分	事業名	事業内容
公7	2025GTS(グローバルトレーニングスクール)「Empower Diversity ～多文化共存から学ぶ新たな価値観創出～」	戦後80年にあたり、他文化を交え成長を遂げているマレーシアに対し、日本は他文化の取入れに閉鎖的で停滞感があります。そこで、これからの日本の発展のために、マレーシアで海外研修事業を実施し、多様な価値観・文化を取り入れ、許容する姿勢を学びました。
公7	近畿地区大会におけるグローバルピースフォーラムの実施	近畿地区大会乙訓大会にてジャーナリストの丸山ゴンザレス氏を講師にお招きし、「ヤバイ場所から考える、あなたの未来」と題し、学生を含む一般市民の皆様とメンバー向けの講演と、辻川会長との特別対談「近畿地区テーマな会議」を開催しました。
公2	平和共生プログラムの実施	戦後80年にあたり、戦争を知らない世代が増加しています。本事業では、戦争の悲惨さや当時の情勢をグループワークやディスカッションを交えながら学び、平和の維持は簡単ではないと再認識するとともに、平和を自分ごととして捉えられる人材を育成しました。
公7	ASPACウランパル大会におけるブース出展	近畿をより知っていただき、訪れてみたいと感じていただくことを目的に、体験型のPRブースを出展しました。ブースでは、近畿2府4県の発酵食品と日本酒の提供を行いました。また、おにぎり作り体験では来場者に大いに盛り上がりいただくことができました。
公7	第38回JCIアカデミーナイトセッションにおけるブース出展	JCIアカデミーに参加されるデリゲイツを対象に、近畿の郷土料理や特産品を楽しんでいただけるブースを出展しました。近畿への関心を深めていただくとともに、次、日本を訪れる際は近畿に行ってみようという気持ちを持っていただくことができました。
公7	2025年度世界会議におけるブース出展	近畿が持つ魅力を効果的に発信し、近畿への関心を高めていただくことを目的に、体験型のPRブースを出展しました。ブースでは各地から集結したご飯のお供え、お茶漬け体験を交えながら堪能いただきました。食文化から近畿への興味や関心を高めていただけました。
他	近畿地区連絡調整会議の実施	近畿地区協議会と各地ブロック協議会の連携を強化するために、近畿地区連絡調整会議を実施し、情報交換と各種支援に生かしました。また、本会とブロック協議会との橋渡し役として機能させることで、その先にあるLOMの発展にも寄与しました。
他	近畿地区協議会データベース(Notion)の活用、推進計画	前年度に引き続き「Notion」を利用し、地区や各ブロック協議会、LOMが有する情報を整理・共有することで、各LOMの運動を効率的に構築・発信していくツールとしました。また、内容と構成を見直し、更新頻度を上げることで、効果の最大化を図りました。
他	Leader's Academy Kinki 2025～理想を描き、地域を動かすリーダーシップの育成～	次年度理事長・専務理事予定者を主な対象とし、課題の発見からビジョン構築、具体的な運動の立ち上げまでを体系的に学ぶ機会を提供しました。本事業によって、主体的に地域運動を興し、持続可能な地域社会の形成に積極的に貢献できるリーダーを育成しました。
公6	近畿地区ビジネスイノベーションサミットの企画・実施	参加いただいた学生の皆様に、近畿の豊富な資源を活用した、ビジネスプランを考えていただきました。実際に現地調査を実施し、時に有識者の方々のサポートを受けながら実現性の高いプランを構築いただけたことで、新たな産業の創出に近づきました。
公5	サマーコンファレンス2025「地域の未来を変えよう!!近畿から起こすイノベーション」	大阪・関西万博でも話題となった再生医療をテーマに、最先端の技術が進んだ先に、私たちの暮らしや地域がどう変わるのか、その未来の姿を描きながら、地域で新しい価値を生み出すヒントを見つけたいいただくことを目的としたフォーラムを開催いたしました。
公2	みんなちがって、みんないい!!～感想文コンテスト～	「世界史から学ぶ多文化共生」をテーマに、高校生を対象とした感想文コンテストを実施しました。優秀な成績を収められた学生6名には、近畿地区大会乙訓大会内にて行われる表彰式にご参加いただき、最優秀賞受賞者には感想文の発表を行っていただきました。
他	近畿の明るい防災対策	近畿地区内のメンバーが、いずれ必ず訪れる災害時にお互いに駆け付け、助け合える関係性を構築するとともに、災害に対する防災意識を醸成することを目的に、外部講師を招いた勉強会の実施やレジリエンスエキスパート資格の取得推進を行いました。
公1	多様性を尊重できるU-11少年少女サッカー近畿地区大会	未来を担う子ども達にスポーツを通じて勝ち負けだけではなく、お互いをたたえ合う気持ちや他者を思いやる気持ちを醸成いただきました。また、デフサッカーに触れる機会を設け、多様な個性を理解し、尊重し合える共生社会への意識を醸成いただきました。
他	まちの防災リーダーズ・ラボ	災害時のリーダーを輩出べくレジリエンスエキスパートの資格取得を行ってまいりましたが、災害対応は知識だけではなく、体得することも必要です。過去に被災地で行われた活動を参考に訓練を実施し、有事の際に当事者意識をもって行動できる人材を育成しました。
他	JAYCEEのための多文化共生セミナー	地域づくりのキーとなる多文化共生に関するセミナーを開催しました。地域には固有の文化や背景があり、多文化共生も一様ではありません。真の多文化共生実現には地域に向き合い、多様な声に耳を傾け、運動を進める姿勢が必要であると学ぶことができました。
他	近畿地区大会乙訓大会の主管締結式の開催	第1回委員会協議会内にて、近畿地区大会乙訓大会主管契約締結式を開催いたしました。締結式では、辻川会長、松宮主管LOM理事長、他4名の立会人に署名・捺印をいただきました。主催と主管の位置付けをあらためて確認し、今後の運動方針を明確化できました。
他	近畿地区大会乙訓大会「大会式典」	近畿地区内89LOMのメンバーや日本JC役員、ご来賓、先輩諸氏をお招きし、近畿地区大会乙訓大会「大会式典」を開催いたしました。私たちの運動や想いについて発信することで、近畿地区協議会や近畿地区大会が地域にとって必要不可欠だと広く認識いただけました。
公5	近畿地区大会乙訓大会「フェスタ」	近畿地区大会乙訓大会「フェスタ」の開催で、今後のより良いJC 運動に繋がるメンバー間の交流が行えたとともに、一般参加者の皆様には、近畿の魅力を体感し、新たな活用法に気づいていただけたことで、地域の未来に可能性を見出していたいただくことができました。
他	近畿地区大会乙訓大会「オープニングセレモニー」	近畿地区大会乙訓大会は、同日開催で通常の第2回委員会協議会と別開催になりました。そこで、オープニングセレモニーを新設し、メンバーの参加促進を図りました。ブロック紹介などの実施で、多くのメンバーに大会序盤からご参加いただくことができました。
公5	近畿地区大会乙訓大会「広報」	多くの方々に近畿地区大会乙訓大会にご参加いただくことを目的に、SNSやメディア、広告を駆使し、大会概要やスケジュール、乙訓大会の魅力を発信させていただきました。当日は各種媒体を見た多くの方にご来場いただき、大成功となりました。
他	戦略的Buzz広報の推進計画及びコンプライアンスチェック体制の確立	近畿地区内の事業や運動、各地の魅力を一様に広く伝えるため、SNSを中心に視覚に訴えるような投稿を実施し、「Buzz」を起こしました。コンプライアンスのチェック体制構築では、チェック専用のサブアカウントを運用し、複数人での事前確認体制を構築しました。
他	LOMのブランディング向上を目指した近畿各地の情報収集と発信	LOMブランディングの支援を目的に、近畿地区協議会として各LOMの事業等を調査・収集し、地区のSNSアカウントからも情報発信を行いました。また、発信の際は、検索しやすい形を心がけ、掲載事業を他LOMの皆様への参考にさせていただきやすいよう工夫しました。
他	JCI GO推進計画	国内外のJCメンバーにJCI GOアプリを活用いただき、交流や民間外交のきっかけとしていただくことを目的に、近畿地区協議会のSNS等からアプリの利用拡大に向けた周知活動、取得依頼活動を行いました。また、掲載店舗数の増加促進のための啓発活動も行いました。
他	委員会協議会の設置及び運営事業	近畿地区内各地委員会協議所理事長の皆様へ、2025年度近畿地区協議会が発信する施策に対して、確認及び承認いただくための場として、委員会協議所会議を開催させていただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
中国地区協議会	会長	佐藤 公泰 (美作)

**基本方針**

地域の理想の未来を描き、変えたのだと誇れる中国の未来へ。



**総括**

本年度、中国地区では協議会にてLOM支援委員会を立ち上げ、喫緊の課題である消滅可能性のあるLOMに対しての直接的な支援を通して地区内の交流を行いました。また、JCカップU-11少年少女サッカー大会全国予選大会の企画・実施、戦争の歴史を知り対話を通して平和を共に育むプログラムの企画・実施。さらには、中国地区内メンバーが一堂に会する場として中国地区コンファレンスin真庭を開催し各地青年会議所の運動の躍進を後押ししました。また、一年を通じ交流をテーマに地区内青年会議所の情報交換に努め、持続可能な青年会議所運動に向け力強く進めたと確信をしております。

事業区分	事業名	事業内容
公5	中国地区コンファレンス2025in真庭(本体)	スローガンを「共鳴～共に輝く未来へ～」、開催テーマ「響き合う心が創る、希望と絆の中国地方」とし、青年会議所だけでなく多くの地域企業、地域市民、他団体との協働による中国地区コンファレンスを開催いたしました。
他	中国地区コンファレンス2025in真庭(広報)	会員の方に中国地区コンファレンスに来ていただくため、中国地区内各地ブロック会員会議所会議、各ブロック諸会議にてキャラバンを行いました。
他	中国地区コンファレンス2025in真庭(式典)	中国地区内の青年会議所の会員が一堂に会し、中国地区協議会の規模感や他LOMの事業に触れる機会を創出することで、公益社団法人日本青年会議所中国地区協議会への相互理解を深めました。
公5	中国地区コンファレンス2025 in真庭(たからいち)	ステージを設営し、地域の魅力を発信しながら音楽やダンスを交えた「マニフェス!」を開催いたしました。地区内青年会議所だけでなく、地域の方にも青年会議所を知っていただきました。
他	中国地区コンファレンス2025in真庭(褒賞)	地区内の優れた事業を褒賞いたしました。また受賞をされた方にマニフェス!にて登壇いただき、褒賞ヒーローインタビューという形で地区内にその優れた事業を展開いたしました。
公2	～対話で繋ごう平和のピース～戦争の歴史を知り対話を通して平和を共に育むプログラム	平和教育推進委員会と連携し、小学生から大学生に向けて、戦争の歴史を学び、対話を通して、平和の大切さを分かち合える行動をとれる人財の育成事業を行いました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選会	相手に敬意を払い、関係者へ感謝できるグッドリーダー精神を養い、他者を思いやる親切心とあくなき挑戦心を兼ね備えた人財育成のためのサッカー大会予選大会を実施しました。また共生社会にむけデフサッカー体験も行いました。
他	地区内LOMの支援	地区内の要支援LOMを中心に各LOMの例会、事業に参加をし、現状把握とともに、支援体制の構築を行いました。人員の関係で事業を行うことがむずかしいLOMに対して、人員協力を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
四国地区協議会	会長	大前 裕也 (みとよ)

## 基本方針

高い理想を掲げ、仲間と共に情熱を燃やしながら、希望と誇りに満ちた四国の未来を自らの手で創造します。



## 総括

2025年度、四国地区協議会は「高い理想が導く 希望に満ちた四国の創造」を掲げ、四国の各ブロック・LOMが一体となり、地域課題の解決と人材育成を推進しました。

国際的な視野を広げるためにASPACや世界会議への参加を支援し、四国の魅力を世界に発信した。また、四国版JCアワードの開催により、各LOMの活動を共有・評価し、誇りと連帯感を醸成。リーダーシップ事業では次世代人材の成長を促し、坂出大会では交流と理念の再確認を実現しました。

結果として、地域に根差した運動と会員の意識改革が進み、四国全体に希望と活力をもたらす一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11少年少女サッカー四国予選大会	スポーツを通じて青少年の健全育成を推進し、グッドルーザー精神と親切心を育む場として開催しました。また本年は事業内にデフサッカー体験を組み入れて、子どもたちと手を差し伸べ合い協力、互いに理解する心を持つ大切さ、思いやりの心を育む機会としました。
他	未来を創るリーダーシップ事業	各地、ブロック会長やLOM理事長と相談の上、各地域の未来を担う人材を輩出頂き、日本青年会議所と連携をしたリーダーズアカデミーを高知県の地にて開催し、JCの理念から始まり、地域課題の解決と、そのリーダーシップについて意識向上を図りました。
公5	四国地区大会 坂出大会	坂出の地で開催し、四国の理念と情熱を共有しました。中野優作氏や元日本代表栗原恵氏を招いた講演や、四国版アワードで多くの学びを得ました。また記念式典では、四国地区協議会最大の発信の場として理念と共感を広げました。
他	災害ネットワーク強化事業	各ブロック協議会と連携し、各地のLOM対象に災害対応・支援のネットワーク体制を強化するための事業を行いました。高知県社会福祉協議会の仙頭さん(せんとう)と輪島青年会議所の直前理事長の川口君をお招きし、地域連携による防災力強化を図りました。
公7	世界を感じ、地域を知り、知見を広げる事業	ASPACや世界会議を通じ、四国の魅力とJC運動の情熱を世界へ発信しました。各国のJCメンバーと交流し国際的な視野を広げ、地域の誇りを胸に世界と繋がる体験を創出しました。四国のメンバーが自らの活動に国際的な使命感と誇りを持つきっかけとなりました。
他	四国版JCアワードの開催	各LOMが自らの活動や取り組みを発表・共有し、互いの成果や課題を学び合うことで新たな気づきと結果として、各地のJC運動の質と影響力が飛躍的に向上し、地域社会への貢献がより実感できるものとなりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>九州地区協議会</b>	<b>会長</b>	<b>和田 光平 (玉名)</b>

**基本方針**

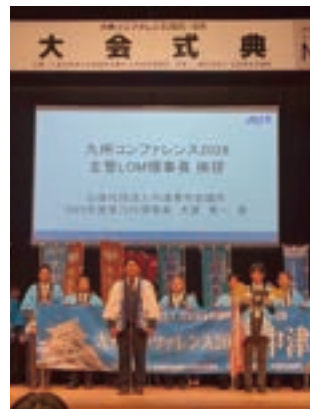
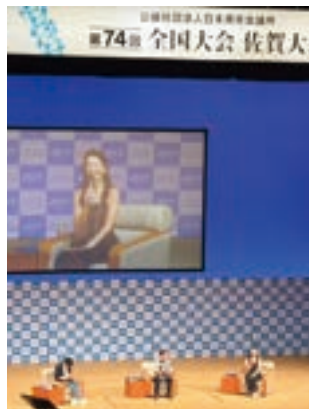
社会への高い理想を持って行動し未来を変えたのだと誇れる九州へ。



**総括**

九州地区協議会独自の事業及び、地区連携事業をすべて滞りなく実施することができ、またすべての活動において、新たな発想で可能性を見出し、社会への高い理想を持って行動し未来を変えたのだと誇れる九州を創りあげることができました。多くの内容に運動として広く展開される要素を盛り込み、今後引き継がれていくこととなります。活動を通して、九州にはあらゆる世代、あらゆる地域、あらゆる産業に、まだ顕在化していない大きな可能性を感じました。社会に目を向け、広く世界を見渡し、その可能性が人々にとって明るく豊かなものになるよう運動を創り続けていくことで、九州地区協議会の存在意義を示し、必要とされる協議会になると考えます。

事業区分	事業名	事業内容
他	九州コンファレンス2025in延岡大会式典	大会式典は、JC運動とLOM活動エリアの魅力を発信する場です。持続可能な九州の発展に向けたビジョンを共有し、和田会長の理念「社会への高い理想を持って行動し、未来を変えたのだと誇れる九州」を感じる大会式典を実施しました。
公5	九州コンファレンス2025 in延岡メインフォーラム	課題解決視点での社業変革をテーマに、3名の講師と和田会長にご登壇頂きトークセッションを実施しました。別会場では九州ソーシャルビジネスEXPOと題して、九州各地で社会課題解決に取り組む企業・団体によるブース展示、トークセッションを実施しました。
公7	九州コンファレンス2025 in延岡国際フォーラム【海外への挑戦～世界のKYUSHUへ】	丸山ゴンザレス氏をお呼びし、九州の人財・企業の海外進出を後押しするセミナーを開催しました。講演やパネルディスカッションに加え、実践支援のグローバルブースも設置し、海外進出への一歩を後押ししました。
公5	九州コンファレンス2025in延岡防災フェスタ	地理的・地質的に災害の多い九州地区で、警鐘慣れしてしまっている部分がある地域の人々に対し、新たな手法を体験することで地域の人々を誰も取り残さない防災意識を醸成する事業を九州コンファレンスで実施することが出来ました。
公3	九州コンファレンス2025 in延岡カーボンニュートラル	環境問題に対する意識は高まりつつあるものの、能動的に行動する意識を市民にイメージしてもらうために、再生可能エネルギーのみを利用した音楽フェスタを高校生主体に開催することで、次世代を担う人財育成と共に事業を実施することが出来ました。
他	九州コンファレンス2025 in延岡AWARDS KYUSHU	受賞事業の説明として情報発信していただくことで、価値を創出するプロセスをつくり、誇りや榮譽を感じる機会となり、市民へのPRかつ、事業をロールモデルとして認識し、自LOMへ取り入れることで、各地域で好循環化していく機会を提供しました。
公7	JCIアスパックジャパンナイトブース出展	ASPACジャパンナイトにて九州地区協議会としてブース出展し、戦後80年の節目に平和への想いを発信しました。九州の歴史や文化に触れ、来訪のきっかけを創出しました。
公7	JCI世界会議ジャパンナイトブース出展	JCI世界会議ジャパンナイトにて九州地区協議会としてブース出展し、戦後80年の節目に平和への想いを発信しました。九州の歴史や文化に触れ、来訪のきっかけを創出しました。
公1	～対話で繋ごう平和のピース～ 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む日本の平和共育推進事業	子供たちに平和共育事業と軍艦島での歴史体験を通じて、戦争前後の暮らしを学び、平和の尊さを再認識してもらいました。未来の平和に関心を持ち、能動的に情報収集・発信できる人財となる第一歩となりました。
公1	第11回JICカップU-11少年少女サッカー九州地区予選大会	スポーツ大会として、地域に必要とされる大会となり、活力ある健全なスポーツを通じ少年少女が互いの個性を尊重しあう環境を作り、新たな目線から相互理解の体験の機会の創出し、共生社会の実現に向けた事業を実施することが出来ました。
他	要支援LOMへの運動・事業構築	支援を必要とする九州地区内10名以下の10LOMを訪問し、LOMの現状や今後の課題をヒアリングしました。人数は少ないですが、拡大に意欲的で今後の目指すLOMの姿を具体的に描き、地区協議会としても1年間サポートさせていただきました。
公6	社会課題解決のための持続可能なソーシャルビジネス開発運動	ソーシャルビジネスの理解浸透および意識変革を促すことを目的として、全3回のハイブリッド形式のセミナーを実施しました。社会課題をビジネスで解決する可能性と、参加者が実際に社業を革新するための実践的な知識や多様な成功事例を提供しました。
他	Leader's Academy in KYUSHU	日本JCとの連携事業で、九州地区で初開催しました。当日は豊田顧問、和田会長を講師に迎え、高度なリーダーシップ及び広い視野を持った人財育成のセミナーを行いました。午後からはドリームクエストを開催し、リーダーシップを発揮して楽しみながら学びました。
公5	第74回全国大会佐賀大会主管・地区協議会協働記念フォーラム	「Plus Ultra ～理想の先へ～」をテーマに、未来志向のリーダーシップを考える場として、小林史明氏、陳内裕樹氏、スズナユズ氏を講師に迎え、地域社会の創造について多角的に議論し、参加者が「理想の先」へ踏み出す機会を考えるフォーラム実施しました。
公6	ソーシャルビジネスプラットフォーム	ソーシャルビジネスの様々な業種の具体的な事例や立案から立ち上げに至るプロセスを発信することで、ソーシャルビジネスモデルが集約化され社会課題解決に挑む九州地区内JCメンバーの拠り所となることを目的としたプラットフォームを構築しました。
公3	カーボンニュートラル推進計画	九州地域ではカーボンニュートラルに企業や自治体を中心に取組んで来ましたが、市民にはまだまだ身近なことではありません。持続可能な地域にするためにカーボンニュートラルへの取組を市民に醸成するべく推進計画を作成実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
沖縄地区協議会	会長	中本 泰一郎 (名護)

基本方針

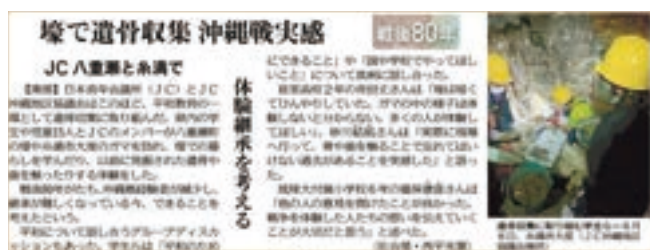
魅力ある運動で地域に光を灯し、笑顔あふれる未来を創造する。



総括

2025年度、沖縄地区協議会は「魅力ある運動で地域に光を灯し、笑顔あふれる未来を創造する」ことを基本方針に、5つの事業を通じて地域課題の解決に挑戦しました。平和推進事業では地域の子もたちが戦後80年の歴史を学び、平和を自分ごととして考える契機となりました。ASPAC出展ではOKINAWAブランドである空手を世界へ発信しました。JCカップでは次代を担う子どもたちに成長の機会を提供し、さらに、OKINAWA TOYPでは若者の挑戦を称え、地域の可能性を広げました。10LOMが一体となり連携を深め、持続的な成長と笑顔に満ちた沖縄の実現へ歩みを進めました。

事業区分	事業名	事業内容
公2	戦後80年を迎える日本の平和共育推進事業の参画	遺骨収集とワークショップを通して80年前の歴史を知り、今の日本の平穏な環境が当たり前でないことがわかり、平和に対して自分ごととしての意識を持ち、対話を用いて平和に対して主体的に行動できる人財を育成する運動を展開しました。
公7	海外市場へ挑戦OKINAWAブランド海外見本市	ASPACブース出展において、OKINAWAブランドである空手を海外に発信するために、板割り体験ブースを設置しました。参加者に道着を着用して板割り体験をしてもらい、沖縄地区協議会のメンバーは空手道着を着て沖縄ブースの雰囲気を出しました。
公1	MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会 沖縄地区予選大会	次代を担う少年少女たちに精神的成長の機会を提供し、個人としての自信や誇りを身につけることを目指し開催しました。また、子どもたちに社会性を育み、他者と共生できる人財へと育成すべくアフターマッチミーティングやデフサッカー体験を行いました。
公2	OKINAWA TOYP 2025	JAPAN TOYPのローカル版として、20歳～39歳を対象としたOKINAWA TOYP 2025を開催し、傑出した若者を発掘しました。さらに、ビジネス交流会を通して、ファイナリストが審査員やJCメンバーと交流し、それぞれが抱える社会課題の解決に取り組む意識が向上しました。
公2	パラオ共和国戦跡フィールドワーク派遣事業	ペリリュー島にて80年前の戦争の歴史を知り、米軍が台湾有事に備え飛行場を再整備している状況を目の当たりにすることで、日本の平穏な環境が当たり前でないことを理解し、対話を用いて平和に対して主体的に行動できる人財を育成する運動を展開しました。



出典元：沖縄タイムス 2025年7月26日

会議・委員会名	役職名	担当者名
東北北海道ブロック協議会	会長	梶原 成悟 (帯広)

**基本方針**

信頼がもたらす共存共栄組織を構築することで 変えたのだと誇れる東北北海道の未来へ。



**総括**

2025年度北海道地区東北北海道ブロック協議会が発足して初年度は、まず各LOMの理事長やメンバーの皆様がそもそもブロック協議会に馴染みがなく、日本JCをどこか遠く存在に感じているというのが予定者段階での肌感でした。昨年度は日本JCの委員長を仰せつかったこともあり、運動をとにかくLOMに伝播するという気持ちが強かったのですが、各LOMの現状を知ったあとは、まず運動を展開できるような仕掛けが必要だということに気づきました。そこでLOM支援、LOM連携、ブロックアカデミーの三本の軸をもって支援にあたり、3人以下のLOMに新入会員の拡大に成功したことや、LOMとLOM同士の絆が芽生え来年度はさらなる輝きを見せるブロックになったと確信しております。次年度はさらに、支援を進め要支援LOMがない、運動が活発に展開されるブロック協議会を目指していきます。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年度東北北海道ブロック協議会アカデミー塾開校式並びにJCセミナー	道北、道東エリアが1つになり東北北海道ブロック協議会となって最初の事業となるため、まずは協議会の運動への理解を深めるとともにLOM間の友好関係を築き、結束力を高める設えと致しました。アカデミー塾生には塾生同士の仲間意識を高める事業を展開しました。
他	2025年度東北北海道ブロック協議会JCセミナー及び交流事業	メンバー減少が進んでいる中、若きリーダーの育成は必要不可欠となった昨今、入会年度の若いメンバーがLOMの即戦力として活躍のできる学びを提供するとともに、Jayceeとしての気概を高める事業を展開しました。
他	LOM支援事業	協議会内の各LOMに対し、運営支援・地域共創などの情報提供を実施、特に会員数10名以下のLOMには重点支援を行い、自立発展に向けた体制構築や会員制度案の提供、事業計画の支援等を実施しました。
他	誇れる組織への改革に向けたJCプログラム事業	発足初年度の協議会にて、JCプログラム「Effective Leadership」を開催。65名が参加し、リーダーシップとフォローシップの重要性を体系的に学ぶ機会を創出しました。
他	理念共感拡大グランドデザイン推進計画	理念共感グランドデザインの推進を図り、JCの基本理念への理解と共感、理念に基づく運動の作り方を学ぶ機会を提供することで、メンバーの育成並びにLOMの活動運動の活性化を目指し、プロモーターと連携したセミナーの実施やサーベイ等情報発信を行いました。
他	第1回東北北海道ブロック大会北見大会	北海道ブロックが2ブロック制となって初めてとなるブロック大会を開催し、一年間の協議会の取り組みの集大成を発信しました。LOM同士の交流とそこから生まれる連携により、各LOMが成長し、地域の活動運動の活性化に繋がることの価値を発信しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
西北海道ブロック協議会	会長	中西 良貴 (岩見沢)

基本方針

人と人の繋がりを生み出す、変化した未来を実感できる北海道の創造。



総括

メンバー数の減少と在籍年次の低下により運動が起こせず、また教育制度がなく運営に苦しんでいるLOMが多く協議会を新設した最も大きい役割であるLOM支援に取り組んで参りました。限られた人財と予算の中、すべての会員にリーダーシップの開発と成長の機会を提供するため、徹底的に訪問を行い時には共に事業を創り、時には一緒に会員拡大を行いすべてのLOMが運動を起こすための一助としました。また、各諸会議を少数LOMにて開催や、ブロック大会、そしてパッケージ事業を協働することで、LOMが自走できる仕組みを挑戦してきました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロックアカデミー塾開校式	アカデミー塾生への活動意欲向上のため、JCプログラム、アチューブを実施しました。またブロック内メンバーとの交流の機会を創出する機会を提供しました。
他	ブロックアカデミーII並びに 西北海道版JCセミナー	北海道の課題でもある領土問題について地区パッケージ事業を実施しました。また、JCの理念や会員拡大などを目的としてセミナーを実施しました。
公5	西北海道ブロック大会in滝川	協議会の運動発信の場とともに、LOM支援の側面を活かした協働の大会運営を実施しました。「繋がり」をテーマに協議会とLOM。会員同士の交流から生まれる新たな可能性を実感できる大会を開催しました。
他	西北海道ブロック交流事業	旧エリアの垣根を超え、会員同士が結びつく機会を創出し、会員間の繋がりやLOMの特色を実感する目的で事業を実施しました。
他	西北海道サヨナラブロック	本年の総括と次年度へのリレーションを行い、次年度委員長に必要な運動構築、そして会員拡大の仕組み化を提供しました。
公5	西北海道お土産もっと セレクション	ブロック協議会所属LOMよりご推薦をいただいたお土産をSNSや新聞を中心に道民への投票を呼びかけ周知するとともに、アワードを行うことで受賞企業とLOMが新たな運動を起こす起点としました。
他	アカデミー政策コンテスト	アカデミー塾生が自ら地域課題と向き合い運動を起こすために、グループワーク、フィールドワークを行い課題解決に結び付く政策を立案、プレゼンテーションを行いました。
他	西北海道事業アワード	今年度の各LOMで起こした運動を一堂に集め事業アワードを実施、ピッチ形式でのプレゼンテーションにて投票・表彰を行い、各地の運動の共有を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
青森ブロック協議会	会長	加澤 和樹 (三沢)

**基本方針**

希望あふれる理想を描き 変えたのだと誇れる青森の創造。  
我々JAYCEEの成長が地域の発展に繋がります。次世代へ誇れる青森の未来を創造します。



**総括**

会員の減少に伴う理事のなり手不足や出向者輩出困難LOMが多く見受けられる中で、本年はLOM支援に重点をおき運動を展開してまいりました。現状の青森ブロックに必要とされる、様々なLOM支援を用意しましたが、参加促進をLOMとしっかり連携して行わないと、KPI達成に届かないのも課題の一つとして残りました。アカデミー大学においてはJCプログラムを中心に会員の理念共感を図り、地域の魅力を知るとともに塾生の交流の場を作りました。アオモリサマーサミットは、会員の成長の場と地域の発展に繋がる、地域企業展を開催しました。各ファンクション会場を様々な場所に設置し、街歩きをしながら開催地に触れる新しい取組みにも挑戦することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	LOM支援セミナー in新春名刺交歓会	「少人数でもLOM運営ができる！～持続可能な地域&LOMを目指して～」を開催しました。会員減少が進むなか、我々が今、なにをどうすべきかを共有いただき、会員一人ひとりに自分自身の役割とその重要性を発信しました。
他	ブロックアカデミー開校式 並びに特別講座	本年は入会3年未満のみならず、アカデミーに参加したことのない会員も対象にすることで、青年会議所での仲間づくりと理念共感を力を入れた1年としました。また、特別講座にはJCプログラム Achieveを開催しました。
他	ブロックアカデミー第一講座	アカデミー大学第一講座においてJCプログラムのImpact並びにJCゲームを開催しました。塾生一人ひとりに自分自身の役割や青年会議所に入ってからどうインパクトを起こしていくかを学ぶ機会を創りました。
他	JCをプロダクト化する！～成長の機会を体系化するワークショップ～	日本JCシニアクラブ 拡大支援委員会 東日本統括本部長 榎引柳一 先輩によるJCをプロダクト化する！～成長の機会を体系化するワークショップ～を開催し、参加者一人ひとりの拡大手法やJCのメリットについて知る機会を創りました。
他	ブロックアカデミー第二講座	一部でDiscoverを実施し、JCの理念を学び、自分自身がどのように社会に貢献し、変化を生み出すリーダーとなるべきかを考え、その学びを実践に繋げるために、二部では黒石の魅力発見事業として、実際に地域を歩き、地域の歴史や文化、課題を体感する場を創りました。
他	ブロックアカデミー第三講座	周りの人々を巻き込むために、実践スキルを学べるJCプログラム、スピーチを行いアカデミー生の今後の活躍の糧となるスキルを取得出来る機会を創りました。
他	第54回アオモリサマーサミット in弘前 大会式典	御来賓、歴代ブロック会長、開催地OB、現役会員に参加いただき、本年のブロックの運動の発信を行いました。また、次年度会長予定者のお披露目並びに次年度開催予定地の発表を行い、2026年度の青森ブロック協議会への期待をもっていただく場を創出しました。
公5	あなたの思考を活性化！ マインドマップ活用セミナー	マインドマップの基本原則を学びながら、自身の考えを整理し、アイデアを視覚的に広げることで、参加者の成長と地域社会の活性化を促進するための実践的なセミナーを開催しました。
公5	第54回アオモリサマーサミットin弘前 じゃわめぎEXPO ～弘前地域企業展～	開催地の弘前市にも若い人たちが知らない魅力溢れる企業があることを参加者に発信することで、就職の選択肢として、また県外に行ってもUターンをするための、きっかけ作りとなる地域企業展の開催を行いました。
公5	第54回アオモリサマーサミット in弘前 広報活動	多くの青森ブロック内各LOM会員並びに、青森県民にアオモリサマーサミットin弘前の周知をするための広報活動を行いました。
公5	アオモリサマーサミットin弘前 大会概要の構築	多くの会員や県民に、学びや気付きを持ち帰るチャンスの場であるアオモリサマーサミットを開催しました。地域の課題解決へ取り組む意欲を持っていただき、これからの青森県の発展へと結びつける事業となりました。
他	ブロックアカデミー閉校式	開校式から各講座を通じてアカデミー生がJCの理念を学び、地域のリーダーとしての資質向上を図ってきました。年間の活動を通して塾生の成長を讃えるとともに、年間の講座を総括し、成果を確認する場として閉校式を開催しました。
他	2025年度卒業式並びに大望年会	卒業生のこれまでの活躍を褒め、感謝を伝えるとともに、卒業生の志を現役会員に引き継ぐことで、次年度以降への運動の飛躍に繋げる場となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
秋田ブロック協議会	会長	佐藤 信暁 (大曲)

## 基本方針

希望あふれる理想を描き次世代へ誇れる秋田の創造。



## 総括

本年度、秋田ブロック協議会は会員減少に伴い出向者の排出が難しくなっている中、組織を大きくさせていただきました。前年度より協議会のコンパクト化などの引き継ぎがあったものの出向者一人ひとりの負担を考えると出向者を多く募り一つの事業に集中できる方がより効果的な運動ができると考えたからです。結果として開催させていただいた全ての事業が今まで以上の成果を残すことができました。また、出向いただいたメンバーからの反響も多く、副産物とはなりますが意識の向上に繋がりました。本年度、行った事業が反省点なども多くありましたが今後の秋田ブロック内各LOMの発展に繋がることを確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	秋田ブロック協議会合同懇談会	秋田ブロック協議会役員、各地委員会議事理事長より、それぞれ2025年度基本方針、スローガン及び事業計画についてご説明をいただきました。
他	アカデミー委員会 開講式・第1回アカデミー委員会	LOMの期待を背負ってアカデミー生として出向しているという強い気持ちをもって臨んでいただくために開講式を行いました。
他	質的価値の調査・発掘・研究	地域の資源や伝統文化などの魅力を再発掘し最大限活用し地域活性化を行うため、秋田県内の質的価値について調査・発掘・研究を行いました。
公4	秋田県知事選挙立候補予定者公開討論会	県民のより一層の政治参画を促すため公開討論会を開催しました。
他	第2回アカデミー委員会	アカデミー生への理念の浸透、共感を図るために理念共感セミナーを開催しました。
他	第3回アカデミー委員会	公益社団法人日本青年会議所 JCIプログラムを活用し、トレーナーを講師としてお招きして事業を行いました。
公1	MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー秋田予選大会	相手を譲え合う精神性と相互扶助の心、協同の力と郷土愛を育むため、県内各地から出場チームを募り、次代を担える人材へ成長すること、また保護者の方々へ大会を通じて子どもの成長を感じていただくことを趣旨とし開催しました。
他	第55回秋田ブロック大会in横手式典	地域の皆様にこれまでの運動に対する感謝の気持ちが伝わるために開催しました。
公5	第55回秋田ブロック大会in横手メインフォーラム	地域の魅力と情報発信をテーマに多角的な視点から地域活性化を考えるメインフォーラムを開催しました。
他	第55回秋田ブロック大会in横手褒賞事業	メンバーが自分たちの運動に自信を持つとともに、自身の見識を広げることを目的とし開催しました。
他	第4回アカデミー委員会	アカデミー生に議案書を作成していただき、作成した議案書を上程する模擬理事会を開催しました。
他	第5回アカデミー委員会・閉講式	今後地域のためにリーダーとしての気概を持つとともに、MVPの発表や各LOM理事長からメッセージを通して、仲間との協力や支え合いの大切さを実感し、再認識する場として開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>岩手ブロック協議会</b>	<b>会長</b>	<b>山内 圭介 (盛岡)</b>

**基本方針**

想いを持った行動が、変えたのだと誇れる岩手の未来を創る。



**総括**

本年度、岩手ブロック協議会では「想いを持った行動が、変えたのだと誇れる岩手の未来を創る」を基本方針に掲げ、運動を展開してまいりました。地域や人への想い、郷土愛があるからこそ、社会課題に真摯に向き合い行動できると考え、その行動こそが市民意識変革を促し、5年後10年後に我々が変えたのだと誇れる未来を創る原動力になると信じております。本年は、圧倒的なLOM支援を目指し、エリア別担当副会長を設置し、密接な連携体制のもとで事業支援や協力を行ってまいりました。LOM支援を通じ、協議会としても多くの学びと成長の機会を得られたことに深く感謝申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
他	第42期いわてJAYCEEアカデミー開校式	いわてJAYCEEアカデミー事業のスタートとして、塾生の参加意欲向上を目的として実施しました。開校式では、第1部第1回塾会議、第2部開校式式典、第3部理事長3名によるパネルディスカッションを聴講の上、グループディスカッションとワークを行いました。
他	第42期いわてJAYCEEアカデミー第1講座	第1講座では、JCプログラムのPurposeを実施し、参加者が自身を深く見つめ直す機会を提供しました。また、地域課題の捉え方に関する講演を通じて、地域課題をどのように分析し、具体的な課題として理解するかについても学びました。
他	第42期いわてJAYCEEアカデミー第2講座	第2講座として、講演、事業構築のワークを実施しました。講演では地域の課題解決のための的確な目的や事業構築の考え方を学びました。講演内容やアドバイスをもとに実際の事業実施に向けてより具体的にブラッシュアップを行いました。
他	第42期いわてJAYCEEアカデミー第3講座	第1講座と第2講座を通じて塾生自ら開催地である盛岡の社会課題を捉え事業構築を行いました。青年会議所の「背景・目的・手法・検証」という事業構築を学び、事業実施できる実践の場を提供しました。
他	第42期いわてJAYCEEアカデミー第4講座及び閉校式	塾生がLOMの活動に前向きに取り組む決意するべく第4講座及び閉校式を開催しました。歴代ブロック会長の講演や昨年の塾生によるパネルディスカッションにて、能動的に活躍できる意識変革の機会となりました。
公5	第54回岩手ブロック大会 in 奥州	本大会は「Reformer ～changeは chance～」をスローガンに、県内各地より多くのメンバーと市民が集い、学びと交流を深める最大の運動発信の場として開催しました。様々なファンクションを通じて、地域をより良くする共通の想いを高め、JC運動への理解と共感を広げました。
他	AWARD IWATE 2025	AWARD IWATE2025開催に向け、岩手県内各LOMの素晴らしい運動事業並びに会員拡大の実績を募集し、審査を通して、今後主体的に青年会議所運動、活動に取り組む会員の増加に向け、褒賞事業を行いました。
他	第54回岩手ブロック大会 in 奥州組織フォーラム	本セミナーでは、JCの理念に対する考え方から会員拡大の必要性とその手法について学ぶことを目的に、山本正博先輩を講師に迎え実施しました。講演では理念の伝え方やSNS活用の実例を交えた実践的な内容が共有され、各LOMの組織基盤強化に繋がる学びの場となりました。
公5	岩手ブロック大会メインフォーラム	当たり前として過ごしている日常の中に、地域の価値や魅力があることに気付くことを目的に、本事業を実施しました。地域の魅力として、各地に根づく食文化に注目し、風土や暮らしの歴史が息づく日常の味が地域の強みとなっていることに気付く契機となりました。
公4	若年層の政治参画意識向上に関する推進事業	県内の高校生に主権者意識を高めるべく、日本国会の主権者意識向上委員会と連携を取りながら、出前授業を実施致しました。法哲学園の主権者プログラムを活用し、大学生が講師として、主権者としての意識を高める機会となりました。
公1	MJS Presents JCカップU-11 少年少女サッカー岩手県大会	本大会は、県内各地から12チームに出場いただき開催いたしました。グッドルーザーの精神およびシビックプライドについて資料配布および動画視聴による事前学習を行い、大会についてのアンケートを各チームへフィードバックを行いました。
他	JCI公式コース及び日本JC公認プログラム	インバウンドを受講頂くことにより、アクティブシチズンについて理解する機会となりました。また、スピーチを受講することで、明確かつ確に思考を伝える能力が向上し、JC活動だけでなく、ビジネスやプライベートにおいても必要とされるスキルを身に付けて頂きました。
公6	大船渡林野火災災害支援	2月26日に発災した、大船渡林野火災災害支援を実施しました。大規模な林野火災により、市内に多くの避難所が設置され、食料品、生活用品が大量に必要となり、支援物資を被災地に届ける必要があり、県内各LOM、地区協議会へ支援物資の協力を依頼し、支援を行いました。
他	第38回JCIアカデミーナイトセッション出展	JCIアカデミーナイトセッションにて岩手の食を各国のデリゲイツにむけてPRし、食文化への興味を持って貰えるような事業を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
宮城ブロック協議会	会長	高嶋 啓佑 (塩釜)

## 基本方針

「希望あふれる理想を描き変えたのだと誇れる宮城の未来へ」。



## 総括

本年の宮城ブロック協議会は、県内のLOMが自走して各地で運動を展開している未来を理想に掲げ、1年間運動を展開してきました。中でも、宮城版LOM間人財交流制度については、新たな試みとして気軽にLOM間でメンバーが交流できる環境の整備を行いました。また、地域に眠る地域資源の発掘においてはアカデミー生が考案したプロジェクトや提言が採用され、現在この提言を軸にまちの活性化について行政や民間企業や関係各所が実現のものとして走り出しています。1年間の短い時間の中で結果や成果がでた運動や中長期的な視点で起こした運動は今後の宮城ブロック協議会にとって必要不可欠なものとなり、さらに発展していくことを確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年会員拡大会議	各地会員協議所会員拡大担当者を対象に、会員拡大の意義と理念共感型拡大及び会員拡大への事例などを組み込んだセミナーを実施しました。
他	2025年みやぎJCアカデミー委員会開校式	アカデミー生の青年会議所の理念を深めること、1年間の活動に対して参加意欲を高めるために、オリエンテーションではJCゲームを実施し、開校式ではアカデミー生から決意表明をいただきました。
他	2025年度新年式典並びに新年祝賀会	宮城ブロック協議会の1年間の方針を発表し、各地会員協議所及び関係諸団体の皆様へ宮城ブロック協議会の運動や活動を発信し、ご理解とご支援をいただくことを目的として開催しました。
他	防災・減災に繋がるネットワークの強化及び災害発生時の復旧支援	宮城県社会福祉協議会との連携や山形BC荒生会長による災害時の取り組みや備えなどを講演していただき、宮城BCや県内LOMの災害時のマニュアルの見直しや定款への規定の追加などの成果がありました。
他	みやぎJCアカデミー4月事業～Take Action Frame Work～	アカデミー生は4月事業前にインバトを受講いただき、地域資源の魅力発信・見出す必要性や有効活用に至るプロセスについて理解を深める事業を開催しました。
公1	MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー大会宮城ブロック予選	子供たちの他者を思いやる気持ちと多様な個性を尊重しあえる心を育むことを目的にサッカー大会だけでなく、デフサッカーの体験いただきました。
他	第55回宮城ブロック協議会inあぶくまオープニングセレモニー	宮城ブロックや大会の趣旨を理解いただき、各ファンクションへの参加意欲を高めていただくことを目的に開催しました。
公5	第55回宮城ブロック協議会inあぶくま～あぶくまの魅力発掘プロジェクト～	みやぎJCアカデミー委員会が地域資源の実情を捉える能力、外部協力者と連携して行動する意識を高めることを目的に、プロジェクトを構築し、発表していただきました。
他	第55回宮城ブロック協議会inあぶくま組織フォーラム「Team宮城の実現」	LOM支援委員会が宮城ブロック独自支援制度として宮城県版LOM間人財交流制度としてアドバイザー派遣とラーニングクルーズについての発表を行い、今後のLOM支援の方向性について発信しました。
公5	第55回宮城ブロック協議会inあぶくまメインフォーラム“Local Treasures for the Future”～地域の魅力を未来へ～	地域に眠る魅力を探索する意識をもっといただくことを目的にメインフォーラムを開催しました。また、宮城ブロックであぶくま地域の魅力が詰まったデモツアーを構築しました。
他	第55回宮城ブロック協議会inあぶくまクロージングセレモニー	各ファンクションの情報から各地域での運動に繋げる意義を学び、次年度の宮城ブロック大会への参加意欲の向上を目的に大会総括や次年度ブロック大会候補地や次年度会長候補者の発表を行いました。
公5	第55回宮城ブロック協議会inあぶくま広報計画	地域住民へのブロック大会の周知及び参加意欲の向上のために広報計画を作成し、実施しました。また、あらゆる公共施設や地元商店街と連携し、ブロック大会の告知をしました。
公5	第55回宮城ブロック協議会inあぶくま開催計画	地域資源に新たな価値に対する重要性を理解し、まちづくりやJC運動に対する理解を深めるために宮城ブロック協議会の運動を発信しました。
公7	JCIアジア太平洋エリア会議(ASPAC)におけるブース出展	アジアのメンバーに宮城県の自然・歴史・文化・食の魅力を発信し、メンバーには国際の機会を体感してもらうことを目的にブース出展を実施しました。
他	みやぎJCアカデミー委員会8月事業～スピーチで高めるリーダーシップ～	自身の思考を言語化する力の向上とリーダーとして共感を得られる話し方の理解を深めることを目的に閉校式での決意表明に向けた事業を開催しました。
他	組織力強化セミナー	各LOMで中核を担う副理事長及び室長の役割や責任について理解を深めることを目的に講師として石川先輩(丹波JC OB)より講演をいただきました。
他	事業報告会	各LOMへの事業構築の考え方や地域の特色を活かした事業を学び得る意識を高めることを目的に開催しました。
公7	JCI世界会議デュニース大会におけるブース出展	東北地区協議会と共同で世界会議にてブース出展を実施し、東北地区、宮城県内の魅力を発信しました。
他	みやぎJCアカデミー委員会開校式	開校式から始まり、習得型学習から探求型学習に移行し、実体験をもとにアカデミー生に決意表明を実施しました。
他	2025年LOM支援委員会年間支援計画	各LOMの抱える課題やニーズを抽出し、本委員会と連携をして、LOM支援を実施しました。また、プロ長訪問などを経て、メンバーとのコミュニケーションを図り、ブロック内の課題解決にむけ活動を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山形ブロック協議会	会長	荒生 卓真（酒田）

基本方針

「希望あふれる理想を描き変えたのだと誇れる山形の未来へ」。



総括

今年度の山形ブロックでは、国際への意識が低いメンバーに対し国際の機会に興味を持ってもらうために、山形県の商品を海外に販売する取り組みを行いました。また、生き生きとJC活動を行うメンバーを増やすために、全2回のJCプログラムの実施とJCセミナーの開催を行いました。延べ200名以上参加をし、JC活動に対する意義や目的を再確認するメンバーが増えました。また、アカデミー委員会においてもJCプログラムを3回実施し、次年度以降意識高くJC活動するメンバーが育成されました。世界に誇れる山形と地域・会社・家族に誇れるJCが創造され、今年行った事業が必ず次年度以降の山形ブロック協議会内のLOMの発展に繋がることを確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	Refresh Tripin NISIKAWA～自然と体験がもたらす心の回復プログラム～	山形県の活用しきれていない魅力を海外から選ばれる観光地へと昇華させる支援として、ターゲットを台湾の観光客に絞ったデモツアーを企画し、台湾・四維JCの皆様実際に体験していただきました。
公4	山形県知事意見交換会	山形県知事吉村美栄子氏と山形ブロック協議会内のLOM代表者と「若者と女性の定住について」をテーマに意見交換会を行いました。
公2	誇れるYAMAGATAを創るのはオレたちだセミナー	JC活動の目的意識を向上させ、1名でも多くの会員拡大に繋げるセミナーを実施しました。講師にヒップホップアーティストのAK69氏をお迎えし、山形を変えていくひとつづくりとその行動から繋がる地域発展の大切さと魅力を講演していただきました。
公5	山形を世界のYAMAGATAへ事業	県内企業・住民の国際ビジネス推進の機運を高めるために、山形県内で国際ビジネスに取り組み講師2名をお迎えし、パネルディスカッションを行いました。
他	JCプログラムセミナー	山形県内のJCメンバーに対し、JC活動の本質を学び深めるために、JCプログラム「Purpose」と「VMV(Vision Mission&Values)」を開催しました。
公5	やまがたマルシェ	第58回山形ブロック大会寒江大会主管地域の魅力を発信する事業として行いました。2日間合計17081名の参加をいただきました。
他	公益社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会2025年度新春交歓会	2025年度のスタートを切るとともに、日ごろから協力いただく地域の皆様への感謝と継続的な支援のお願い、また、ブロック内全LOMの方々へブロック協議会への理解を深めていただきました。
他	第58回山形ブロック大会寒江大会式典	山形県内のJCメンバーと関係諸団体がブロック大会開催の理念と開催地のへ想いを理解いただきました。
他	公益社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会2025年度卒業式	これまで山形ブロック協議会の運動や事業に尽力されてきた卒業生を労い、感謝を伝えるとともに、卒業されても山形ブロック協議会への理解をお願いするために卒業式を開催しました。
他	山形ブロックアカデミー開講式並びにオリエンテーション	開講式の開催とJCとはなにかをしっかりと理解したうえで、JCの歴史や理念を理解してもらうためのセミナーを開催しました。
他	山形ブロックアカデミー第1回プログラム	JCの歴史や理念を理解し活き活きと行動する人財の育成を行うため理念共感プロモーターを講師として招聘し、理念共感とともにJCの歴史についても学んでいただきました。
他	山形ブロックアカデミー第2回プログラム	今後どのように活動し、進むべきかを考え、次年度以降LOMの中心となり活躍できる人財の育成するために、「JCゲーム」を行い、JC運動における、修練・奉仕・友情がどのように進んでいくかなど内容を踏まえ学びました。
他	山形ブロックアカデミー第3回プログラム	議案構築にあたる知識やスキルを身につけ、次年度以降LOMの中心となり活躍できる人財の育成するために、議案構築セミナー及び模擬財政規則審査会議を行いました。
他	山形ブロックアカデミー第4回プログラム	第3回プログラムで事業構築、議案作成を学び、アカデミー生一人ひとりが議案作成したものを上程し、様々な方の意見をもらい事業を構築していく体験をするために模擬理事会を開催しました。
他	アカデミー委員会 閉講式	開・閉校式を含め全6回のプログラムを終え次年度以降LOMの中核を担うメンバーに成長したアカデミー生をねぎらい1年間の総括を行いました。



出典元:山形新聞  
2025年7月6日

会議・委員会名	役職名	担当者名
福島ブロック協議会	会長	永橋 洋平（浪江）

## 基本方針

幸せの連鎖を生み出すためにメンバーが手を携え大きなうねりを生み出すことで自らが変えたのだと誇れる福島の未来を創造します。



## 総括

好循環をもたらすうねりを巻き起こし変えたのだと誇れる福島の未来への基本理念のもと、人材育成やLOM事業強化、防災減災、魅力発信など福島のより良い未来を目指す運動を展開しました。まず、JCプログラムやJCセミナーを協議会で主催し、ブロックアワードで他LOM事業を知る機会を設けLOMの人材育成と事業強化を目指しました。また、東日本大震災と福島第一原発事故が発災した浪江の地でのブロック大会において教訓を未来へ繋ぐために防災減災事業を開催するとともに魅力発信と風評被害払拭を行うべくASPACでブース出展を行いました。福島に好循環のうねりを巻き起こし誇れる未来を創造する起点となったと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第11回MJS presents JCカップ 少年少女サッカー全国大会福島予選大会	サッカーを通じて相手の立場に立って考えて行動することや、相手の良いところを見つけたいというグッドルーザー精神を学ぶことで子供たちが技術だけでなく精神的に成長できる機会を創造すべく事業を開催しました。
公4	参議院議員選挙における福島選挙区での 公開討論会	若年層の選挙への関心を引き寄せるためにInstagramをはじめとしたSNSでの事前広報を駆使し、公開討論会の様子を後日福島ブロック協議会公式YouTubeで配信するなど、有権者の関心を高めるために多角的な戦略をもって事業を開催しました。
公5	第55回福島ブロック大会in浪江 大会広報	第55回を数えるブロック協議会様の運動の発信の場であるブロック大会を紙媒体とSNSのデジタルとアナログを融合させ、福島県内外の方々に広く周知するために様々な手法を駆使して事業展開を行いました。
公5	第55回福島ブロック大会in浪江 地域資源の発信支援事業	青年会議所のスケールメリットを生かし、福島県内の魅力を一堂に集め、各LOM自慢の産品や体験をLOMごとに提供いただき、会場に訪れた人々が開催地域だけでなく県内全域の特色を知ることができる事業を行いました。
公6	第55回福島ブロック大会in浪江 集まれ!防災キッズアカデミー!	東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を後世に伝える東日本大震災・原子力発電所伝承館において防災減災をテーマとしたクイズラリーを開催し、参加された方々へ災害への備えに関する意識向上を目的として開催しました。
公7	ASPACジャパンナイトブース出展	各LOMから協力を頂き、県内各地のワインとお酒に合うおつまみを振舞うとともに日本の文化であるおみくじを引てもらい県内各地の風景写真をプレゼントすることで福島の飲食物における風評被害を払拭すべく事業を開催しました。
他	公益社団法人 日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 2025年度 新春のつどい	青年会議所の未来を描く人材を作るアカデミー委員会開校式、菅野譲先輩をお招きし、青年会議所の原点を示したJCセミナー、ブロック大会主催主管締結式など県内各地のメンバーへ今年度の福島ブロック協議会の方向性を示すべく事業を開催しました。
他	ビジョナリーリーダーズプログラム Effective Leadership JCI Explorer Visual Future	LOM単位では開催が難しいこともあるJCプログラムをブロック協議会が主催することでLOMの負担を最小限に抑えた形での開催を目指しました。JCプログラムの中でも実践的なプログラムを選定し、人材育成におけるLOM支援として事業を開催しました。
他	第55回福島ブロック大会in浪江 記念式典	地域ステークホルダー、歴代ブロック会長並びに歴代理事会構成メンバー、現役員にご参加いただき、本年度の成果を発表しました。また、次年度会長候補者を発表し次年度ブロック大会開催地へ大会旗の伝達を行い本年度の架け橋となる事業を開催しました。
他	第55回福島ブロック大会in浪江 AWARDS FUKUSHIMA2025	県内各地LOMが行っている事業を地域発信部門と人材育成部門に分けて表彰を行い、部門賞とグランプリに輝いたLOMには事業プレゼンテーションを行って頂き、各LOM今後の事業がより良くなる一助となるべく事業を開催しました。
他	アカデミー委員会オリエンテーション及び 開校式 第1回～第4回委員会 開校式	手をつなごう～故郷にうねりを巻き起こせ!!～をスローガンに1年間、青年会議所のイロハを伝えるべくJCプログラムの開催や地域が抱える課題を抽出し解決へ導くワークを実施することでLOMの即戦力としてメンバーをお返しすべく事業を開催しました。
他	2027年度ブロック大会開催地発表並びに 2025年度 事業報告会・卒業式	2027年度ブロック大会開催地を発表し、ブロック大会への機運を高めるとともに事業報告会では本年度各委員会の運動の成果発表を行いました。また、本年卒業されるメンバーの新たな門出を祝うべく卒業式を開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>栃木ブロック協議会</b>	<b>会長</b>	<b>山野井 明彦 (鹿沼)</b>

**基本方針**

個の組織運営力向上と、LOMの垣根を越えた繋がりが織りなす、魅力発見と未来創造が連鎖する栃木を実現します。



**総括**

本年度栃木ブロック協議会は、『個の成長と繋がりが織りなす 魅力発見と未来創造が連鎖する栃木の実現』を基本理念に『Lead the self ～自らの意志を込めた一歩を～』をスローガンとして、運動を展開してきました。県内11LOMの総合連絡調整機関という役割を見つめ直し、ブロック協議会の存在感をLOMへ浸透させるべく、LOM間の情報と感情を共有させることを最優先に機会を提供して参りました。例会案内・内容や会員情報がブロック内に共有されるだけに留まらず、その情報を元に他LOMの例会に参加するなど、LOMの垣根を越えてお互いに仲間という意識をより深めることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	LOMの垣根を越えた情報共有プラットフォーム「Eleven」の構築、推進	栃木県11LOMを横断する情報共有プラットフォームを構築、推進しました。プラットフォームにはLOMの事業案内、会員紹介、実際に事業に参加してのレポートの他、様々なメニューを設けることで、メンバー一人ひとりの興味関心を高め、繋がりを醸成することができました。
他	第1回全体会議	会長挨拶・各委員会各委員長事業方針説明等を通して、2025年度栃木ブロック協議会の運動方針とブロックによるLOM支援の実施内容について共有することができました。
他	理念共感から学ぶ拡大の手法～今こそ巻き起こせムーブメント～	理念共感拡大について丹波JCで理事長、日本青年会議所 組織グループ 会員拡大委員会で委員長経験のある石川毅氏による未来に繋がる会員拡大の手法「入会させる拡大から入会したくなるJCへ自然と人が集まる組織」を学びました。
他	巻き起こせJCパワー～挑戦するリーダーへ繋ぐ心と知識が織りなす組織運営力～	大久保貴惟君を講師に迎え、組織運営において重要な「人を巻き込み、モチベーションを維持しながら組織を導く手法」を学ぶリーダー育成研修を実施しました。研修では、共感を生む心と、組織を支える知識の両輪を育むことで、組織で活躍できるリーダーへの成長を目指しました。
他	フォーラムに向けて団結しよう!!!～絆深まる交流事業～	9月に実施されるとちぎフォーラムにむけて、県内11LOMのメンバーを対象に交流会を実施しました。フォーラムに向けて、お互いの顔を知り、団結に一歩近づけることができました。
他	JCI Impact～広げるJC/パワームーブメントの灯をともし～	JCI Impactから地域課題の発見と解決策の構築を学び、各LOMがより効果的に事業を展開できるよう、組織運営力の向上も目的としています。学んだ内容を各LOMの活動に活かし、地域に根ざした運動の質を高めることができました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー 栃木ブロック予選大会	子どもたちが、勝敗に関係なく互いを尊重し、称え合うことで、礼節と思いやりを持った心豊かな人へと成長することを目的に、小学5年生世代を対象とした「JCカップU-11少年少女サッカー 栃木ブロック予選大会」を開催しました。
他	Real Leader's Mindset～変革を起こす覚悟と実行力～	「変革の担い手は他の誰でもなく自分自身である」という意識を全メンバーに持ってもらうことを目指し、日本JC 第58代会頭 安里繁信先輩を招聘し、リーダーに求められる戦略的な知識と他者を巻き込む心の熱量の両立する、行動型リーダーを育成しました。
公4	第27回参議院議員通常選挙 栃木県選挙区公開討論会	第27回参議院議員通常選挙を前に、立候補予定者による公開討論会を実施しました。公平中立な進行のもと、候補者が「国政に関する政策や政治姿勢」を語る場を設けることで、有権者が政策の違いを直接比較し、主体的に判断できる環境を提供することができました。
他	とちぎフォーラム2025in佐野 大会式典	とちぎフォーラムのスタートを飾る大会式典では、来賓・歴代会長をお招きし、各地委員会メンバーと共に、フォーラムの目的や意気込みを共有いたしました。
公5	とちぎフォーラム2025in佐野 未来に誇れる元気なとちぎ～地域に轟け郷土愛～	栃木県の受け継がれてきた歴史、文化を守りながら活動を行っている日光さる軍団の伝統芸や、県内各地のよさこいチームによるパフォーマンスを披露いただき、観た一人ひとりが「栃木県の文化や魅力を知り郷土愛が深まる。文化フォーラムを開催しました。
公1	とちぎフォーラム2025in佐野 子どもスポーツフェスティバル	小中学生を対象に、様々なスポーツ体験ブース、県内プロスポーツのPR展示、JC主催の「JCカップ」や「わんぱく相撲」の紹介ブースを設置し、スポーツをきっかけに栃木県や佐野市の特色や歴史に触れていただけるスポーツフォーラムを開催しました。
公1	とちぎフォーラム2025in佐野 Tochigi Treat Lab～若きアイデアが溢く、未来のご褒美～	栃木の食を楽しむ飲食ブースの設営と、地元飲食事業者ご協力の下、学生がデザートやドリンクの新メニューを考案し、商品のPR・表彰式でステージに立ていただき、未来を担う若者と地元企業の連携や挑戦の機会を提供する未来創生フォーラムとなりました。
公1	とちぎフォーラム2025in佐野 トチギノトバ～音楽から知る郷土愛～	開催地出身のラッパーであるDOTAMA氏をお招きし、自身の楽曲を通して佐野市と栃木県の魅力を発信する想いについてお話しいただき、郷土愛を深め県の発展に対する参画意識を芽生えさせる音楽フォーラムを開催しました。
他	JCI Adventure～深めるJC/パワー リーダーシップを更なる高みへ～	今年から新たに導入された「JCI Adventure」により、個々のリーダーシップの本質的理解と実践力の向上を図るとともに、JC運動の価値を再確認し、地域や組織の未来に主体的に関わる意識を醸成する事業となりました。
他	Appreciate leading 2025 第2回全体会議	本年度の運動の成果を共有し、ご協力をいただいた11LOMへの感謝を伝え、栃木ブロック協議会の運動を次年度へと繋げることができました。また、栃木県内11LOMの活動成果やメンバー個人の成果を、栃木ブロック協議会として讃える機会となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
茨城ブロック協議会	副会長	篠木 達也 (牛久)

基本方針

共創と共生の調和がとれた茨城の創造を目指し、組織運営強化と事業構築の支援により、LOMの発展、そして地域の発展に寄与します。



総括

年間を通し、様々な事業を開催することができました。本年度は、誰が為に、をスローガンに掲げ、自らが率先して、まちのため、仲間のため、誰かのために行動できる覚悟を持つこと、そして、多種多様な知見を集結し、時代に合わせた新しい価値の創造を目指してまいりました。その中で、会員数の減少やアカデミーメンバー比率が向上したことから組織運営の強化、そして、グローバル社会の中で国際意識の醸成を事業の柱として、県内23LOMのメンバーと共に運動展開することができました。これからも、茨城ブロック協議会だからできるスケールメリットを活かし、メンバーの成長、LOMの発展、そして地域の発展に寄与できる運動展開を引き継いでまいります。

事業区分	事業名	事業内容
他	Be The Leader!茨城リーダーズ合宿	次年度以降の理事候補者を対象に、一泊二日の合宿を通じ、LOMのリーダーに必要な能力と覚悟を持つ重要性、LOMを牽引するための分析力と実行力を習得いただくことを目指し、JCセミナーの実施や、帯広JCシニアクラブ梶原一生先輩に講演をしていただきました。
他	アカデミー育成合宿Stand Up Academy	アカデミーメンバーを対象に、JCの理念や目的、基礎知識を共に学び、茨城ブロック協議会内の仲間意識を深め、JAYCEEとしての当事者意識を高めることを目的とした一泊二日でアカデミー育成合宿Stand up Academyを開催いたしました。
公1	ありがとうの笑楽校 楽しく学べる特別授業～思いやりの気持ちよ 大きく育て～	子供たちが班ごとで会場内5カ所に設置された体験型プログラムを回り、1日を通して子どもたちに「利他の精神に繋げる心の育成」の醸成に繋がる事業を開催いたしました。
他	【Start up JAYCEE】アカデミー育成塾	茨城ブロック協議会内のアカデミーメンバーが各エリアでアカデミー委員会を結成し、事業構築から事業の実施、報告までのプロセスを学んでいただきました。主体性を持った行動により、自発的かつ積極的にJC運動に進退することができる人財育成に繋がりました。
他	【Start up JAYCEE】持続可能な組織拡大塾	各LOMの中核を担うメンバーを対象に、アカデミー育成塾に参加したアカデミーメンバーに対してアドバイザーをして導く重要性を学んでいただきました。今後LOMで組織を導き、組織運営を強化できる人財育成に繋がりました。
公1	いばらきハイスクール議会2025	主権者意識の向上を目的に、県内の高校生がテーマに沿って考えた政策提言を、実際に茨城県庁にて、直接、茨城県議会及び茨城県教育委員会へプレゼンテーションを行いました。
公5	第54回茨城ブロック大会下妻大会 記念事業	茨城県下妻市で多文化共生を促進するため、外国人と地域住民との交流を促進する事業として、謎解きイベントで地域の魅力を発信し、SNSによる情報拡散を図りました。和文文化体験や異文化交流を通じて、世代を超えた相互理解を深めるモデルケースを構築しました。
公5	第54回茨城ブロック大会下妻大会 「忍者体験～SHINOBI QUEST～豊田城編」	地域資源による「賑わい創出」をテーマに茨城県で「お城×忍者」を取り入れた体験ブースや廃材アートコンテストを実施しました。さらに、県内各地の飲食店によるキッチンカーも集め、地域資源を活用した文化と食の魅力を発信し、多彩な賑わいを演出しました。
公5	第54回茨城ブロック大会下妻大会 記念事業「Lead to co-creation ～繋がる力、拡げる未来～	茨城県には、少子高齢化、グローバル化をはじめ、災害の激甚化、情報化社会への対応といった課題があるなかで、地域を構成する諸個人や団体が、それぞれ手を携えて地域の課題に果敢に取り組む意識を变化するために様々な手法を駆使し、本大会を展開しました。
公6	第54回茨城ブロック大会下妻大会 「防災、減災を考える事業」	各家庭で、防災、減災への意識が日常化することで、有事の際に、身近にいる人同士で助け合う意識を持つことを目的とし、防災ジェスチャーゲーム、防災スイッチ体験、消防車展示など防災を身近に感じる内容として開催しました。
公1	第54回茨城ブロック大会下妻大会 「子ども記者体験～正しい情報入手せよ～」	情報化の進展に教育が追いつかず、子どもが情報を誤用する課題があります。本事業では講義とブースを通じて情報リテラシーとファクトチェックの重要性を学びました。
公5	第54回茨城ブロック大会下妻大会 「Win your chanceつかめ!まだ見ぬ未来」	地域資源を活用した創業促進を目的に、出展候補者へのオファー、模擬出展、事業検証を実施しました。茨城県よる支援拠点と連携し、制度活用や事業構築の伴走支援を行いました。
公5	第54回茨城ブロック大会下妻大会 「メインフォーラム ～Break new ground～『世界との共創』」	豊かな自然資源を持つ茨城県の魅力発信力を高めるため、JCメンバーが地域資源の価値を再認識し、国内外で挑戦する講師から発信力とブランド力向上を学ぶ事業を実施いたしました。
公1	第11回JCカップU-11年少少女サッカー大会 茨城予選大会エリア予選会	スポーツを通じ、子どもたちが他チームの子どもたちと交流し、同じ時間を共有することで、地域内に仲間たちがいることを認識することを目的とし開催しました。県内4エリアで開催し、全49チームが参加しました。
公1	第11回JCカップU-11年少少女サッカー大会 茨城予選大会	子どもたちが、スポーツでの真剣勝負を通じて、対戦相手への感謝の気持ちを持ち、さらに地域に貢献できる人材となる機会の提供を目的とし開催しました。エリア予選を勝ち上がった全16チームが参加しました。
公4	第27回参議院選挙に伴う公開討論会	立候補予定者の政策や意見を聞いて、有権者自身が自分の住み暮らすまちのことに当事者意識を持ち、積極的に投票行動に繋げる機会となることを目的とし開催しました。オンラインによる配信にて行い、候補者4名が参加しました。
公7	IBARAKIグローバル人材育成事業 「Global Business セミナー」	地元離れが進む中、地域の魅力を感じグローバルな視点と主体性を持つ人材育成を目的として、農業者の話やコンサル講義、学生発表を通じ茨城の可能性と伝えるプレゼン手法を学ぶ事業を開催しました。
公7	ASPACにおけるブース出展	ASPACウランバトル大会のジャパンナイトで茨城県北地域を自然×体験でPRし、インバウンド効果を狙いました。鯉のぼり装飾と常陸秋そばのけんちゃんそば200食提供、観光地マップと360度動画で魅力発信しました。
他	さよならブロック	茨城ブロック協議会の各会議体、委員会による事業報告で本年度の活動や運動を振り返り、県内各地委員会会議所に感謝をお伝えいたしました。現役メンバーから送辞、卒業生メンバーから答辞で想いを共有し、そして次年度へ想いを引き継ぐ貴重な場となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
群馬ブロック協議会	会長	佐藤 俊樹 (安中)

### 基本方針

一歩踏み出す勇気で群馬の未来を創造しよう。



### 総括

近年、群馬ブロック協議会では入会3年未満のメンバーが多く、アカデミー事業を中心に展開しました。JCの理念やリーダーとしての学びに加え、地域の魅力発信をテーマにブロック大会や各事業を開催。アカデミーには毎回100名超が参加し、ブロック大会では約2000名の来場がありました。今年度は群馬全体に出向意欲と理念の共感を広めることができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回全体会議	県内12LOMが集結し、2025年度群馬ブロック協議会の運動方針を共有。未来へ向け一致団結しました。
他	第1回アカデミー事業 ～JC運動の扉を開く～	関東地区協議会の渋谷巧会長より、JCの魅力やリーダー像、貴重なご経験について講演を頂きました。
公1	第11回JCカップU-11少年少女サッカー全国大会関東地区予選大会群馬県予選大会	JCカップで思いやりある次世代の育成とJCの地域活動を広め、会員拡大を目指す事業を実施しました。
公5	群馬ブロック協議会 第55回群馬ブロック大会 「群馬フェス2025」	第55回ブロック大会「Vamos!」で群馬の魅力を再発見し、次代へ繋ぐ思いを高崎の地から発信しました。
他	群馬ブロック協議会 第55回群馬ブロック大会式典	県内12LOM、歴代会長、来賓に向けて、2024年度と2025年度上半期の活動実績を報告しました。
他	第2回アカデミー事業 ～成長と挑戦への スタートライン～	アカデミー生向けにVMVセミナーを開催し、JCの目的や価値観を学び、自身の活動の方向性を考える機会を提供しました。
他	第3回アカデミー事業 ～LOM間を超えて、 今ここに集う仲間たち～	ピアガーデンでBBQ交流会と豪華食材争奪チーム対抗戦を実施。クイズやゲームで学びと絆を深め、LOMを超えた交流を図りました。
公5	9月事業地域魅力発信事業 「知ろう！発信しよう！ 群馬の魅力」	群馬の「トロピカルフルーツ」を取材し、けーちゃん氏と共にInstagramで魅力を発信。講演や発表を通じ、効果的な情報発信を学びました。
他	第2回全体会議	2025年度にご排出いただいた12LOMへ感謝を伝え、出向メンバーを労い、運動報告と次年度への想いを共有しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
埼玉ブロック協議会	会長	小船 隆一 (越谷)

基本方針

LOM間の絆を深め支え合い、青年世代の力で地域を動かし、未来を創る人財を育成します。



総括

ブロック大会を最大の運動発信の場と位置づけ、LOM間の連携強化と人財育成を通じて、JC運動への理解促進、動機の確立、補完関係の構築を図り、各LOMが地域で主体的に運動を発信できる埼玉の創造を目指しました。全ての事業が欠かせない要素であり、総じて目的を達成できたと感じています。特にJCIアカデミーと連携した高校生育成事業では、多くの学生が参加し、国際的視野の拡大に寄りました。反省点としては、事業数を抑えたことで負担軽減はできたものの、通年事業をより高頻度で開催すべきです。

事業区分	事業名	事業内容
公1	部活動の地域移行と学びの場の創造 ～第11回JCカップ U-11サッカー埼玉県予選を通じて～	埼玉県で進む部活動の地域移行に伴い、指導者確保などの課題を踏まえ、JCカップや所沢大会、わんぱく相撲参加者を対象にアンケートを実施しました。JCカップには県内31チームが参加し、優勝チームは関東予選へ出場しました。
公1	未来を創造する青少年の育成 (JCIアカデミー2025連携)	本事業は、異文化体験を通じて日本人としてのアイデンティティと多様性理解を深めることを目的に実施。県内高校生通訳ボランティアが参加し、交流や協働を通じて国際的視野を広げました。
公1	未来創造プロジェクト～2Daysチャレンジ～	本事業では、社会課題に対し想像力とテクノロジーを活用して解決力を養いました。各班がAIで未来像を動画化し上映、企画書と発表シートを用いて発表を行いました。
公5	第55回埼玉ブロック大会所沢大会【本体】	第55回埼玉ブロック大会所沢大会では、「健幸」をテーマに世代を超えて健康意識を高める事業を実施し、所沢JCと連携して地域の魅力発信とパートナーシップ構築を行いました。
他	第55回埼玉ブロック大会所沢大会【大会式典】	来賓への感謝を含め、厳粛かつ参加しやすい式典を実施しました。多くの来賓にご臨席いただき、関係団体との繋がりを深め、生演奏により高揚感ある演出を行いました。
公5	第55回埼玉ブロック大会所沢大会【メインフォーラム】	企業の持続的成長には“人”の健やかさと幸福が不可欠との信念のもと、金融と科学の視点から次代の企業戦略を探り、挑戦の姿勢を共有しました。
公5	第56回埼玉ブロック大会所沢大会【対外向け広報の推進】	最大の運動発信の場である第55回埼玉ブロック所沢大会により多くの来場者を動員するために、時代や地域の特性を活かした広報を展開しました。
公5	【中期】ブロック大会でのリーダー育成塾「2025年度第5回リーダー育成塾」	リーダー育成塾【中期】では、活動動機の確立を継続し「困難を補い合い絆を醸成する」ことに注力。議論や成功体験を通じて仲間意識と前向きな感情を育みました。
他	埼玉県内のLOM並びにメンバー間の関係構築の推進	LOM間の関係構築のため、理事メンバーによるLOM訪問を実施。訪問を通じて文化や価値観、事業内容の違い・共通点を理解する機会を提供しました。
他	拡大と広報に関しての能力向上並びに絆構築の推進	各LOMの会員拡大状況を共有し、効果的な拡大・広報方法を学ぶ機会としました。同じ課題に取り組む仲間との交流を通じ、意欲向上と目標達成を目指しました。
他	埼玉県内の災害対策並びにネットワークの強化推進	関東地区29LOMが一体となり、南海トラフ地震を想定した災害対応訓練を実施。安否確認や物資流通の広域連携を体験し、講演者の話から現場課題や連携の重要性を学び、防災力向上に繋がりました。
他	2025 スタートアップセレモニー	埼玉ブロック協議会2025年度の運動方針を会長が紹介。委員会PR動画やランウェイでの説明、出向申込みブース設置、17社の企業協賛紹介を行いました。
他	2025年度公益社団法人日本青年会議所会頭訪問事業	第1部で各LOM理事長と会頭が課題や方向性を意見交換し、第2部では立食形式の交流会を通じて密接な関係を構築しました。
他	さよならブロック協議会の企画・運営・実施	青年会議所は単年度制のため、年次で得た経験や学びを次代へ継承することが重要であり、卒業生への感謝とその想いを受け継ぐ機会を設けました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援 (JCI Achieve)	日本本会とリーダー育成委員会が連携し、県内LOM副理事長予定者を対象にJCI Achieveプログラムを実施。理念理解度テストを行い、解答公開で理解度向上と検証を行いました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援 (JCI Impact)	LOMの事業構築に携わるメンバーにとって、JCIの運動の本質を改めて学ぶ貴重な場であるimpactを実施しました。
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用	事業参加者が委員長などの不安を払拭し、リーダーマインドを学ぶ内容を実施。「明日からJCを本気でやりたい」と思える機会とし、継続的なキャリアアップに繋がりました。
他	次代を牽引するリーダーの育成(前期)	リーダー育成委員会出向者を対象に、JCの意義や伝統を学び、誇りを持たせ、先輩後輩間の理解促進や本音で語れる場を提供し、絆の醸成と中期事業への足掛かりとしました。
他	次代を牽引するリーダーの育成(中期)	活動動機を確立し、「困難を補い合い絆を醸成」を目標に、JCでの役割体験や議論・成功体験を通じ、仲間との絆と前向きな感情を育みました。
他	次代を牽引するリーダーの育成(後期)	後期では、目的の言語化、提案・対話・合意形成、実行計画作成を通じ、仲間と目的を共有しリーダーとしての姿勢と行動力を育みました。
他	次代を牽引するリーダーの育成(閉校式)	本年度の成長についてメンバーが自己分析のうえ報告し、実行されたことが自分たちに与えた効果を明確にしました。
他	現代に合った政経塾の実施	現代に求められている政治、経済の要素を学ぶ政経塾を実施し、平大臣をお招きし講演、ディスカッションを行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
千葉ブロック協議会	会長	齋藤 隼 (松戸)

### 基本方針

絆の力で 共に輝く 笑顔あふれる千葉の創造。



#### 総括

「絆の力で共に輝く笑顔あふれる千葉の創造」の基本方針のもと、特に会員拡大とアカデミー支援の充実に注力し、県内24LOMの運動基盤強化を図りました。各LOMを直接訪問し、拡大に関する課題を共有しながら、オブザーバー獲得やクロージング支援を行うことで、会員の純増と拡大意識の向上を実現しました。また、ブロックアカデミーでは、入会間もないメンバーが共通の価値観を学び、JC運動の意義を理解しながら地域の未来を担うリーダーへと成長する機会を創出しました。これらの取り組みを通じ、県内のメンバー一人ひとりが互いの強みをいかし合い、誰もが輝き笑顔あふれる千葉の創造へと繋がる一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	千葉ブロック協議会2025年度賀詞交歓会	2025年度の基本方針、事業計画を発信するとともに、千葉県内24LOMの方途を互いに共有することで、年始より千葉県全体としての有機的な繋がりを一層強くすることができました。
他	理念共感拡大事業「理念を武器に！自分が誇れるJC活動やJC運動が拡大につながる!!」	講師として会員拡大委員会委員長の上田君をお招きし、理念共感拡大の必要性、具体的な拡大手法や拡大に対する意識や気持ちのありかたについても理解を深め、拡大及び退会防止の意識を共有することで、会員数純増への意識向上へと繋がりました。
他	ブロックアカデミー事業「JCの理念と私の理念～共通点の発見が、活動の原動力を生む!～」	日本JC公認プログラムPurposeを開催することによって、自身のこれまでに積み上げてきた価値観とJCの理念の共通点を見つけ、自らがJC活動を通してどのように社会に貢献していくのかを考え、成長していく機会を提供しました。
他	外口会頭公式訪問	私たちが日頃展開しているJC運動を、さらに高い次元へと昇華させるために、外口会頭と千葉県内24LOMの理事長による意見交換会を開催し、会頭からはこれまでの豊富なご経験や実践に基づくお話を伺い、リーダーとしての資質や心構えを学ぶ貴重な機会となりました。
公4	主権者意識醸成事業「あなたの一票で描く未来～私たちの暮らしと政治のつながりを考えよう～」	主権者意識向上委員会委員長金本君をお招きし、高校生が政治や選挙の仕組みを正しく理解し、模擬投票などの体験を通して、投票行動への心理的ハードルを下げ、実際の選挙への参加意欲を促すとともに主権者としての意識が向上しました。
他	ブロックアカデミー事業「JC SUCCESS ROUTES～ビジネス成功への道～」	関東地区協議会会長渋谷巧君にご講演をいただき、JC活動が地域や社会だけでなく、ビジネスなどの身近な事柄の発展にもどのように寄与するかを学び、JC活動に対する意欲向上を目的とした事業を開催しました。
公1	第11回JCカップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会	次世代を担う子どもたちが勝ち負けではないグッドリーダーの精神を通じて挑戦に対する健全な姿勢や強く前向きな心学び、地域間交流の中で協調性や思いやりを育むことで地域社会の発展に寄与するリーダーシップの開発を目的に開催しました。
他	LOM間交流事業C-1グランプリ～カレーの力で千葉をひとつに～	JC活動の魅力と交流の意義を体感していただくとともに、LOMの枠を超えた県内会員との交流を通じて組織の一体感を醸成し、新たな仲間との出会いを創出することができたことで特に入会間もないメンバーのモチベーション向上に繋がりました。
公5	第58回千葉ブロック大会・浦安大会市民参加型事業 CHIBA☆FESTIVAL in浦安	本大会を通して、開催地および千葉県内各地の食や文化、観光資源など地域の魅力を再発掘し、その価値を県内外へ発信することで、観光地としてのモデルケースを提案し、誰もが訪れたい「観光県千葉」の実現に寄与する機会となりました。
他	第58回千葉ブロック大会・浦安大会 式典	関係諸団体のご来賓や歴代会長をはじめ多くの先輩方がご出席される中、メンバーの心を1つにして、千葉ブロック協議会の系譜を次年度に引き継ぐことができ、千葉の絆を深める意義深い式典を開催しました。
公5	「ちばリデザイン～未活用資源で描く新たな地域価値～」	持続可能な地域開発委員会委員長の中村君をお招きし、観光振興や経済発展に大きく貢献できる多様な眠れる地域資源を効果的に活用するための戦略とアプローチについて県内に発信いたしました。
公6	「子育て世代に届け!デジタル技術が生み出す明るい地域社会の構築!」	多様化する社会において、現代では非常に身近にあるデジタル技術が市民一人ひとりの所得向上に繋がる可能性を発信することで、安心して子どもを育てられる環境づくりへの理解と意識を深めることを目的として事業を展開いたしました。
他	逆出向を通じたアカデミーの支援	千葉県内24LOMが定期的に入会説明会を実施できる環境を整え、早期から新規入会メンバーがJCの理念に共感し、JCでのキャリアデザインを描けるようにしていくために、県内24LOMを年間通して訪問しました。
他	会員拡大支援の推進計画	県内24LOMすべてが会員数純増を達成できるように、年間通じた拡大支援を実施しました。会員協議会協議での拡大会議のみならず、LOM訪問によるオブザーバー獲得やクロージング対応など多角的な拡大支援を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
東京ブロック協議会	会長	林 慎一郎（調布）

## 基本方針

挑戦と融合が生み出す、世界をリードする東京の創造。



## 総括

年間を通し、数多くの事業を開催することができました。東京ブロック協議会役員のみならず、東京都内24LOM1300名のメンバーがALL TOKYOで挑戦してきた結果だと思っています。本年度は、Push the limit!!～その一歩が、新たな未来を切り開く～をスローガンに、一人ひとりの限界を押し上げることのできる一年を目指してまいりました。海外デリゲイツを招いてのホームステイ事業や、過去最高のALL TOKYOブロック大会の開催など東京ブロック協議会に新たな風を起こせたと自負しております。これからもLOMとは違った挑戦の場として、東京ブロック協議会の発展を心から願っています。

事業区分	事業名	事業内容
他	TBC Grand Ceremony 2025	「情熱を持ち、挑戦していく」という2025年度の東京ブロック協議会の運動方針を理解し共感してもらい、共に運動創出していく機運を醸成する場を設け、会長所信と委員会紹介を中心に実施しました。
他	挑戦的なブランディングの確立	ALL TOKYOのブランドをより多くの各LOMメンバーにまで浸透させることと、対外的により多くの都民にJCの存在を発信し認知度を上げることを目的にSNS等を活用し各LOM事業の紹介の発信等を実施しました。
他	アカデミー第1回全体委員会「開校式～そうだ、アカデミーへ行こう～」	OBの歴代委員長を講師として招き、自らの目標を思い出してもらい、能動的に活動する意欲をもってもらおう開校式を実施しました。
他	姉妹LOM締結推進セミナー	海外LOMと姉妹締結しているLOMが少ないため、各LOMに出向き推進セミナーを実施することで、国際交流事業への関心を高めることができました。
他	LOM支援の年間推進	直接的かつ技術的なLOM支援、24LOMを3エリアに分けてのエリア会議の定期的な開催、LOMサポート逆出向制度の導入および推進によって各LOMへの支援を実施しました。
他	東京ブロック協議会2025年度褒賞額策定	各LOMの運動におけるモチベーションの向上とチームワークの強化を目的として、新たなLOM事業賞をはじめとする褒賞項目をつくり事業内容の共有をはかりました。
他	京都会議ブロックナイト	ブロック内全メンバーを対象に懇親の機会を創出し、近年での最高動員数を記録しLOMの垣根を超えた交流を生み出しました。
他	アカデミー第2回全体委員会「答えは、理念の中にある」	塾生が理念（VMV）の重要性を理解し、JCの理念を覚えることを目的に日本青年会議所の認定トレーナーによるVMVセミナーを実施し、個人のMVVの発表及び、各塾のMVV作成を行いました。
他	第1回交流事業 -THE GAME	テレビドラママイカゲーム」をモチーフにし、全4種目の交流ゲームを実施しました。LOMや委員会混合のチーム編成を行ったことによって、全員が楽しみながら積極的に参加し、絆を深める環境をつくることが出来ました。
他	アカデミー第3回全体委員会「きっと、対話もうまくいく」	外部講師より「対話において自己肯定感が果たす役割」について、日本青年会議所監事を講師に「共感を生む対話」について講義とグループワークを実施し、塾生が実践的に対話の重要性を理解することができました。
他	2025年度東京ブロック協議会 TBC野球大会	野球大会を通じた交流を行い、LOMでのチームワークの向上と東京ブロック協議会の仲間達との友情を育み楽しんでもらう機会を提供することができました。
他	東京都商工会青年部連合会とのパートナーシップ協定の締結	東京都商工会青年部連合会と協力的な社会問題に対応するためのパートナーシップ協定を締結しました。
他	ASPAC東京ブロック推奨ツアー・合同LOMナイト	ASPACウランバトル大会への参加動員を目的にパッケージツアーを企画実施しました。また参加メンバーが一室に会し交流できる懇親の場を設けました。
公7	ASPAC(モゴル)におけるブース出展	ジャパンナイトにおいて東京のサブカルであるメイドカフェをコンセプトに、日本の代表的な駄菓子であるうまい棒と都内10箇所の酒造の日本酒を提供するブースを出展し、ASPACエリアメンバーとの交流を行いました。
他	認知度アップに向けたロゴブランディング	ALLTOKYOというブランドをより多くの東京中のメンバーに浸透させる目的で東京ブロック協議会のロゴマークを作成し、様々な媒体を通して発信しました。
公7	第54回ALLTOKYOブロック大会 国分寺大会 日本と世界が交差する旅へ～言葉の壁を超えて～	ブロック大会にて、異文化理解を深めるための外国の文化ブース出展、伝統行事に欠かせないお神輿体験、日本の文化であるゴミ拾いのパフォーマンス、浴衣の着付け体験等を実施しました。
公2	第54回ALLTOKYOブロック大会 国分寺大会 「未来へ手紙を書こう! Challenge to change」	ブロック大会のメインステージにて、元サッカー日本代表の柏木陽介氏による「挑戦」をテーマにした講演と、5年後に届く自分への手紙を書くハガキのタイムカプセル事業を実施しました。
公5	第54回ALLTOKYOブロック大会国分寺大会 広報事業	新たな取り組みとして、開催地の国分寺の魅力を毎週発信しました。ハッシュタグ投稿とフォローによって大抽選会参加のポイントがもらえるハッシュタグフォローキャンペーンも実施しました。
公1	第54回ALLTOKYOブロック大会 国分寺大会 「国分寺タイムトラベル～過去と未来が交差する旅へ～」 メイン事業	「歴史と未来の新天地へいざ出陣!!」を大会テーマに、戦チャンバラ合戦、ふんじマイクラ体験、甲冑コスプレと3Dスキャン体験を実施しました。また「人生一回～限界を超える挑戦する心～」をテーマにK1世界王者である魔裟斗氏に講演もいただきました。
他	第54回ALLTOKYOブロック大会 国分寺大会 大会式典	JC運動を進めていく機運とすることを目的に、今年度は国分寺市内の囃子達とAI生成プロジェクションのコラボレーションのオープニングアクトを行い、歴代ブロック会長・ブロック大会紹介映像上映、大会健闘伝達式等を実施しました。
公1	JCカップ東京都大会	スポーツを通じて他者への思いやる心、勝ち負け関係なくリスペクトする事の出来る感受性のある心をつけることを目的に実施し、過去最高チーム数である20チームが参加する大会となりました。
他	アカデミー第4回全体委員会 「JUST DO IT.行動するリーダーになろう」	東京都の理想の街づくりをテーマに、未来志向の街の構想を発表する実践型プログラムを実施しました。調査として関西・大阪万博を視察し、東西アカデミー交流会として、大阪ブロック協議会の役員をはじめアカデミー生との交流も行いました。
他	アカデミー第5回全体委員会「伝わるって、楽しい」	JCにおける合意形成に必要な力を養うことを目的として、各塾で作成した議案を模擬理事会で上程し各LOM理事長から意見ももらいました。また議案記載の事業を各塾で実際に実施しました。
他	第2回交流事業-THE BBQの陣 2025-	24LOMすべてのメンバーに加え、ご家族や今月初の試みであるパートナーシップを結ぶ東京都商工会青年部連合会の役員の皆様にもご参加いただける大懇親バーベキュー大会を実施し交流の機会となりました。
他	アカデミー第6回全体委員会 開校式～自己投資の旅～	これまでの活動を振り返り、自己の成長を実感することで、JC運動への参加意欲を高めることを目的に、塾生により各塾の事業実施報告とこれまでの活動に対しての表彰式を行いました。
公7	ホームステイ事業～ALL TOKYO国際交流! おもてなし～	1週間各LOMメンバーがホストファミリーとして海外LOMのメンバーを受け入れ、各国の料理と一緒に料理をするウェルカムパーティー、各LOM主導で企画する各地ツアー、フェアウェルパーティー等を実施し、すべてのLOMに国際事業に参れる機会を提供しました。
他	2026年度理事長・専務候補者セミナー	公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、東京ブロック協議会で行う運動とLOM支援について理解していただくことを目的に第一部はセミナー、第二部は交流会を開催しました。
他	第55回ALLTOKYOブロック大会 意見交換会	当年度主管LOM、次年度主管LOM、主催の東京ブロック協議会の3団体のメンバーが参加し、当年度のブロック大会の説明と質疑応答、その後次年度主管LOMが大会概要説明し質疑応答を行う意見交換会を実施しました。
他	さよならブロック2025	本年度の活動を総括し、次年度以降も東京ブロック協議会への参加意欲を高めることを目的に、年間事業報告と褒賞の発表、メンバーからの送辞、卒業生からの答辞を行い2025年度の事業を締めくくりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山梨ブロック協議会	会長	古屋 翔太 (山梨)

基本方針

山梨県内11LOMが連携し地域課題の解決と人材育成を通じて、変化を恐れず挑戦する山梨を創造する。



総括

2025年度、山梨ブロック協議会は「熱い鼓動の共鳴 その情熱が山梨の光となる」をスローガンに掲げ、11LOMの連携を強化しながら各地域の課題解決と人材育成に取り組みました。広報の一体化により発信力を高め、会員拡大では理念浸透を軸に若手層へのアプローチを推進。政治やスポーツを通じた社会参画意識の醸成、地域資源の発掘による新たな価値創造にも挑戦しました。富士五湖地域でのブロック大会をはじめ、多角的な視点で地域をつなぎ、自然や資源や人の情熱が共鳴し、山梨全体が一つとなって輝く未来をつくり、熱い情熱を共鳴させた一年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	広報活動の推進	山梨県内11LOMと連携し、ホームページ・Instagram・YouTubeを活用して青年会議所活動の魅力継続的に発信することで、情報共有体制を強化し、発信力と認知度を高め、ブランドイメージの向上を図ることができました。
他	会員拡大の推進及び支援	山梨県内11LOMの拡大担当者と連携し、統一拡大リストで進捗を共有。他地域の成功事例を活用し、情報交換と意識向上を図り、多様な人材確保と地域に信頼される組織づくりを推進することができました。
他	賀詞交歓会	厳粛な式典と賀詞交歓会を開催し、会長挨拶で基本理念・方針を共有。各委員会と11LOMが運動方針を発表し、一体感と理解を深めました。電子パンフレットや映像配信を活用し、参加できなかった会員にも情報を周知。来賓との交流を通じて結束と意欲を高め、2025年度運動の力強い始動を実現する機会となりました。
他	会員拡大事業	アカデミー会員を対象に名刺交換会と講師によるセミナーを実施し、JCの理念や意義を深く学ぶ機会を提供しました。交流と学びを通じて参画意識とモチベーションを高め、地域社会での影響力向上を図ることができました。
他	LOM連携事業	県内11LOMの垣根を越えた交流を目的にJC大運動会を開催。チーム戦による多様な競技を通じて親交と団結力を深め、会員同士の絆を強化しました。名刺交換会やMVP表彰を設け、参加意識を高めるとともに、託児所を設置し家族連れでも参加しやすい環境を整備。安全管理体制も徹底し、全員が安心して楽しめる交流事業とすることができました。
公1	U11少年少女サッカー 全国大会山梨県予選大会	次世代を担う子どもたちに、スポーツを通じて協調性・連帯感・思いやりを育む機会を提供するため、JCカップ山梨県予選大会を開催しました。勝敗を超えて相手を称え合う心を育て、地域全体が子どもたちを応援し支える一体感を醸成し、地域や保護者から信頼される意義ある大会を実施いたしました。
公4	政治を身近にする当事者意識向上事業	参議院議員選挙に合わせ、候補者を招いた公開討論会を開催。政策本位の政治選択を促し、県民の主権者意識を高める機会となりました。SNSやメディアで広報を行い、幅広い世代の参加を促進。討論会の録画配信やアンケートにより、政治を身近に感じる環境を創出することができました。
公2	山梨ブロック大会	若者が山梨の魅力や可能性を再発見し、地域への誇りと関わる意欲を育むことを目的に、富士五湖地域でブロック大会を開催しました。高校生や子どもたちが参加できる体験型企画やアンバサダーコンテストを実施し、次世代育成と地域活性化を推進。SNS発信や動画制作を通じて県内外へ山梨の魅力を広く発信し、青年会議所活動の認知と共感を高める機会となりました。
他	多角的な視点からなる 地域活性化事業	峡南青年会議所を支援対象とし、地域の魅力と課題を体感するショートツーリズムを実施。南山梨の自然・文化・人との交流を通じて地域愛と主体性を育み、会員の実践力を強化しました。事業を通じて得た意見を県機関と共有し、地域ブランド創出と持続可能なまちづくりに繋げる機会を作ることができました。
他	褒賞アワード2025	各LOMの優れた事業や拡大の成果を共有・表彰する褒賞アワードを開催。会員の努力を称え合うことで活動意欲と一体感を高め、次年度への成長と連携強化を図りました。審査体制や発表形式を改善し、公平性と魅力ある表彰事業として発展させ、山梨ブロック全体の質の向上と結束を促進することができました。
他	ありがとうブロック	2025年度の活動を総括し、支えてくれた関係者や卒業生へ感謝を伝えるため、映像や褒賞発表で一年を振り返り、卒業生からのメッセージを後輩へ継承。次年度理事長紹介と世代間交流の場を設け、感謝とともに新たな決意を共有し、山梨ブロックの想いを未来へ繋げることができました。



出典元:山梨新聞 2025年9月6日



出典元:山梨新聞 2025年1月30日



会議・委員会名	役職名	担当者名
神奈川ブロック協議会	会長	大黒 健司 (横須賀)

基本方針

人と人との繋がりで創出する輝く人財が地域に溢れることで、地域課題が解決され地域が輝き、神奈川から理想の未来を創造します。



総括

本年は数字に関してかなり高いノルマ意識を持って各事業に取り組みました。具体的な成功事例は年6回のメンバー交流会と3回のオブザーバー交流会において総参加者数は1,300人を超え、神奈川の横の繋がりを強固なものにしました。またSNSのフォロワー数は年初1,200人でありましたが10月末時点で6,200人まで増加しており、次年度以降の発信力の強化に繋がりました。そして9月に開催させていただいたブロック大会では2日間開催延べ20,000人を超える参加者を動員することができ、神奈川ブロック協議会の運動を最大限発信できたと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公1	神奈川ハイスクール議会2025	神奈川県内の高校生105名(議席数)を公募し、8月の3日間に渡り、神奈川県議会にて各々の作成した政策を県知事に直接提言するという若者の政治参画意識の向上の一助となる事業を実施しました。
公1	JCカップ神奈川チーム選抜	日産カップと提携させていただき、2月に行われた4年生の部の優勝チームの副賞として関東地区大会の出場権を付与する形で取り組みました。相互のブランディングに寄与できる事業になりました。
公2	県内総合学習アワード	県内の総合学習の時間で取り組まれている授業に対し有識者を交えアワードとして教師を表彰し、その活動や内容を広く伝播することで教師のみならず教育の質の向上に寄与することが出来ました。
公5	神奈川ブロック大会厚木大会	各種フォーラムやセミナーを通じて、神奈川ブロック協議会の運動を最大限発信するとともに、地域の魅力を神奈川に伝えるべく主管LOMと共に開催いたしました。2日間を通じて20,000人を超えるメンバーと市民に参加いただきました。
公7	ASPAC神奈川ブース出展	ASPACモンゴル大会のジャパンナイトの際に、神奈川の魅力を発信できるブースを出展いたしました。クイズ形式で神奈川の魅力を発信しつつ、訪れてみたいと思っていただけるガイドマップや土産品を配布いたしました。
他	神奈川アカデミー2025	アカデミー生を対象としたメンバー育成事業で、2日間の合宿形式であしがら青年会議所主管のもと開催させていただきました。本会歴代役員やアート思考といった議案構築に関わる基礎知識だけでなくメンバー同士の交流も図り、JC活動に対する気概を高めました。
他	メンバー交流並びにオブザーバー交流事業	年間計9回のメンバー交流とオブザーバー交流事業を開催させていただき、地域毎に特色を持った内容で座学に近いものもあれば家族を呼んで一緒に交流ができる内容のものもあり、飽きることなく回数を重ねて延べ1,300人を超える参加者となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
静岡ブロック協議会	会長	大川 皓平（沼津）

### 基本方針

機会の最大化で発展への希望にあふれるLOMと地域の未来を創造する。



### 総括

一番身近な出向先であるブロック協議会を通じ、メンバーが1年間で触れることのできる成長と発展の機会を最大化させることで地域とLOMの発展に繋げることを運営面、事業双方において意識し活動を行いました。機会創出という点においてはASPACにてブロック協議会ブースを出展することにより、これまで海外での事業に参加したことの無い多くのメンバーの参加に繋げることができました。また、多くの事業において目標を超える参加者を集めることができたことも、LOMやメンバーのニーズを反映し時流を捉えた事業を行うことができたことの証左だと感じています。

事業区分	事業名	事業内容
公2	ポジティブ足りてる？ SNS黄金時代の今こそ考える戦略的SNS活用	実業家であり、SNS 総フォロワー数 260 万人を超えるインフルエンサーとして活躍する春木開氏を講師としてお招きし、戦略的にSNSを使用してブランディングを図るための考え方や実践的なノウハウを学びました。
他	AIはJCを救うのか？ ～AI技術の解説と事業構築への応用～	AIキャンプを主催する中村俊也氏を講師に迎え、今後必須になってくるAIの知識、実践的な使用方法を学びました。また、議案書等における文書作成、資料作成においてAIを活用することができるのかプロンプト例を教わりながら試行しました。
公2	自己哲学の探求 ～心の羅針盤～	ビジネスを行っていく上で訪れる様々な経営判断、意思決定に対し自信を持ち一貫性のある判断を行っていくために、自らの経験、価値観を基にした自己哲学を確立し、それを自社のビジネスに役立てる為の手法を学びました。
公7	JCIアジア太平洋地域会議におけるブース出展事業	国際の機会に触れることが少ないメンバーに国際の機会を提供するとともに、ASPACの現地参加を推進するため、ジャパンナイトにてブース出展を行いました。ブースでは静岡茶と静岡県内の名産品を提供し、各国メンバーに静岡の魅力をPRしました。
公2	VUCA時代を帆走するビジネスの舵取り ～時流を捉える航海図を作ろう～	総合マーケティング会社での商品開発・販促企画のアイデア創出、ロコミマーケティングの企画・施策実行支援を行われてきた舟久保電氏を講師にお招きし、経営戦略を立てるために必須である最新のトレンドとそこから予想される未来について学びました。
公5	第58回静岡ブロック大会	県内19のLOM、その活動等、地域の方たちに青年会議所について知り、理解していただく場として第58回静岡ブロック大会を開催しました。
公1	ブロック大会 静岡っていいとこだら！ だもんで作らまい！しずおかパネル！	来場いただいた子ども達に自らの地域への関心と誇りを持ってもらうべく、それぞれの地域の魅力を描いた扇を作成いただきました。また作成した扇の写真を静岡県の形に貼り付けたパネルを作成しました。
公1	ブロック大会 Shizuoka Sports Square	来場いただいた子ども達に県内各地に存在するプロスポーツチームについて知っていただくため、県内14のチーム、団体に協力をいただき体験ブースの設置、パネル展示を行いました。
公7	ブロック大会 国際交流ブース	国際の機会に触れることの少ないメンバーに、ブロック大会においてその機会に触れていただくべく海外LOMやJETRO、SIBAをお招きし交流ブースを設置しました。また、来場された一般の方に対し青年会議所の国際的な側面を理解していただく展示を行いました。
公2	ブロック大会 動き出す未来航路 ～AIと共に描くビジネス地図～	TOKYO EPIC代表の和田亮一氏を講師に、動画生成AI「Vido」を使用したアニメーション作成体験を通じAI技術等の最新技術に対する抵抗感をやわらげるとともに、株式会社サンロフト協力の下ビジネスへのAI、DX導入の具体例、導入方法を学ぶ事業を行いました。
公5	ブロック大会 静岡大博覧会2025	来場された方たちに静岡県内各地の魅力的なものや場所、活躍している方たちを知っていただくため展示ブース、体験ブース、飲食ブース、ステージイベント等にて合計27の個人、団体に出演、出演をいただきました。
公5	ブロック大会 JCミュージアム	ご来場いただいた一般の方に青年会議所の活動、運動を理解いただくため、会場内各所にパネル展示を行いました。
他	アカデミー委員会年間育成方針事業	各LOMより輩出されたアカデミー生を次代の青年会議所運動を牽引する人材へと育成するべく、年間を通じた研修育成計画を作成し実施しました。
他	年間広報計画	SNSを使った戦略的な広報を行うべく年間広報計画を策定しました。各LOMが行っている情報発信を、ブロック協議会のアカウントをハブとして機能させることで、さらに大きな広がりを持たせることができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
愛知ブロック協議会	会長	平野 伸弥 (海部津島)

## 基本方針

BIG CHALLENGEが切り拓く可能性あふれる愛知の創造。



## 総括

2025年度の愛知ブロック協議会は、BIG CHALLENGEをスローガンに掲げ、自己成長、社業の発展、地域をより良くするためにJCを使って果敢に挑戦することをメンバーに訴えてきました。また、各LOMに寄り添う存在として、いかにLOMにブロック協議会を使ってもらえるかを意識して構築した一年でした。その想いのもとLOM支援委員会を設置したことによって、非常に多くのLOMに支援をさせていただくことができました。2025年度の取り組みによって、ブロック協議会を活用する文化が各LOMに芽生えたと感じています。次年度以降も愛知ブロック協議会はLOMの挑戦を後押しする土台として機能し続けることを確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
他	名古屋会議	2025年度の愛知ブロック協議会の運動のスタートとして、式典、メインフォーラム、各委員会を開催しました。
他	名古屋会議メインフォーラム	メンバーの活動意欲を高めるために、京丹後JCのOBである榎田啓先輩をお呼びし、講演をいただきました。また、2025年度のLOM支援について寸劇を交えた方針説明をさせていただきました。
他	LOMに寄り添った総合的支援の推進	各LOMの課題解決に向けて、直接的且つ包括的支援として、LOMに入り込んだ支援を実施しました。結果20LOM以上に支援を行い、愛知ブロック協議会を例年以上に活用していただくことができました。
公1	平和意識を醸成する事業	地域に残る戦争の歴史紹介や平和意識を醸成するデジタル紙芝居を発信するInstagramを開設しました。また、Instagramのアイコンとなるキャラクターを青少年から公募し平和について考えるきっかけを作る運動を展開しました。
公7	Myanmar Coffee OMIYAGE project	貧困に陥っているミャンマーのコーヒー農家の収入を向上させるために、JCIミャンマーと協働して、コーヒー豆の収穫から焙煎、パッケージングまでの6次産業化を推進する事業を行い、実際に商品化まですることができました。
他	2025年度ブロックアカデミー	ブロックアカデミー委員会では、本年度も5名の塾長のもと、塾会議などの運営を通して、常にポジティブな人材の育成をしました。
他	青年会議所への共感を生むブランディング推進事業	愛知ブロック協議会のブランディングのブランディングとして、愛知ブロック協議会オリジナルキャラクター「あいやもん」を誕生させ、SNSでの発信はもちろんのこと、地域の企業とコラボレーションして商品開発を行い販売することができました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー全国大会	JCカップを開催し、他者を思いやりポジティブな青少年の育成を行いました。
公7	JCIアジア太平洋エリア会議(ASPAC)におけるブース出展	書道体験を通じて、国際交流を行うことができるブースを出展しました。
公5	第58回愛知ブロック大会小牧大会	愛知ブロック協議会の最大の運動発信と、次年度への引継ぎの場として、「Fly High! 挑戦のその先へ! ~夢と歴史のジャンクション、小牧から~」のスローガンのもと、第58回愛知ブロック大会小牧大会を開催しました。
公5	第58回愛知ブロック大会メインフォーラム	戦後80年を迎え、平和であることが当たり前になっている中で、平和であることが決して当たり前ではないこと、平和であり続けるためにどのようなアクションをしなければならないのかをテーマに、AK-69氏をお招きしてフォーラムを開催しました。
他	第58回愛知ブロック大会~JC大相談会~	次年度への引継ぎの場でもあるブロック大会にて、次年度の要職を担うメンバーを対象に大相談会を開催させていただきました。
他	第58回愛知ブロック大会褒賞事業 AWARDS AICHI 2025	AWARDS AICHI 2025では、1LOM1エントリーしかできないという規制を設けるとともに、メンバーより事業のプレゼンテーションを行っていただき、投票によってグランプリを選定しました。
公7	JCI世界会議におけるブース出展	Myanmar Coffee OMIYAGE projectによって商品化したコーヒーを提供し、愛知ブロック協議会が行ってきた事業についてPRとスポンサーの募集を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
岐阜ブロック協議会	会長	中川 雅貴 (下呂)

**基本方針**

各地のリソースを最大限有効活用した運動を発信することで人の動きを活性化させ、住民の希望があふれる未来を創造します。



**総括**

ブロック協議会がブロック内全LOMと例年以上の深いかかわりをもつことで、協議会を知らないからその嫌悪感や不信感がある程度払拭し、協議会とLOMの距離を近づけることができたと考えます。また、先記の動きにより入会3年未満の会員や、LOM内でくすぶっている会員に協議会への興味を抱いていただくことで、機会を提供し易い環境が整い、各事業への参加率向上を図ることができました。本年度の挑戦として、ブロック大会に外国人を招く動きを取りましたが、大変良い挑戦であったと考えます。今後も従来のターゲットや手法とは一味も二味も異なった挑戦を続けていくことで新たな潮流を生む協議会であることを期待します。

事業区分	事業名	事業内容
他	関係諸団体との互いに強みを生かした防災・疾病支援ネットワークの構築事業(組織連携推進会議)	有事の際に迅速な支援活動を行うことができるようにするため、防災・疾病ネットワークの構築を推進し、関係諸団体との連携を強化するために岐阜会議にて岐阜ブロック協議会と県内17LOM間で災害協定を締結しました。
公4	選挙における各種討論会の実施・支援(組織連携推進会議)	県民に対し、県政に興味関心をもっていただくきっかけを創出するため、岐阜県知事選に際する公開討論会を現地及びWeb配信にて実施しました。
公1	JCカップU-11少年少女岐阜ブロックサッカー大会(組織連携推進会議)	人と人との交流を通して子供たちの心身の発達に寄与し、他者を思いやる心と強靱な精神力を兼ね備えた人材の育成を目的として岐阜ブロックサッカー大会を開催しました。
他	岐阜会議の開催(組織連携推進会議)	岐阜会議において、運動方針や各LOMの基本方針等を広く理解していただくことで、岐阜ブロック協議会全体の士気を高め、運動や会員拡大にさらなる勢いをつけることを目的として開催しました。
他	選挙における各種討論会の実施・支援(組織連携推進会議)	地域のリーダーである我々JAYCEEが先導者となり、国政や地方政治に対する関心を高め、当事者意識をもつきっかけとなる機会の提供や支援が必要であるため、公開討論会の開催支援を行いました。
他	会員拡大セミナー(アカデミー委員会)	各LOMが個の力ではなく、組織として会員拡大を成功させるために会員拡大における組織論を学び、多くのメンバーを会員拡大に巻き込む力を高めていただくための事業を開催しました。
他	会員拡大の推進及び支援(アカデミー委員会)	各LOMの拡大状況の現状把握をし、拡大セミナーを開催しました。最後に岐阜ブロック大会内にて拡大アワードを開催させていただき、優秀LOMを表彰させていただくことでLOMとして目標になる場を設かせていただきました。
他	岐阜ブロックアカデミー2025(アカデミー委員会)	入会3年未満、かつ過去ブロックアカデミー未受講者を対象に開催しました。本年度は3部構成で、JCセミナー、JCプログラムを実施、ブロックオリジナルとしては受講者で協力し模擬議案を作成する事業を開催しました。
公5	第66回岐阜ブロック大会2025公益事業(岐阜ブロック大会2025実行委員会)	岐阜県内外から約1,700名にご参加いただき、メインコンテンツである岐阜県各地の芸能文化、飲食を中心に子供から大人まで楽しみながら、岐阜県各地の魅力を体験いただきました。
他	第66回岐阜ブロック大会2025共益事業(岐阜ブロック大会2025実行委員会)	岐阜ブロック協議会の志を継承するため、本年度の理事長及びブロック協議会役員紹介や岐阜ブロック協議会の事業報告と卒業式を行いました。
他	活動方針の理解共有のための事業(岐阜ブロック大会2025実行委員会)	岐阜ブロック協議会の活動方針を理解し、岐阜県内各地のLOMメンバーが、岐阜ブロック協議会の事業に関わる意識を高めることを目的として岐阜会議内で会長から活動方針を説明し、理事長の皆様から各LOM活動方針を説明して頂きました。
他	HP、SNSの管理・運用(事務局)	HP、SNSを活用して、岐阜ブロック協議会及び各LOMの活動内容や地域の魅力についての情報発信を行いました。
他	日本JC、東海DCとの諸事業の連携・推進(事務局)	京都会議、東海コンファレンス、サマーコンファレンス、全国大会、ASPAC、世界会議の事業において、岐阜ブロック協議会として推進を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
三重ブロック協議会	会長	森下 巧麻 (鳥羽)

## 基本方針

事業を通じて人材育成、地域資源の活用を行い、挑戦心をもって行動する人材が増えることで笑顔に満ちあふれた三重を創造します。



## 総括

本年度は経験・知識が相対的に少ない役員体制でのスタートとなり、事業議案に係る会議は増加し役員にとって挑戦の多い一年となりました。これらの挑戦、事業構築で得た学び以上のものを会員各位へ還元することを最重要事項として取り組みました。その結果、全事業の参加者数は三重ブロック協議会会員数の3分の1を超え、一定の成果を収めるとともに、共同実施を通じて各LOM間の繋がりは一層強固になりました。なお、さらなる参加拡大の余地があることから、次年度は学びの質・量を一段と高めた事業構築を求めます。結びに、各LOM理事長をはじめ会員各位のご協力、ご支援により5つの柱事業を成し得たことに深く感謝申し上げます。

事業区分	事業名	事業内容
公2	利他の精神で三重に笑顔をもたらす事業	「想いやりがつながり、広がる」をテーマに、参加者全員が「想いやり」を体験・発信できる事業です。三重県内外から鈴鹿弁天山公園に集結した全員が「利他の精神」を学び、共有できる場として「想いやり」が広がる事業となりました。
公5	第55回三重ブロック大会の広報事業	第55回三重ブロック大会の運動の方向性を発信し、今後の運動に対する理解を得て、各LOM会員においてはブロック大会への当事者意識を高め、対外参加者においてはそれぞれの地域の魅力を集結したブロック大会への参加意欲を高める事業となりました。
公5	第55回三重ブロック大会地域事業	三重ブロック協議会の運動発信の場という役割を超えて、各地域が育んできた魅力を発信し、多様な出会いから新たな繋がりを生み出します。各LOMの社会開発運動の推進力を高め運動を展開することで、地域全体の希望あふれる「未来」へ繋がる事業となりました。
他	第55回三重ブロック大会式典・卒業式	式典は三重ブロック協議会で得た学びを共有し、卒業式は現役が卒業生の想いを受け継ぎ、卒業生は培った想いを確固たるものとし今後の活動の礎とすることを目的とし、地域とLOMに成果を還元し次代のリーダー育成に繋げる事業となりました。
他	スポーツ大会事業	三重県内各地会会員会議所の正会員を対象としてスポーツ大会を開催し、今後の青年会議所の中で生き生きと魅力あふれる活動に取り組むために、LOMの枠を超えた三重ブロック全体の相互理解を深め、団結力をより高める事業となりました。
他	人材育成における合宿の企画・実施	普段味わえない経験をして強固な絆で結ばれた挑戦心を持ったリーダーになるために、各LOMの垣根を超えたメンバーと協力しながら多角的な視点で良いリーダーとしての資質を磨き、その学びを地域やLOMで活用できる実践的な事業となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
福井ブロック協議会	会長	山崎 侑 (武生)

**基本方針**

多様化する課題やニーズについて青年会議所のリーダーが共通の理念を持って地域と共創し、変えたのだと誇れる福井を実現します。



**総括**

福井ブロック協議会は2月の第一回全体会議にて本年度の運動の方向性周知、8月のブロック大会にて事業成果発表、10月の第二回全体会議にて総括と引継ぎという建付を持って運動を展開しました。日本JCとブロック連携事業の他、親子で学ぶカーボンニュートラル事業、新入会員オリエンテーション等福井ブロック協議会独自の事業を行い、全事業を通して県内LOMとの関わりを持たせることはできたものの、メンバーの参加動員という部分に課題が残りました。ブロックとLOMメンバーとの距離を近くするための工夫として本年は年4回の情報誌の発刊を行いました。ブロック全体の異業種交流会等の直接メンバー同士の顔を合わせる機会も望ましいと考えます。

事業区分	事業名	事業内容
公5	各地域の課題と質の高い運動の調査・発掘・研究推進について	さばえもっとセクションと題して、鯖江市内の商品で飲食部門に絞ってエントリーを募り、市民投票にて金賞と銀賞を選んでもいただきました。福井ブロック大会にて投票結果の報告と表彰式を行い、他エントリー企業の商品を大型パネルにて来場者に案内しました。
公5	酒蔵放浪記 ～福井の酒蔵ここに極まり～	地域に眠る資源として日本酒を選定し、一部の有名酒蔵以外の酒蔵においてもメンバーで訪問及び取材を行い、パンフレットを製作して県内外の方や外国人観光客の方に発信をしました。また取材様子の動画もSNS(福井エモーショナルプロジェクト)にて発信しました。
他	JCC FUKUI (JC COLLEGE FUKUI) ～その一歩が、成長に繋がる～	一年間を通して7つのJCプログラムを開催して会員の資質向上に繋がりました。受講率の低いセミナーを選び、スピーチ、JCI Explore、JCI Achieve、マインドマッピング、JCI Discover、JCI Admin、JCIアドベンチャーを行いました。講師や参加者の交流からもより深い学びの促進に繋がりました。
他	福井ブロックアカデミー2025 ～成長と発展！仲間と理想を現実にも！～	一泊二日のブロックアカデミーを開催し、JCプロトコルセミナーを受講したあと、SNS講座を開催し、理事長塾に分かれ実際のフィールドワークを通して勝山の魅力を動画作成し発信していただく設えとしました。塾長とアカデミー生の信頼関係構築にも繋がりました。
他	第一回ブロック全体会議 ～背水の陣の覚悟！明日から始まるブロック運動～	福井県内10LOMのメンバーが集まり、2025年度の福井ブロック協議会と各委員会の運動方針を共有して相互理解を深めました。また日本JC会員拡大委員会をお招きして、会員拡大についてのセミナー及びグループワークを行い、各LOMの拡大への意識を高めていただきました。
他	第二回ブロック全体会議 ～ブロックだヨ！全員集合!!～	福井ブロック活動報告、直前会長へ感謝状贈呈、次年度会長へブロック旗伝達等セレモニーの他、Movement of the yearと題して各LOMに本年の事業をプレゼンしていただき参加者投票でグランプリを選出しました。一年間の総括としてメンバーの絆と次年度への士気を高めました。
他	福井ブロック大会	ブロック大会として式典を行い、オープニング映像から会長挨拶、来賓挨拶、次年度会長発表、次年度ブロック大会開催地発表及び大会キー伝達を行いました。同日開催の親子で学ぶカーボンニュートラル事業やさばえもっとセクションを同会場にて開催しました。
公3	親子で学ぶカーボンニュートラル ～脱炭素って何なの？～	化学の実験を通して講演会を行っているせーじ先生を招き、カーボンニュートラルについて学ぶ講演会を開催しました。大企業だけではなく私たちが身近な家庭で取り組める行動について、親子参加型のクイズを交えながらカーボンニュートラルへの理解を深めました。
公4	10年後の社会を想像しよう ～未来を創る政治とは	第27回参議院議員通常選挙に伴い、候補者5名を招き、動画配信型の公開討論会を開催しました。司会はほくりくアイドル部の松井様と福井ブロック協議会副会長にて行い、若者に興味のある内容を事前ヒアリングし、候補者に意見を述べていただく設えとしました。
他	開発と連帯の発行	年4回、福井ブロックマガジンを発行し、県内10LOMのメンバーへ情報を発信しました。内容は各LOM及び福井ブロックの事業紹介、会員拡大情報の他、会長と理事長による対談を毎回行い、10名の理事長の経験からリーダーとしての考えや知見をメンバーと共有しました。



出典元:福井新聞 2025年9月11日



会議・委員会名	役職名	担当者名
石川ブロック協議会	会長	小野森 貴大 (小松)

### 基本方針

震災を経験した今だからこそ、共に挑み、持続可能で希望あふれる石川を築き未来へ繋ぐ。



### 総括

「共に挑み、明日へ繋ぐ 希望溢れる石川の創造」を基本理念とし、震災を経験したからこそ新たな挑戦をし、1日でも早い復興の為、9LOM力を合わせ活動して参りました。令和6年能登半島地震から事業の実施が困難なLOMへの人的支援や事業構築の支援の、多くの各LOMメンバーのJCに対する資質、熱量を更に向上させるブロックアカデミー、この地域の価値と可能性を広げ、JCの価値を高める石川コンファレンス等を開催しました。また、能登の子どもたちが「明るい能登の未来を思い描けるような「愛フェス いしかわ～笑顔溢れる能登の創造～」を開催しました。復興は今年で終わりではなく、来年以降も能登だけではなく石川県全体で復興の思いを繋いでいきます。

事業区分	事業名	事業内容
他	石川ブロックアカデミー01	伊住副会頭をお招きし、JCセミナーとして青年会議所の活動がどのように地域社会に影響を与え、リーダー育成に繋がっているのか「JC活動の意義」をテーマにご講話をいただき、第2部では地域貢献に対する行動力とモチベーションについてトークセッションを実施しました。
公1	他者を思いやる JC カップ U-11 少年少女サッカー ブロック予選大会	子どもたちにスポーツを通じ協力や助け合いを体感させ、思いやりを育む大会を実施しました。「デフサッカー体験」により、他者を思いやる精神を養いました。テーマ「POWER OF ONE ～誇れる未来へ～」のもと、子どもたちが将来を自信をもって描ける場となりました。
他	石川ブロックアカデミー02	令和6年能登半島地震で自らも被災しつつ最前線でリーダーシップを発揮した酒井先輩・杉本先輩を迎え、困難に立ち向かう行動力についてや、仲間と共に前進するための心構えを学び、地域のために動く人財への気づきを得ました。
公5	第55回いしかわコンファレンス in七尾	能登の人々によるステージ発表、能登食材を活かした多彩な飲食ブース、水かけフェスや地域会議など多彩に実施しました。震災を経た能登の魅力幅広く発信し、関心を高め交流人口の増加を促し、希望あふれる未来を創造する契機となりました。
他	第55回いしかわコンファレンス in七尾式典	県内9LOMメンバーをはじめ行政関係者、各種団体、歴代会長を迎え、石川ブロック協議会2025年度の取り組みを発表しました。本事業では対内に活動理解を促し各LOMでの実践につなげ、対外には協力体制を強化し希望ある未来を共に創造する契機となりました。
他	石川ブロック協議会フォーラム	県内全メンバーを対象に、第51～54代歴代会長を迎えトークセッションを実施し、青年会議所事業の魅力と成長の意義を伝えました。経験談を通じ未来のJayceeとして必要な姿勢を学ぶ機会となり、活動意欲を高め各LOMの発展と希望ある地域創造に繋がりました。
他	石川ブロックアカデミー03	数々の社会課題に挑み成果を上げてきた小西直前会頭のの実体験を軸に、理想を掲げ行動し続ける方法と逆境での決断力を学びました。ブロック会長と、地域課題解決に必要な資質や仲間の力を引き出す具体策に迫り、明日への一歩に繋げるような対談を実施しました。
公5	石川県能登半島の理想の未来創造事業	能登の未来を描くシンポジウムでは、学生が考えた未来の能登の発表、来場者との意見交換を通じ復興への意識を高めました。さらに絵画展で子どもたち地域愛を育み、祭りサミットでは祭り復活の課題を議論し、更に体験を通じシビックプライドを醸成しました。
他	石川ブロック協議会構成LOMへの支援における推進計画	石川ブロック協議会は全LOMでの組織運営と事業実施を目指し、毎月ヒアリングで課題を把握し人的支援や事業構築支援を行いました。さらに動画作成によるブランディング強化や拡大活動のプラットフォーム整備を進め、会員拡大と発展に繋がりました。
他	石川ブロック協議会における広報推進計画	石川ブロック協議会は公式WEBやSNSを通じ活動を広く発信し、地域社会の発展と各LOMの支援を目指しました。SNS活性化や効果的な手法を学び、メンバーの広報意識を高めることで、事業への関心促進とJCブランド向上に繋がりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
富山ブロック協議会	会長	大井山 靖征 (富山)

### 基本方針

9LOMが一体となって希望あふれる理想を描き、情熱を持って地域課題の解決に向け、事業構築をすることで富山の発展へと繋がります。



### 総括

本年度富山ブロック協議会は「超・全速前進 理想と情熱で導く煌めく富山の実現。」を基本方針として運動・活動を行いました。県内LOMの皆様と理解をいただきながら事業構築を行う過程で、課題がそれぞれ違うことが明確になり、課題の抽出や参加推進において、やるべきことを当たり前に行う事業は成功に繋がったと感じます。また事業においてコアターゲットから外れる会員への過度な参加推進を行う場面がありましたが、会員減少が続く中で必要な情報を必要な場所へ適切に発信する観点は重要です。協議会はLOMにとって一番身近な存在であり、常にロールモデルになる事業・運動の構築が必要で、出向者のレベルを高めていくことが重要です。

事業区分	事業名	事業内容
他	9LOMと連携した会員拡大の推進	各LOMより9LOM連携会員拡大委員会に出向していただき、定期的な意見交換会や拡大講義を開催し、会員拡大における仕組づくりの研究、意識醸成、コミュニティを構築に繋がりました。
公1	JCカップU-11少年少女サッカー富山ブロック予選大会	JCカップU-11少年少女サッカー大会の全国大会に向けた富山ブロック予選大会を日本JCの趣旨目的に則り開催しました。
他	富山ブロック野球大会	富山ブロック協議会が主催となり、9LOM対抗の野球大会を開催しました。
公1	わんぱく相撲ブロック大会	わんぱく相撲富山ブロック大会実行委員会を主催(主管LOM一般社団法人高岡青年会議所)として、わんぱく相撲ブロック大会を開催しました。
他	JC運動の対内外向けの情報発信	SNS、メールマガジン、ホームページを活用し会員にはJC運動や活動を行う意義や目的の理解を深める情報発信を行い、対外には事業の参加推進やJCのブランディングに繋がる情報発信を行いました。
他	第1回富山ブロック協議会 新たな自分を目指して! 超・全速前進 JCプログラム研修会	JC運動や活動の意義や目的、価値観、アイデンティティなどについて学ぶJCプログラムのJCI Achieveを実施しました。
他	第2回富山ブロック協議会 新たな自分を目指して! 超・全速前進 JCプログラム研修会	事業・例会の構築の際の背景・目的を明確化する方法を学ぶJCI Impactを実施しました。
他	富山ブロックアカデミー	青年会議所活動を「自分ごと」として捉え、主体的に関わる意識と行動力を育むことを目的とし、1泊2日の研修事業を実施しました。
他	地域に眠る活用しきれない資源の調査・発掘・研究	富山県内の地域資源を調査・発掘・研究し、住み暮らす市民や関係者が身近にある地域資源の新たな可能性に気づき、価値を高めていく仕組み作りと商品化を実施しました。
公5	富山ブロック大会	富山ブロック協議会、地域の可能性発掘委員会の推進内容である地域資源の調査・発掘・研究の成果発表と地域への関心を高める事を目的としたフォーラムを小矢部で開催しました。
他	第1回全体会議	各種関係団体の皆様に、富山ブロック協議会活動と9LOMの活動への理解をいただくこと、富山ブロック協議会と9LOMの結束の強さを感じていただくために全体会議を開催しました。
他	第2回全体会議	富山ブロック協議会と今年度の運動・活動の報告と各LOMから代表者を募りAWARDを行いました。また次年度ブロック会長、理事長の発表を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
新潟ブロック協議会	会長	若桑 正樹 (新発田)

## 基本方針

1人ひとりが当事者意識をもち、我々が新潟を変えたのだと誇れる人財の創出。



## 総括

本年度は入会3年未満のアカデミーメンバーが未来を担うリーダーになれるよう活動を行いました。昨年までは年に数回のプログラムで終わっていましたが今年は年間を通して青年会議所の理念、ビジョンを学んでいただきました。新潟県の課題に関心を持ち、課題解決に向かって運動をする団体であり、よりよい未来に向かって活動できる人財を育みました。また、21LOMが互いの事業を発信し、参加しあう機会を提供することができました。例年以上にLOM同士の繋がりが強くなり新潟県が一致団結したと感じた1年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年度ブロックコンファレンス、ブロックアカデミーの開催	新潟ブロック協議会2025年度の活動方針を新潟県内のメンバーと関係諸団体の皆様に伝える場を設けました。また、中島士歴代会頭にお越しいただき、JAYCEEとしての理念やビジョンを共通の価値観として認識してもらうためのセミナーを行いました。
他	ブロックアカデミー事業	年間を通して入会3年未満のメンバーと中心に個々のリーダーとしての資質向上に努めてまいりました。そして通年事業を遂行することでLOMの垣根を超えた友情を育み、JC活動を前向きに捉えていただける機会を創出しました。
他	にいがた防災バンクの普及事業	新潟県内メンバーの災害支援体制を強化し、有事の際に迅速な支援活動を展開できる基盤を整備するため昨年作った防災バンクの普及を行いました。将来的に地域社会への拡大を狙うため、青年会議所の災害支援活動を発信し、課題を把握しました。
公1	他者を思いやるJCカップU-11少年少女サッカー新潟ブロック予選大会	チームワークを通じ協調性や連帯感を育み、多様性の相互理解の意識の育成ならびに、勝負以上に大切なグッドルーザー精神を理解することで、未来の新潟県を担う青少年の育成を目的に大会を開催しました。
公4	第27回参議院議員選挙ネット討論会	本年度行われた参議院議員選挙で候補者の政策や狙いを理解し、自ら政治に関わる意識を持つこと。また、メンバーへは地域課題の解決へどのような運動ができるのかを考えてもらうためのネット討論会を開催しました。
公1	ナゾライド2025in間瀬サーキット	過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等の問題を解決するため、中高生を対象に新潟県の各地域の魅力や地域課題の実態を知り、地域に対して積極的に関心を持つ人になってもらうための事業を行いました。
公5	地域に眠れる活用しきれていない資源の調査	新潟県の活用しきれていない資源を見出し、経済的に利益を生み出しつつブランド強化に貢献する好循環モデルの研究を行いました。多くの人が集まるイベントで新潟県産の「いちじく」がどれくらい認知度があるのか、隠れた魅力となるのかの検証を行いました。
他	ASPAC新潟大会に向けた準備	2026 JCI ASPAC 新潟大会へ向けて、新潟県の認知度を向上するためASPACモンゴル大会のJAPANナイトでブースを出展し新潟県の魅力を発信しました。また、21LOMに新潟開催時にどのようなメリットがあるかを説明しました。
他	第55回新潟ブロック大会	2025年度の新潟ブロック協議会の集大成として、21LOM全メンバーに対して会長からのメッセージを伝え、その後1年間JC理念、ビジョンを学んだアカデミーメンバーの成果発表を行いました。懇親会では、2025年度の卒業生を盛大にお祝いしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
<b>長野ブロック協議会</b>	<b>会長</b>	<b>原 明彦 (塩尻)</b>

**基本方針**

ONE NAGANO! JAYCEEの結束力が希望あふれる信州を実現する。



**総括**

本年度はブロック内全てのLOM間の風通しを良くし、LOM同士の繋がりの強化を図ることで、希望溢れる信州の実現に取り組んでまいりました。長野ブロック協議会初となる逆出向支援の導入は要支援LOMの活気に繋がり、今年の成果は次年度以降も県内の小規模LOMを支援する大きな力となることを確信しています。また、各LOMへの直接的なJCプログラム開催支援ではこれまでにない多くのメンバーにAchieveやImpactプログラムを通じてJCの本質を理解して頂くことができました。その中から後進育成に繋がるトレーナー候補者が県内に創出されたことも大きな成果となりました。育成と支援を強化したLOMに寄り添うブロック協議会としてその基盤を構築することができた1年となりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第11回JCカップU-11少年少女サッカー大会 長野県予選大会	本大会を通じて、子どもたちに多様な価値観を持つ他者との関わるの機会とグッドルーザーの精神を通じて相手を大切に育む機会を創出したことにより、誰もが暮らしやすい未来の地域づくりの担い手の育成に寄与することができました。
公4	第27回参議院議員選挙長野選挙区立候補予定者公開討論会	本事業を通じて特に若い世代にも政治へ興味関心を醸成することで投票率の向上に貢献し、更に長野県内17LOMとの共同開催とすることで、より合理的に資金や人的リソースの課題を解決し、県内全域にその効果を波及させることができました。
公5	第56回長野ブロック大会in須坂 祭～未来へ向けたより良き変化の切掛け～	長野県内17LOMの魅力を集結させたブロック大会では祭をテーマに地域へのインパクトを最大化させることを目標として須坂の地に青年会議所の魅力、そして地域の魅力を長野県内の方に再認識して頂く機会を創出することができました。
公5	第56回長野ブロック大会in須坂 たらから市 祭～未来のために地域活性の切掛けを創ろう～	たらから市では祭りをテーマにした各種出店が行われ、自分たちの地域の魅力をLOM自身がPRする場となったことはブロック大会に新しい可能性を提示することができました。更に須坂JCの姉妹JCなどにもご参加頂き幅広い関わりを創出することができました。
公5	グローバル社会への第一歩：外国人人口増加を機に共に描く未来	須坂市に暮らす高校生と海外出身者、市長をお招きし、海外移住者の暮らしや、行政の関わり、地域住民の考え方を中心に対談を行い、地域と海外移住者との多様な価値観への理解とこれからの関係性の構築に対し深い考察を得る機会を創出しました。
他	ネクストリーダーズチャレンジ	本年度のアカデミー生を対象にそれぞれの地域課題をテーマにしたピッチコンテストを開催し、アカデミー生にとって1年間学んだ成果を発表しフィードバックを受け取る挑戦と成長の機会を創出することができました。
他	第56回長野ブロック大会in須坂 記念式典	次年度会長予定者より2026年度活動方針を発表して頂き次年度理事長の紹介を行うことで予定者段階のスタートを示すことができました。卒業式では長年長野ブロック協議会で運動を展開して来られた先輩の思いを受け継ぐ機会を創出することができました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラム	本年度は、北信東信中信南信各地域毎やLOM単位にてプログラムにより参加しやすい機会を創出し、Achieve、Impactを中心に、JCの本質を学ぶ機会を積極的に創出するとともにトレーナー自体の育成にも力を入れることができました。
他	逆出向支援事業	要支援LOMが増える中、数年先の長野ブロック協議会の支援体制を強化するべく逆出向支援事業をブロックの担い手として初めて導入し、ブロック出向者とLOMとの関わりを深めることができ、事業支援において成果をだすことができました。
他	会員拡大大作戦	年3回にわたり、拡大の実行に移ることのできる実践的な情報共有会議を行い、スキルや事例だけではなく、会員拡大をより積極的に実行に移すことができるように、数値でわかる目標設定を行い役割や担いを達成する基盤を構築することができました。
他	長野ブロックアカデミー	カーリングを用いたチームビルディングから始まり、プロトコル、パーパス、Achieve、ELのそれぞれのプログラムを通じてJCへの理解や実践で役立つ知識、LOMを超えた仲間同士の絆を育む機会を創出することができました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
滋賀ブロック協議会	会長	佐野 智哉 (近江八幡)

### 基本方針

心の繋がりで未来を創る 誇り高き湖国滋賀の実現。



### 総括

本年度、滋賀ブロック協議会は基本方針「心の繋がりで未来を創る 誇り高き湖国滋賀の実現」のもと、県内10LOMが互いに支え合い、心をひとつに共に成長する一年を歩んできました。ブロック大会をはじめとする各事業では、仲間との絆を深め、共に滋賀の未来を描く機会を創出しました。2025年度は心の繋がりを実感できる一年となり、運動の中で培われた仲間との絆で得られた経験と学びは、地域の希望と誇りを生み出す原動力となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	日本JC公認プログラム集中セミナー ～学び・広げ・つながり、誇れるJCへ～	県内10LOMの運動をより効果的に推進するために、JCの理念や知識を体系的に学ぶ仕組み作りをすることを目的に、本会が推進するJCプログラムを実施するとともに、県内10LOMの専務理事を対象とした相談ブースの設置を行いました。
他	2025年度公式訪問 ～ALL SHIGAで未来を創る～	本会の運動方針、滋賀ブロック協議会の方針を伝える為、県内10LOMの皆様と一堂に会する形でお集まりいただきました。また連絡調整機関としての役割について説明し滋賀ブロック協議会の委員長から、委員会に対する想いをお話いただき、各LOMとの連携を図りました。
他	JCライフの幕開け ～次世代リーダーが湖国滋賀を導く～	県内のアカデミーメンバーを対象に、JCとしての基本的な理念や流儀・作法、そしてそれらを他者に伝えるためのスキル習得を目的にプログラムを実施しました。また最後にグループに別れて事業の振り返りを行い、全体に共有しました。
他	理念共感プロモーターによる 理念共感推進事業	理念共感拡大ブランドデザインの活用により表面化した理念浸透率に関する各LOMの課題解決を図るとともに、メンバー個々人が青年会議所の理念への理解を深める為、講師、プロモーターによる講演、メンバーがどのような理念を持っているかを共有しました。
他	アカデミーキャンプファイヤー ～心を燃やすのか、燃やされるのか～	県内のアカデミーメンバーを対象に実施しました。メンバーが主体的に行動し仲間と協力する体験を提供し非日常的な環境で挑戦心を高め、交流と成長の機会を得ることで、今後のJC活動における意識を醸成することを目的として行いました。
他	湖国滋賀もっとセレクション	滋賀県内の埋もれた地域資源を発掘し、その価値を顕在化させることを目的に「湖国滋賀もっとセレクション」を実施しました。飲食・ギフト・サービスの 三部門でエントリーを募り、一般投票により金・銀・銅賞を決定しました。
他	2025年度滋賀ブロック協議会褒賞事業	県内10LOMの青年会議所が展開した事業を集約し、公開審査会を通じて成果を共有・検証する取り組みです。事前審査、外部審査員による公開審査、表彰式を経て、各事業の意義を広く発信し、学びの蓄積と今後の活動への展開を図る機会となりました。
公5	第55回滋賀ブロック大会水口大会記念事業 「まるごとあそび博～レトロ⇄モダン～」	県内10LOMメンバーと地域住民が世代や地域の垣根を越えて交流し、滋賀の魅力を体感できる場を創出しました。レトロとモダンを融合させた企画を通じて、多様な価値観を共有し、新たな結びつきを生み出す貴重な機会となりました。
他	第55回滋賀ブロック大会水口大会 式典・卒業式の実施	式典と卒業式の二部構成とし、本年度は褒章発表・表彰式を独立したプログラムとして実施しました。
公5	近畿地区大会乙訓大会でのブース出展 の実施	地区大会のブース出展では、滋賀の多様な魅力ある特産品を県外参加者に発信し、認知度を高めました。また県内メンバーは郷土愛を深め、来場者には関心と交流のきっかけを提供し、滋賀の持続的な価値向上を目指し実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
京都ブロック協議会	会長	堀池 徳郎 (山城)

### 基本方針

理想を描き、誇れる力をいかした活気ある京都の実現。



### 総括

本年度、「やってみよう!!」というスローガンのもと、多くの事業を行いました。例年以上に事業を開催することとなり、ブロック役員を始め、京都府内各地青年会議所の理事長を始めとするメンバーに対しては多くのご負担をいただくこととなりました。しかしながら、京都ブロック協議会最後の事業には例年以上の参加者数を達成することができ、負担が大きかった分、多くのメンバーに対して価値を感じていただける活動を展開することができました。ご協力、ご支援をいただきました京都府内各地青年会議所理事長を始めとされますメンバーの皆様を始め、関係する全ての皆様に感謝を申し上げ、総括とさせていただきます。

事業区分	事業名	事業内容
公7	国際交流事業	モンゴルでの国際交流を通じて異文化理解を深めました。歴史や遊牧文化に直接触れることで体験的な学びを得ることができました。新日馬富士学園の高校生をはじめとする現地の方との交流では、国境や文化の違いを越えた友情と相互理解を育むことができました。
公7	JCI ASPAC モンゴル大会 ジャパンナイトへの協力とブース出展	JCI ASPACモンゴル大会において、京都の食文化を発信しました。天然利尻昆布や本枯節を用いた出汁の試飲、西京味噌の味噌汁提供、鯉節削り体験を通じて、多くの来場者に京都独自の出汁文化を体感いただきました。
公5	第53回京都ブロック大会フェスタ	地域で活躍する団体や個人の活動紹介、飲食・物販ブース、ステージショーなどを通して、楽しみながら地域との繋がりを感じられる場を提供しました。参加者が京都の未来を共に描いていく第一歩となり、まちづくりへ関わるきっかけを創出することができました。
公5	近畿地区大会乙訓大会への協力並びに支援	本事業は近畿地区大会乙訓大会においてブースを出店、府内各LOMの運動・活動を集め、発信することで、メンバーには京都は一つの理念を感じていただき、対外の参加者には他地域への関心を高める機会となりました。
公4	参議院選挙公開討論会	現地会場には、未来の有権者として、政治への参画意識を高めていただくことを目的に、大学生を中心に参加者を募集しました。学生の皆様には、政策や社会課題への理解を深めていただく貴重な機会として、本討論会をご活用いただくことができました。
公1	JCカップ U-11 少女サッカー 全国大会京都予選大会の実施	臨場感あふれる入場やトーナメント戦に加え、リフティングギネス保持者によるパフォーマンスとトークセッションで大会を盛り上げました。また、互いを思いやる心を育むため「親切心賞」を選出して表彰しました。
他	第53回京都ブロック大会式典	京都ブロック協議会が53年に渡り受け継いできた運動を再確認し、これまで繋がれてきた歴史を感じることができました。府内各地LOMメンバーの自信や活力を向上させる一助となりました。
他	第53回京都ブロック大会 褒賞授与式	府内各地12青年会議所にて、2024年度に実施された事業の中から特に優れた事業を表彰するとともにそれぞれの事業を共有しました。
公5	第53回京都ブロック大会フォーラムの開催	地域にある課題を解決するために、長期的かつ継続的な取り組みが必要であることを学んでいただくとともに、他者の考えを理解し自分の考えを広げ深めることの重要性を感じていただき、人と人の繋がりが明るい未来を創ることを再認識していただきました。
他	各地域における課題と質の高い運動の 調査・発掘・研究	府内各LOMから輩出メンバーを選抜し、輩出メンバーが議案を模擬役員会、模擬理事会を経て議案をブラッシュアップしてまいりました。完成した議案をパワーポイントに落とし込み、審査員をお呼びし議案構築成果発表会を実施いたしました。
他	地域に眠る活用しきれない 資源の調査・発掘・研究	京都府福知山市をモデルケースにコースコンテンツの確認と実体験を行いました。意外と知らなかった地域の魅力を発見することができ、一つの地域ではありますが、魅力を引き出し、発信する機会を創出したことが、未来の地域創生の一助になりました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を 加速させる各種プログラムの実施・支援	府内各LOMから輩出メンバーを選抜し、輩出メンバーが議案を模擬役員会、模擬理事会を経て議案をブラッシュアップしてまいりました。完成した議案をパワーポイントに落とし込み、審査員をお呼びし議案構築成果発表会を実施いたしました。
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE 育成カリキュラムの運用	柿野真吾先輩による「事業構築講演」にて、より実社会に接続した構想力や柔軟な視点を獲得する事業構築力を学んでいただき、さらに、マインドフルネス体験を通じて、普段は意識しづらい内面の志や動機と向き合い、新たな発想を支える感性を育みました。
他	理念共感拡大ブランドデザインの検証	(公社)日本青年会議所会員拡大委員会、副委員長である藤本亮志君から拡大手法の具体例をご講演いただき、(一社)泉青年会議所理事長である三浦僚君と社会開発室室長である佐藤智大君から拡大目標を達成できた秘訣と手法について講演いただきました。
他	連絡調整会議	府内各LOMの情報をもとめ、課題、要望についての情報収集を行い、日本青年会議所及び近畿地区協議会からの情報をまとめてお伝えすることで、LOMメンバーへと情報を伝達しました。
他	会員拡大セミナーの実施	府内各LOMの会員拡大意識向上を目的に、成功事例紹介と理念浸透を軸としたセミナーを開催しました。Zoom併用のハイブリッド形式で実施し、後日動画配信も行うことで継続的な学びを可能にする構成しました。
他	京都の経済を発展させる取り組みの実施	京都府よろず支援拠点登録コーディネーターであり中小企業診断士の西村一弘様と佐藤智美様に講演を行っていただいたのち、参加者が社業で抱える問題などを相談する質疑応答をさせていただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
奈良ブロック協議会	会長	南 喬 (檀原)

### 基本方針

一人ひとりが伝統の理解とひとと地域への繋がりをもち、郷土愛を育む古都奈良の創造と想いをもって共創した事業や組織を未来に繋いでいく。



### 総括

基本方針を軸に、一蓮托生 想いが共創する未来へをスローガンに掲げ運動を展開させて頂きました。アカデミー事業では平日・土日、WEB・ハイブリッド・現地開催を行い、どれが一番効果的か検証できました。ブロック大会では少人数LOMはどのように主管を務め地域の魅力とブロックの運動発信の場を創れるか共に考え、地域団体と連携し、重要文化財での開催は行政や管理者と協議を重ねて荘厳な大会を構築できました。新しく構築したLOM相互支援では事業や議案構築ノウハウを持つ者をブロックを通じて派遣し合うことで、事業構築で困るポイントと解決方法をブロックに蓄積し、今後ブロックに相談すれば問題を解決できるという仕組みを構築しました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用	JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援を行い、共通の価値観をもったリーダーたる人材の育成を行いました。具体的には、奈良ブロック協議会独自でJCセミナー2回、Purpose1回を行い、各地域に共通して適用できる育成カリキュラムを各LOMと連携して実施しました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援	各LOMと定期的なミーティングを行い、課題抽出を行いました。その後、各LOMに最適なプログラムを提案することで、メンバーがより主体的に関与できるような環境を整えました。JCI ImpactセミナーをWeb、現地で実施しました。
他	第1回ブロックアカデミー事業の実施	一般社団法人明石青年会議所シニア柿野真吾先輩にお越しいただき、JC活動のことだけでなく、自社の事業において役立つ部分などを交えながらお話しいただいたことで、JCの魅力や意義を理解していただくきっかけを提供することができました。
他	第1回JCプログラム「JCI Impact」実施	JCI Impactプログラムをzoomにて実施しました。事業構築に必要な、背景・目的を考えるプロセスをグループワークで疑似体験を行い、地域社会のニーズに基づいた効果的な事業構築の方法を学び、実践できる人材を育成しました。
公4	第27回参議院議員通常選挙奈良県選挙区公開討論会	奈良県参議院選挙へ立候補を表明している候補者による公開討論会を開催しました。公開討論会の形式は各地のJCが行う公開討論会同様リカーン・フォーラム方式としました。討論会で使用するテーマは担当コーディネーターと打合せし、委員会で協議したうえで決定しました。公開討論会の動画撮影、動画の配信を奈良ブロック協議会の公式YouTubeに流す等のフォローを行いました。
公5	第53回ブロック大会記念事業の開催及び開催地行政への実施報告	第53回奈良ブロック大会吉野大会にて、地域や行政、他団体と一緒に、地域の魅力の発信に繋がる事業を行いました。吉野の地域の可能性を感じ、次々に地域の魅力を伝播することで、郷土愛を育み、一人ひとりが誇れる奈良を共感していただける運動を発信しました。
他	第53回ブロック大会記念式典の実施	第53回奈良ブロック大会記念式典では、青年会議所の運動にご理解ご協力いただいている方をお招きし、日頃の感謝をお伝えするとともに、メンバー一人ひとりが、奈良ブロック協議会の歴史や伝統を継承し、今後のJC運動に活かせる式典を実施しました。
他	第53回奈良ブロック大会吉野大会ブース出展～JCサポートステーション～	奈良ブロック大会にて、本会の総合連絡調整会議と拡大委員会の両委員会に支援を受け、LOM相談ブースを設置しました。終始多くの相談が寄せられたほか、「事業構築の手引き」をご覧いただいたり、LOMの垣根を超える交流スペースとしても機能させました。
公5	奈良ブロック大会フォーラム～繋ぐ・活かす・広げる吉野の資源と可能性～	「繋ぐ・活かす・広げる」ためのリアルな学びの場を提供し、「人づくり」と「まちづくり」の重要性を再認識するために、南部地域で活躍するパネリストの様々な視点を交えた話を通じて、地域活性化のための気付きを得る機会を提供しました。
公1	JCカップU-11 年少少女サッカー大会奈良県代表チームの選出	本会や近畿地区協議会と連携しJCカップのチーム選出および近畿地区大会への引率をしました。ディアブロス高田FCを引率し、惜しくも地区予選敗退となりましたが、選手がグッドルーザー賞を受賞するなど、心豊かな人材の育成を図ることが出来ました。
他	奈良ブロック協議会副理事長セミナー	連絡調整会議で副理事長の職責や在り方が属人的である、との課題が挙げられたことを受け、7月29日に石川敏幸氏にお招きしセミナーを実施いたしました。委員長や委員が活躍できる副理事長像や自責思考の考え方をご講演いただき、大好評を得ました。
他	JCプログラム(Purpose)の実施	アカデミーメンバーが「なぜ自分がJCに所属しているのか」というPurpose(存在意義)を早期発見し、主体的に活動へ参加できるようワークショップやディスカッションを行いました。メンバー自身とJCを繋ぐPurposeを明確化することを目的としており、自己の価値観とJCの理念を結びつけることで活動の意義を深く理解する機会を提供しました。
他	第2回ブロックアカデミー事業の実施	一般社団法人静岡青年会議所OBの鍋田先輩にJCセミナーを実施いただきました。実体験をもとに、国際の話を中心としたアカデミーメンバーを含む参加者が自分の未来を考え、JCの魅力や意義を理解していただくきっかけを提供しました。
公5	近畿地区大会への出店	近畿地区大会乙訓大会にて、吉野本葛餅の出品を行いました。食品での周知はもちろんですが、販売者の仮装や展示パネルを使うことにより、参加者に奈良県天川村の魅力を発信しました。
他	褒賞公開発表並びに審査会	県内BLOMが2024年度に行った事業の中で、最も発信したい事業を奈良ブロック協議会メンバー、及び対外の方々に向けてプレゼンテーションを行い、成果を検証しました。各LOMから他LOMに発信したい事業を知る事でメンバーの活動意識向上に繋がりました。
他	奈良ブロック協議会会員拡大セミナー	連絡調整会議で挙げられた多くの課題で、拡大がセンターピンであるということが判明したことから、本会の上田委員長や藤本VCをお招きし、11月21日にセミナーを実施します。今年度の集大成と次年度が力強くスタートするために意義と成功事例を学ぶ場とします。
他	第2回JCプログラム「JCI Impact」の実施	JCI Impactプログラムを現地で実施しました。アクティブシチズンフレームワークを活用し、地域コミュニティを巻き込んだムーブメントを起こすための具体的な方法論を習得し、効率的に地域の課題解決に寄与できるようなスキルと知識を身につける機会としました。
他	褒賞アワードセレモニーの実施	褒賞公開発表並びに審査会で審査を行った結果に基づき、評価の多かったLOMに対して表彰を行いました。今後の事業の発展やメンバーの学びと意識向上、並びに奈良ブロック協議会全体の更なる運動の発信と発展に繋がりました。
他	奈良ブロック協議会卒業式	卒業されるメンバーへの感謝と新たなステージへの挑戦を後押しするとともに、現役メンバーがその想いを引き継ぎ、士気を高める場を創出するため12月2日に卒業式を開催します。これまでの活動を振り返り、仲間としての絆を確かめ合う温かな式典とします。
公5	地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究	持続可能な地域開発委員会と連携をはかり、一般社団法人吉野青年会議所より、パッケージツアーの計画を行いました。デモツアーの構築を行う中で持続可能な地域開発委員会との日程調整が上手くいかずツアーを開催するまでに至っていませんが、地域に眠る資源の発掘を行う事ができました。
他	【プロ連】各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究	パッケージ事業である「もっとセレクション」を推進し、形式を少し変えた形で大和郡山JCさんが11月に事業の実施予定です。また、本会やブロックの褒賞事業をとりまとめ、「議案構築の手引き」を作成し、LOMの今後の事業構築の一助となるようにしました。
他	LOM相互支援	LOMの垣根を越えて知見を共有し、地域をより良くするため、事業構築に関する課題で困っている人と、その課題解決に長けている他LOMの人をマッチングする事業を実施しました。半年で12件の依頼があり、LOMの事業構築の一助とすることが出来ました。
他	【プロ連】理念共感拡大ブランドデザインの検証	理念共感拡大ブランドデザインの検証を行うために、ブロック協議会独自で全メンバーを対象にアンケートを実施しました。結果、「個人の成長」と「社会変革」をどう結びつけかが、ブロックとしての重要な課題であることが明らかになりました。
他	【プロ連】奈良連絡調整会議の運営と全国連絡調整会議との連携	本会や近畿地区協議会の運動、並びにLOMからの支援要請や課題共有のために毎月開催をしました。特にLOMからの課題の吸い上げを重視し、その中で挙げられた副理事長のためのセミナーや拡大セミナーの開催など会議に留まらない波及を図りました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
大阪ブロック協議会	会長	森岡 裕介（大東）

### 基本方針

JAYCEEとして己の可能性を信じ、ブロック協議会と28LOMが共に手を取り合い、理想の未来を切り拓く誇れる大阪の創造。



### 総括

本年度、大阪ブロック協議会は「Believe in potential ～誇れる未来都市大阪の創造～」をスローガンに掲げ、JAYCEEとしての己の可能性を信じ、そして、共に活動する仲間の可能性を信じ抜き、さらにはJCという唯一無二の組織の可能性を信じ抜くことを信念に運動を展開してまいりました。全ての事業が大阪府下28LOM益に繋がるために、大阪連絡調整会議の運営、年間を通じてのアカデミー事業に注力しました。また、大阪ブロック大会泉佐野大会において、式典、2つのフォーラム、野外フェスタを開催し、理想の未来を切り拓く地域にインパクトを残す大会を開催することが出来ました。2026年度にバトンを繋ぎ、28LOMの発展に寄与できる協議会を引き続き目指してまいります。

事業区分	事業名	事業内容
他	合同出陣式	リッツカールトン大阪にて日本青年会議所の運動方針と大阪ブロック協議会の役割を伝え、600名近くの参加者に共感を得ることができました。また、本年度理事長に登壇いただくことによって、会場は盛り大いに上がり、2025年度の気運を高めました。
他	共通の価値観を基に運動を加速させる各種プログラムの実施支援及びJAYCEE育成カリキュラムの運用	アカデミー生を対象に合計4つのプログラムを行いました。総動員数276名となり、未来を担うアカデミー生の成長の機会を提供しました。
他	JCセミナー「JCの機会を活用し、個人の成長を掴み取る至極の講演」	公益社団法人半田青年会議所シニアクラブ 青木幸太先輩を講師としてお招きし、これまで日本青年会議所やJCIで培ってこられたご経験を基にご講演いただきました。200名近くの来場者となり、多くのメンバーに気付きや学びを提供することが出来ました。
他	LOMの課題に即した開発支援	LOM毎に違う課題をそれぞれの支援方法で課題解決に向けて推進事業としておこないました。3か年計画等をLOMと共同で作成し、ブロック、LOMが一体となって、開発支援を行いました。
公1	好奇心あふれる未来へと繋がるわんぱく相撲大阪府決勝大会	大阪ブロック内各地青年会議所で選抜され、代表として出場する子どもたちに相撲を通じての感謝や礼儀を育む機会を提供しました。
公7	JCI ASPACのブース出展事業	ジャパンナイトに訪れた海外のメンバー及び市民に向けて、大阪そして本年度開催されている大阪関西万博に関心を深めることを目的に事業をおこないました。当日は多くの方にブースへ来ていただき、大阪関西万博の周知することが出来ました。
他	ブロック協議会における優秀事業ライブラリーの構築	大阪ブロック協議会独自で、優秀事業の議案を部門別に保管し、大阪府下28LOMの議案構築に役立つ仕組みを構築しました。
公1	第11回JC カップU-11 少年少女サッカー大阪予選大会	子どもたちがグッドルーザーの精神を学ぶことで他者を思いやる心を醸成し、多様な人材が活躍する共生社会を先導する人材となる契機とするために、実施しました。各地青年会議所から16チーム252名が参加し、大いに盛り上がりました。
公5	大阪ブロック大会泉佐野大会	大会式典・アカデミーフォーラム・ビジネスフォーラム・フェスタを泉佐野の地で行いました。フェスタでは大阪府下28LOMから地域の魅力発信ブースを展開し、一般市民にも多く発信することができ、ブロック、LOMと一丸となってブロック大会を成功に導くことが出来ました。
公4	第27回参議院議員通常選挙公開討論会	公平性と中立性を高め、有権者にとって有益な情報を届けるとともに、メンバーにも府民の一人として政治意識を高めるために事業実施いたしました。討論会は会場にてメンバーが参加し、市民へは配信を行うことによって、多くの市民へ情報を届けることができました。
公5	近畿地区大会乙訓大会ブース出展	大阪の魅力としてのものづくりに着目し、食品サンプルを作成する事業を展開しました。当日は大人から子どもまで広い世代で楽しんでいただき、大阪の魅力のひとつとして、発信することができました。
他	大阪連絡調整会議の実施	毎月1回、会長、運営専務、地域担当副会長と大阪連絡調整会議、LOM開発支援委員会が中心となり、LOM課題の共有し、進捗、報告を行い、課題解決に向けての効果を最大化できるように連携を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
兵庫ブロック協議会	会長	片山 透 (三木)

基本方針

AWESOME HYOGO 誰もが自信を持ち自由な表現ができる兵庫の実現。



総括

本年度はブロック協議会の展開するすべての運動において「LOM支援」と「社会開発運動」というワードを念頭に置き取り組んでまいりました。昨年よりスタートした兵庫ブロック内での連絡調整会議のアップデートをはじめLOMの実情に合わせた支援を行い、拡大においては期首会員数ベースで次年度スタート時に1割以上の純増が見込まれておる状況です。また、広く浅いLOM支援を捨て、狭く深くひとつの小規模LOMに対して運営から運動構築、事業実施までオールインワンでの支援を行ってまいりました。小規模LOMの可能性を示すとともにパッケージ化して残すことで県下すべてのLOMに対し有益な運動にすることができたと確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公5	地域に眠る活用しきれない資源の調査・発掘・研究	地域経済の活性化を目的に、活用しきれない地域資源を調査・発掘・研究しました。講演会の開催や「温泉」を活用した美方JCによるモデル事業支援を通じて、地域との連携を深め、新たな価値を創出し持続可能な発展を実現しました。
他	連絡調整会議の実施(継続)	連絡調整機関として、各LOMの事業計画や課題、拡大状況を共有する連絡調整会議を3回に分けて開催しました。情報共有や意見交換、要望報告を通じて相互理解と連携を深め、LOM間の連帯感を育み、ブロック全体の運動推進力を高めました。
公6	防災事業の実施に関する業務	防災意識の向上を目的に、体験型防災事業を開催し、楽しみながら実践的に学べる内容としました。また、多くの参加者や団体と連携し地域の繋がりを強化するとともに、防災標語「おはしも」に新たな標語「みらいの」を加え、兵庫県発の運動として発信しました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援に関する事業	JCI AchieveでJCの理念や目的を学び、JCI Impactでアクティブシチズンを理解することで、経験の浅い会員でも地域課題を正しく特定し、持続的な運動を展開できるようセミナーとなりました。
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用	活動意欲が高く、相互に助け合いながら兵庫ブロック全体の成長にも寄与するリーダーの育成を意識して「Purpose」を実施しました。また、兵庫ブロック内での絆の育むために各LOMの研究と発表をアカデミーメンバーに行っていました。
公1	第11回MJS presents JCカップU-11 少年少女サッカー全国大会兵庫予選大会	兵庫県内各地からチームを選出し、予選及び決勝を実施しました。デフサッカー体験では、難聴者の立場を理解し、新たなコミュニケーション方法を模索する貴重な機会となり、240名の子どもたちが学び、思いやりを育む大会となりました。
他	広報推進計画	Instagram、Facebookを通じて兵庫ブロック協議会の事業への想いや背景が伝わる広報活動を行いました。また共感を生む広報を行うことで県民ファンを増やし、兵庫ブロック協議会の存在価値を高めることができました。
公5	第58回ブロック大会高砂大会の実施	兵庫の魅力体験し発信するブース出展や、福祉事業者によるブース出展、またチャリティー事業としてGift Capの販売を行い、兵庫県内の食や文化に加え、福祉の要素を取り入れたフェスタを開催しました。
他	各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究	各LOMの事業構築のクオリティ向上のためgianpocketの推進を行いました。また、兵庫ブロック内の事業をより広く発信するため、各LOMへのヒアリングを実施し、AWRDS JAPAN2025にブロック推薦賞へのエントリーを行いました。
他	LOM 役員懇談会の実施	各LOMに自身の基本方針について再度見直すことができるディスカッションか、各地域の課題や現状を解決するための事業構築をするという内容のグループディスカッションのどちらかを選択していただき、事業を実施しました。



出典元:日本海新聞 2025年8月5日



出典元:神戸新聞 2025年9月18日



会議・委員会名	役職名	担当者名
和歌山ブロック協議会	会長	松岡 奨 (伊都)

**基本方針**

一人ひとりが輝き 地域と共に誇れる未来を描く和歌山の創造。



**総括**

2025年度、和歌山ブロック協議会では、全てのLOMにおいてアカデミー向けJCプログラムを実施し、ブロック全体としても多様なアカデミー事業を展開いたしました。会員拡大では毎月の拡大会議を開催し、要支援LOMである新宮JCには現地で伴走支援を行い、拡大担当者との会議や事業構築にも積極的に関わりました。和歌山ブロック大会では有田JC主管のもと「和歌山ええもんEXPO」を開催し、また防災フォーラムを通じてメンバーの防災意識を高める取り組みを行い、連絡調整会議を通じてLOMとの結束を深めました。新たな挑戦を重ねる一年を通じ、メンバー一人ひとりが輝き、地域と共に誇れる和歌山の未来へと歩みを進めました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第11回JCカップU-11 少年少女サッカー大会 和歌山大会	心豊かな人財を育成するために、勝敗に囚われず相手を称え合うことができるJCカップを開催し、将来地域社会を担う子供たちの協調性や連帯感を醸成しました。
公5	第55回和歌山ブロック大会 有田大会	会員が一堂に会する記念式典を開催することで、JC運動に対する理念共有ならびに意識統一を図ることができました。さらに記念事業として、地域の魅力を発信する事業を実施することで、長期的な発展の可能性を持つ地域経済の活性化の一助となることができました。
他	第55回和歌山ブロック大会 有田大会防災フォーラム	社会福祉協議会および日本防災士会和歌山県支部のそれぞれから講師をお招きし、メンバーの防災知識と防災意識の向上、そして防災意識を高めたメンバーが緊急災害時に率先して行動できることを目指してフォーラムを実施いたしました。
他	要支援LOMへの伴走支援	要支援LOMに対し、伴走型の支援を行いました。要支援LOMが、会員拡大をLOMとして実施できる状態とすることを目的とし、ブロック役員が毎月訪問をしつつ事業構築、会員拡大の支援を行いました。
他	会員拡大事業	各LOMの会員拡大の担当者と毎月会員拡大会議を実施し、会員拡大の目標達成に向けての進捗報告と意見交換を行いました。また、会員拡大の目標達成に向けて順調なLOMや全国各地での成功例と取り組みを共有します。
他	連絡調整機関としての 防災会議推進事業	緊急災害時の連絡体制及び支援体制の構築、市民そして会員が正しい防災知識を学び防災に対する意識の向上を目的として実施しました。各LOMの防災担当者に向けての防災会議、太平洋沿岸のブロック協議会との連携強化を進めるB-POK(防災pacificocean協議会)の新設を実施しました。
他	アカデミー育成事業 4月 第2回アカデミー育成事業	第1回事業は、アカデミー向けONE IMPACT SEMINARの開催を通じて、参加者それぞれの地域での課題の根源が何なのかを追求する機会を設けました。また第2回事業として、経験のあるメンバーがアカデミーメンバーと共同で事業構築の手法を学ぶ機会を設けました。
他	ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの 運用	ブロック協議会メンバーが、各LOMを個別に訪問する形で、JCプログラムを開催しました。各LOMのアカデミーメンバーを対象者とし、基本的な JC の理念や運動の本質、価値観を学んでいただくために、JCプログラムのAchieve、VMV、Purposeを各LOMの選択式で実施いたしました。
公5	近畿地区大会ブース	近畿地区大会乙訓大会の出展テーマである「地域資源をいかして地域特産となった商品の紹介・販売」に基づき和歌山の特産物の一つである新生姜を使用した、生姜丸しほりわかやまジンジャーエールを、販売し和歌山への関心と魅力を発信いたしました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
岡山ブロック協議会	会長	松田 和也（津山）

### 基本方針

情熱から生まれる行動力で、希望あふれる岡山の未来の創造。



### 総括

本年度岡山ブロック協議会では、会員拡大支援、メンバーの育成、地域活性化の3本柱で事業を構築しました。各事業に対して、岡山ブロック各地会員協議所理事長の皆様はもとより、全メンバーを巻き込んだ事業を開催しました。アカデミーでは、例年3年未満を対象としていた事業から、全メンバーを対象とした事業を開催し、次世代を意識した人材育成をすることができました。地域活性化では岡山万博を開催し、岡山県内の自治体と連携しパビリオンを展開しました。12,000人の来場者に岡山県の魅力を発信することができました。会員拡大支援も実施し、2025年度期首人数に対して2026年度期首人数を増加することができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	岡山会議	岡山ブロック協議会内の全会員を対象にした研修事業を開催。第1部ではAchieve、Impact、第2部で全会員共通で「リーダーの道」と題して原田憲太郎先輩の後援会、第3部ではpurpose、スピーチを実施し、自身の成熟度により選択する形式で開催しました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー 岡山県予選大会	サッカーを通じて成果に関わらず、いさぎよく結果を受け入れ、相手に敬意を払い、関係者へ感謝できるグッドルーザー精神を養い、思いやりの心とあくなき挑戦心を兼ね備えた人材を育成すべく開催しました。
公5	岡山万博	岡山県内各自治体と協力し、地域の伝統文化、食を中心としたパビリオン、飲食ブースを作り開催しました。12,000人の来場者に自分が住んでいる地域以外の岡山の魅力を認識し、郷土愛を育む事業として開催しました。
他	会員拡大座談会	15LOMの拡大担当者を集め、各LOMの会員拡大情報を共有。各LOMが連携して会員拡大ができる環境を作り、LOMの垣根を超えた拡大を目指して開催しました。
他	2025年度 岡山ブロック大会	(一社)玉野青年会議所主幹のもと、玉野の地で、15LOMのメンバーが集い式典を開催しました。本年度の事業報告、次年度ブロック会長の発表、次年度ブロック大会主幹LOMの発表を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
広島ブロック協議会	会長	三戸 規弘 (呉)

**基本方針**

あふれる理想を描き共に語り合える広島の創造。



**総括**

今年度、広島ブロック協議会は県内の少数LOMに対し積極的にブロック協議会内メンバー間の交流と成長の機会を提供する事業を実施しました。中でも、LOM支援事業においては最小数LOMとブロック協議会で事業を構築しました。単独LOMに対しての支援事業は過去に開催された例はなく、多くのご意見を頂きながらの事業構築となりましたが、結果的に最小数LOMの会員増加、地域での認知度上昇に繋がりました。他人事ではなく、各LOMが明日は我が身という意識改革とメンバー間の交流が最大化出来た事業となりました。自分達が変わったのだと誇れるメンバーとLOMを生む事が出来たこと、連携する事で生まれる大きな成果を結果として出すことが出来ました。

事業区分	事業名	事業内容
他	広島ブロック協議会新春会議	県内各地12LOMのメンバーが広島各地へ一堂に会し、本年度広島ブロック協議会の基本方針、スローガン、各役員の紹介、各委員会を行い、新年最初のメンバー交流事業を実施した。広島ブロック協議会の運動に対する理解と組織の一体感が深まりました。
他	広島ブロックゴルフ大会in大竹	少数LOMである大竹JC主管のもと、ゴルフを通じ県内各地の多くのメンバー、また特別会員と交流を交わすことが出来た。また、近年では最大の参加人数に達する事が出来、少数LOMであっても主管する事が出来るという自信に繋がりました。
他	広島ブロック野球大会in三次	少数LOMである三次JC主管のもとで、県内各地から集まったメンバーと野球を通じ大会テーマ「一球一会」のもと、熱い交流を交わす事が出来る貴重な機会を提供する事が出来ました。
他	広島ブロックアカデミーin竹原	例年、入会3年未満のメンバーを対象に行っていたが、本年度はすべてのメンバーを対象とし、山田章夫先輩、神畑副会頭を講師としてお招きし、ピグナー編、ベテラン編に分けてJCセミナーを実施しました。
公5	広島ブロック拡大LOM支援事業in因島	因島JC主管の下、尾道地区、因島町の町民と一緒にINNOしまみらマルシェを開催。地元高校生によるステージ演奏、地元太鼓保存会の演奏で場を盛り上げ、町民の皆様が来店を開き多くの来場者を招く事業を開催しました。
公1	ビーチサッカークリニックin因島	県内の子ども達にビーチサッカーを通じて、スポーツマンシップの精神を学んで頂くため、スポーツマンシップ講座、ビーチサッカー教室、海岸清掃を実施しました。
他	第55回広島ブロック大会in尾道(式典)	県内12LOMが尾道の地に一堂に会して、本年度の広島ブロック協議会の事業報告、各LOMの事業報告、次年度広島ブロック協議会会長紹介、広島ブロック大会開催地の発表を本年度の広島ブロック協議会の集大成の場と位置付けて実施しました。
公5	第55回広島ブロック大会in尾道(フォーラム)	松川友和氏を講師として招き、フォーラムを通じて、市民が共に学び今後の活動に影響を与える事で地域社会の発展の一助となる事を目的として実施しました。
公5	第55回広島ブロック大会in尾道(たからいち)	地域における様々な魅力を発信し、事業に参加した地域住民に地域の魅力に対する自覚を促す事で、市民意識の向上を図る事業を実施しました。
他	第55回広島ブロック大会in尾道(大懇親会)	県内12LOMすべてのメンバー同士で、互いの活動を称え合い、地域や世代を越えて想いを共有する場として実施した。また、卒業生の想いと現役メンバーの決意が響き合う時間を通して、組織の一体感が高まりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
山口ブロック協議会	会長	橋口 平 (防府)

### 基本方針

希望あふれる未来を仲間と描き私たちが変えたのだと誇れる山口の実現。



### 総括

変えたのだと誇れる運動を起こしていくために、ブロック協議会として人財育成・拡大・運動構築などのLOM支援事業を実施しました。中でも1泊2日のアカデミー事業においては県内LOMの会員が集いJCの理念共感とリーダー像について学び今後のLOMを担う人財育成に寄与出来ました。また、運動構築支援においては本会とブロック協議会とLOMが連携し長門JCの運動構築支援を実施し、LOMと俵山地区との協定書の締結を実施出来、今後持続的な運動に繋がりました。最後に近年山口ブロック協議会においてもLOMと本会との連携事業が増えてきました。LOM単独では難しい運動も本会と連携することで、大きな成果を生むことが出来ることを各LOMが知ることが出来ました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー 山口県予選大会	地域を担う子どもたちに他者を思いやる心を兼ね備えた人財を育成するために開催しました。対戦選手を称えるアフターミーティングを実施したこと、地元のプロサッカーチームとの交流、講演を通じ他者を思いやる心の重要性を伝えてもらいました。
公5	魅力あふれた地域資源をいかした 地域活性化の取り組み (山口もってセレクション)	地域資源をいかした地域活性化を実現していくために県民が地域の魅力を知り発信する事業、山口もってセレクションを実施しました。当日は約30店舗の飲食ギフトブースを出展し、県民に地域の魅力を知り発信してもらいました。
他	Next Leader's 研修 ～JCマンよ、垣根を越えてリーダーとなれ～	1泊2日のアカデミー事業を県内各地青年会議所メンバー延べ118名で実施しました。大久保監事に講師としてお越しいただきJCの理念共感とリーダー像について講演してもらいました。また、チーム力向上のために、各プログラムを実施しました。
他	One Impact seminar ～光り輝くリーダーとなるために～	運動の効果をより高める事業構築をするために次年度スタッフが決まる9月に、2024年度褒章委員会 山崎委員長を講師としてお招きし One Impactセミナーを78名の会員で実施しました。新入会員から理事長まであらゆる立場の方に学び多き事業でした。
他	褒賞事業の実施	県内各地の素晴らしい事業や人財を県内各LOMメンバーへ共有することを目的に褒賞事業を実施しました。1次審査は書面で2次審査は対内事業4つ、対外事業は5つ、新人賞は4名プレゼンいただき、グランプリ、準グランプリを決定しました。
他	第62回山口大会の実施	ブロック協議会の1年間の集大成と次年度への想いの継承の場として実施しました。山口県知事その他、多くの来賓をお招きし、祝辞を賜った他、2026年度会長のお披露目、決意を述べていただき、2025年度から2026年度へ想いを継承することができました。
他	山口会議の実施	2025年度のブロック協議会の会長所信、委員会の基本方針を県内各LOMメンバーにお伝えしブロック協議会に対して理解と協力をいただくために実施しました。
他	ブロック球技大会の実施	LOMの垣根を超えた交流を目的で実施しました。主管LOMのご尽力のもと、前夜祭本大会を通じて、LOMの垣根を超えた交流に加え各LOMの繋がりが強固になりました。
他	地域に眠る活用しきれない 資源の調査・発掘・研究	ブロック協議会と持続可能な地域開発委員会と連携のもと、デモツアーを実施しました。その後、より観光客、移住者、インバウンド等の受入のために地域企業の方と協議を重ね、地域共創パートナーシップ連携協定を締結する支援を実施しました。
他	魅力あふれる人財を増やす 会員拡大運動の展開	LOMの持続可能な発展とLOMの運動が円滑に起こしていくために、拡大支援を実施しました。拡大をするための人財育成、LOMの垣根を超えた拡大情報の共有、県域での異業種交流会を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
島根ブロック協議会	会長	木下 淳 (安来)

### 基本方針

メンバーが地域を牽引するリーダーとしての資質を高め個が今より光り輝き、皆が誇れる島根となっている未来の創造。



### 総括

ブロック協議会だからこそできる事業を開催し、メンバー間の交流と成長の機会を提供することを目的として運動を展開しました。また島根ブロック協議会の結束を高めるとともに、各事業の出席率の向上を図るために事業を親子議案として事業構築し開催しました。1年を通じて、付加金の値上げや親子議案での事業構築等新たな試みを試行錯誤しながら運営団、県内メンバーと共に取り組み、年当初思い描いた通りにすべての事業を開催することができました。会員の成長に繋がる多くの機会を提供することができ、基本方針を実現できたと確信しております。

事業区分	事業名	事業内容
他	島根ブロックナイト	会長と各地会員会議所の理事長達との対談形式で島根ブロック協議会の今年度の取り組みや方向性を周知しました。
公4	みんなで知ろう! 考えよう! 竹島の事!	第1部として、島根県竹島問題研究顧問升田氏による竹島問題に関する講演を開催。第2部として、升田様と島根大学の学生解説員によるディスカッションを実施して今後の島根県の取組みなどを周知しました。
他	過去を知って未来を学ぶ、課題意識向上事業	ブロック大会式典内において動画と各LOM担当者へのインタビューによって島根ブロック内9LOMの活動紹介を行うとともに、会場内に事業の詳細を確認できるブースを設置しました。
他	第51回島根ブロック大会 (記念式典)	県内9LOMのメンバーが一堂に会し、本年度の運動と各LOMの事業紹介、また次世代への起点となる次年度体制の発表を含めた記念式典を開催しました。参加したメンバーがブロック大会の意義を改めて感じることでできた式典でした。
公5	第51回島根ブロック大会 (記念事業)	講師として株式会社ARTH(アース)代表取締役社長 高野由之氏による講演を開催。自身の活動をもとに地域資源再発見の必要性やその地域外からの必要性についてお話していただき地域資源の活用事例について理解を深める事業となりました。
他	KINO'S BOOT CAMP ~学べ! 繋げ! 真夏の合宿アカデミー!~	1泊2日形式でのアカデミー事業を開催。チームに分かれ議案作成を行い、2日目に模擬理事会として県内理事長に対して事業の説明と答弁を行いました。またJCセミナーとして明石青年会議所シニアの柿野先輩をお招きして組織力向上セミナーを開催しました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させるプログラム	日本JC 公認プログラム「JCI Achieve」を実施。トレーナーとして鳥取青年会議所シニアの澤田先輩をお招きしてセミナーを実施致しました。JCメンバーとしての理念・目的・存在意義を学んでいただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
鳥取ブロック協議会	会長	庄司 慎平 (境港)

### 基本方針

未来を描き、今を変え 魅力と誇りある人とまちへ  
 日本青年会議所や地区協議会と連携し、各LOMを支える存在になります。



### 総括

本年度は基本方針のもと、メンバーがJCに対し誇りを持つことを目指したプログラム事業やアカデミー事業、子どもたちが鳥取の誇りとなる人材となることを目指すJCカップ事業を行いました。  
 ブロック出向者もJC歴が浅く、初めて議案に触れる者も多い状態からのスタートでしたが、事業構築をしていく中で成長し、各LOMで引き続き活躍してくれると感じる存在になりました。  
 会員数の減少などで事業構築が満足にできていないLOMもありますが、セミナーやLOM間交流を通じ、互いに支援し合う関係性も生まれつつあります。今後の事業実施を通じ、各LOMの発展に繋がると確信しています。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー鳥取県予選大会	JCカップ鳥取県予選の中で、「感謝でハッピー」をキーワードに、子どもたちが保護者や指導者、関係者の方に感謝を伝える機会を設けました。子どもたちや周りの方も感謝を伝えることの大切さに気づくことができました。
他	ENJOY! 誇れる組織改革プログラム ～JCI Achieve編～	鳥取ブロック協議会のメンバーが「家族、会社、地域」に対してリーダーシップを発揮し、誇れる組織に再構築できるような人材育成を目的とし、JCプログラム JCI Achieveを開催しました。
他	ENJOY! 次世代へ繋ぐ誇れるJC アカデミー塾 ～JCゲーム編～	アカデミー生を中心に、JCプログラム JCゲームを行いJC活動で自分の役割のイメージが付き、ステップを知ることにより精力的にJC活動に勤しむことができ、今後の自己成長に繋がる事業を開催しました。
他	JC連携に感謝でハッピー！ 掘り起そう、オラがまちの眠った資源！	地域の眠れる資源の見つけ方として、本会のパッケージモデル事業「もっとセレクション」を紹介し、実際に賞を獲得した特産品を試食してもらう機会を設けました。参加した方が資源の見つけ方について気づきを得ることができました。
他	2025年度ブロック大会	鳥取の新たなシンボルである鳥取県立美術館を会場に、県内5LOMのメンバーが集い、今年度の事業報告と次年度の会長発表などを通じて、今後の支援姿勢を共有しました。鳥取ブロック協議会50年の節目でもあり、初代会長をお招きし、激励の挨拶をいただきました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
香川ブロック協議会	会長	西應 俊介（東かがわ）

**基本方針**

高い理想が導く希望に満ちた香川の創造へ。



**総括**

本年度、香川ブロック協議会では高い理想が導く希望に満ちた香川の創造へを基本理念に運動を展開しました。アカデミー会員の意識向上や要支援LOMへのブロック協議会が出来る限りの支援などLOMに向けてブロック協議会から支援できることを計画し実践しました。その中で新たに取組んだことがLOM間での人的支援になります。新たな取り組みとしてまだ確立はされていませんが2026年度も更に進化させて続けていきます。アカデミー会員による事業も開催することができ、ブロック全体での一体感も高められ外向に対する意識改革も行えた一年になりました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	JCカップU-11年少少女サッカー大会 香川県予選の実施	香川県内のサッカーチームを募集し、香川県予選を実施しました。グッドルーザーの精神を学び、他者を思いやる心と感謝の心を改めて感じてもらった機会となりました。
公5	香川ブロック大会記念事業の実施	香川県の眠っている魅力、県内の人では当たり前だと思って気付かないような魅力を発見できるような動画を実際にクリエイターをお呼びし制作するための講演を行いました。
他	地域の魅力発見動画アワード表彰式の実施	ブロック大会主管青年会議所である高松JCの例会の一部でブロック大会の追加事業として実際の動画の採点を有識者や県内の理事長に依頼し、アワード表彰式を行いました。
他	6LOM合同例会事業の実施	香川ブロック協議会では、2月例会を6LOM合同例会としてアカデミー向け事業や懇親会を同日に実施します。2025年は沖縄よりトレーナーをお招きし、VFセミナーを行いました。
他	アカデミー交流会の実施	アカデミー会員の割合が増加してきているなかで交流の機会が少なくなっていることが課題と感じ、交流と9月に行うアカデミー会員が行うアカデミー事業のためのグループ分けと交流を行いました。
他	香川県知事との意見交換会の実施	香川県知事との意見交換会を実施しました。JCで役職を受けているからこそ視点や意識を持ってほしいと思える理事長と県知事、県議会議員をお呼びし今後の香川の明るい未来に向け意見交換を行いました。
他	青年団体5団体友好締結式の実施	今まで本会と同じく4団体で行ってきた交流会を今年、中小企業家同友会青年部が全国大会を香川県が主催することもあり、4団で事前に会議を行い、締結式とともに交流会を実施する運びとなり団体の垣根を越えて盛大に交流会を実施しました。
他	アカデミー運動会の実施	春に実施したアカデミー事業の最終ゴールとしてアカデミー会員が実際に設営や動員まで行って事業を実施するというを設定しました。トラブルもありましたが横の繋がりを感じながら一体感も達成感も感じてもらえる事業となりました。
他	LOM間外向の実施	年間を通じてLOMの支援策としてLOM間での外向を計画しました。名前から抵抗があり途中から香川連絡調整会議に名称変更し各LOMへの人的支援をメインにLOM支援を実施しました。
他	会員拡大セミナーの実施	要支援LOMである小豆島JCの活動エリアである小豆島の地まで上田議長にお越しいただき会員拡大セミナーと交流を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
愛媛ブロック協議会	会長	近藤 史教 (西条)

### 基本方針

高い理想が導く 希望に満ちた愛媛の創造へ。



### 総括

本年度は、愛媛連絡調整会議を会員会議所会議終了後に行い、県下情報交換、本会事業の進捗報告を行いました。また県内各地会議所と連携し、運動を展開してまいりました。特に会員資質の向上を重点的に歴代会長による「3方由」のセミナー、各種JCプログラムを3回実施しました。メンバーと共に単年度制を生かした挑戦し続けた一年でありました。各地会員の情熱と行動力により、地域の可能性を再認識するとともに、次代を担う青年の責任を改めて感じる年でもありました。ここに深い敬意と感謝を表し、愛媛ブロック協議会のさらなる発展を祈念いたします。

事業区分	事業名	事業内容
他	各地域における課題と質の高い運動の調査・発掘・研究	八幡浜青年会議所実施のこころつながるプロジェクト～にしろわもっとセレクション～を愛媛県内へTV他メディアを通じて発信しました。
公5	地域に眠る活用しきれていない資源の調査・発掘・研究	愛媛県内企業や隠れた見どころを調査してもツアーを実施しました。ツアーを撮影し旅行代理店3社に動画とツアー紹介を行いました。
他	誇れる組織への改革に向けた運動を加速させる各種プログラムの実施・支援	JCプログラムIMPACTを行いました。今回を機にJCプログラムのヘッドトレーナーを目指す活動を行いHT3名AT3名が誕生しました。
他	ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用	JCプログラム「PURPOSE」「ACHIEVE」を行いました。アチーブではトレーナーが全員四国内メンバーで、身近な体験談を取り入れていただいた内容となりました。
他	理念共感拡大ブランドデザインの検証	鎌田歴代会頭による講演会を実施し、長期的なLOM運営方法をご教授頂きました。これまで愛媛県内では収益事業を想定することが少なかったですが、新たな発想ができる素晴らしい内容でした。
他	未来を創るリーダーシップ事業の開催	帽子歴代愛媛ブロック会長による、三方由セミナーを開催いたしました。先輩の実体験に基づき講演頂き、誰のために事業をするのかを再認識するきっかけとなりました。
他	会員拡大の推進	11月に「未来を拓くJC拡大戦略 ～歴代の知恵と繋ぐ未来～」をテーマに、各地青年会議所の当年度次年度担当委員会をターゲットに本会より石川先輩、上田拡大委員長、船津LOM支援委員長、愛媛ブロックより真鍋先輩をはじめ多くの方にお越しいただき拡大の意義と機会の創出を話し合いました。
公1	愛媛ブロック大会の実施	PR議案をはじめブロック大会記念式典、記念事業MUGEN FESTIVAL ～YAWATAHAMA BASKET BALL～の構成でした。記念事業では愛媛県内の魅力を広め、公益財団法人愛媛県スポーツ協会様・愛媛オレンジバイキングス様お越し頂き未来のバスケットマンの交流になりました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカーブロック予選大会の開催	愛媛県内より8チームが本年参加していただき、愛媛FC様スクールコーチによるグッドルーザー精神のセミナーとサッカートレーニングを行い後に愛媛代表戦を行いました。優勝した玉津サッカークラブさんは全国大会へ出場されました。
公4	第27回参議院議員選挙 愛媛県選挙区立候補者公開討論会の開催	うえの由佳様、ながえ孝子様、原田しんたろう様に登壇して頂き、愛媛CATV様・YOUTUBEにて配信をしました。会場は80名を超える方にお越し頂き、アーカイブでは14000回以上の閲覧がありました。愛媛県での投票率50%を目標とし、56.74%となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
高知ブロック協議会	会長	茶畑 昭 (中村)

基本方針

人口減少が進む高知で、青年の力が今こそ必要です。地域の強みを生かし、いつまでも誇れる高知を創造します。



総括

「私たちが変えるいつまでも誇れる高知へ」というスローガンを掲げ、ブロック協議会の在り方を見直し、目的や運営を再確認しました。そして、アカデミー育成と日本本会との連携強化に特に注力しました。アカデミー会員にJCで活動する意味を認識してもらうことで資質向上に繋がりました。また、地域共創会議との連携で「もっと高知セレクション」を実施し、高知ブロックだけのリソースだけではできない事業を展開することができました。連絡調整機関としての機能を発揮し、これからの協議会運営に繋がる結果となりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	高知ブロックネクストリーダー塾	全3回の開催で、アカデミー会員を中心に基礎的なことから会議の運営についてなど、高知ブロック全体で学べる事業を実施しました。
公5	高知もっとセレクション	地域共創会議との連携事業で、高知ブロックにおいては地域を限定せず県内全域で開催しました。全てのLOMと連携しブロック協議会ならではの事業になりました。
他	高知ブロック大会中村大会記念式典	主管LOMである中村JCの活動エリアの来賓をお招きし、高知ブロック協議会の運動を発信しました。
公1	高知ブロック大会中村大会記念事業	商店街を活用した青少年対象の事業を開催しました。地域の子供達に、地元文化や名物に触れ合える機会を提供しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
徳島ブロック協議会	会長	真鍋 和也 (阿波池田)

## 基本方針

俺たちで変える地域の発展と持続可能な徳島を基本理念に掲げ、地域資源を活かし若者が活躍する持続可能な徳島の実現を目指します。



## 総括

本年徳島ブロック協議会は、地域課題調査や未活用資源の発掘、JC人材育成、理念浸透の検証、防災ネットワーク強化、地域交流事業を通じ、地域間連携と魅力発信を推進しました。各LOMや外部団体と連携し、質の高い事業や好循環モデルを構築するとともに、共通価値観を持つリーダー育成や災害対応力向上を図りました。また、徳島ブロック大会吉野川大会では地域住民と会員が主体的に関与し、郷土愛を深め交流を促進することで、持続可能な地域づくりと組織力の強化を実現しました。そして、リーダーの繋がりをもって各LOM間での支援協力を発足させ自発的支援の形作りを行い、各LOMの対外事業での人的支援や解散危機であったLOMの存続に繋ぐことができました。

事業区分	事業名	事業内容
他	ブロック大会PR事業	第52回徳島ブロック大会 吉野川大会 記念式典及び記念事業への参加、登録を促すため、県内各地の青年会議所、会員にPRを実施しました。
他	TOPリーダーアカデミー事業	アカデミー以外の参加促進を目的に2部構成で実施。JCゲームと理事長による講演を通じ、入会3年以上のメンバーの出席向上を図りました。
他	災害時におけるリーダーシップ育成レンジャー発掘勉強会	日本赤十字社徳島県支部による防災講話で自助・共助の重要性を学び、HAGゲームで避難所運営を体験。さらに心肺蘇生や応急手当など実践的な救護法を習得しました。
公5	2025年度 第52回徳島ブロック大会吉野川大会 記念事業	徳島の魅力を再発見し、住み続けたいと感じてもらう記念事業を開催。体験型ワークショップや料理教室、展示、緑日など多彩な企画を実施しました。
他	2025年度 第52回徳島ブロック大会吉野川大会 記念式典	卒業生功労者の発表や次年度会長候補者の紹介を行い、記念事業と式典の成功を祝い次年度への希望を共有。竹灯りで連続性と徳島ブロックの魅力を表現しました。
他	TOPリーダー 理念共感事業	三部構成で理念と共感をテーマに講演を実施。JC理念やSNSビジネス、共感の在り方を学び、参加者がJCの魅力と意義を理解する機会となりました。
公5	立ち上がれ！ 未来のヒーロー防災レンジャー	地域住民の防災意識向上と連携強化を図り、自助、共助の重要性を学ぶことで、災害に強い地域づくりと迅速な対応力向上に繋がる事業となりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
福岡ブロック協議会	会長	植木 剛 (大川)

### 基本方針

希望にあふれた理想を描き情熱と行動で福岡の未来を切り拓く。



### 総括

本年度、福岡ブロック協議会は「希望にあふれた理想を描き、情熱と行動で福岡の未来を切り拓く」を基本方針に掲げ、各LOMの連携強化と地域課題の解決に向けた実践的な活動を展開しました。ブロックアカデミーや地域フォーラムでは、次代を担う若手人財の育成と地域の魅力発信を推進。さらに、LOM支援体制を充実させ、各地の事業構築をサポートすることで、活動の質と効率を高めました。その結果、LOM間の繋がりが深化し、地域に根ざした運動がより一層活発化。協議会として「共に成長し、共に挑戦する」存在価値を確立し、福岡の明るい未来へと繋がる確かな一歩を刻むことができました。

事業区分	事業名	事業内容
公1	第11回JICカップU-11少年少女サッカー大会 福岡県予選大会	サッカーを通して、他社を思いやる気持ち、夢を持つことの大切さ、勝負に負けても相手を称えることができる精神を育む青少年育成事業を実施しました。
公5	第53回福岡ブロック大会山門大会	福岡ブロック協議会最大の運動の発信の場として、メンバーや県民に地域の魅力を感じてもらおうとともに、LOMの発展や地域の発展に繋がる福岡ブロック大会を開催しました。
公5	社会フォーラム (第53回福岡ブロック大会山門大会)	社会経済の仕組みを知ることにより時代を先駆けた変化を捉え、ゼブラ企業の必要性を認識し、メンバー一人ひとりがビジネスの機会を掴み取る力を得ることができるように成長と発展の機会を提供しました。
公5	ブランドマネジメント変革フォーラム (第53回福岡ブロック大会山門大会)	最先端のブランディング戦略、情報発信力についての学びの場とし、明日から実践したいと思えるノウハウの習得と、参加者一人ひとりの能力の向上により、22LOM福岡全体のブランドマネジメントの力のレベルアップの機会を提供しました。
公1	TEENSROCK 2025inFUKUOKA	音楽のまちひたちなかで毎年実施される、TEENS ROCK決勝戦に向けて、全国各地で予選会を実施しています。本年度は初の試みとして、福岡の地でも予選会を開催しました。
公7	JCIアスパック担当窓口及びブース出展	国内外に福岡の魅力を発信するべく、JCI ASPAC ジャパンナイトにブース出展しました。
他	第43期福岡ブロックアカデミー	会3年以内の県内メンバーに対し、年5回の全体事業及び全体事業を行い、地域で活躍できるリーダーへの成長を目的とした人財育成事業を実施しました。
公5	FUKUOKAコンファレンス2025	福岡県と共催で人と動物の健康、環境保全を一体と捉えた「ワンヘルス」をテーマにカウンターパートと連携した運動を福岡県民に向けて発信しました。
公5	~HarmoniousFuture~ 1(ONE)級フードフェス (FUKUOKAコンファレンス2025)	人・動物・環境の健全性を重視する「ワンヘルス」の理念のもと、「安全・安心な食」と「食育」を推進し、食の宝庫・福岡の農畜水産物を通じて、命の繋がりを学び、持続可能な未来を考える機会を創出します。
公5	社会フォーラム (FUKUOKAコンファレンス2025)	社会と共に成長する「ゼブラ企業」に焦点を当て、利益だけでなく地域や人に貢献する企業の価値を紹介、講演を通じてその魅力や具体的な取り組みを伝え、持続可能な動き方や地域との関わりを考える機会を提供しました。
他	2025年度福岡ブロックアワード	2025年度のLOM事業を共有し褒賞することで、有益な情報交換を促し高め合える機会となる褒賞事業を実施しました。
他	2025年度福岡ブロック会員拡大褒賞	2025年度のLOM拡大を共有し褒賞することで、有益な情報交換を促し高め合える機会となる褒賞事業を実施しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
大分ブロック協議会	会長	千壽 智明 (別府)

### 基本方針

「大分のユニークな個性が輝き 大切なあなたに誇れる未来へ」とし、8LOMの個性を輝かせ世界で異彩を放つ大分を目指します。



### 総括

大分ブロック協議会の重要ミッションはLOM支援であることを念頭に運営を進めてまいりました。そのためにも全事業において、LOMの垣根を越えた交流や、各地域の魅力を共有する価値を共感頂ける要素を各所に設定して、メンバーに大分ブロックの存在意義を実感するように努めました。結果的に、大分ブロック大会では感動とともにメンバーのモチベーション向上に寄与することができ、次年度大分ブロック協議会の役員人事では近年になく順調に組閣ができたということで、ブロック出向の意義が浸透してきていると考えます。本年度出向役員が成長してLOMに戻り、今後もブロックとLOMが良い相乗効果を育む関係性になって欲しいと思います。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年度 ブロック・ファースト	県内各8LOMのメンバーを対象として、日本JCや九州地区協議会、大分ブロック協議会の基本理念や活動方針を発表しました。特にブロックの説明では、全ての会議委員会が連動して1つの組織目的に向けて動いていると分かりやすい共有を努めました。
公1	JCカップU-11少年少女 サッカー大会 大分県予選	11歳以下の男女児童を対象とした全国サッカー大会の大分県予選を企画しました。過去の実績が評価され、また早い段階でPRした結果、過去最高の参加チーム数で白熱した、またお互いを称えあえる素晴らしい試合を開催することができました。
公5	異彩を放つ移住者の視点で地域の 魅力を再発見プロジェクト	大分県九重町で狩猟農耕生活をする塚田氏という移住者をモデルに、従来の九重町と、移住者の視点で切り取る九重町を比較できるブースを運営しました。行政やDMO等の各種専門機関からも反響を得て、観光商材化する上の契機として大きな効果がありました。
他	JC着火剤セミナー ～行動が変われば世界が 変わる～	モチベーションアップを目的として、関東地区担当常任理事の渋谷巧君を講師としてセミナーを開催しました。特に現状くすぶっているメンバーにとってJCに対する向き合い方が良い方向に変わったという声があり、今後の組織力向上に寄与することができました。
公5	第58回大分ブロック大会in別府 記念フォーラム「地域資源× クリエイティブジャンプ - 価値を飛躍させる視点と実践」	株式会社水星の龍崎氏を講師に招いた記念フォーラムを実施しました。地域で事業構築する重要さとそのメソッドについて学ぶことができ、新たな価値創造する「クリエイティブジャンプ」について、多くの参加者が賛同し大分にとって有意義な機会となりました。
公5	体験型ふるさと納税で地域の 魅力を発信プロジェクト	地域に眠る資源の発掘というテーマで、九重町に移住され農耕生活をされている方とその周囲の方々の暮らしから浮かぶ自然の素晴らしさを体感できるモデルツアーを実施し、DMO、行政関係者多くの皆様から評価頂きつつ今後の商材化に向けて動いていきます。



会議・委員会名	役職名	担当者名
佐賀ブロック協議会	会長	野下 泰弘 (鳥栖)

### 基本方針

革新する佐賀の創造 夢と思いやりが結ぶ誇れる未来へ。



### 総括

基本方針を軸に地域資源のブランディングを学ぶ機会や地域交流の場をブロック大会で実施しました。また、本年は全国大会佐賀大会を抱えており、大会内でのブロック協議会の事業としては佐賀県外の方々に佐賀県の食の魅力を感じていただく、飲食ブースや全国大会の魅力を県民に伝える学生記者事業を実施しました。そして、全国大会を支えるために全国大会実行委員会にすべてのLOMが加入しました、大会は大きな問題もなく実施され県内LOMの交流や繋がりが強固なものとなる素晴らしい事業だったと思います。

事業区分	事業名	事業内容
公5	伝えよう、素晴らしき佐賀県を	文化会館前の広場にて、すぐに食べられる弁当や軽食を提供し、既設スペースと合わせて約300名分の喫食スペースを提供する事により、全国大会の円滑な運営に寄与します。また、全国大会佐賀大会を題材にする『学生記者』を募集、学生記者が作成した記事は、佐賀新聞編集局が推敲し、佐賀新聞に掲載しました。
公5	佐賀ブロック大会inTAKEO	ブロック大会を開催し、協議会の運動の集大成を発信するとともに、佐賀全体にJCのブランド力を高める事が出来ました。
他	アカデミー事業『SAGA nexus ~人をつなぎ、志を育む~』	入会后3年未満を基本の対象とし、地域の垣根を超えた交流すると同時にメンバー間の交流を図り、能動的に活動する意識を強固にしました。また、「JCI Achieve」「JCI Impact」を学びました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
長崎ブロック協議会	会長	兼元 博康（島原）

## 基本方針

JAYCEEが地域を牽引し 魅力あふれる長崎を共創する。



### 総括

「JAYCEEが地域を牽引し魅力あふれる長崎を共創する」を基本理念に掲げ、活動を展開して参りました。主事業の長崎コンファレンスでは、地域の持つ魅力が未来と平和を創ることをテーマに据えた事業を行い、長崎の隠れた魅力の発信、及び被爆県として平和の尊さを再認識してもらうことができました。また、青少年育成の課題となる部活動地域移行の意義や仕組みについて、保護者の方に理解してもらう事業ができました。このような事業ができたのは、私たちが目指す社会を実現するために県内各地メンバーが地域と連携し、力を合わせてきた結果だと思います。今年度協議会に関わっていただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

事業区分	事業名	事業内容
他	長崎コンファレンス2025 in佐世保 スローガン・開催日程・場所	県内各LOM会員や県民の方に大会開催の周知を行うために、スローガン・開催日程・場所を決定し、早期に大会の告知を行うことで、大会に携わる方々の意識を醸成するとともに県民の方々に関心を持っていただく機会となりました。
他	長崎コンファレンス2025 in佐世保 「大会式典」	日頃から長崎ブロック協議会の運動にご理解とご協力をいただいている来賓・諸先輩・関係諸団体・地域の皆様と共に、長崎ブロック協議会の運動や方針を共有し、感謝の意を伝え、次年度へ繋ぐべく大会式典を開催しました。
公5	長崎コンファレンス2025 in佐世保 大会運営及び告知活動	長崎ブロック協議会が推進する運動を県内外に効果的に発信し、さまざまな関係者からの理解・共感・賛同を獲得し、長崎の明るい未来と持続可能な発展への転換点となることを目的として活動しました。
他	JCに込められた想いを、未来の自分へプラスONE	長崎ブロック協議会内の全メンバーがJCの理念の理解と活動、運動の意欲向上を図ることを目的とし、JCプログラム「VMV」を開催しました。
公6	Welcome to Nagasaki インバウンドやってやろうじゃあねえか	長崎の魅力やその発信のあり方、インバウンドの必要性や課題について深く理解するため、させば観光大使、一般社団法人インバウンド全国推進協議会会長による講演、及びパネルディスカッションを開催しました。
公4	Peace Memory and Future ～6.28→29佐世保大空襲～	戦後80年を迎え、当時の記憶や証言が失われつつある中で、これからの平和と有事への備えについて、主体的に考え、明るい未来のために、平和を自分ごととして捉えてもらうことを目的とした講演を開催しました。
公2	選ばれる組織とは!? ～最強組織の引力の正体～	少子高齢化や離職率増加などにより、多くの企業が人財不足という課題に直面している中、所属する組織の更なる成長や個人の発展に貢献することを目的とし、人が集まる組織をテーマとした講演を開催しました。
公1	みんなで始める、新しい部活のカタチ! ～部活が地域に移行するよ～	子供たちに部活動の楽しさ、新たな挑戦について伝えるとともに、保護者に対して部活動地域移行の意義や仕組みについての理解と共感を促し、人財・広報・財源の視点を含めた説明会を開催しました。
他	アカデミー会員向け育成事業 ～NEXT CONNECTION∞ (インフィニティ)～ 繋がる力が未来を変える～	JCの理念や基礎知識に関して学ぶこと、及び長崎県内7LOM会員同士が強固な友情関係を構築し、今後益々JC活動に意欲的になることを目的とした交流事業を開催しました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
熊本ブロック協議会	会長	永田 渉 (水俣)

### 基本方針

一人ひとりの理想が輝き誰もが誇れる熊本の未来へ。



### 総括

熊本県内のJAYCEEが個人、社会、JCに対して青年らしく高い理想を掲げ、住み暮らす地域が誰もが誇れるものになるよう熊本ブロック協議会として運動を展開するとともに、各LOMの会員拡大育成、運営の支援を行いました。熊本ブロック大会では地域の眠れる資源の活かし方を学ぶ機会を提供するとともに、年間を通してJCにおけるビジネスの推進、3回にわたってアカデミー事業を実施しました。また、本年は災害発生時において迅速な連携をとることができるよう仕組みの構築を推進していたなか、これまで経験したことのない広域の豪雨被害を受けました。今回の経験を検証し、全国に波及するなど次年度において各運動が加速していくことを祈念いたします。

事業区分	事業名	事業内容
他	第1回アカデミー事業	アカデミーメンバーの活動意欲の向上を目指し、日本青年会議所谷口顧問に自身の経験を踏まえたJCの意義についてご講演をいただきました。また講演後には谷口顧問と共にメンバー間の交流の機会を提供しました。
公1	JCカップU-11 少年少女サッカー全国予選大会	熊本県内11LOMより12チームを選出し、県予選大会を実施しました。各試合後にアフターマッチミーティングを実施し、参加者にグッドルーザーの精神を学んでいただきました。
公5	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 メイン事業	大会テーマをKIZUKIとし、地域の当たり前にある資源を見つめ直し、多くの人に魅力的に感じてもらうためにどのように生かしていくべきかを学ぶセミナー、体験会と2部構成で行いました。
公5	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 総務広報	協議会の最大の発信の場であるブロック大会に開催地を含む県内住民の多くに参加いただけるようポスター、チラシを配布するとともに、デジタルチラシをSNSで発信しました。
他	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 成功祈願祭・結団式・解団式	大会が安全で成功となるよう神社にて祈願を行うとともに、想いを共有し団結するための結団式を行いました。また、無事に学び多き大会となったことに感謝を伝える解団式を行いました。
他	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 大会式典	多くのご来賓や県内外のJC関係者出席のもと、今年の熊本ブロック協議会の運動を発信し共感していただくとともに、県内11LOMの運動や方針を理解していただくための機会としました。
公5	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 ビジネス推進事業	熊本県内の中小企業が抱える課題解決と持続的成長を支援するため、ビジネスフォーラムを開催し、DX推進セミナー、トークセッションを実施しました。参加者が気づきを得て、具体的な行動へと繋げる第一歩となる場を創出しました。
他	第58回熊本ブロック大会inひとよし球磨 ブロックアカデミー事業	地域に必要とされる団体のリーダーとなる人材を創出するために、アカデミーメンバーのJC活動や運動に対する意識向上を目指し、JC活動を疑似体験することのできるJCゲームを実施し、交流する機会を提供しました。
公6	レジリエンス構築事業	県内各社会福祉協議会、一般市民の方々、JCメンバーを対象に講師の方々から熊本地震や令和2年7月豪雨災害、能登半島地震での被災者支援について講演いただきました。また災害ボランティアセンターの運営についてシミュレーションゲームを通して、疑似体験していただきました。
他	第3回アカデミー事業	LOMにおいて理事を担うアカデミーメンバー創出を目指し、日本青年会議所豊田顧問にJCの役職を受けるメリットやJCにおける運動の可能性についてご講演いただきました。講演後には懇親会にて豊田顧問と共にメンバー間の交流を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
宮崎ブロック協議会	会長	吉行 輝真 (小林)

## 基本方針

希望あふれる理想を描き未来を変えたのだと誇れる宮崎へ。



## 総括

2025年度の宮崎ブロック協議会は、インバウンドに着目し宮崎県のインバウンドへの機運を高める運動に注力しました。各種青年団体と今後の宮崎を創り出す宮崎県高付加価値インバウンド推進協議会の発足や日向の地で行われたJCフェスタでのインバウンドに関する講演会などを行い、今後の運動に繋がるきっかけになったのではないかと考えております。また、宮崎ブロック協議会内の会員はアカデミー率が60%近くとなっていることから、アカデミー事業を通年で行わせていただきました。JCセミナーやアカデミー会員による大運動会、JCプログラムの実施など参加しやすい雰囲気づくりを行い多くのアカデミー会員に参加してもらいました。これらによって、今後のLOM発展、宮崎発展に寄与することができました。

事業区分	事業名	事業内容
公5	JCフェスタ2025in日向 高付加価値インバウンドの 可能性と必要性	講師を招き、県民及びJCメンバーへインバウンドの現状と必要性を話していただきました。第2部では、各青年団体と講師によるパネルディスカッションを行いインバウンドの可能性と必要性を共有しました。
他	JCフェスタ2025in日向 広報渉外事業	例年ポスターやSNSでの広報はおこなっていましたが、今回はまきこみを重視し開催地である日向市の公式SNSや宮崎県のシンボルキャラクターによる広報を行いました。日向市民のみならず宮崎県全体に広報することができました。
公6	JCフェスタ2025in日向 防災事業	宮崎県民を対象に防災迷路の体験ブースを設置しました。子どもを中心に多くの方に体験していただきました。また、防災教育ブースを設置し社会福祉協議会との連携も通じ行いました。
他	JCフェスタ2025in日向 大会式典事業	宮崎ブロック協議会の事業内容や運動の方向性を共有し、参加者の士気向上やJC運動の価値や社会貢献の重要性を伝え、JC活動への参加意識の醸成に時間となりました。
公1	JCフェスタ2025in日向 わんぱく相撲宮崎県予選	県内3会場にて予選会を実施し、勝ち上がった選手による県予選大会を実施しました。参加者も昨年より増え、開催に興味を持つLOMも増えたと実感しております。
公6	大災害を想定した宮崎ブロック 内のレジリエンス強化	宮崎県でも南海トラフ巨大地震をかかえていることから、大災害を想定した防災連携の必要性を学びました。講師を招き、各地区ごとに災害時の支援ルート等の共有をおこない、各地域の課題や有事の際の行動を学ぶ機会となりました。
他	ブロック内メンバーにおける 会員交流	宮崎ブロック協議会は60%ほどのアカデミー率となっているのが現状です。しかしながら、コロナ禍以降繋がりが希薄になっていることからアカデミー事業の第一弾として大運動会を実施しました。他LOMメンバーとチームを組み、共に課題を乗り越えることで今後繋がる交流ができました。
他	JCプログラムの実施	2025年度アカデミー事業の最終としてJCプログラムを実施しました。講師を招きJCI Impactを実施し県内各LOMより50名を超えるアカデミー参加者が集まりました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
鹿児島ブロック協議会	会長	重野 隆太 (霧島)

**基本方針**

希望と理想を紡ぎ 未来を変えたのだと誇れる鹿児島へ。



**総括**

本年は第51回 鹿児島ブロック大会in奄美大島の開催で大会を通じて会員の皆様に多くの学びと成長の機会を提供することに努めました。離島を有するブロックならではの難しさ、素晴らしさ。結の精神性で大会構築に取り組み、初出向や初役員が多く、奄美大島で大会ができる年は13年に1度だけ。どんな形であれ2025年を誇れる1年にしようと言いつけました。会長として一番心掛けたことは、出向してくれたメンバーに多くの機会を提供し、一回り成長した姿でLOMにお返しすることでした。県内13LOMがさらに良い組織になるために、これからも成長と発展の機会を提供できる身近な存在であり続けていきたいと思います。

事業区分	事業名	事業内容
他	「修練x奉仕x友情 学ぼうJCスピリット」	アカデミー会員をメインの対象に日本JC公認プログラムJCゲームを講師として、高木孝太郎氏(尼崎JC)をお招きし、アカデミー事業を実施しました。アカデミー会員にとってJCの理念を深く理解し、能動的にJC活動、運動へ取り組むきっかけとなりました。
公5	ウーマン村本のWorld Open Mind 日本の常識、世界の非常識?	ウーマンラッシュアワーの村本氏を講師としてお招きし、村本氏によるスタンドアップコメディ主体のトークショーを通して、市民の皆様に国際に機会に触れ多様な価値観や文化への理解を深めることの重要性を学んでいただく事業を実施しました。
公5	紡ぐ地域の魅力発信事業 ~経済の風は南から~	講師として、九州工業大学 特任准教授 前田恵介氏をお招きし、ドローン体験やモデルロケット製作、VR体験といった新しい手法を通じて、鹿児島の地域資源の価値や魅力に気づいていただけるような事業を実施しました。
他	第51回鹿児島ブロック大会 in奄美大島大会式典	主観地域である奄美大島の魅力や特色、2025年度鹿児島ブロック協議会の運動の成果を内外に効果的に発信し伝えるために大会式典を開催しました。
公1	JCカップU-11 少年少女 サッカー大会鹿児島ブロック 予選大会	地域の未来を担う子どもたちが、多様な価値観に触れ、互いを尊重し、相手を称え、敬うグッドルーザーの精神を備え、社会への参画意識に誇りを持つ人財の育成を目的として鹿児島ブロック予選大会を開催しました。
公7	JCI ASPACジャパンナイト ブース出展	ASPACにおいて、鹿児島県の魅力を発信し、アジア太平洋地域のメンバーと共有することで、国際的な交流を促進し、鹿児島県への来訪意欲向上を目的としてジャパンナイトにてブース出展を行いました。



会議・委員会名	役職名	担当者名
沖縄ブロック協議会	会長	本多 祐允 (那覇)

## 基本方針

Positive Change ～希望を抱き、未来を変えよう～

魅力的な事業を展開して、沖縄の未来を明るく豊かに変える人財を数多く発掘、育成します。



## 総括

2025年度の沖縄ブロック協議会は、会員拡大と人財育成を軸に、参加者及び参画者により良い方向への行動変化、意識変容を促す事業を数多く展開してまいりました。同時に、本会が展開する事業の県内各LOMへの紹介、希望するLOMへの本会委員会が構築したスキームやパッケージのマッチングなど、LOMに最も近い総合連絡調整機関の職務にも注力しました。リーダーシップの育成及び視座の向上を目的として、メンバーの主体性、自主性を重視した協議会運営に努めることで、出向者一人ひとりが、事業の参画者であるという意識を強く持ち、出向によるさらなる自己成長を実感するという結果に繋がりました。

事業区分	事業名	事業内容
他	2025年度沖縄ブロック新デミー開校式	アカデミー生を主対象に、JC運動への参加のモチベーション向上を目的として、JCゲームを実施しました。JC活動を楽しみ疑似体験しながら、積極的な活動の重要性に気付く機会を提供しました。
他	人と人が繋ぐ会員拡大セミナー	人脈の広さを武器に芸人として活躍し、芸能界引退後もその広い人脈から再起を果たした入江慎也様をお招きして、会員拡大をテーマとするセミナー及びトークセッションを行いました。
他	2025年度沖縄ブロック新デミーVFセミナー～目的達成への道筋が見えるサー～	アカデミー生を主対象に、JC運動を行う目的意識の向上を目的として、VFセミナーを実施しました。参加者の意識変容及びLOMの垣根を超えた交流の機会を提供しました。
公2	WAKAMONO投票デザイン会議	選挙に行かない20,30代の若者へのインタビュー形式の調査をもとに、選挙に行かない若者像(ペルソナ)を構築し、そのペルソナを活用したグループディスカッションを通じて、若年層の投票行動への理解を深めました。
公5	2025年度沖縄会員大会成功するためにやるべきシンプルなこと～Let's for the Future	実業家の小澤隆生様(LINEヤフー元社長)をお招きして、変化の激しい現代社会において、沖縄から世界に羽ばたく起業や事業拡大を実現するための心構えを紐解く講演及びパネルディスカッションを行いました。
他	ジュニアクラブ制度拡大推進	中長期的な視点での会員拡大を目的として、高校生を主対象とするジュニアクラブ制度の設立、運営のパッケージを作成し、県内各LOMでの説明会等を通じて、同制度の導入を推進する活動を実施しました。
他	2025年度沖縄ブロック新デミー閉校式	アカデミー生を主対象に、JCの理念への共感を目的として、Purposeを実施しました。自らの存在意義を再認識し、JC運動の意義や重要性に触れる機会を提供しました。
他	JCセミナー	谷口雄紀顧問を講師にお招きして、県内各LOMメンバーを対象に、本会や協議会への出向のメリット(出向益)をテーマとするJCセミナーを実施しました。



---

---

# 付 録

---

---

諸大会開催・褒賞記録  
事務局組織図

## 1) 国内諸大会記録

大会名	日程	開催地	参加者数	参加者数 内訳
京都会議	1/23- 1/26	京都	16,818	現役 16,812 一般 6
サマーコンファレンス	7/19- 7/20	横浜	26,678	現役 10,101 一般 16,577
全国大会	10/9-10/12	佐賀	10,805	現役 10,723 一般 82

## 2) 国際会議参加記録

国際会議名	日程	開催地	首席代表	日本JC 参加者数	総参加者数
アフリカ・中東地域会議	5/21 - 5/24	ダーバン(南アフリカ)	なし	29	438
アジア・太平洋地域会議(ASPAC)	6/12 - 6/15	ウランバートル(モンゴル)	外口 真大	2,063	5,037
アメリカ地域会議	5/7 - 5/10	ロアタン(ホンジュラス)	なし	30	364
ヨーロッパ地域会議	6/4 - 6/7	ヘアニング(デンマーク)	外口 真大	50	1,047
JCI世界会議	11/4-11/8	チュニス(チュニジア)	外口 真大	1,407	2,952

## 3) 褒賞等

## ■国際青年会議所(JCI)褒賞受賞一覧

## 【JCI-ASPACウランバートル大会】

グループA(NOM賞)	日本JC	最優秀NOMフラッグシッププログラム
グループB(LOM賞)	東京JC	最優秀LOM持続可能な開発目標プロジェクト

## 【JCI世界会議桃園大会】

グループA(NOM賞)	日本JC	最優秀NOMフラッグシッププログラム
グループB(LOM賞)	東京JC	最優秀LOM個人開発プログラム
JCI会頭特別表彰	会頭 外口 真大	最優秀サポートNOM会頭
	若林 真喜子(東京JC)	会頭感謝賞
	水山 弘太郎(東京JC)	

## 2024年度 褒賞受賞団体一覧

(2024年10月4日 全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」)

## 【最優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
グランプリ	九州	鹿児島	屋久島	YAKUSHIMA Island Tour 2024
準グランプリ	東海	愛知	春日井	6月オリエンテーション 『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』

## 【優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
事業褒賞部門 各ブロック協議会推薦賞	中国	山口	長門	未来へバトンを!短編映画製作プロジェクト! ～映画がつなぐ、地域と歴史!JCがつなぐ、地域と世界～
事業褒賞部門 最優秀LOM地域社会向上プログラム賞	北陸信越	富山	富山	MACHIMEGURI 2023
事業褒賞部門 最優秀LOM個人能力開発プログラム賞	関東	茨城	茨城南	MORIYAダイバーシティプロモーション
事業褒賞部門 最優秀LOM拡大開発プログラム賞	東海	愛知	春日井	6月オリエンテーション 『PC開けたら2分でキャラ完成!もしアナログ社長が生成AIを使ったら』
事業褒賞部門 最優秀LOM国際協力プログラム賞	九州	宮崎	宮崎	インターナショナルホスピタリティ事業 (国際交流事業&国際災害訓練事業)
最優秀会員	関東	東京	東京	西川 恭央 君
事業褒賞部門 最優秀地球環境プロジェクト賞	九州	鹿児島	新大隅	つながろう!耕作放棄地再生プロジェクト
事業褒賞部門 最優秀組織改革プロジェクト賞	近畿	大阪	高槻	新入会員アカデミー事業
事業褒賞部門 BESTアドベンチャーツーリズム賞	九州	鹿児島	屋久島	YAKUSHIMA Island Tour 2024
事業褒賞部門 デジタルDE未来まちづくり賞	東北	岩手	一関	3月例会未来はいつも妄想から始まる ～社会課題解決型ハッカソン～

## 2025年度 褒賞受賞団体一覧

(2025年10月10日 全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」)

## 【最優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
グランプリ	近畿	兵庫	神戸	KOBE子ども未来フェス Let's Experience! みんなでつくる未来への架け橋
準グランプリ	関東	東京	東京	学び×祭り Education Festa

## 【優秀賞】

部門名	地区名	ブロック名	LOM名	事業名
各ブロック協議会推薦賞	東北	福島	だて	創ろう、学生コミュニティ【ダテナフ】
BEST アップデート協議会賞	東海	三重		三重ブロック協議会
最優秀LOM 国際協力プログラム賞	関東	東京	東京	学び×祭り Education Festa
最優秀LOM社会開発プログラム賞	近畿	兵庫	神戸	KOBE子ども未来フェス Let's Experience! みんなでつくる未来への架け橋
最優秀地球環境プロジェクト賞	九州	鹿児島	新大隈	リサイクル率日本一のまちからごみの未来を考える
BEST 地域共創魅力発信賞	九州	福岡	飯塚	こどもはこのまちの未来だ!宣言
最優秀LOM個人能力開発プログラム賞	近畿	滋賀	長浜	湖北対流都市構想推進事業 創造体験フェス2024 ～つくる!ワクワク・未来のまち!～
最優秀LOM拡大開発プログラム賞	近畿	大阪	大東	タケのミリオクプロジェクト
最優秀組織改革プロジェクト賞	関東	神奈川	横浜	2月例会100%登録チャレンジ
最優秀会員賞	関東	神奈川	相模原	小林 将弘 君

## 公益社団法人 日本青年会議所 2024年度会員拡大褒賞受賞団体一覧

(2024年10月4日 全国大会福岡大会「AWARDS JAPAN 2024」)

### グランプリ【最優秀拡大LOM賞】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	公益社団法人春日部青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 10名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東北	宮城	一般社団法人さくら青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 20名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東海	愛知	一般社団法人丹羽青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 30名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東北	岩手	一般社団法人一関青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 50名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	千葉	一般社団法人流山青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 75名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	大阪	一般社団法人大東青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 110名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	埼玉	公益社団法人春日部青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 111名以上の部】

地区名	ブロック名	LOM名
近畿	大阪	一般社団法人堺高石青年会議所

## 公益社団法人 日本青年会議所 2025年度会員拡大褒賞受賞団体一覧

(2025年10月10日 全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」)

### 【拡大グランプリ】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	神奈川	公益社団法人秦野青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 10名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	神奈川	公益社団法人秦野青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 20名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	千葉	公益社団法人柏青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 30名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
北陸信越	石川	公益社団法人小松青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 50名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
北陸信越	石川	公益社団法人加賀青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 75名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
関東	千葉	一般社団法人市川青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 110名以下の部】

地区名	ブロック名	LOM名
東海	愛知	一般社団法人豊橋青年会議所

### 【優秀拡大LOM賞 111名以上の部】

地区名	ブロック名	LOM名
九州	熊本	一般社団法人熊本青年会議所

#### 4)「JCI JAPAN TOYP2025」受賞者一覧 ※TOYP大賞(旧人間力大賞)

	受賞者	活動内容	推薦
グランプリ 内閣総理大臣奨励賞	星野 達郎 氏	オルタナティブスクール「NIJINアカデミー」の運営を通じて不登校問題を本質的に解決し、義務教育の在り方を変えている。メタバースを本校舎としてリアルキャンパスを全国13地域に展開し、企業・行政・機関と連携した教育共創モデルの新しい教育機関として、「教育」=「学校」という常識を変えている。現在全国40都道府県から400名の小中学生が入学。マレーシアとニュージランドに姉妹校がある。	無し
準グランプリ 総務大臣奨励賞	加藤 愛梨 氏	自然災害による被災地の現場から、今解決すべき問題は何かという視点に沿った情報発信の取り組みとして、災害専門メディア「MuTube -被災地と未災地をよくなるメディア-」を運営。被災地から日本の防災を変えたいという思いで、能登半島地震の4か月後に起業し、現在は輪島に移住して活動している。	公益社団法人金沢青年会議所 一般社団法人輪島青年会議所
準グランプリ 外務大臣賞	菊池 モアナ 氏	アフリカのタンザニアで使い捨て生理用ナプキンの製造、販売事業を展開。各地に製造工場を立ち上げ、若年妊娠により退学したシングルマザーが働ける場所を届けている。また、生理用ナプキンと性教育を無償提供することで、生理の貧困の解決と若年妊娠を防ぎ、女の子が学び続けられる環境を提供している。	無し
SEEDグランプリ	加藤 路瑛 氏	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚などの諸感覚が過敏で日常生活に困難を抱える「感覚過敏」の課題解決を目指し、2020年に感覚過敏研究所を設立。講演や情報発信、当事者コミュニティの運営、感覚過敏に配慮したアパレルブランドの展開、カムダウンスペースやセンサリールームの普及促進、大学との共同研究や学会発表など、実践と研究の両面から多角的なアプローチに取り組む。	一般社団法人横浜青年会議所
SEED準グランプリ	宮田 あかり 氏	服を「買う」から「借りる」への転換で、高校生と企業を繋ぐレンタル&モニターサービスによるビジネスプランを考案中。「消費者の声」と「企業のモノづくり」を繋ぐ架け橋となり、ファストファッションの大量生産による大量廃棄の問題解決も目指す。	無し
SEED準グランプリ	林 千乃 氏	2024グローバルユース国連大使を務めた経験を機に、地方における外国人との共生について理解を深める活動を展開。フィリピン、カンボジアでの研修後に三重県知事と松阪市長へ表敬訪問し、地元の祭で国際理解に関する展示を行うなどしている。	一般社団法人横浜青年会議所
厚生労働大臣賞	松本 拓朗 氏	東北大学を拠点に、AI技術を活用した眼科診療の自動化デバイスを開発中。高齢者施設や在宅医療現場で実証実験を行い、誰でも簡単に検査と診断が可能な仕組みを構築している。また、東北地方初となる訪問オンライン眼科を設立し、地域の訪問診療医向けに勉強会を開催するなど、眼科診療の重要性を啓発しながら全国および海外展開を目指す。	公益社団法人仙台青年会議所
環境大臣奨励賞	上坂 嵩 氏	テレビ放送の枠を越えて、東海地方の学校や企業を訪問する「SDGs出前教室」を行っている。自身がディレクターとして企画・取材・編集した映像を盛り込んで具体的な事例を紹介するほか、カードゲームを使ったプレゼンワークショップを取り入れ、学生には「学び、考え、伝える楽しさ」を、社会人には「イノベーションを生み出す思考のヒント」を伝えている。	公益社団法人 名古屋青年会議所
日本商工会議所会頭 奨励賞	小川 卓 氏	新潟県長岡市でイベント「アートなHENTAI万博」を主催。「変態(=普通ではない)」という言葉がポジティブに捉え、変態(クリエイター)たちが編隊(フォーメーション)を組み、一つの文化祭を創ることで、新たな価値を創造・変態(トランスフォーム)し続ける社会を目指す。アートを起点に、多様性を認め合い、未知なる価値を生み出すアクションを起こしている。	一般社団法人長岡青年会議所
全国知事会会長 奨励賞	中嶋 弓子 氏	非営利団体「東京おでかけプロジェクト」を立ち上げ、病気や障害、医療的ケアがある子どもと家族を対象に、「行ける場所ではなく、行きたい場所へ」を合言葉に、全国の心躍る素敵な場所と連携したおでかけイベントを開催している。	無し
NHK会長奨励賞	水上 卓哉 氏	「7世代先の子孫に美しい地球を残す」をテーマに、絵画制作・展示発表を行う。モチーフの取材に様々な場所を訪れ、自分が感動したものを画面に落とし込むと同時に、地域の人々と交流しながらその生き方に思いを寄せたり、地域の歴史や生活、食文化を学び作品に反映させている。	公益社団法人 名古屋青年会議所
衆議院議長奨励賞	浅井 しの 氏	毎月訪れる生理の経血成分を解析し、婦人科系疾患の早期発見を可能にする「reanne kit」の開発を行っている。世界中の生理がある約19億人を対象に、場所を選ばず婦人科系疾患のチェックができ、子宮内膜症や子宮筋腫などの婦人科系疾患の早期発見、早期治療につなげられる社会を目指す。	一般社団法人日光青年会議所
参議院議長奨励賞	山本 乃々佳 氏	高校生のときから社会活動家として環境・政治を中心に活動。生まれつきアルポート症候群という難病を抱え10代で余命宣告を受けるも、「限られた時間だからこそ、誰かの希望になりたい」という強い思いで行動している。	一般社団法人 羽曳野藤井寺青年会議所
文部科学大臣賞	奥村 春香 氏	家庭環境問題を抱える少女少女たちが生き抜いていくためのWebプラットフォームを開発・運営。匿名・登録不要で使えるWeb掲示板を通じて、少女少女が自由に自分の悩みを投稿し、互いに励ましのリアクションを送り合える。また、悩みの内容を生成AIで判定し、リスクが高い場合には支援情報の提示を自動で行う。	公益社団法人 相模原青年会議所
農林水産大臣奨励賞	渡邊 博文 氏	「大阪さつまいも産地化プロジェクト〜休耕地を活用し地域一丸で作る大特産品「夢シルク」開発プロジェクト〜」を展開。地域の社会課題となっている耕作放棄地を未利用資源として活用し、新ブランドさつまいも「夢シルク」の生産と消費のサイクルによって、「地域」「教育」「経済」「福祉」「環境」における社会課題を解決する新しい都市農業のモデルを構築している。	一般社団法人 守口門真青年会議所
経済産業大臣奨励賞	Guan Dian 氏	事業領域はディープテックおよびAI分野。イノベーション・インテリジェンスのグローバルリーダーとして、知的財産(IP)および研究開発(R&D)の専門家に実用的なインサイトを提供するAI駆動型の製品群を展開。ヘルスケアやクリーンエネルギー等の分野での飛躍、環境負荷を抑えつつ資源効率を最大化した持続可能な成長の促進も目指す。	一般社団法人町田青年会議所

#### 会頭特別賞

受賞者	推薦
田澤 麻里香 氏	無し
萩原 望 氏	無し

#### ファイナリスト

受賞者	推薦
星野 達郎 氏	無し
加藤 愛梨 氏	公益社団法人金沢青年会議所 一般社団法人輪島青年会議所
菊池 モアナ 氏	無し
加藤 路瑛 氏	一般社団法人横浜青年会議所
宮田 あかり 氏	無し
林 千乃 氏	一般社団法人横浜青年会議所
松本 拓朗 氏	公益社団法人仙台青年会議所
上坂 嵩 氏	公益社団法人名古屋青年会議所
小川 卓 氏	一般社団法人長岡青年会議所
中嶋 弓子 氏	無し

受賞者	推薦
水上 卓哉 氏	公益社団法人名古屋青年会議所
浅井 しの 氏	一般社団法人日光青年会議所
山本 乃々佳 氏	一般社団法人羽曳野藤井寺青年会議所
奥村 春香 氏	公益社団法人相模原青年会議所
渡邊 博文 氏	一般社団法人守口門真青年会議所
Guan Dian 氏	一般社団法人町田青年会議所
田澤 麻里香 氏	無し
萩原 望 氏	無し

## 5)2025年度 第9回価値デザインコンテスト受賞者一覧

2017年度、時代に先駆けた取り組みを提案し、新産業・新商品・新サービス開発に繋げていくべく、「超生産性向上大賞」を実施。2018年度には地域創生の実現を目指して「地域未来投資コンテスト」を実施した。2019年度からは、継続事業として、地域経済を牽引する価値をデザインできる持続可能な新たな企業の創出を目指して「価値デザインコンテスト」を開催している。

(2025年7月19日サマーコンファレンス「第9回価値デザインコンテスト」)

部門名	受賞者の所属企業・肩書・氏名	プラン名	サービス概要
内閣総理大臣賞	株式会社デジラボホールディングス 代表取締役 斉藤 隆秀	AIフレイルバンク「AILE」	高齢者の歩行動画をAI解析し、フレイル状態を早期検知・改善する「自己再生型」健康管理アプリ。企業の高齢従業員支援にも応用し、社会全体で健康寿命の延伸を目指す。
経済産業大臣賞	株式会社 Root 代表取締役 岸 圭介	「MR(複合現実)×農業×介護」農業体験サービス	スマートグラスを活用し、介護施設利用者が安全に農業体験を楽しめるサービスを開発。作物配送と組み合わせ、農業分野と福祉分野の新しい連携を実現。
環境大臣賞	株式会社コクリエ 代表取締役 高崎 陽子	「土木せんせい」	市町村と建設コンサルタント・建設業者を「発注者と受託者」から「地域を守るパートナー」へと転換するプラットフォーム。持続可能なインフラ維持管理の新スタンダードを構築。
文部科学大臣賞	EdFusion 代表 近藤 にこる	次世代地域共創プロジェクト 「FutureBase」	子どもたちが地域の魅力を発信し、発表できる環境を全国に整備。地域の特産や文化を題材に、発表会やオンライン交流を実施し、世代を超えた地域エコシステムを構築。
デジタル大臣賞 NIKKEI THE PITCH賞 価値デザインコンテスト大賞 (副賞100万円)	Hello World 株式会社 代表取締役 富田 啓輔	「まちなか留学」/ 「WorldClassroom」	外国人家庭でのホームステイ体験や、オンライン国際交流を通じて英語学習と多文化理解を促進。すでに15,000人以上が利用、82自治体・250校で導入実績。

<部門について>

- ・内閣総理大臣賞・・・すべての中で最も優れたビジネスプランに対して付与
- ・経済産業大臣賞・・・産業への貢献が認められたビジネスプランに対して付与
- ・環境大臣賞・・・環境への貢献、配慮が認められたビジネスプランに対して付与
- ・デジタル大臣賞・・・テクノロジーの利用が特に優れたビジネスプランに付与
- ・文部科学大臣賞・・・若者ならではの柔軟な発想や新しい価値観をいかしているビジネスプランに付与
- ・NIKKEI THE PITCH賞・・・株式会社日経新聞社が特に認めたビジネスプランに対して付与します。※対象者5名の中から選定
- ・価値デザインコンテスト大賞・・・来場者による投票数が多かったプランに対して付与し、副賞として賞金100万円を授与

## 6) 2025年度 第三回全国高校生政策甲子園 受賞チーム一覧

(2025年8月25日:決勝大会 国会議事堂参議院別館)  
(2025年9月21日:HP上で国民投票結果「最優秀賞」発表)

設定テーマ部門:未来の日本を創造する!!持続可能なデジタル政策!

成績	チーム名	サービス概要
最優秀賞	岐阜高校アグリ班 (岐阜県立岐阜高等学校)	農業やるならSEED!～新規就農支援プラットフォームの提案～
会頭賞	そらりんく (佐久長聖高等学校)	ひとりじゃない、をテクノロジーで
副会頭賞	未来創造☆ひらめきソーダ (山陽学園高等学校)	田園OS～未来を耕すデジタル農業革命～
決勝大会出場	令和のリンカーン (本庄東高等学校)	高齢者の、高齢者による、高齢者のためのICT学習講座で日本の未来を拓く!
	LINK (精道学園 精道三川台高等学校)	スマホ供給PROJECT 地域密着型デジタルリーダープログラム～スマホの格差をなくすために～
	JYOKA DOLL (大分県立情報科学高等学校)	学びたい!を叶える場所～放課後の秘密基地プロジェクト～
	ProjectY (芝浦工業大学柏高等学校)	世代協働型デジタルプラットフォームの政策立案
	燈 (京都市立堀川高等学校)	若者の声を未来へつなぐ「ミライハブ」構想

自由テーマ部門:あなたは総理大臣!!地域の社会課題と明るい未来!

成績	チーム名	サービス概要
最優秀賞	Re.Truther (大阪府立鳳高等学校)	正しい情報こそ、最強のライフライン!! ～情報災害から命を守るために～
会頭賞	古川黎明お米プロジェクト (宮城県古川黎明高等学校)	日本の主食である米を守るため、農業従事者の激減に対し、耕作の請負を可能にする直播への転換を支援する。
副会頭賞	ていーだ ～ヤンバルクイナが飛べる時代へ～ (沖縄県立北山高等学校)	構想が見える、語れる、選べる 市民とつくる未来設計
決勝大会出場	『チーム培養肉』 (愛媛県立今治東中等教育学校)	ブルーオーシャン戦略としての細胞培養食品“培養肉”担当大臣設置
	京都の未来をカンセイ党 (京都府立嵯峨野高等学校)	訪れる人も、暮らす人も、幸せに。
	ProjectYY (芝浦工業大学柏高等学校)	地方創生デジタル人材育成・情報発信統合プロジェクト
	大分東明社会部 (大分東明高等学校)	主人公は私達!若者が地域活性化の取り組みに参画できる場所を作って持続可能な地方創生を目指そう
	シン・地方創生 (筑波大学附属駒場高等学校)	『ふるさと減税制度 ～山陰ファーストで日本列島税率改造論 地方の手取りを増やす夏。～』

## 7) 会員会議所新設、名称変更及び退会一覧

## 1. 会員会議所名称変更一覧

No.	認証番号	新名称	旧名称	ブロック	承認年月日	適用
1	347	西播磨	龍野	兵庫	2025.12.13	2026.1.1

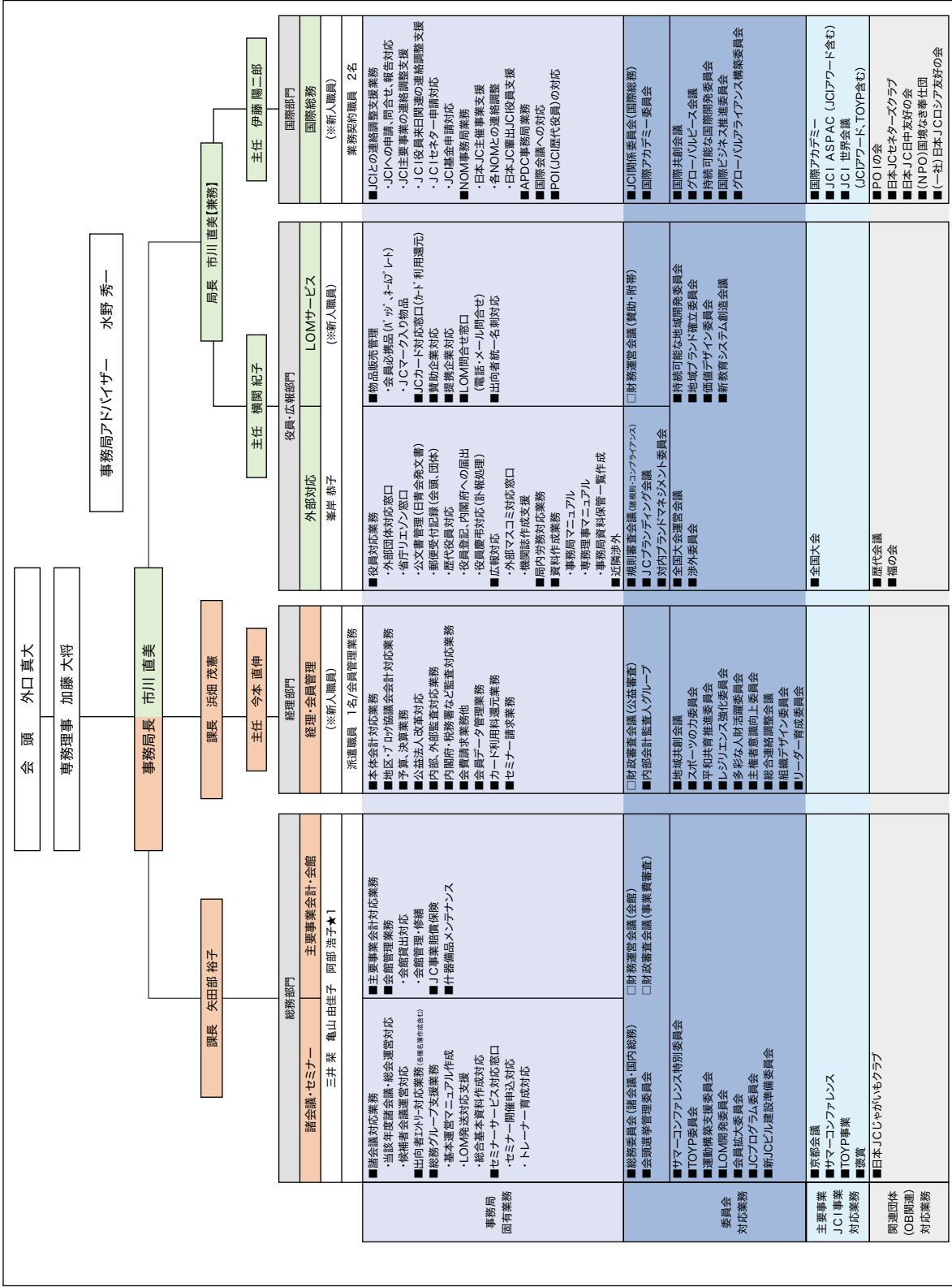
## 2. 会員会議所退会一覧

No.	認証番号	名称	ブロック	承認年月日	適用
1	514	五條	奈良	2025.12.13	2025.12.31

## 2. JCの数及び会員数

2025年 1月1日現在 666JC 23,063名  
 2025年12月1日現在 666JC 26,344名

2025公益社団法人日本青年会議所 事務局長組織図



地区・ブロック問合せ窓口

[注釈]★1: 再雇用契約(2025/1/1-2025/12/31)



# 2025年度 諸会議報告

総会  
理事会

# 総会

## 第178回総会

日時：2025年1月25日(土)10:00～11:30  
場所：国立京都国際会館 Main Hall

### 報告依頼事項

- (1) 2025年度予算について
- (2) サマーコンファレンス2025について
- (3) 第74回全国大会佐賀大会について
- (4) JCI ASPAC ウランバトル大会について
- (5) JCI 世界会議 チュニス大会について
- (6) 第38回JCI アカデミーについて
- (7) 会議・委員会出向者について
- (8) 内部会計監査人について
- (9) JCI及びJCI APDC出向役員について
- (10) JCI基金について
- (11) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について

# 第179回総会

日時：2025年3月22日(土)10:20～11:50  
場所：東京ビッグサイト(東京国際展示場)7階 国際会議場

## 審議事項

- (1) 2024年度事業報告(案)承認の件
- (2) 2024年度決算(案)承認の件

## 報告依頼事項

- (1) 2025年度予算について
- (2) 2025年度会議・委員会出向者追加変更について
- (3) JCI APDC(アジア太平洋開発協議会)中間報告について
- (4) JCI ASPACウランバトル大会について
- (5) 第38回JCIアカデミーについて
- (6) サマーコンファレンス2025について
- (7) 第74回全国大会佐賀大会について
- (8) JCI世界会議チェニス大会について
- (9) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について

## 第180回総会

日時：2025年10月10日(金)14:00～16:00  
場所：佐賀市文化会館大ホール

## 審議事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所 定款変更(案)承認の件
- (2) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 加藤 大将 君 選任の件
- (3) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 佐野 友亮 君 選任の件
- (4) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 佐藤 弘大 君 選任の件
- (5) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 菅原 啓太 君 選任の件
- (6) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 森谷 圭 君 選任の件
- (7) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 伊住 公一朗 君 選任の件
- (8) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 富樫 昭大 君 選任の件
- (9) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 荒生 卓真 君 選任の件
- (10) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 大柳 賢祐 君 選任の件
- (11) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 伊藤 和也 君 選任の件
- (12) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 金木 隆敏 君 選任の件
- (13) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 石川 紘嗣 君 選任の件
- (14) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 江角 彰則 君 選任の件
- (15) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 延 治希 君 選任の件
- (16) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 吉行 輝真 君 選任の件
- (17) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 前原 史典 君 選任の件
- (18) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 新美 慶太郎 君 選任の件
- (19) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 森田 俱亘 君 選任の件
- (20) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 深田 良介 君 選任の件
- (21) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 渋谷 巧 君 選任の件
- (22) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 理事 佐藤 比香留 君 選任の件
- (23) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 外部理事 鈴木 健午 氏 選任の件
- (24) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 監事 前田 健之輔 君 選任の件
- (25) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 監事 谷口 雄紀 君 選任の件
- (26) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 監事 佐々木 隆浩 君 選任の件
- (27) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 顧問 選任の件
- (28) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 代表理事 加藤 大将 君 選定の件
- (29) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 業務執行理事 選定の件

## 報告依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 直前会頭就任について
- (2) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 基本理念・基本方針並びに事業計画について
- (3) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 組織並びに委員数について
- (4) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 ブロック会長選任について
- (5) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 議長・委員長選任について
- (6) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 内部会計監査人グループ代表選任について
- (7) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 年間公式スケジュールについて
- (8) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 スローガンについて
- (9) 公益社団法人日本青年会議所 2026年度 予算について
- (10) 青年会議所会館建替に関する進捗報告について
- (11) 中期運動方針について

# 理事会

## 第1回理事会

日時：2025年01月24日 11:00～13:00  
場所：国立京都国際会館 RoomA

### 確認事項

- (1) 第1回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進議案>

- (1) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画(案)承認の件  
(2) JCI GO登録推進計画(案)承認の件  
(3) 国際連携強化に向けた年間推進計画並びに修正予算(案)承認の件  
(4) 魅力的な企業や傑出した人財との連携による運動の推進計画(案)承認の件  
(5) 個別最適化された新教育システムの構築推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(6) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画並びに予算(案)承認の件  
(7) 主催者意識向上カリキュラム推進計画並びに予算(案)承認の件  
(8) JCI AWARDS2025獲得推進事業計画(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (9) JCI JAPAN SMILE by ACTION IN Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～事業計画並びに予算(案)承認の件  
(10) JCI JAPAN SMILE by WATER IN Cambodia～Establishing the sustainable systems～事業計画並びに予算(案)承認の件  
(11) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画並びに予算(案)承認の件  
(12) 日本JC・中国国際青年交流センター友好交流40周年記念式典・祝賀会事業計画並びに予算(案)承認の件  
(13) 第38回JCIアカデミーに伴うプレJCIアカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件  
(14) 第三回全国高校生政策甲子園事業計画並びに予算(案)承認の件  
(15) AWARDS JAPAN2025募集審査基準並びに審査実施計画(案)承認の件  
(16) 株式会社CAMPFIREとのパートナー契約(案)承認の件  
(17) コンストラクション・マネジメント契約に係る2024年度個別契約締結(実施設計①段階)報告並びに決算について  
(18) 新JCビル建設準備会議設置計画(案)承認の件  
(19) 解体・新築工事設計施工業務委託契約締結計画並びに予算(案)承認の件  
(20) 日本青年会議所会館建替をはじめとする未来の日本青年会議所を創る活動資金計画(案)承認の件  
(21) 会議・委員会出向者(案)承認の件  
(22) 内部会計監査人グループ副代表・幹事・地区代表・委員選任(案)承認の件  
(23) 会頭職務代行者指名(案)承認の件  
(24) 候補者並びに予定者会議審議事項(案)承認の件

#### <京都会議関連議案>

#### [本体・広報]

- (25) 2025年度京都会議事業修正計画並びに予算(案)承認の件

#### [フォーラム]

- (26) 2025年度京都会議共創フォーラム「Raise Your Flag～さあ、世界を創ろう～」事業修正計画並びに予算(案)承認の件

#### [セミナー]

- (27) 2025年度京都会議平和共有推進セミナー「過去を知り、未来を築く、平和の礎」修正事業計画並びに予算(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (2) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(3) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(4) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (5) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(6) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(7) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(8) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(9) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(10) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(11) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

#### 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (12) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について  
(13) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について  
(14) 運動プラットフォーム活用推進計画の進捗報告について  
(15) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について  
(16) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について  
(17) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について  
(18) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について  
(19) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画の進捗報告について  
(20) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について  
(21) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

#### 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (22) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について  
(23) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) 2025年度賛助企業(年初確定)並びに賛助契約変更について
- (2) 株式会社LegalOn Technologies新規賛助契約について
- (3) 勝尾寺新規賛助契約について
- (4) 株式会社EIGHT JAPAN新規賛助契約について
- (5) 三井不動産リアルティ株式会社との賃貸借契約一部変更について
- (6) JCグッズ必携品追加発注について
- (7) 2025年度協議会口座の運用ルールについて
- (8) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (9) 2025年度日本JC事業説明会報告について
- (10) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (11) 2025年服装規定ドレスコードについて
- (12) 2025年度会議・委員会 指名委員・兼務委員について
- (13) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (14) 次回開催日時について 2月15日(土) 09:00～青年会議所会館にて

<参考>(24)候補者並びに予定者会議審議事項(案)承認の件 内訳

## 第4回理事予定者会議

- 審-01 魅力ある運動を世界へ普及する推進計画(案)承認の件 国際G
- 審-02 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画(案)承認の件 地域G
- 審-03 地域ブランド確立プロジェクト推進計画並びに予算(案)承認の件 地域G
- 審-04 個別最適化された新教育システムの構築・推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-05 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-06 運動プラットフォーム活用推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-07 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-08 会員拡大支援の推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-09 JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-10 JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-11 ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-12 Leader's Academyの企画・実施推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-14 2025年度京都会議広報事業計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-15 サマーコンファレンス2025開催テーマ(案)承認の件 地域G
- 審-16 第74回全国大会佐賀大会「テーマ」(案)承認の件 国家G
- 審-17 2028年度第77回全国大会「主管立候補受付並びに審査日程」(案)承認の件 国家G

## 第5回理事予定者会議

- 審-01 魅力ある運動を世界へ普及する推進修正計画(案)承認の件 国際G
- 審-02 国際連携強化に向けた年間推進計画並びに予算(案)承認の件 国際G
- 審-03 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画(案)承認の件 地域G
- 審-04 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画(案)承認の件 国家G
- 審-05 地域の実績に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-06 多彩な人材活躍の場推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-07 ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-08 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-09 規則改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画(案)承認の件 国家G
- 審-10 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-11 人が自然と集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画(案)承認の件 組織G
- 審-12 JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画並びに予算(案)承認の件 総務G
- 審-13 JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画(案)承認の件 総務G
- 審-14 第38回JCIアカデミーテーマ並びに募集計画(案)承認の件 国際G
- 審-15 JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEED事業の募集計画並びに予算(案)承認の件 地域G
- 審-16 第9回価値デザインコンテスト募集計画並びに予算(案)承認の件 地域G
- 審-17 高い防災意識を持って行動できるリーダーの育成に関する事業計画並びに予算(案)承認の件 国際G
- 審-18 機関誌We Believeの作成・発刊・管理(案)承認の件 総務G
- 審-19 2025年度京都会議事業計画並びに予算(案)承認の件 総務G
- 審-20 2025年度京都会議広報事業修正計画並びに予算(案)承認の件 総務G
- 審-21 2025年度京都会議共創フォーラム「Raise Your Flag～さあ、世界を創ろう～」事業計画並びに予算(案)承認の件 国際G
- 審-22 2025年度京都会議知識フォーラム「通勤哲学3つのヒント～家族・会社・地域のためにと誇れる組織へ～」事業計画並びに予算(案)承認の件 国際G
- 審-23 2025年度京都会議国際セミナー「Local Pathways to Global Impact～メンバーの成長に繋がる国際の機会～」事業計画並びに予算(案)承認の件 国際G
- 審-24 2025年度京都会議 地域共創セミナー「いざ地域の魅力発信!!共に創る、日本の未来のために」事業計画並びに予算(案)承認の件 地域G
- 審-25 2025年度京都会議平和共有推進委員会セミナー「過去を知り、未来を築く、平和の礎」事業計画並びに予算(案)承認の件 国家G
- 審-26 第74回全国大会佐賀大会「主管契約締結式」事業計画(案)承認の件 国家G
- 審-27 2025年度京都会議LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置事業計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-28 2025年度京都会議「日本上陸!新プログラム『JCI Adventure』最速体験版」事業計画並びに予算(案)承認の件 組織G
- 審-29 サマーコンファレンス2025登録料(案)承認の件 地域G
- 審-30 第74回全国大会佐賀大会「スケジュール」(案)承認の件 国家G
- 審-31 第74回全国大会佐賀大会「PR」計画並びに予算(案)承認の件 国家G
- 審-32 全国大会運営会議に付託する事項(案)承認の件 国家G

## 第2回理事会

日時：2025年02月15日 09:00～11:00  
場所：青年会議所会館 5階

### 確認事項

- (1) 第2回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) 多彩な人財活躍の場推進修正計画(案)承認の件  
(2) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進修正計画並びに予算(案)承認の件

#### <通常議案>

- (3) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに予算(案)承認の件  
(4) 日本企業の海外進出啓発事業計画(案)承認の件  
(5) JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会実施計画並びに予算(案)承認の件  
(6) JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの事業選考会開催計画並びに予算(案)承認の件  
(7) 青年会議所会館建替記念式典計画並びに予算(案)承認の件  
(8) JC会館引越し業務に係る委託契約締結計画(案)承認の件  
(9) 公益社団法人日本青年会議所2025年度会館等未来創設積立預金の積立額及び取崩額計画(案)承認の件

#### <2025年度3月総会関連議案>

- (10) 2025年度3月総会 地域フォーラム「地域の未来をつなぐ共創の力～新たな挑戦への第一歩～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(11) 第179回総会開催並びに次第(案)承認の件

#### <全国大会関連議案>

- (12) 第74回全国大会佐賀大会「登録料」(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について  
(5) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (6) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(7) 魅力的な企業や傑出した人財との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(8) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(9) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (10) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(11) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(12) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(13) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(14) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(15) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(16) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(17) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(18) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

#### 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (19) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について  
(20) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について  
(21) 運動プラットフォーム活用推進計画の進捗報告について  
(22) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について  
(23) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について  
(24) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について  
(25) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について  
(26) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について  
(27) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画の進捗報告について  
(28) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について  
(29) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

#### 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (30) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について  
(31) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

### 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について  
(2) JCI AWARDS申請日程及びカテゴリーについて  
(3) 2025年度ウェブページについて  
(4) 三井不動産リアルティ株式会社との賃貸借契約解約について  
(5) 地区協議会及びブロック協議会 名称使用等に関する報告について  
(6) 青年会議所会館建替進捗状況について  
(7) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について  
(8) 第178回総会開催報告について  
(9) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について  
(10) 2025年度年間公式スケジュールについて  
(11) 次回開催日時について 3月7日(金) 9:00～青年会議所会館にて

## 第3回理事会

日時：2025年03月07日 09:00～11:00

場所：青年会議所会館 5階

### 確認事項

- (1) 第3回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <第179回総会審議案件>

- (1) 2024年度事業報告(案)承認の件  
(2) 2024年度決算(案)承認の件

#### <第179回総会報告案件>

- (3) 2025年度予算(案)承認の件

#### <推進計画議案>

- (4) ビジネスマッチングの推進及び参画支援修正事業計画並びに予算(案)承認の件  
(5) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

#### <通常議案>

- (6) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ~Establishing the sustainable systems~事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(7) JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの事業選考会開催修正計画並びに予算(案)承認の件  
(8) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む事業計画並びに予算(案)承認の件  
(9) 日本JCストラテジックプラン改定会議(案)承認の件  
(10) 青年会議所会館建替記念式典修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(11) 会頭選挙管理委員会委員指名(案)承認の件  
(12) 会議・委員会出向者追加・変更(案)承認の件

#### <京都会議関連議案>

##### [本体・広報]

- (13) 2025年度京都会議事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件

##### [フォーラム関連議案]

- (14) 2025年度京都会議共創フォーラム「Raise Your Flag～さあ、世界を創ろう～」事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件

##### [セミナー関連議案]

- (15) 2025年度京都会議 地域共創セミナー「いざ地域の魅力発信!!共に創る、日本の未来のために」事業計画並びに補正予算(案)承認の件

##### [その他]

- (16) 第74回全国大会佐賀大会「主管契約締結式」事業報告(案)承認の件

#### <ASPAC関連議案>

- (17) JCI ASPACウランバトル大会における大会対応計画並びに予算(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines~ACTIONS FOR THE FUTURE~の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia~Establishing the sustainable systems~の進捗報告について  
(5) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
(6) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (7) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(8) 魅力的な企業や傑出した人財との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(9) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(10) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (11) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(12) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(13) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(14) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(15) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(16) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(17) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(18) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(19) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

#### 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (20) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について  
(21) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について  
(22) 運動プラットフォーム活用推進計画の進捗報告について  
(23) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について  
(24) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について  
(25) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について  
(26) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について  
(27) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について  
(28) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗の報告について  
(29) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について  
(30) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

#### 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (31) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について  
(32) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 2024年度附帯収益報告について
- (3) JC会館解体に伴う諸契約解約について
- (4) JCグッズ必携品追加発注について
- (5) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (6) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (7) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (8) 次回開催日時について 4月19日(土) 10:00~TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて

## 第4回理事会

日時：2025年04月19日 10:00～12:00

場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

### 確認事項

- (1) 第4回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- 魅力ある運動を世界へ普及する推進修正計画(案)承認の件  
地域ブランド確立プロジェクト推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(3) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進修正計画(案)承認の件  
(4) まずはブラッと活用推進修正計画並びに予算(案)承認の件  
(5) 会員拡大支援の推進修正計画(案)承認の件  
(6) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進修正計画(案)承認の件  
(7) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(8) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進修正計画(案)承認の件

#### <通常議案>

- (9) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに予算(案)承認の件  
(10) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ~Establishing the sustainable systems~事業修正計画並びに予算(案)承認の件  
(11) 第11回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業計画並びに予算(案)承認の件  
(12) JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの修正事業選考会開催計画並びに予算(案)承認の件  
(13) JCI JAPAN TOYP 2025授賞式及びSEED授賞式開催計画並びに予算(案)承認の件  
(14) 令和7年大船渡市大規模林野火災における被災地支援のための災害対策本部設置事業計画(案)承認の件  
(15) 株式会社和光に替わるJCグッズ必携品の製造・販売における協力企業との使用許諾等契約書並びに覚書締結(案)承認の件  
(16) 会議・委員会出席者追加・変更(案)承認の件  
(17) 会頭選挙に関する指定事項(案)承認の件  
<京都会議関連議案>  
(本体・広報)  
(18) 2025年度京都会議事業報告並びに決算(案)承認の件  
(19) 2025年度京都会議広報事業報告並びに決算(案)承認の件  
(フォーラム関連議案)  
(20) 2025年度京都会議共創フォーラム「Raise Your Flag～さあ、世界を創ろう～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(21) 2025年度京都会議組織フォーラム「運動哲学3つのヒント～家族・会社・地域のためにと誇れる組織へ～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(セミナー関連議案)  
(22) 2025年度京都会議国際セミナー「Local Pathways to Global Impact～メンバーの成長に繋がる国際の機会～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(23) 2025年度京都会議 地域共創セミナー「いざ地域の魅力発信!!共に創る、日本の未来のために」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(24) 2025年度京都会議平和共育推進セミナー「過去を知り、未来を築く、平和の礎」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(その他)  
(25) 2025年京都会議LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置事業計画並びに決算(案)承認の件  
(26) 2025年度京都会議「日本上陸!新プログラム『JCI Adventure』最速体験版」事業報告並びに決算(案)承認の件

#### <ASPAC関連議案>

- (27) JCI ASPACウランバトル大会における大会対応修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(28) JCI JAPANグローバルピースサミット事業計画(案)承認の件  
(29) JCI ASPACウランバトル大会での事業ジャパンナイト開催計画並びに予算(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス関連議案>

- (本体・広報)  
(30) サマーコンファレンス2025「広報」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(フォーラム関係)  
(31) サマーコンファレンス2025「Local Breakthrough～日本を変える地域ブランド戦略～」開催計画並びに予算(案)承認の件  
(32) サマーコンファレンス2025「Re: Education System～あなたが変われば、子どもの未来も変えられる～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(その他)  
(33) サマーコンファレンス2025「第9回価値デザインコンテスト～地域から始まる新たな価値の創造～」開催計画並びに予算(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について  
(5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
(6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
(7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (8) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(9) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(16) 多彩な人材活躍の場推進計画の進捗報告について  
(17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

## 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について
- (22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について
- (23) 運動プラットフォーム活用推進計画の進捗報告について
- (24) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について
- (25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について
- (26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について
- (27) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗の報告について
- (30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について
- (31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

## 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について
- (33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 第74回全国大会佐賀大会「事前アンケート」について【付託】
- (3) 第74回全国大会佐賀大会「大会成功祈願」(案)について【付託】
- (4) JCI ASPAC 2025ウランバートル大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本青年会議所からの選出推薦について
- (5) 協議会監査説明会について
- (6) 地区協議会及びブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (7) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (8) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (9) 第179回総会開催報告について
- (10) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (11) 2026年度3月総会会場選定について
- (12) 2025年度会頭選挙管理委員会について
- (13) 2025年度京都会議外部監査について
- (14) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (15) 次回開催日について 5月17日(土) 10:00～ 銀座ユニーク貸会議室7丁目店にて

## 第5回理事会

日時：2025年05月17日 10:00～12:15  
場所：銀座ユニーク貸会議室7丁目 N201

### 確認事項

- (1) 第5回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進修正計画並びに予算(案)承認の件  
(2) 主権者意識向上カリキュラム推進修正計画並びに予算(案)承認の件  
(3) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(4) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進修正計画(案)承認の件

#### <通常議案>

- (5) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(6) 第38回JCIアカデミーに伴うブレJCIアカデミー事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件  
(7) 第38回JCIアカデミー事業計画並びに予算(案)承認の件  
(8) JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会実施修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(9) JCカップU-11少年少女サッカー国際大会の実施計画並びに予算(案)承認の件  
(10) 第三回全国高校生政策甲子園事業修正計画並びに予算(案)承認の件  
(11) 領収書の電子化を可能とする関係諸規定の整備計画(案)承認の件  
(12) 機関誌We Believeの作成・発刊・管理修正計画(案)承認の件  
(13) 第75回JCIアジア太平洋エリア会議(ASPAC)ウランバートル大会における議決権の会頭一任(案)承認の件  
(14) 内部会計監査人グループ地区代表変更(案)承認の件

#### <ASPAC関連議案>

- (15) JCI JAPANグローバルピースサミット事業修正計画(案)承認の件  
(16) JCI ASPACウランバートル大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画並びに予算(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス関連議案>

##### (フォーラム関係)

- (17) サマーコンファレンス2025「TEAMで成果を勝ちとれ!!～でもなんで組織ってこんななん??(´Д`)～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(18) サマーコンファレンス2025「～Unlearn&Rebuild 組織を変える新しい常識～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(19) サマーコンファレンス2025「地域の未来を変えよう!!近畿から起こすイノベーション」事業計画並びに予算(案)承認の件

##### (セミナー関係)

- (20) サマーコンファレンス2025「POWER OF THE WORLD～国際の機会・広がる未来へ～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(21) サマーコンファレンス2025「Beyond Borders～日本の強みを世界へ～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(22) サマーコンファレンス2025「地域の魅力を掘り起こせ!!～眠る資源の活用性と可能性～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(23) サマーコンファレンス2025「Report of JCI JAPAN TOYP～挑戦する若者の力で世界を動かす」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(24) サマーコンファレンス2025「多彩な人財が織りなす未来への扉～可能性が結ぶ新しい社会～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(25) サマーコンファレンス2025「主権者教育が変わる、まちと未来～若者の声が届く社会に～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(26) サマーコンファレンス2025「CHANGE THE WAY OF THINKING～日本の明るい未来のために～」開催計画並びに予算(案)承認の件  
(27) サマーコンファレンス2025「地域活性化の鍵とは?～行政・JC・教育機関の連携戦略～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(28) サマーコンファレンス2025「トレーナーという生き方～受け継ごう、プロフェッショナルの矜持～」事業計画並びに予算(案)承認の件

##### (その他)

- (29) サマーコンフェス2025事業計画並びに予算(案)承認の件  
(30) サマーコンファレンス2025「LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置」事業計画並びに予算(案)承認の件

#### <全国大会関連議案>

- (31) 第74回全国大会佐賀大会「スケジュール」修正(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について  
(5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
(6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
(7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (8) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(9) 魅力的な企業や傑出した人財との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築・推進事業  
(13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(16) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

## 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について
- (22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について
- (23) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について
- (24) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について
- (25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について
- (26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について
- (27) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗の報告について
- (30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について
- (31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

## 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について
- (33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) グローバルユース国連大使事業のJCIエンドース・プログラムへのプログラムへの提案について
- (3) 第74回全国大会佐賀大会「登録ガイド」について【付託】
- (4) 第74回全国大会佐賀大会「運輸」計画について【付託】
- (5) 第74回全国大会佐賀大会「宿泊」計画について【付託】
- (6) 第74回全国大会佐賀大会「インフォメーション」計画について【付託】
- (7) JCカード2024年度分LOM還元について
- (8) 賛助企業プラン一部変更について
- (9) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (10) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (11) ブロック会長の辞任について
- (12) 2025-2026 JCI APDC出向役員候補者推薦について
- (13) 会議・委員会出向者変更について
- (14) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (15) 次回開催日について 6月21日(土) 10:00~ 銀座ユニーク貸会議室7丁目店にて

## 第6回理事会

日時：2025年06月21日 10:00～12:00  
場所：銀座ユニーク貸会議室7丁目店 N201

### 確認事項

- (1) 第6回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) 国際連携強化に向けた年間推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(2) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (3) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(4) 日本JC・中国国際青年交流センター 友好交流40周年記念式典・祝賀会 事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(5) 日本JC・中国国際青年交流センター 友好交流40周年記念式典・祝賀会 事業報告並びに決算(案)承認の件  
(6) 第38回JCIアカデミーに伴うブレJCIアカデミー事業報告並びに決算(案)承認の件  
(7) 第38回JCIアカデミー事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(8) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育むフィールドワーク事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(9) JC会館管理・運営事業における修繕積立預金の取崩及びJC会館解体・建設等管理・運営事業への資金移動(案)承認の件  
(10) JC会館管理・運営事業における減価償却積立預金の取崩及びJC会館解体・建設等管理・運営事業への資金移動(案)承認の件  
<2025年度3月総会関連議案>  
(11) 2025年度3月総会 地域フォーラム「地域の未来をつなぐ共創の力～新たな挑戦への第一歩～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
<サマーコンファレンス関連議案>  
(本体・広報)  
(12) サマーコンファレンス2025事業計画並びに予算(案)承認の件  
(13) サマーコンファレンス2025「広報」修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(フォーラム関連議案)  
(14) サマーコンファレンス2025「私たちの言葉がつくる平和のストーリー」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(15) サマーコンファレンス2025「共創が花開くとき The Future Begins」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(セミナー関連議案)  
(16) サマーコンファレンス2025「組織戦略RPG～組織レベルアップへの道標～」事業計画並びに予算(案)承認の件  
(その他)  
(17) サマーコンファレンス2025第9回価値デザインコンテスト開催修正計画並びに修正予算(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ推進計画進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について  
(5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
(6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
(7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ推進計画進捗報告】

- (8) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画進捗報告について  
(9) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ推進計画進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(16) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

#### 【組織グループ推進計画進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について  
(22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について  
(23) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について  
(24) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について  
(25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について  
(26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について  
(27) 人が自然と集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画の進捗報告について  
(28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について  
(29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗の報告について  
(30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について  
(31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

#### 【総務グループ推進計画進捗報告】

- (32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について  
(33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 第74回全国大会佐賀大会「大会式典・卒業式」構成・演出について【付託】
- (3) 第74回全国大会佐賀大会「エクスカージョン」について【付託】
- (4) 第74回全国大会佐賀大会「事前アンケート」集計結果について【付託】
- (5) 株式会社ワールドフィット 新規賛助契約について
- (6) SMILE by ACTION運動支援に関する支援金額確定について
- (7) JCグッズ必携品追加発注について
- (8) JC会館引越し業務に係る委託契約締結計画について
- (9) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (10) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (11) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (12) 2025-2026 JCI APDC出向役員について
- (13) 会頭立候補者推薦書(選管書式NO.3)の取り扱いについて
- (14) 業務執行理事による業務執行状況報告について
- (15) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (16) 次回開催について 2025年7月18日(金) 12:30~パシフィコ横浜 会議センター 301-304にて

## 第7回理事会

日時：2025年07月18日 12:30～15:30  
場所：パシフィコ横浜 会議センター301-304

### 確認事項

- (1) 第7回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (2) 第11回MJS Presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(3) 外部理事・外部監事導入のための定款・諸規則変更(案)承認の件  
(4) 機関誌We Believeの作成・発刊・管理修正計画(案)承認の件  
(5) 青年会議所会館建替記念式典計画並びに修正予算(案)承認の件  
(6) 青年会議所会館建替記念式典事業報告並びに決算(案)承認の件  
(7) 第180回総会開催並びに次第(案)承認の件  
(8) 石川県能登半島の理想の未来創造事業計画並びに予算(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス関連議案>

##### (本体・広報)

- (9) サマーコンファレンス2025事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(10) サマコンフェス2025事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(フォーラム関連議案)  
(11) サマーコンファレンス2025「～UnLearn & Rebuild 組織を変える新しい常識～」修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
(その他)  
(12) サマーコンファレンス2025「オープニング・クロージング」事業計画並びに予算(案)承認の件

#### <全国大会関連議案>

##### (本体議案)

- (13) 第74回全国大会佐賀大会事業(開催)計画並びに予算(案)承認の件  
(14) 第74回全国大会佐賀大会「スケジュール」修正(案)承認の件  
(15) 第74回全国大会佐賀大会「PR計画」修正並びに予算(案)承認の件  
(16) 第74回全国大会佐賀大会「大会ガイド構成」(案)承認の件  
(フォーラム関連議案)  
(17) 第74回全国大会佐賀大会 「Local Breakthrough The Final～ホンモノの地域ブランドを未来へ～」開催計画並びに予算(案)承認の件  
(18) 第74回全国大会佐賀大会「子どもの“好き”で未来を創る～今、わたしたちができること～」開催計画並びに予算(案)承認の件  
(その他)

- (19) 第74回全国大会佐賀大会 全国大会組織相談窓口+引き継ぎ式～2025年と2026年との融合～開催計画並びに予算(案)承認の件  
(20) 第74回全国大会佐賀大会「次年度協議会役員予定者セミナー」開催計画並びに予算(案)承認の件

- (21) 第74回全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」開催計画並びに予算(案)承認の件

- (22) 第74回全国大会佐賀大会「2026年度スタートアップセッション」開催計画並びに予算(案)承認の件

#### <世界会議関連議案>

- (23) JCI世界会議ジュネズ大会における大会登録(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
(2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
(4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ～Establish the sustainable systems～の進捗報告について  
(5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
(6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
(7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ進捗報告】

- (8) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(9) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
(11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
(13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
(14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
(15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
(16) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
(17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
(18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
(19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
(20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

#### 【組織グループ進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について  
(22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進計画の進捗報告について  
(23) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について  
(24) JCI AWARDS 2025獲得推進計画の進捗報告について  
(25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について  
(26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について  
(27) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について  
(28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について  
(29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画進捗の報告について  
(30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について  
(31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

【総務グループ進捗報告】

(32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について

(33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) スポーツを通じてお互いを理解し尊重しあう共生社会を実現する事業の報告について
- (3) 第74回全国大会佐賀大会「開会式」計画について【付託】
- (4) 第74回全国大会佐賀大会「閉会式」計画について【付託】
- (5) 第74回全国大会佐賀大会「記念事業・主管記念フォーラム」計画について【付託】
- (6) 災害対策初動対応マニュアル一部改正について
- (7) JCグッズ必携品追加発注について
- (8) 本会並びに地区・ブロック協議会 第1回中間監査について
- (9) 地区協議会及びブロック協議会 名称使用等に関する報告について
- (10) 2025年度新規支援団体の認定について
- (11) JC会館引越し業務に係る委託契約締結計画について
- (12) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (13) 2025年度ブロック協議会会頭公式訪問について
- (14) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (15) 2026年度会頭立候補者の資格認定並びに会頭当選者決定について
- (16) 次回開催日時について 9月20日(土) 10:00～ マリオローヤル会館にて

## 第8回理事会

日時：2025年09月20日 10:00～12:30

場所：マリオローヤル会館

### 確認事項

- (1) 第8回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) 国際連携強化に向けた年間推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (2) 第38回JCIアカデミーテーマ並びに募集計画事業報告(案)承認の件  
 (3) 第38回JCIアカデミー事業計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (4) JCカップU-11少年少女サッカー全国大会予選大会事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (5) JCカップU-11少年少女サッカー国際大会の実施修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (6) JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEED事業の募集報告並びに決算(案)承認の件  
 (7) JCI JAPAN TOYP及びTOYP SEEDの事業選考会開催報告並びに決算(案)承認の件  
 (8) JCI JAPAN TOYP 2025授賞式及びSEED授賞式開催計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (9) JCI JAPAN TOYP 2025授賞式及びSEED授賞式開催報告並びに決算(案)承認の件  
 (10) 第9回価値デザインコンテスト募集報告並びに決算(案)承認の件  
 (11) 令和7年度鹿児島県大雨災害における被災地支援のための災害対策本部設置事業計画(案)承認の件  
 (12) 令和7年度熊本県大雨災害における被災地支援のための災害対策本部設置事業計画(案)承認の件  
 (13) 日本JC中期運動方針事業計画(案)承認の件  
 (14) 会員会議所法人格変更に関する諸規定変更(案)承認の件  
 (15) 長野ブロック協議会運営規定改定計画(案)承認の件  
 (16) 第180回総会並びに次第修正(案)承認の件  
 (17) JCI世界会議ジュニス大会における議決権の会頭一任(案)承認の件  
 (18) 2026年度理事選任(案)承認の件  
 (19) 2026年度監事選任(案)承認の件  
 (20) 2026年度顧問選任(案)承認の件  
 (21) 2026年度代表理事選定(案)承認の件  
 (22) 2026年度業務執行理事選定(案)承認の件  
 (23) 2026年度基本理念・基本方針並びに計画(案)承認の件  
 (24) 2026年度組織並びに委員数(案)承認の件  
 (25) 2026年度ブロック会長選任(案)承認の件  
 (26) 2026年度議長・委員長選任(案)承認の件  
 (27) 2026年度内部会計監査人グループ代表選任(案)承認の件  
 (28) 2026年度年間公式スケジュール(案)承認の件  
 (29) 2026年度スローガン(案)承認の件  
 (30) 2026年度予算(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス関連議案>

##### [フォーラム関連議案]

- (31) サマーコンファレンス2025「共創が花開くとき The Future Begins」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (32) サマーコンファレンス2025「Local Breakthrough～日本を変える地域ブランド戦略～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (33) サマーコンファレンス2025「Re: Education System～あなたが変われば、子どもの未来も変えられる～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (34) サマーコンファレンス2025「TEAMで成果を勝ちとれ!!～でもなんで組織ってこんななんなん??(´Д`)～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (35) サマーコンファレンス2025「～Unlearn & Rebuild 組織を変える新しい常識～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (36) サマーコンファレンス2025「地域の未来を変えよう!!近畿から起こすイノベーション」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [セミナー関連議案]

- (37) サマーコンファレンス2025「地域活性化の鍵とは?～行政・JC・教育機関の連携戦略～」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [その他]

- (38) サマーコンファレンス2025「LOM支援案内ブースならびに相談ルーム設置」事業報告並びに決算(案)承認の件

#### <第74回全国大会佐賀大会関連議案>

##### [本体議案]

- (39) 第74回全国大会佐賀大会修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件

##### [フォーラム関連議案]

- (40) 第74回全国大会佐賀大会「子どもの“好き”で未来を創る～今、わたしたちにできること～」修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件

##### [その他]

- (41) 第74回全国大会佐賀大会「次年度協議会役員予定者セミナー」修正事業計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (42) 第74回全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」事業計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (43) 第74回全国大会佐賀大会「2026年度スタートアップセッション」修正事業計画並びに予算(案)承認の件

#### <JCI ASPACウランバートル大会関連議案>

- (44) JCI JAPANグローバルピースサミット事業報告(案)承認の件

#### <JCI世界会議ジュニス大会関連議案>

- (45) JCI世界会議ジュニス大会における大会対応計画並びに予算(案)承認の件  
 (46) JCI世界会議グローバルピースサミット事業計画並びに予算(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
 (2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
 (3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
 (4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について  
 (5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
 (6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
 (7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

## 【地域グループ進捗報告】

- ( 8 ) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について
- ( 9 ) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について
- (10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について
- (11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

## 【国家グループ進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について
- (13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について
- (14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について
- (15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (16) 多彩な人材活躍の場推進計画の進捗報告について
- (17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について
- (18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について
- (19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について
- (20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

## 【組織グループ進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について
- (22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進報告について
- (23) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について
- (24) JCI AWARDS 2025獲得推進計画の進捗報告について
- (25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について
- (26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について
- (27) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画の進捗報告について
- (30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について
- (31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

## 【総務グループ進捗報告】

- (32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について
- (33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- ( 1 ) ブロック会長公式訪問報告書について
- ( 2 ) 第74回全国大会佐賀大会「県・市表敬訪問」計画について【付託】
- ( 3 ) 2028年度第77回全国大会主管立候補LOMについて
- ( 4 ) 2028年度第77回全国大会「主管立候補LOM現地調査報告会開催」について【付託】
- ( 5 ) 第74回全国大会佐賀大会「登録状況」について
- ( 6 ) 第75回全国大会神戸大会「進捗状況」について
- ( 7 ) 第76回全国大会信州諏訪圏大会「進捗状況」について
- ( 8 ) JCI 世界会議 2025ジュニス大会「JCI AWARDSジャッジ」の日本青年会議所からの選出推薦について
- ( 9 ) 2026年度役員・出向者統一名刺について
- (10) JC会館解体に伴う諸契約解約について
- (11) JCグッズ必携品追加発注について
- (12) JCグッズ必携品取扱商品追加について
- (13) 中長期財政戦略の研究報告について
- (14) 公益社団法人日本青年会議所 アニュアルレポートの取り纏め及び作成について
- (15) 2025年度支援団体認定状況について
- (16) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (17) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (18) 2026年度直前会頭就任について
- (19) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (20) 次回開催日について 2025年10月10日(金) 9:00～ 佐賀市文化会館 中ホール

## 第9回理事会

日時：2025年10月10日 09:00～12:00

場所：佐賀市文化会館 中ホール

### 確認事項

- (1) 第9回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) 地域ブランド確立プロジェクト推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (2) ベビーファースト運動の自走に向けた推進修正計画(案)承認の件  
 (3) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに修正予算(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (4) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業修正計画並びに修正予算(案)承認の件  
 (5) JCI TOYP申請・世界会議サポート事業計画並びに予算(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス関連議案>

##### [本体・広報]

- (6) サマーコンファレンス2025「広報」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [フォーラム関連議案]

- (7) サマーコンファレンス2025「私たちの言葉がつくる平和のストーリー」事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
 (8) サマーコンファレンス2025「私たちの言葉がつくる平和のストーリー」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [セミナー関連議案]

- (9) サマーコンファレンス2025「POWER OF THE WORLD～国際の機会・広がる未来へ～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (10) サマーコンファレンス2025「Beyond Borders～日本の強みを世界へ～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (11) サマーコンファレンス2025「地域の魅力を掘り起こせ!!～眠る資源の活用性と可能性～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (12) サマーコンファレンス2025「Report of JCI JAPAN TOYP～挑戦する若者の力で世界を動かす」事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
 (13) サマーコンファレンス2025「Report of JCI JAPAN TOYP～挑戦する若者の力で世界を動かす」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (14) サマーコンファレンス2025「多彩な人財が織りなす未来への扉～可能性が結ぶ新しい社会～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (15) サマーコンファレンス2025「主権者教育が変わる、まちと未来～若者の声が届く社会に～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (16) サマーコンファレンス2025「CHANGE THE WAY OF THINKING～日本の明るい未来のために～」事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (17) サマーコンファレンス2025「トレーナーという生き方～受け継ごう、プロフェッショナルの矜持～」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [その他]

- (18) サマーコンファレンス2025「第9回価値デザインコンテスト～地域から始まる新たな価値の創造～」事業報告並びに決算(案)承認の件

#### <JCI ASPACウランバトル大会関連議案>

- (19) JCI ASPACウランバトル大会における大会対応事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (20) JCI ASPACウランバトル大会での事業ジャパンナイト事業報告並びに決算(案)承認の件  
 (21) JCI ASPACウランバトル大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」報告並びに決算(案)承認の件

#### <JCI世界会議チェニス大会関連議案>

- (22) JCI世界会議チェニス大会における大会対応修正計画並びに予算(案)承認の件  
 (23) JCI世界会議チェニス大会での事業ジャパンナイト開催計画並びに予算(案)承認の件  
 (24) JCI世界会議チェニス大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」企画・実施計画並びに予算(案)承認の件

#### <推進報告決算議案>

- (25) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進報告(案)承認の件  
 (26) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進報告(案)承認の件

#### <全国大会関連議案>

- (27) 2028年度第77回全国大会「主管LOM決定」(案)承認の件

### 推進報告事項

#### 【国際グループ進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について  
 (2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
 (3) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～の進捗報告について  
 (4) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia～Establishing the sustainable systems～の進捗報告について(10月)  
 (5) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について  
 (6) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について  
 (7) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

#### 【地域グループ進捗報告】

- (8) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
 (9) 魅力的な企業や傑出した人財との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
 (10) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進計画の進捗報告について  
 (11) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

#### 【国家グループ進捗報告】

- (12) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について  
 (13) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について  
 (14) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について  
 (15) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について  
 (16) 多彩な人財活躍の場推進計画の進捗報告について  
 (17) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について  
 (18) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について  
 (19) 資本主義が抱える課題解決に向け公正な経済の浸透に関する推進計画の進捗報告について  
 (20) 規制改革・緩和・強化について議論する事業に関する推進計画の進捗報告について

## 【組織グループ進捗報告】

- (21) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について
- (22) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進報告について
- (23) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について
- (24) JCI AWARDS 2025獲得推進計画の進捗報告について
- (25) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について
- (26) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について
- (27) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (28) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (29) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画の進捗報告について
- (30) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について
- (31) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

## 【総務グループ進捗報告】

- (32) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について
- (33) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) JCIアカデミー開催地の報告について
- (3) JCIアカデミーユニオンin世界会議チェニス大会について
- (4) 令和7年大船渡市大規模林野火災における被災地支援のための災害対策本部設置事業報告について
- (5) JCグッズ必携品製造販売における協力企業の移行完了報告について
- (6) 地区・ブロック協議会 決算直前監査について
- (7) 各LOMの役員変更登記に関する注意喚起について
- (8) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (9) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (10) 次回開催日について 2025年11月22日(土) 10:00～ 銀座ユニーク貸会議室7丁目店にて

## 第10回理事会

日時：2025年11月22日 10:00～12:30  
場所：銀座ユニーク貸会議室7丁目店 N201

### 確認事項

- (1) 第10回広報財政公益規則審査会議の結果について

### 審議事項

#### <推進計画議案>

- (1) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進修正計画並びに補正予算(案)承認の件

#### <推進報告決算議案>

- (2) 魅力ある運動を世界に普及する推進報告(案)承認の件  
(3) 恒久的世界平和に向けた運動の推進報告(案)承認の件  
(4) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業報告並びに決算(案)承認の件  
(5) 日本企業の海外進出啓発事業報告(案)承認の件  
(6) JCI GO登録推進計画推進報告並びに決算(案)承認の件  
(7) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進報告(案)承認の件  
(8) 個別最適化された新教育システムの構築推進報告並びに決算(案)承認の件  
(9) 戦争の歴史を学び平和に対する意識を育む推進報告並びに決算(案)承認の件  
(10) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業の推進報告(案)承認の件  
(11) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進報告(案)承認の件  
(12) 多彩な人財活躍の場推進事業の推進報告(案)承認の件  
(13) ベビーファースト運動の自走に向けた推進報告(案)承認の件  
(14) 主権者意識向上カリキュラム推進事業の推進報告並びに決算(案)承認の件  
(15) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進報告(案)承認の件  
(16) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の推進報告(案)承認の件  
(17) 会員拡大支援の推進報告(案)承認の件  
(18) 人が自然と集まる理念共感拡大グランドデザイン推進報告(案)承認の件  
(19) JCI公式コース及び日本JCプログラム推進・実施報告並びに決算(案)承認の件  
(20) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の推進報告(案)承認の件  
(21) Leader's Academyの推進報告(案)承認の件

#### <通常協議議案>

- (22) JCI JAPAN SMILE by ACTION in Philippines～ACTIONS FOR THE FUTURE～事業報告並びに決算(案)承認の件  
(23) JCI JAPAN SMILE by WATER in Cambodia ～Establishing the sustainable systems～事業報告並びに決算(案)承認の件  
(24) 第11回MJS presents JCカップU-11少年少女サッカー全国大会事業報告並びに決算(案)承認の件  
(25) JCカップU-11少年少女サッカー国際大会の実施修正計画並びに補正予算(案)承認の件  
(26) JCカップU-11少年少女サッカー国際大会事業報告並びに決算(案)承認の件  
(27) 戦争の歴史を学び平和に対する意識を育むフィールドワーク事業報告並びに決算(案)承認の件  
(28) 高い防災意識を持って行動できるリーダーの育成に関する事業報告並びに決算(案)承認の件  
(29) AWARDS JAPAN 2025募集審査基準並びに審査実施報告(案)承認の件  
(30) ストラテジックプラン改定会議構成メンバー報告(案)承認の件  
(31) 日本JC中期運動方針事業報告(案)承認の件  
(32) 電子契約に関する諸規定の整備計画(案)承認の件  
(33) 島根ブロック協議会運営規定改定計画(案)承認の件  
(34) 鳥取ブロック協議会運営規定改定計画(案)承認の件

#### <サマーコンファレンス2025関連議案>

##### [本体・広報]

- (35) サマーコンファレンス2025事業修正計画並びに補正予算(案)承認の件  
(36) サマーコンファレンス2025事業報告並びに決算(案)承認の件  
(37) サマーコンフェス2025事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [セミナー関連議案]

- (38) サマーコンファレンス2025「組織戦略RPG～組織レベルアップへの道標～」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [その他]

- (39) サマーコンファレンス2025「オープニング・クロージング」事業報告並びに決算(案)承認の件

#### <第74回全国大会佐賀大会関連議案>

##### [広報]

- (40) 第74回全国大会佐賀大会「PR計画」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [フォーラム関連議案]

- (41) 第74回全国大会佐賀大会「Local Breakthrough The Final～ホンモノの地域ブランドを未来へ～」修正事業計画並びに補正  
(42) 第74回全国大会佐賀大会「子どもの“好き”で未来を創る～今、わたしたちにできること～」修正事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(43) 第74回全国大会佐賀大会「子どもの“好き”で未来を創る～今、わたしたちにできること～」事業報告並びに決算(案)承認の件

##### [その他]

- (44) 第74回全国大会佐賀大会 全国大会組織相談窓口+引き継ぎ式～2025年度と2026年度との融合～事業報告並びに決算(案)承認の件  
(45) 第74回全国大会佐賀大会「次年度協議会役員予定者セミナー」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(46) 第74回全国大会佐賀大会「AWARDS JAPAN 2025」事業報告並びに決算(案)承認の件  
(47) 第74回全国大会佐賀大会「2026年度スタートアップセッション」事業報告並びに決算(案)承認の件

#### <全国大会関連議案>

- (48) 2027年度第76回全国大会信州諏訪圏大会「開催日程」(案)承認の件

## 推進報告事項

## 【国際グループ進捗報告】

- (1) 魅力ある運動を世界に普及する推進計画の進捗報告について
- (2) 恒久的世界平和に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (3) ビジネスマッチングの推進及び参画支援事業計画の進捗報告について
- (4) 日本企業の海外進出啓発事業計画の進捗報告について
- (5) JCI GO登録推進計画の進捗報告について

## 【地域グループ進捗報告】

- (6) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について
- (7) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について
- (8) 持続可能な好循環が生まれる地域づくりに繋がる運動の推進報告について
- (9) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

## 【国家グループ進捗報告】

- (10) 個別最適化された新教育システムの構築推進計画の進捗報告について
- (11) 戦争の歴史と現状を学び平和に対する意識を育む推進計画の進捗報告について
- (12) 有事に備えた災害ネットワーク強化推進事業計画の進捗報告について
- (13) 地域の実情に即したレジリエンス向上に向けた運動の推進計画の進捗報告について
- (14) 多彩な人材活躍の場推進計画の進捗報告について
- (15) ベビーファースト運動の自走に向けた推進計画の進捗報告について
- (16) 主権者意識向上カリキュラム推進計画の進捗報告について

## 【組織グループ進捗報告】

- (17) 総合連絡調整としての機能拡充に向けた推進計画の進捗報告について
- (18) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進報告について
- (19) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について
- (20) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について
- (21) 協議会と連携したLOM開発状況の管理推進計画の進捗報告について
- (22) 会員拡大支援の推進計画の進捗報告について
- (23) 人が自然と集まる理念共感拡大ブランドデザイン推進計画の進捗報告について
- (24) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について
- (25) JCI公式コース及び日本JC公認プログラム推進・実施計画の進捗報告について
- (26) ブロックアカデミーにおけるJAYCEE育成カリキュラムの運用支援の企画・実施推進計画の進捗報告について
- (27) Leader's Academyの企画・実施推進計画の進捗報告について

## 【総務グループ進捗報告】

- (28) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について
- (29) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) サマーコンファレンス2025外部監査について
- (3) 株式会社NEOWERTとの販売許諾等契約一部変更について
- (4) 株式会社CAMPFIREパートナー契約実績報告について
- (5) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (6) 外部団体事業への後援・協賛名義使用及び役員就任について
- (7) 第180回総会開催報告について
- (8) 2026年度JCI役員並びにJCI出向者について
- (9) 2025年度年間公式スケジュールについて
- (10) 次回開催日について 2025年12月13日(土)12:00～ TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 7階 ホール7B にて

# 第11回理事会

日時：2025年12月13日 12:00～14:00  
場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター 7B

## 確認事項

- (1) 第11回広報財政公益規則審査会議の結果について

## 審議事項

### <推進報告決算議案>

- (1) 国際連携強化に向けた年間推進報告並びに決算(案)承認の件  
(2) 魅力ある運動による地域共創に向けた運動の推進報告(案)承認の件  
(3) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進報告(案)承認の件  
(4) 地域ブランド確立プロジェクト推進報告並びに決算(案)承認の件  
(5) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進報告並びに決算(案)承認の件  
(6) まずはブラッと活用推進報告並びに決算(案)承認の件  
(7) JCI AWARDS2025獲得推進事業報告(案)承認の件  
(8) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進報告並びに決算(案)承認の件  
(9) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進報告並びに決算(案)承認の件  
(10) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進報告(案)承認の件

### <通常議案>

- (11) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(12) JCI JAPANグローバルユース国連大使育成事業報告並びに決算(案)承認の件  
(13) 第38回JCIアカデミー事業報告並びに決算(案)承認の件  
(14) JCI TOYP申請・世界会議サポート事業報告並びに決算(案)承認の件  
(15) 第三回全国高校生政策甲子園事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(16) 第三回全国高校生政策甲子園事業報告並びに決算(案)承認の件  
(17) 減価償却積立預金取崩(案)承認の件  
(18) 資産取得資金設定の変更(案)承認の件  
(19) 特定費用準備金設定の変更(案)承認の件  
(20) 積立預金の積立額および取崩額(案)承認の件  
(21) 2026年度資金調達および設備投資の見込み(案)承認の件  
(22) 一般社団法人龍野青年会議所名称変更(案)承認の件  
(23) 機関誌We Believeの作成・発刊・管理修正計画(案)承認の件  
(24) 機関誌We Believeの作成・発刊・管理報告(案)承認の件  
(25) 解体・新築工事設計施工業務委託契約締結修正計画並びに予算(案)承認の件  
(26) 第181回総会並びに次第(案)承認の件  
(27) 石川県能登半島の理想の未来創造事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(28) 石川県能登半島の理想の未来創造事業報告並びに決算(案)承認の件  
(29) 2026年度予算(案)承認の件

### <第74回全国大会佐賀大会関連議案>

#### [本体議案]

- (30) 第74回全国大会佐賀大会修正事業計画並びに補正予算(案)承認の件  
(31) 第74回全国大会佐賀大会事業報告並びに決算(案)承認の件

#### [フォーラム関連議案]

- (32) 第74回全国大会佐賀大会「Local Breakthrough The Final～ホンモノの地域ブランドを未来へ～」事業報告並びに決算(案)承認の件

### <JCI世界会議チェニス大会関連議案>

- (33) JCI世界会議チェニス大会における大会対応修正計画並びに補正予算(案)承認の件  
(34) JCI世界会議チェニス大会における大会対応事業報告並びに決算(案)承認の件  
(35) JCI世界会議グローバルピースサミット事業報告並びに決算(案)承認の件  
(36) JCI世界会議チェニス大会での事業ジャパンナイト開催修正計画並びに補正予算(案)承認の件  
(37) JCI世界会議チェニス大会での事業ジャパンナイト事業報告並びに決算(案)承認の件  
(38) JCI世界会議チェニス大会で相互理解が促進できる事業「会頭招待事業」報告並びに決算(案)承認の件

## 推進報告事項

### <地域グループ進捗報告>

- (1) 魅力ある運動による地域共創に向けた推進計画の進捗報告について  
(2) 魅力的な企業や傑出した人材との連携による運動の推進計画の進捗報告について  
(3) 地域ブランド確立プロジェクト推進計画の進捗報告について

### <組織グループ進捗報告>

- (4) 質の高い運動を全国に共有し運動構築の支援をする推進報告について  
(5) まずはブラッと活用推進計画の進捗報告について  
(6) JCI AWARDS2025獲得推進計画の進捗報告について  
(7) JCI公式コース・日本JC公認プログラムトレーナー育成推進計画の進捗報告について

### <総務グループ進捗報告>

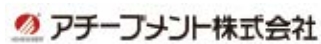
- (8) JC運動を最大化するブランドマネジメント推進計画の進捗報告について  
(9) JCの原点に立ち返る対内広報年間推進計画の進捗報告について

## 報告・依頼事項

- (1) ブロック会長公式訪問報告書について
- (2) 2025年度姉妹JC締結について
- (3) SMILE by WATER口座解約について
- (4) JCI世界会議ジュニス大会における大会登録報告について
- (5) 第38回JCIアカデミー外部監査について
- (6) 第74回全国大会佐賀大会外部監査について
- (7) 令和7年鹿児島県大雨災害における被災地支援のための災害対策本部設置事業計画報告について
- (8) 令和7年熊本県大雨災害における被災地支援のための災害対策本部設置事業計画報告について
- (9) 株式会社カインズとの災害時における生活物資の供給協力に関する協定の締結について
- (10) 賛助企業・提携企業の拡大・連携報告について
- (11) 財審支払申請及び規則押印申請におけるGaroonの使用料に関する報告について
- (12) 2026年度地区・ブロック協議会用財政審査シート・会計マニュアルの改定について
- (13) LOMの退会について
- (14) 各地会員会議所の法人格移行状況について
- (15) 青年会議所会館建替進捗状況について
- (16) 業務執行理事による業務執行状況報告について
- (17) 2025-2026 JCI APDC出向役員の辞任について
- (18) 2025年度年間公式スケジュールについて

私たちはJC運動を応援しています。

【賛助企業名】



WORLD FIT

益々高まる青年会議所運動、未来を担う子どもたちの育成から、より良い国づくり、まちづくりのための提言、地球市民としての国際交流まで明るく豊かな社会の実現を理想とする青年会議所運動を賛助企業として支援しています。  
2025年12月現在

